

音楽総合アカデミー学科

専門科目群

ヴォーカルコース

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。

クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音⑫：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音⑬：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音⑭：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音⑮：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑰：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑱：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑲：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑳：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音㉑：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音㉒：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともあります。その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅢ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともあります。その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅣ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュⅢ
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

ヴォーカリストには、さまざまな音楽能力が求められるものです。この授業では毎回、「叩く」「書く」「弾く」「歌う」などの多様な実習を行います。最終的に即座に「音楽の理解力」「リズムセンス」「聴音力」などプロとして必要とされる総合的な力をつけて行ける事を目指します。自分で楽しく弾き語りもできるようなコードの押さえ方なども実習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヴォーカリストとして、スタジオなど現場で笑顔でふるまえるようにソルフェージュ力を身につけましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 個別ソルフェージュ力チェック。それぞれのレベルをチェックします
- ② 読譜・リズム・聴音。読譜練習・リズム聴音・音程唱・コールキューブンゲン
- ③ 読譜・視唱。読譜練習・視唱・リズム合奏
- ④ 音程唱・聴音。音程唱・聴音(メロディ・リズム)・音あて
- ⑤ リズム・視唱・聴音。リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め)
- ⑥ 弾き語り表（クラスコンサート）
- ⑦ 試験 聴音(メロディ・リズム)・間違い探し

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
毎時間プリントを使用します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 読譜・リズム・視唱 読譜練習・リズム合奏・視唱
- ⑨ 読譜・視唱・聴音 読譜練習 視唱・聴音(穴埋め・間違い探し)
- ⑩ リズム・視唱・聴音 リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め・間違い探し)
- ⑪ 音程唱・聴音・視奏 音程唱・聴音(音あて・穴埋め)・視奏練習
- ⑫ リズム・視唱・聴音 リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め・メロディ)
- ⑬ 読譜・音程唱・聴音 読譜練習・音程唱・聴音(穴埋め・メロディ・リズム)
- ⑭ リズム・視唱・聴音 カデンツ実習・両手伴奏の仕方
- ⑮ 試験 聴音(メロディ・リズム) 弾き語り実習

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
毎時間プリントを使用します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュⅣ
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

ヴォーカリストには、実にさまざまな音楽能力が求められるものです。この授業ではレコーディングの時の初見の譜面の読み方ポイント、聞き方の対応策など勉強します。そしてその実習をくり返し続けて行くなかで、最終的に「リズムセンス」「聴音力」などプロとして必要とされる総合的な力をつけて行けるよう目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

プロのヴォーカリストとして現場スタジオなどで自信をもってふるまえるように頑張りましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 読譜・音程唱・聴音。読譜練習・音程唱・聴音（音あて・間違い探し）
- ② リズム・視唱・聴音。リズム合奏・視唱・聴音（リズム・穴埋め・メロディ）
- ③ 読譜・視唱・聴音。読譜練習・視唱・聴音（音あて・間違い探し）
- ④ リズム・視唱・聴音。リズム合奏・視唱・聴音（メロディ・間違い探し）
- ⑤ 読譜・聴音・視奏。読譜練習・聴音（2声音あて・間違い探し）・視奏練習
- ⑥ 弾き語り。自由曲で弾き語り発表 2曲
- ⑦ 試験。聴音（メロディ・リズム）・2声 弾き語り実習 ハモリ等

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 読譜・聴音・視奏。読譜練習・聴音(2声音あて・間違い探し)・視奏練習
- ⑨ リズム・視唱・耳コピー。リズム合奏・視唱・耳コピー(導入)
- ⑩ 読譜・音程唱・聴音。読譜練習・音程唱・聴音(2声音あて・穴埋め)
- ⑪ ハモリの練習。ハモリやコーラスの練習
- ⑫ 自作ソルフェージュ課題作曲。自作ソルフェージュ課題を作曲してみる
- ⑬ 自作ソルフェージュ課題作曲。自作ソルフェージュ課題を作曲してみる 両手伴奏を考える
- ⑭ 自作ソルフェージュ課題発表。自作ソルフェージュ課題 発表 (授業実習)
- ⑮ 試験。視唱・聴音(リズム・メロディ・2声)

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
毎時間プリントを使用します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、習熟度チェック これまでの音楽経験などを伺います。
- ②譜表・音名/音符・休符 楽譜の基礎となる項目を学びます。
- ③拍子/リズムの記譜法/変化記号 リズム周りの項目を学びます。
- ④前回までの復習、5度圏表と調 記譜のための基礎を固め、調について学びます。
- ⑤音階① 長音階を学びます。
- ⑥音階② 短音階を学びます。
- ⑦1Q末ペーパー試験 1Qで学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音程① 音程の基礎を学びます。
- ⑨音程② 臨時記号のついた音程、転回音程などを学びます。

- ⑩和音・コード① 基本的な和音とコードの型を学びます。
- ⑪和音・コード② ダイアトニックコードを学びます。
- ⑫夏休み前のまとめ これまでの学習を振り返り、夏休み中の課題を提示します。
- ⑬総合復習① 調、音階について復習します。
- ⑭総合復習② 音程、コード、その他必要と思われる項目について復習します。
- ⑮2Q 末ペーパー試験

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①1Q2Qの復習① 主に音階、調の復習をします。
- ②1Q2Qの復習② 主に音程の復習をします。
- ③移調と転調① 移調と転調について、基礎を学びます。
- ④移調と転調② 移調楽器の記譜音、実音の違いを演習します。楽曲の転調箇所を分析を行います。
- ⑤楽語・記号 教科書巻末に記載された、楽語・記号を総合的に学びます。
- ⑥音楽理論のまとめ これまでに学んだ音楽理論を振り返ります。
- ⑦3Q末ペーパー試験 1Q～3Qまでに学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コード① 基本の型について復習します。
- ⑨コード② ダイアトニックコードを復習します。

- ⑩コード③ ドミナントモード、ツーファイヴワンについて学びます。
- ⑪コード④ セカンダリードミナント、コードプログレッションについて学びます。
- ⑫コード⑤ カデンツ、代理コードについて学びます。
- ⑬コード⑥ テンションコードについて学びます。
- ⑭これまでの総復習、まとめ
- ⑮4Q 末ペーパー試験 1年間で学んだ全項目の試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ペンタトニック・スケール
- ② セカンダリー・ドミナント
- ③ パッシング・ディミニッシュ
- ④ 循環コード(1)
- ⑤ 循環コード(2)
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 1Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ サブドミナント・マイナー
- ⑨ バッキング
- ⑩ カノン

- ⑪ リズム
- ⑫ カウンターライン、カウンターメロディ
- ⑬ リフ
- ⑭ KBD ハーモニー
- ⑮ 2Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 裏コード
- ② コード付け
- ③ ホルンの5度(1)
- ④ ホルンの5度(2)
- ⑤ ナポリの和音
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ドリアン
- ⑨ ミクソリディアン
- ⑩ フリジアン

- ⑪ ジブシー
- ⑫ ブルー・ノート
- ⑬ 試演 (1)
- ⑭ 試演 (2)
- ⑮ 4Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い、音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れることで、作編曲の手法を学んでいきます。1Q では様々なコード進行の例を知り、2Q では様々な楽器編成を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 皆さんの好きな曲などを伺い、聴いてみます。
- ②長調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ③短調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ④循環コードの楽曲について、いくつかのコード例を演奏し、分析をします。
- ⑤カノン進行の楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑥王道コードの楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑦1Q 末試験提示された構造の例を用い、短い作品の編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。
提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧『オーケストラストーリーズとなりのトトロ』より『さんぽ』オーケストラの楽器、編

成を学びます。

- ⑨『花束を君に』 混成四部合唱の編成を学びます。
- ⑩『Purple Haze』 (Kronos Quartet) 弦楽四重奏の編成を学びます。
- ⑪『ラブソディ・イン・ブルー』 サクソフォーン四重奏の編成を学びます。
- ⑫『リベルタンゴ』 木管五重奏を学びます。
- ⑬『ルパン三世のテーマ』 ジャズオーケストラの編成を学びます。
- ⑭『東風』 ピアノ連弾の編成を学びます。
- ⑮2Q 末試験 自身の専攻楽器を用いた楽曲を作曲します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れ、作編曲の手法を学んでいきます。

3Qでは、これまでに音楽理論で学んできたコードに慣れるために、有名なミュージカル楽曲を歌い、分析しながら、コード伴奏を付けていきます。

4Qでは作曲に挑戦し、作品を完成させます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 『Let It Go』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ② 『In to the unknown』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ③ 『A Whole New World』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ④ 『Chim Chim Cher-ee』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑤ 『A Dream Is a Wish Your Heart Makes』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑥ 『Winter Wonderland』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑦ 3Q末試験 課題のメロディをもとに、コードを用いて編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲作品への取り組み① これまで学んだことを活かし、作曲作品を作り始めます。
- ⑨作曲作品への取り組み② 作曲を続けていきます。
- ⑩作曲作品への取り組み③ 作曲を続けていきます。
- ⑪作曲作品への取り組み④ 作曲を続けていきます。
- ⑫作曲作品への取り組み⑤ 作曲を続けていきます。
- ⑬作曲作品への取り組み⑥ 作曲を続けていきます。
- ⑭作曲作品への取り組み⑦ 作曲を続けていきます。
- ⑮作曲作品完成へ 作品を完成させ、楽譜で提出します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲作品を提出してもらいます。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際にアンサンブルで演奏する自作曲を編曲し、スコア・パート譜を作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Aメロの制作
- ② Bメロの制作
- ③ AとBのバックিং
- ④ Dr.とBass
- ⑤ 試演
- ⑥ イントロとコーダ
- ⑦ 1Q試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 演奏時間 / テンポ / 小節数について
- ⑨ 楽曲構成 / テーマ作り

- ⑩ 各パーツの作成
- ⑪ 試演
- ⑫ カウンターライン、カウンターメロディ
- ⑬ リフ
- ⑭ スコアチェック
- ⑮ 2Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際にアンサンブルで演奏する自作曲を編曲し、スコア・パート譜を作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リファレンス(1)
- ② リファレンス(2)
- ③ テーマ制作
- ④ ハモリ
- ⑤ 試演
- ⑥ スコアチェック
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 30分プログラム
- ⑨ グループ作曲
- ⑩ グループ作曲(1)

- ⑪ グループ作曲(2)
- ⑫ クラス作曲
- ⑬ 30分プログラム(リハ)
- ⑭ 30分プログラム(本番)
- ⑮ 4Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	D T M基礎 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

パソコンの基本的な使い方、MIDI シーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、および MIDI の基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生での DAW への学習の基礎の習得とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase の基本操作を習得し、MIDI ファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① PC の基本操作を学びます。
 - ② Cubase を起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
 - ③ Cubase にデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
 - ④ 与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。
 - ⑤ ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
 - ⑥ パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑦ プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
- ⑧ MIDIについて学習します。MIDIチャンネルについて。
- ⑨ アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
- ⑩ ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
- ⑪ 拍子、テンポを設定します
- ⑫ 課題作成作業
- ⑬ 課題作成作業
- ⑭ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席5点、遅刻3点を減点します。

出席25% 平常点25% 試験50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から30点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	D T M基礎 II
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

MIDI 規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase で音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ベロシティーを設定してドラムのアクセントをつけます。
 - ② プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します。
 - ③ クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リムパターン作成。
 - ④ ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
 - ⑤ パーカッションパートを追加します。
 - ⑥ 課題作成作業
 - ⑦ 課題提出
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑨ ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
- ⑩ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑪ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
- ⑫ トラックをコピーして、パートを増やします。
- ⑬ トラックをコピーして、パートを増やします。データを確認します。
- ⑭ 全体のバランスを取り完成させます
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5点、遅刻 3点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から30点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDI だけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

MIDI データをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubase でオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 基礎内容を復習し保存方法、データのバージョン管理、操作方法等を確認します。
- ② CD からオーディオファイルを読み込みます。
- ③ オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作った MIDI パートを重ねます。
- ④ オーケストラのスコアを入力します。
- ⑤ 強弱、テンポ変化等の表現をつけます。
- ⑥ 各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
- ⑦ 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
- ⑨ エフェクト処理について学習します。
- ⑩ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑪ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑫ 1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
- ⑬ アレンジ作業。MIDI エフェクトを追加します。
- ⑭ トラックダウン作業
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5点、遅刻 3点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から30点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書Ⅱ
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得した DTM の知識を応用し、DTM ソフトと譜面浄書の連携をマスターします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Finale を使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フィナーレの起動から初期設定ステップ入力について。
- ② 音符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。簡単なメロディーの入力。
- ③ 各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。
- ④ 歌詞入力。ページレイアウト設定。
- ⑤ コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させます。
- ⑥ ページレイアウトの基本設定を学習します。
- ⑦ 課題曲の楽譜を完成させ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
- ⑨ ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
- ⑩ 2クオータに提出したオリジナル曲の MIDI データを読み込んでスコアを作成します。
- ⑪ 読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。
- ⑫ セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。
- ⑬ 各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
- ⑭ ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
- ⑮ スコアを完成させ提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法 I
担当講師名	奥田 祐
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年の授業予定とガイダンス
- ② トライアド、7th、テンション（6th、sus4、add、9th）
- ③ メジャーダイアトニックコードの解説
- ④ II V I について解説。楽曲分析
- ⑤ クリシェ、ベースラインの作り方解説。楽曲分析
- ⑥ 楽曲分析まとめ
- ⑦ コードシンボルの確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験はペーパーテストの形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ サブドミナントマイナーについて解説
- ⑨ セカンダリードミナントについて解説
- ⑩ 実際の曲を用いて、セカンダリーを分析
- ⑪ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。メロディ譜を提出。

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅱ
担当講師名	奥田 祐
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リピートマークの種類について
- ② 楽曲分析の方法を実際の曲を用いて解説
- ③ 任意曲を分析し、結果を各自発表
- ④ 任意曲を分析し、結果を各自発表
- ⑤ マイナースケール3種の確認
- ⑥ マイナーダイアトニックについて
- ⑦ 課題曲を分析して提出

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験はペーパーテストの形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 各楽器について解説

- ⑨ メロディにコードを付ける実習
- ⑩ 裏コード (sub7th) の解説と実習
- ⑪ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。メロディ譜を提出。

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	ヴォーカル・音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅲ
担当講師名	奥田 祐
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。
その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年の授業予定とガイダンス
- ② トライアド、7th
- ③ 実際の曲を耳コピでバンド譜に起こして提出
- ④ ヴォーカル曲の注意点、特徴など
- ⑤ 「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
- ⑥ 「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
- ⑦ 任意の日本語歌詞を分析して提出

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は実習の提出という形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽曲分析の方法解説。
- ⑨ 任意曲を分析し、結果を各自発表
- ⑩ 任意曲を分析し、結果を各自発表
- ⑪ 任意曲を分析し、結果を各自発表
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。作成したヴォーカル譜を提出

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅳ
担当講師名	奥田 祐
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。
その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 前期 REC についての考察
- ② テンションコードの使い方
- ③ ブラス全般に関する解説
- ④ 「We can work it out」にブラスをつける
- ⑤ 「We can work it out」にブラスをつける
- ⑥ 「We can work it out」にブラスをつける
- ⑦ 「We can work it out」にブラスをつけたスコア（バンドアレンジを含む）を提出

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は実習の提出という形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨ live performance の可能性について考察。アーティスト live 鑑賞&考察
- ⑩ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑪ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。作成したヴォーカル譜を提出

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 I
担当講師名	奥田 祐
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年の授業予定とガイダンス
- ② 「雨」をテーマに作詞実
- ③ 任意曲の歌詞を分析し、結果を各自発表
- ④ 任意曲の歌詞を分析し、結果を各自発表
- ⑤ 任意曲の歌詞を分析し、結果を各自発表
- ⑥ テンションコードについて解説
- ⑦ コードとメロディを課題に沿って制作して提出。

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は創作課題提出という形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ バンド譜、メロディ譜、2段譜について

- ⑨ 実際の曲を用いて、耳コピで譜面制作
- ⑩ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作。
- ⑪ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作。
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作。
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作。
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。メロディ譜を提出

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習Ⅱ
担当講師名	奥田 祐
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。
その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「ドライブ」をモチーフに作詞実習
- ② 歌詞を解説、作例を参照
- ③ 技法を用いてメロディにコード付け
- ④ 技法を用いてメロディにコード付け
- ⑤ 英語詞を鑑賞、分析
- ⑥ 英語詞を鑑賞、分析
- ⑦ メロディ実習作品を提出

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は実習の提出という形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作

- ⑨ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑩ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑪ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。バンド譜を提出

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習Ⅲ
担当講師名	奥田 祐
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。
その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年の授業予定とガイダンス
- ② 「太陽」をモチーフに作詞実習
- ③ さまざまな日本語歌詞を鑑賞、分析
- ④ ストリングスカルテットについて解説
- ⑤ 「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
- ⑥ 「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
- ⑦ ストリングス実習作品提出

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は実習の提出という形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ リハーモナイズ解説。課題の実習
- ⑨ リハモ課題の実習。提出
- ⑩ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑪ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。制作したバンド譜を提出

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習Ⅳ
担当講師名	奥田 祐
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ボーカル曲の楽曲制作の経験を多数持ちます。

授業内容

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。
その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 物語的一人称での作詞
- ② 技法を用いて作詞実習
- ③ 曲に日本語詞をつける
- ④ 曲に日本語詞をつける
- ⑤ 曲に日本語詞をつける
- ⑥ 曲に日本語詞をつける
- ⑦ 日本語詞実習作品を提出

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は実習の提出という形で行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アーティスト live 鑑賞&考察

- ⑨ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑩ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑪ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑫ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑬ 各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
- ⑭ 制作したオリジナル曲をレコーディング
- ⑮ 制作したオリジナル曲をレコーディング。制作したバンド譜を提出

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。
試験は作品の提出という形で行います。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォーカルアンサンブル I
担当講師名	荒井 善博
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はコーラス、コーラスアレンジ、ソロヴォーカルとしてステージでの演奏
またレコーディングの実務経験を持ちます。

授業内容

主に複数人数での歌唱方法、コーラスアレンジについて学びます。
歌唱だけではなく、演奏者同士の意思疎通のとり方、そのツールとして楽譜への理解
考え方、伝え方を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

仲間と声を重ねて歌唱する楽しさを学びます。
そのツールとして、譜面を読み、またはコーラスアンサンブルを自力でアレンジ
仲間とそれをステージでよりレベル高く歌唱できるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 簡単な譜面の読み方 音符読み書き Level
- ② 簡単な譜面の読み方 コードの理解 Level1
- ③ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル 課題曲譜読み
- ④ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル 各パートの理解
- ⑤ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル アンサンブルの歌唱法
- ⑥ クラス全体でパフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑦ アンサンブルパフォーマンスをクラスで発表 クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率 95% その他・理解度など 5%
アンサンブルは個人では成立しない為、出席率はそのまま成績とします。
また、内容評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断できるようにします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 簡単な譜面の読み方 発生法 音符読み書き Leve2
- ⑨ 簡単な譜面の読み方 発生法 コードの理解 Leve2
- ⑩ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル 少人数にグループ分け課題曲譜読み
- ⑪ 題曲を通してアンサンブルリハーサル 各パートの理解
- ⑫ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル アンサンブルの歌唱法
- ⑬ 課題曲を通してアンサンブルリハーサル アンサンブルの歌唱法
- ⑭ 各グループでパフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑮ 各グループでパフォーマンスを発表 クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率 95% その他・理解度など 5%

アンサンブルは個人では成立しない為、出席率はそのまま成績とします。

また、内容評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断できるようにします。

特記事項

五線紙ノート、筆記用具を使用しますので各自でお持ちください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅡ
担当講師名	荒井 善博
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はコーラス、コーラスアレンジ、ソロヴォーカルとしてステージでの演奏
またレコーディングの実務経験を持ちます。

授業内容

春学期での基礎力を元に、より実践的な内容を学びます。
アレンジ作業、リハーサル作業等を主体的に進め、役割分担などを通し
自身で決めた課題、また仲間と課題をクリアしていく楽しさを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

仲間と声を重ねて歌唱する楽しさを学びます。
そのツールとして、譜面を読み、またはコーラスアンサンブルを自力でアレンジし
よりレベル高くステージで歌唱できるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① グループ分け、課題曲を決める。アレンジ作業を開始
- ② リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ③ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ④ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑤ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑥ パフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑦ アンサンブルパフォーマンスをクラスで発表 クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率 95% その他・理解度など 5%
アンサンブルはひとりでは成立しない形態です、出席率はそのまま成績とします。
内容の評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断してもらいます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ グループを決める課題曲を決める。アレンジ作業を開始
- ⑨ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑩ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑪ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑫ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑬ リハーサル アレンジ作業、譜読み等
- ⑭ 各グループでパフォーマンスを研究 アイディアを出し合い演奏をブラッシュアップ
- ⑮ 各グループでパフォーマンスを発表 クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率 95% 理解度 5%

アンサンブルはひとりでは成立しない形態です、出席率はそのまま成績とします。
内容の評価基準は、自身で基準を設け、自身で判断してもらいます。

特記事項

五線紙ノート、筆記用具を使用しますので各自でお持ちください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅢ
担当講師名	瀬川忍
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は男性 5 人組のコーラスグループで活動しており、編曲を担当しています。

授業内容

アンサンブル 2 年目ということで、より多くの楽曲を知離、歌唱することで更なる読譜力、初見力を身につけていきます。またアカペラというスタイルを取り入れることで自分達だけで音楽が成り立っているという喜びとともに、声という楽器を使い和声学にも軽く触れ、楽しみながら習得できるカリキュラムを目指します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

新しい譜面を手にした時に自分達で譜読みをし、パートを分け、ただ音を鳴らすだけでなく、皆で協力してアンサンブルを感じることができる歌を歌えるようになることを到達目標とします

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①「オリエンテーション」アンサンブルすることの重要性、効果等を音源、譜面を使ってディスカッションします
- ②「基礎力習得 1」パートを決め、音取り、譜面の見方を説明します
- ③「基礎力習得 2」自分の音ともう一つの音を耳で掴む練習をします
- ④「基礎力習得 3」音量、抑揚等のバランスを感じながら合唱します
- ⑤「コーラスワーク 1」パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ歌詞の世界観に身をあずけて楽しみながら歌います
- ⑥「コーラスワーク 2」ピアノ伴奏をせずに、無伴奏（アカペラ）で歌唱します
- ⑦「発表会」グループに分かれて発表会を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席と授業態度を重視します。アンサンブルは得意不得意あるとおもうので、苦手でも欠席せずに意欲的に授業に取り組めば評価につなげます。

出席 50% 平常点 25% 試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「基礎力習得1」“世界にひとつだけの花”パートを決め、音取り等
- ⑨「基礎力習得2」自分の音ともう一つの音を耳で掴む練習をします
- ⑩「基礎力習得3」音量、抑揚等のバランスを感じながら合唱します
- ⑪「基礎力習得4」ブロック毎にハーモニーが完成していく様を感じる練習をします
- ⑫「コーラスワーク1」パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ歌詞の世界観に身をあずけて楽しみながら歌います
- ⑬「コーラスワーク2」ピアノ伴奏をせずに、無伴奏（アカペラ）で歌唱します
- ⑭「コーラスワーク3」ハーモニーの精度を上げていく反復練習をします
- ⑮「歌唱試験」各パート一人ずつでグループを組んで歌唱します

期末試験評価方法・評価基準

自分のパートがその音楽（和声）の中でどのような役割を果たしているのか意識して歌唱しているか。グループ毎の歌唱試験なので、協調性を含めグループ単位の評価も行います。出席率、授業態度も評価の対象です
出席 50% 平常点 25% 試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅣ
担当講師名	瀬川忍
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は男性 5 人組のコーラスグループで活動しており、編曲を担当しています。

授業内容

秋学期は洋楽（jazz）にもチャレンジします。難易度も少し高めて様々なジャンルのコーラスを体験し、音楽の幅がつくような授業をいたします

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1 年間アンサンブルで学んだことが学生たちの自信になり、自分たちの音楽活動で積極的にコーラスを付け音楽に彩りを加えていくような学生に成長することを到達目標とします

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①「基礎力習得 1」ソルフェージュ、キーの探し方、和音の理解
- ②「jazz コーラスワーク 1」パートを決め、音取り、譜面の見方を説明します
- ③「jazz コーラスワーク 2」リズムに遅れずに自分のパートを歌えるようにします
- ④「jazz コーラスワーク 3」ベースとメロディーともう 1 声で歌えるようにします
- ⑤「jazz コーラスワーク 4」ブロック毎にハーモニーを感じながら歌えるようにします
- ⑥「jazz コーラスワーク 5」バランスの重要性を実演しながら感じてもらいます
- ⑦「発表会」グループに分かれて発表会を行います

中間試験評価方法・評価基準

他のパートにつられることなく、自分の音を正しく歌えているか。バランスの重要性を感じて調和しているかを評価します。出席率、授業態度も評価の対象です
出席 50% 平常点 25% 試験 25%

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧「基礎力習得 1」“カンントリーロード”パートを決め、音取り等
- ⑨「基礎力習得 2」グループ毎に表現したい曲想を考えて実践します
- ⑩「基礎力習得 3」ユニゾンでメロディーを歌うことで同じイメージを共有して形にする大切さを体験します
- ⑪「基礎力習得 4」ブロック毎にハーモニーが完成していく様を感じる練習をします
- ⑫「コーラスワーク 1」パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ歌詞の世界観に身をあずけて楽しみながら歌います
- ⑬「コーラスワーク 2」ハーモニーの精度を上げていく反復練習をします
- ⑭「コーラスワーク 3」グループ毎に発表してお互いの良いところ、改善点をディスカッションして、よりよい表現をみつけていきます
- ⑮「歌唱試験」各パート一人ずつでグループを組んで歌唱します

期末試験評価方法・評価基準

グループごと自体に連帯感があるか。そこに集まった仲間できかに良いものを作ろうと努力してきたか。試験だけでなく授業内のグループ内での練習等も評価の対象とします 1 年かけて成長できたところも含め総合的に評価いたします。
出席 50% 平常点 25% 試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニング I
担当講師名	入来院真嗣
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社の仮歌収録や所属アーティストの歌唱収録ディレクション、その他歌手や声優・商業劇団などへの歌唱指導の実務経験を持ちます

授業内容

ヴォーカリストに必要な様々な知識や技術の基礎を身につけることで、個々人のより自由で安定した歌唱表現の一助を目指します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

無理のない効率的な発声を理解・獲得し歌唱表現に活かすこと、また、グループレッスンを通して人前で歌うことに慣れ、同時に他者を観察することで得られる自身の表現力向上を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスと基礎演習。授業を受ける上での心構えや課題について説明します。
- ② 姿勢と呼吸。歌唱における姿勢や呼吸の重要性について解説・実践します。
- ③ 呼吸とリズム。前回の授業を踏まえ理解度を確認しつつ、基礎力を養います。
- ④ 発声と発話。課題曲を通して姿勢・呼吸・リズムを総合的につなぐ訓練をします。
- ⑤ 感情表現と音の変化。課題曲を通して表現力の向上と音の変化を意識します。
- ⑥ 試験直前対策。基礎を復習しつつ課題曲の個別歌唱・アドバイスを行います。
- ⑦ 中間試験。課題曲の歌唱テストを行い、理解度・到達度を確認します。

中間試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。
出席率及び授業態度・授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 復習と滑舌(表情筋)。1クォーターを振り返りつつ課題曲を設定、歌唱表現における表情筋の役割についての説明と実践をしていきます。
- ⑨ 滑舌(母音)と表現。課題曲を通して日本語の滑舌(母音)の説明と訓練を行います。
- ⑩ 滑舌(子音)と表現。課題曲を通して日本語の滑舌(子音)の説明と訓練を行います。
- ⑪ 滑舌と表現。課題曲を通して子音及び母音を意識し、表現を技術的に分解します。
- ⑫ 音域の拡大。課題曲を通して基礎発声の強化及び自己課題の再確認を行います。
- ⑬ 音域の安定。個々人の課題を意識した練習を行います。
- ⑭ 試験直前対策。基礎トレーニング及び課題曲の個別歌唱・アドバイスを行います。
- ⑮ 期末試験。課題曲の歌唱テストを行い、理解度・到達度を確認します。

期末試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。

出席率及び授業態度、授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニングⅡ
担当講師名	入来院真嗣
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社の仮歌収録や所属アーティストの歌唱収録ディレクション、その他歌手や声優・商業劇団などへの歌唱指導の実務経験を持ちます

授業内容

ヴォーカリストに必要な様々な知識や技術の基礎を身につけることで、個々人のより自由で安定した歌唱表現の一助を目指します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

無理のない効率的な発声を理解・獲得し歌唱表現に活かすこと、また、グループレッスンを通して人前で歌うことに慣れ、同時に他者を観察することで得られる自身の表現力向上を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期の復習。基礎を振り返りつつ課題曲の設定、目的を解説します。
- ② 表現の分解。課題曲を通して歌唱表現を技術的に分解・模倣することで具体的な引き出しとして体感、獲得を目指します。
- ③ 表現の実践と安定。課題曲を通して自分なりの歌唱表現に挑戦します。
- ④ 自己観察1。客観的に自己を観察することでより具体的な自己課題を意識します。
- ⑤ 自己観察2。客観的に自己を観察することでより具体的な自己課題を意識します
- ⑥ 試験直前対策。基礎トレーニング及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをを行います。
- ⑦ 中間試験。課題曲の歌唱テストを行い、理解度・到達度を確認します。

中間試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。
出席率及び授業態度・授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 洋楽に挑戦。復習をしつつ課題曲の設定・目的の解説を行います。
- ⑨ 表現力向上。課題曲を通して音節や文法といった日本語との違いを意識します。
- ⑩ 発声課題の再認識。課題曲を通して自身の発声のクセ・課題と向き合います。
- ⑪ リズム課題の再認識。課題曲を通し、更なる基礎力向上・安定を目指します。
- ⑫ ハーモニーと俯瞰1。複数人で歌うことで発声技術のコントロールを意識します。
- ⑬ ハーモニーと俯瞰2。客観的に聞く力を養い、自身の基礎力向上を目指します。
- ⑭ 試験直前対策。基礎トレーニング及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをを行います。
- ⑮ 期末試験。課題曲の歌唱試験を行い、理解度・到達度を確認します。

期末試験評価方法・評価基準

クォーターはじめに指定した課題曲の歌唱を行います。

出席率及び授業態度・授業理解度を重要視しつつ総合的に評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニングⅢ
担当講師名	谷本真規
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

声量と音域の拡張、声の質感や表現のバリエーション、多様なジャンル傾向に対応できる声の幅と歌唱感覚の確保など、声と歌唱の自由度をできるだけ広げてあげること

授業計画（1回目から7回目）

- ①新年度の授業説明 個別インタビュー（反省と目標） 基礎の復習
- ②ボディーバランス説明と体感 基本発声と発声理論講義 横隔膜呼吸の復習と訓練
- ③裏声基本練習と裏声歌唱 グループの感じ方復讐と基本練習
- ④滑舌基礎運動1 母音形状練習 口内共鳴変化 裏声滑舌
- ⑤滑舌基礎運動2 子音と英語共鳴の感覚 裏声朗読 裏声歌唱
- ⑥ボディーバランス強化 ヴォイスミックスの感覚トレーニング
- ⑦1クォーター復習 中間実技試験(課題曲) 疑問質問の回答と解消

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧喉の構造と高音発声の状態を把握 ミックス(ミドル)ヴォイスの概念と感覚練習
- ⑨ボディーバランスと呼吸筋の脱力と緊張 ミックスヴォイス習得 音域拡張練習
- ⑩声門開口の体感 息声に音程と言葉をつける練習
- ⑪声門間隔と声帯のテンション感覚による 声質の変化と表現
- ⑫ロックシンガー傾向の発声パターンで声の張り方と表現を学ぶ
- ⑬声の抜き方 しゃがれ方 ベルティングとの使い分け
- ⑭ロック歌唱まとめ 春学期期末テストの練習とアドバイス
- ⑮春学期復習 期末試験でスキルチェック 技術的な疑問や悩みの解消

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のボディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニングⅣ
担当講師名	谷本真規
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

声量と音域の拡張、声の質感や表現のバリエーション、多様なジャンル傾向に対応できる声の幅と歌唱感覚の確保など、声と歌唱の自由度をできるだけ広げてあげる

授業計画（1回目から7回目）

- ①体勢感覚と喉感覚の復習 プロシンガーの映像から体の使い方を学ぶ
- ②生声歌唱の響で歌唱感覚を覚える 横隔膜の支えと声の張り ベルティング練習
- ③語り、囁き、演技、ダイナミックスの作り方 ルバート、ビブラート
- ④生声の歌唱の感覚とマイク歌唱の感覚の違いと、感覚の揃え方を知る
- ⑤英語共鳴や喉の位置の特性から歌唱感覚を育てる ミックスヴォイス感覚で歌う
- ⑥共鳴の聴き方強化 ペンタトニックスケールとインプロビゼーション
- ⑦生声歌唱、マイク歌唱、双方での課題曲歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧喉頭共鳴を感じコードの共振を感じる

- ⑨喉頭共鳴からコードの共振を感じ、自由にハモリフレーズを歌う
- ⑩呼吸の深さと声の深さを感じる 生声歌唱とマイク歌唱の両立
- ⑪呼吸の深さと気持ちの入り方のリンクから表現感覚を学ぶ
- ⑫Jazz シンガー方向のマイクテクニックとアフタービートのグループ
- ⑬歌唱についての疑問や自分の壁についてシェアする
- ⑭質問やできない事の改善法をシェア 期末試験のリハーサルとアドバイス
- ⑮1年間のまとめ 期末実技試験と個別アドバイス 卒業後の歌との向き合い方について

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニング指導法研究 I
担当講師名	谷本真規
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げ、講師レベルの理解とパフォーマンスを習得する

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

発声と歌唱における基礎と技術の向上 発声理論と歌唱テクニックの講師レベルの理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①新年度の授業説明 個別インタビュー（反省と目標） 基礎の復習
- ②ボディーバランス説明と体感 基本発声と発声理論講義 横隔膜呼吸の復習と訓練
- ③裏声基本練習と裏声歌唱 グループの感じ方復習と練習
- ④ダイナミックスとベルティング 生声歌唱での表現
- ⑤ミュージカル歌唱考察 ささやき、語り、歌い上げ
- ⑥世界観の構築と表現力 ロングトーン ルバート ビブラート
- ⑦ミュージカル歌唱考察まとめ 中間実技試験(課題曲) 個別の問題点と今後の課題と展望

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧英語共鳴 中音域のミックスヴォイスとスキヤットスレーズ
- ⑨Jazz Vocal 考察 アフタービートを感じて歌う 4ビートグループ
- ⑩ウィスパーヴォイスとマイクテクニック ミックスヴォイスのジャズフレージング
- ⑪高音域の喉（チェンジ）の理解 ミドルヴォイスフレージング
- ⑫ロック歌唱考察 声の張り方と表現 8ビートグループ
- ⑬声の抜き差し しゃがれ方 ベルティングとの使い分け シャウトフレーズ
- ⑭Jazz 歌唱とロック歌唱まとめ 春学期期末テストの練習とアドバイス
- ⑮春学期復習 期末試験でスキルチェック 個別の問題点と今後の課題と展望

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のボディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニング指導法研究Ⅱ
担当講師名	谷本真規
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げ、講師レベルの理解とパフォーマンスを習得する

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

発声と歌唱における基礎と技術の向上 発声理論と歌唱テクニックの講師レベルの理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①英語共鳴や喉の位置の特性から歌唱感覚を育てる ミドルヴォイス感覚で歌う
- ②ブルース R&B 考察 6/8 と 16 ビートグループ
- ③深い呼吸での歌唱 ロングトーンと声伸び プロシンガー映像から体の使い方を学ぶ
- ④ペンタトニック練習 フェイクフレージング
- ⑤喉頭共鳴を感じコードの共振を感じる
- ⑥喉頭共鳴からコードの共振を感じ、自由にハモリフレーズを創作する
- ⑦中間実技試験(課題曲) 個別の問題点と今後の課題と展望

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧プロ歌唱の動画から声の使い方を盗む 弾き語り歌唱
- ⑨ウイスパーヴォイスとコーラス
- ⑩コーラス歌唱 ユニット歌唱
- ⑪ ユニット歌唱 ハモリの躍動感と表現力
- ⑫ 歌唱全般的な疑問や自分の壁についてシェア
- ⑬質問やできない事の改善法をシェア 期末試験のリハーサルとアドバイス
- ⑭1年間のまとめ 期末試験練習 個別アドバイス
- ⑮期末試験 ユニット歌唱 個別の問題点 今後の課題と展望

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニング指導法研究Ⅲ
担当講師名	谷本真規
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げ、講師レベルの理解とパフォーマンスを習得する

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

発声と歌唱における基礎と技術の向上 発声理論と歌唱テクニックの講師レベルの理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①新年度の授業説明 個別インタビュー（反省と目標） 基礎の復習
- ②ボディーバランス説明と体感 基本発声と発声理論講義 横隔膜呼吸の復習と訓練
- ③裏声基本練習と裏声歌唱 グループの感じ方復習と練習
- ④ダイナミックスとベルティング 生声歌唱での表現
- ⑤ミュージカル歌唱考察 ささやき、語り、歌い上げ
- ⑥世界観の構築と表現力 ロングトーン ルバート ビブラート
- ⑦ミュージカル歌唱考察まとめ 中間実技試験(課題曲) 個別の問題点と今後の課題と展望

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧英語共鳴 中音域のミックスヴォイスとスキヤットスレーズ
- ⑨Jazz Vocal 考察 アフタービートを感じて歌う 4ビートグループ
- ⑩ウィスパーヴォイスとマイクテクニック ミックスヴォイスのジャズフレージング
- ⑪高音域の喉（チェンジ）の理解 ミドルヴォイスフレージング
- ⑫ロック歌唱考察 声の張り方と表現 8ビートグループ
- ⑬声の抜き差し しゃがれ方 ベルティングとの使い分け シャウトフレーズ
- ⑭Jazz 歌唱とロック歌唱まとめ 春学期期末テストの練習とアドバイス
- ⑮春学期復習 期末試験でスキルチェック 個別の問題点と今後の課題と展望

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のボディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォイストレーニングⅣ
担当講師名	谷本真規
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げ、講師レベルの理解とパフォーマンスを習得する

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

発声と歌唱における基礎と技術の向上 発声理論と歌唱テクニックの講師レベルの理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①英語共鳴や喉の位置の特性から歌唱感覚を育てる ミドルヴォイス感覚で歌う
- ②ブルース R&B 考察 6/8 と 16 ビートグループ
- ③深い呼吸での歌唱 ロングトーンと声伸び プロシンガー映像から体の使い方を学ぶ
- ④ペンタトニック練習 フェイクフレージング
- ⑤喉頭共鳴を感じコードの共振を感じる
- ⑥喉頭共鳴からコードの共振を感じ、自由にハモリフレーズを創作する
- ⑦中間実技試験(課題曲) 個別の問題点と今後の課題と展望

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧プロ歌唱の動画から声の使い方を盗む 弾き語り歌唱
- ⑨ウイスパーヴォイスとコーラス
- ⑩コーラス歌唱 ユニット歌唱
- ⑪ ユニット歌唱 ハモリの躍動感と表現力
- ⑫ 歌唱全般的な疑問や自分の壁についてシェア
- ⑬質問やできない事の改善法をシェア 期末試験のリハーサルとアドバイス
- ⑭1年間のまとめ 期末試験練習 個別アドバイス
- ⑮期末試験 ユニット歌唱 個別の問題点 今後の課題と展望

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のボディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ダンス&パフォーマンス I
担当講師名	YUMiKA
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

ダンサーとしてアーティストのライブやミュージックビデオに出演する他、声優アーティストの振付や指導、ダンス教室の講師としての経験を持ちます。

授業内容

ストレッチや筋力トレーニング、リズムトレーニングなどパフォーマンスに必要な体作りやリズムの取り方を習得して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスの基礎、基本的な動きを学び、ただ体を動かすのではなく、しっかり音楽に乗って踊れるようにして行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容や流れを実際に身体を動かしながら説明して行きます。
- ② ストレッチや筋力トレーニングなどウォーミングアップの方法を学んで行きます。
- ③ アイソレーションとは何か、どのように必要なかを説明し学んで行きます。
- ④ 基本的なリズムの取り方を学んで行きます。
- ⑤ リズムをキープしながらステップが出来るようにして行きます。
- ⑥ ここまでに学んだ体の使い方、リズムの取り方など試験前の最終確認を行います。
- ⑦ 授業で行った範囲内で実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で伝えるポイントをしっかり理解し、正しく体を動かすことが出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ウォーキング/音楽に合わせて魅せる歩き方を学んでいきます。
- ⑨ ウォーキング/ポージングや手の動きなどと組み合わせてウォーキングが出来るようにしていきます。
- ⑩ ターン/ターンの行い方を学びます。
- ⑪ ターン/ステップやウォーキングと組み合わせてターンが出来るようにしていきます。
- ⑫ 振付を覚えて踊れるようにしていきます。
- ⑬ 振付をただ覚えるのではなく、より正確に踊れるようにしていきます。
- ⑭ 試験範囲の注意点を確認し、振付の踊り込みをしていきます。
- ⑮ ダンスの実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、リズムを正確に取れているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解し表現出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅡ
担当講師名	YUMiKA
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

ダンサーとしてアーティストのライブやミュージックビデオに出演する他、声優アーティストの振付や指導、ダンス教室の講師としての経験を持ちます。

授業内容

春学期で身につけたスキルと体力アップをもとに、振付の難易度も高くなっていきます。ダンスと歌を繋げてイメージした自分により近づけるように表現力を鍛えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスを通してステージ上で自分自身をどう魅せたいのかを考え、表現出来るようにして行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期で学んだ事の確認をします。
- ② 細かいニュアンスやリズムを表現出来るように、どのように体を使うのかを学んで行きます。
- ③ 感情表現や曲に合った表現が出来るように学んで行きます。
- ④ 長めの振付を決められた時間内でより正確に覚えられるようにして行きます。
- ⑤ 自分ならどのように表現するかを考え、グループに分かれて見せ合います。
- ⑥ 試験範囲の注意点を確認し、踊り込みをします。
- ⑦ ダンスの実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、曲に合った表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解しているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自己表現/自己表現の手段としてのダンスと歌を繋げて行きます。
- ⑨ 自己表現/自分のステージ上での姿をイメージし、どうすれば出来るのかを考え表現して行きます。
- ⑩ 自己表現/前回考えたイメージを固めて魅せ方を研究して行きます。
- ⑪ 自己表現/他の人と表現を見せ合い、お互いの良いところを見つけて情報共有をします。
- ⑫ 振付の中のフリーの時間をどのように使うか考えて作って行きます。
- ⑬ 前回までの振付を復習しながら更に振付を進めて行きます。
- ⑭ 試験範囲の注意点を確認し、振付の踊り込みをします。
- ⑮ ダンスの実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、自己表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解し表現出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅢ
担当講師名	青井智佳子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

歌手にとって必要な、音楽を身体で聴く、音楽に乗ると言うことの基本を習得します。ジャズダンスとストリートダンスの基礎を習得し、学生自身のパフォーマンスに自分で役立てるように学習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

体力、柔軟性、持久力が身に付きます。また、基礎的な動きやステップを使って、ステージングを自分で組み立て、魅せられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。身体表現の授業における諸注意など大事なことを説明します。後半は早速実技の授業に入ります。
- ② 毎回の授業の開始時に行うウォーミングアップの説明を行います。長いので、数回に分けて実施します。また、振り付けにも入ります。
- ③ 音楽のリズムの取り方で、ダウンとアップの違いを説明します。
- ④ シャムロック、ウォークアウト、など、基礎的なステップを複数学びます。
- ⑤ 基礎的なステップと、振付課題を前回のものに加えて続けていきます。
- ⑥ 今まで行っている振付課題に振付を追加していきます。
- ⑦ 中間試験：課題振付の実技による試験を、一人ずつ行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今までのおさらいと、中級のダンステクニックを学びます。ターンやアイソレーションが主な内容になります。
- ⑨ アイソレーションを利用して音楽に乗ることの説明と練習を行います。
- ⑩ 振付課題を進めます。課題曲の候補をあげ、学生の様子を見てテンポやジャンルを講師が選びます。
- ⑪ 少数人数のグループに分け、お互いを見合っ、良いところをピックアップし、各自が自分のパフォーマンスに取り入れます。
- ⑫ 振付課題の細かい所を確認し、またレクチャーしていきます。
- ⑬ 少数人数のグループに分けて、メンバーがよりパフォーマンスが改善する方法をグループで話し合って行きます。
- ⑭ 振付課題を何度も練習し、パフォーマンスとして見せることに各自が自分のダンスと向き合い、練習して行きます。講師にも自由に質問し、改善のための努力をして行きます。
- ⑮ 期末試験：ダンスの実技の試験を一人ずつ行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅣ
担当講師名	青井智佳子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

歌手にとって必要な、音楽を身体で聴く、音楽に乗ると言うことの応用を習得します。ジャズダンスとストリートダンスの中級レベルを習得し、学生自身のパフォーマンスに更に役立てるように学習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスのステップや動きを使って、更にステージングを自分で組み立て、魅せられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。後半は実技の授業に入ります。
- ② 振付課題を提示して行きます。
- ③ 振付課題のポイントや、特に練習と慣れが必要な部分を抜き出して部分練習します。部分練習は振付そのものの練習だけでなく、それが出来るための基礎的な練習方法もレクチャーして行きます。
- ④ グループに分かれて、お互いを見合いながら、改善して行きます。
- ⑤ 今まで行っている振付課題に振付を追加していきます。
- ⑥ 振付課題を繰り返し練習し、講師が説明するポイントを理解して、各自で練習に取り組んでいきます。
- ⑦ 中間試験：課題振付の実技による試験を、一人ずつ行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今までのおさらいと、応用のダンステクニックを学びます。課題曲の候補をあげ、振り付けに入ります。
- ⑨ 課題曲の候補をあげ、学生のレベルを見てクラス毎にテンポやジャンルを講師が選びます。
- ⑩ 振付課題の設定や目的を説明しますので、それらを理解して、自分のダンスに取り組んでいきます。
- ⑪ 少数人数のグループに分け、お互いを見合って、良いところをピックアップし、各自が自分のパフォーマンスに取り入れます。
- ⑫ 振付課題の細かい所を確認し、より表現を高める目的で説明をし、練習をします。
- ⑬ 少人数のグループに分けて、メンバーがよりパフォーマンスが改善する方法をグループで話し合って行きます。
- ⑭ 振付課題を何度も練習し、パフォーマンスとして見せることに集中して取り組んでいきます。各自が自分のダンスと向き合い改善のための努力をして行きます。
- ⑮ 期末試験：ダンスの実技の試験を一人ずつ行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	リリックライティング
担当講師名	桑村達人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はシンガーソングライター、楽曲提供に於ける作詞、作曲、編曲の経験を持ちます。

授業内容

軽音楽に於ける歌詞の鑑賞、分析、歴史的背景の考察、言語表現のバリエーションを増やす演習、既成曲または任意のメロディーに作詞、自分の言葉を創作、歌として発声し、推敲する演習等。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

既成歌詞に対して自分なりの解釈を分析、表明出来るようにすること、違う解釈の可能性を考察できるようにすること。自由な発想で自分なりの言葉、歌詞を創出出来るようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション、自己紹介
- ②形容詞のバリエーションを考えてみる
- ③今、自分が感動する歌詞について発表1
- ④歌詞の要約について考えてみる
- ⑤日本語と英語の歌詞の違いについて考えてみる
- ⑥任意のテーマに沿って短歌を創作し、メロディーを付けてみる
- ⑦テスト：1Qで学んだことをレポート

中間試験評価方法・評価基準

やる気、受講態度 出席40% 平常点20% 試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧具体的、抽象的な歌詞の在り方について考えてみる
- ⑨5感をフル活用させた表現について
- ⑩既成曲のブランク部分にポイントとなる言葉を考えてみる
- ⑪今、自分が掘り下げたい歌詞について発表する1
- ⑫自分がよく使う単語と潜在意識について考えてみる
- ⑬歌のテーマについて考えてみる
- ⑭伝えたいことをダイレクトに表現できる言い回しについて考えてみる
- ⑮テスト：既成洋楽に日本語詞を付け歌ってパフォーマンス

期末試験評価方法・評価基準

やる気、受講態度 出席40% 平常点20% 試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	リリックライティング
担当講師名	桑村達人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はシンガーソングライター、楽曲提供に於ける作詞、作曲、編曲の経験を持ちます。

授業内容

軽音楽に於ける歌詞の鑑賞、分析、歴史的背景の考察、言語表現のバリエーションを増やす演習、既成曲または任意のメロディーに作詞、自分の言葉を創作、歌として発声し、推敲する演習。合作、ディスカッションによる創作。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の個性、長所を見つけ創作に反映させることが出来るようになること。
伝達効果を考慮に入れた歌詞の創作が出来るようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①任意のメロディーに作詞、内容の方向性を探る
- ②行間を読む、余白を残すことについて考える
- ③今、自分が感動する歌詞について発表2
- ④短編小説から作詞してみる
- ⑤短編小説から作詞してみる2
- ⑥今、自分が掘り下げたい歌詞について発表2
- ⑦テスト：自作歌詞提出

中間試験評価方法・評価基準

やる気、受講態度 出席40% 平常点20% 試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テーマに沿ってコピーライトしてみる

- ⑨聞き手の心を掴む比喻表現について
- ⑩音楽と言葉のバランスについて考えてみる
- ⑪歌詞に於ける意味性の放棄、遊び心について
- ⑫同曲違詞より歌詞の推敲について考えてみる
- ⑬曲の情感に寄り添った言葉について考えてみる
- ⑭既成洋楽に作詞してみる
- ⑮テスト：自作歌詞にメロディーを付け歌ってパフォーマンス

期末試験評価方法・評価基準

やる気、受講態度 出席40% 平常点20% 試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ディクシオン I
担当講師名	橋北哲哉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティスト、シンガー、声優、俳優へのヴォイストレーニングとディクシオンの長年にわたる実技指導、ヴォーカル教則本の執筆（ヤマハミュージックメディア、リットーミュージック）の実務経験を持ちます。

授業内容

ディクシオンは声と言葉の表現力を伸ばす授業です。発音別の発声と滑舌、歌詞分析、リズムリンケージ、MC、演技パフォーマンス等を総合的に向上してシンガーとしての表現力をスキルアップさせましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

歌詞の分析力アップで表現に奥行きを与え、様々な発音、グルーブ、滑舌スピードでも歌える事で歌唱の自由度を高めます。リズムリンケージでは歌唱中の不具合を解消します。MCは観客とのコミュニケーション力を上げ、演技パフォーマンスでは演技と向きあうことで個性的な自己表現を確立させます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① MC デビューした時に想定されるTVやラジオのメディア出演では、いったい何を話すべきか？大勢の前でのMC体験です。
- ② J-POP/洋楽研究 自分が表現したいと思うジャンルを歌って紹介（前半）。互いの音楽的趣向や熱意が伝わる刺激的な瞬間です。
- ③ J-POP/洋楽研究 自分が表現したいと思うジャンルを歌って紹介（後半）。互いの音楽的趣向や熱意が伝わる刺激的な瞬間です。
- ④ 滑舌 滑舌の仕組みとトレーニング方法を学びます。口腔内のメカニズムを学んで歌唱力アップにつなげましょう。
- ⑤ J-POP/洋楽研究 ヒット曲に隠された歌詞の魅力に迫ります。ひねりを理解するともうひとつの真実が見えてくるかもしれません。
- ⑥ リズムリンケージ 一定のテンポでリズムを掌握する方法。グルーブとは？はねる？リズムの基本理解と技術アップを図ります。
- ⑦ 試験 クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

中間試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ MC 聞き手が理解しやすいように、伝えたいことを順序良く話題を並べてトーク。但し制限時間内で行います。
- ⑨ 表現力研究 歌唱時の表情は表現力に繋がります。参考映像から学べる表情と気持ちの伝え方の関係。歌唱に応用させましょう。
- ⑩ 演技パフォーマンス 企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
- ⑪ 演技パフォーマンス 読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
- ⑫ 演技パフォーマンス 立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的視点からの演出が大切です。
- ⑬ MC 夏本番！季節感のある話題でトーク。何を伝えたいかを意識してぶれずに最後までまとめましょう。
- ⑭ リズムリンケージ 発声、滑舌、音程等のコントロールをリズムにリンクさせることで歌唱基本技術の向上を図ります。
- ⑮ 試験 クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

期末試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ディクシオンⅡ
担当講師名	橋北哲哉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティスト、シンガー、声優、俳優へのヴォイストレーニングとディクシオンの長年にわたる実技指導、ヴォーカル教則本の執筆（ヤマハミュージックメディア、リットーミュージック）の実務経験を持ちます。

授業内容

言葉を使ってアートするヴォーカルは舌、唇、顎をいつでも自由自在に扱えることで感動的な演出が可能になります。秋学期はより進んだ内容で各技術を鍛えます。また、授業の取り組み方も「吸収して学ぶ」から「研究して学ぶ」に変化します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アートの概念に向き合うことで独自性の高い表現力に繋がります。また、リズムと一体になることで歌唱時のウイークポイントの解消を目指します。演技パフォーマンスでは演出、演技の研究を発展させることで個性的なパフォーマンスを更に高めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 表現力研究 表現力に繋がる歌唱時の表情。参考映像から学べる表情と表現力。歌唱に応用させましょう。
- ② 演技パフォーマンス 企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
- ③ 演技パフォーマンス 読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
- ④ 演技パフォーマンス 立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的な演出が大切です。
- ⑤ 演技パフォーマンス ゲネプロ。作品の完成度を上げながら演技を行います。
- ⑥ 演技パフォーマンス 本番。稽古してきた成果を発表しましょう。
- ⑦ 試験 今までの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

中間試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 滑舌 オリジナル早口言葉フレーズ特集。正確かつスピーディに発音して苦手を得意に変えましょう。
- ⑨ リズムリンケージ リズム＋発声＋滑舌＋音程コントロールのトレーニング。歌唱時の滑舌メカニズムをより円滑化します。
- ⑩ 演技パフォーマンス 企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
- ⑪ 演技パフォーマンス 読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
- ⑫ 演技パフォーマンス 立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的視点からの演出が大切です。
- ⑬ 演技パフォーマンス ゲネプロ。作品の完成度を上げながら演技を行います。
- ⑭ 演技パフォーマンス 本番。稽古してきた成果を発表しましょう。
- ⑮ 試験 今までの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

期末試験評価方法・評価基準

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。

成績評価の方法：試験項目（実技）20%、平常点（理解度、成長度、マナー）40%、出席・受講状況40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ディクッションⅢ
担当講師名	奥田 祐
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲のプロデュース経験を持ちます。

授業内容

この授業では、英語詞の分析・歌詞読みなどいろいろな手法を使って、学生ひとりひとりのレパートリーを増やしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各セミスター末に各自で課題曲を選び、発音に焦点を置いて実習していきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年の授業予定とガイダンス。授業で取り上げる曲を選びます。
- ② 英語の発音。LとR、BとV、FとH、t h & s h、c h、
- ③ 取り上げた曲を分析・解説。歌詞読み
- ④ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑤ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑥ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑦ 課題曲の実習テスト

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけでなく、進度や出席点を重視します。

レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 発音実習。各自、課題曲を選びます。
- ⑨ 取り上げた曲を分析・解説。歌詞読み

- ⑩ 取り上げた曲を分析・解説。歌詞読み
- ⑪ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑫ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑬ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑭ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑮ 課題曲の実習テスト

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。

レポーターの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ディクッションⅣ
担当講師名	奥田 祐
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、ヴォーカル曲のプロデュース経験を持ちます。

授業内容

この授業では、英語詞の分析・歌詞読みなどいろいろな手法を使って、学生ひとりひとりのレパートリーを増やしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

セミスター末ごとに各自で課題曲を選び、発音に焦点を置いて実習していきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 発音実習。各自、課題曲を選びます。
- ② 取り上げた曲を分析・解説。歌詞読み
- ③ 取り上げた曲を分析・解説。歌詞読み
- ④ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑤ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑥ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑦ 課題曲の実習テスト

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけでなく、進捗や出席点を重視します。

レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 発音実習。各自、課題曲を選びます。
- ⑨ 取り上げた曲を分析・解説。歌詞読み

- ⑩ 取り上げた曲を分析・解説。歌詞読み
- ⑪ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑫ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑬ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑭ 課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
- ⑮ 課題曲の実習テスト

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%

試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。

レポーターの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルゼミ I
担当講師名	安村今日子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

ゴスペルクワイアに所属し、単独ホールコンサート、ジャズミュージシャン等のバックコーラスを行う。また、ディレクターとして数々のクワイアをディレクションしている。

授業内容

アンサンブルの課題として、ゴスペルミュージック・コーラスを用います。ゴスペル (Gospel) とは、God Spell → Good Spell (良い知らせ=Good News) が変化した言葉だと言われ、日本語では、福音 (=良い知らせ) と訳されます。17世紀に奴隷としてアメリカ大陸へ連行された、アフリカ人が、自由を剥奪され、救いを与える福音と出会い、神に彼らの賛美をささげるようになったのがゴスペルの始まりです。この講義では、ゴスペルを学ぶと共に背景・歴史・聖書を学び、より深い表現を目指していきます。ニグロスピリチュアル、讃美歌、コンテンポラリー・ゴスペル等をソロ、クワイア・スタイルで表現していきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

名曲の数々をレパートリーにできる。
アンサンブル力の強化。
ディレクション (指揮) 力をつける。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ゴスペルを知ろう ♪ Oh Happy Day/E・ホーキンス
- ② 黒人霊歌-Spirituals- ♪ Deep River
- ③ 黒人霊歌-Spirituals- ♪ Down by the Riverside
- ④ 讃美歌との違い ♪ Amazing Grace キイやリズム、拍子を変えて
- ⑤ ゴスペルの父トーマス・A・ドーシー ♪ Take My Hand, Precious Lord
- ⑥ ゴスペルのハーモニー ♪ Make us one/Carol Cymbala
- ⑦ アカペラ ♪ AMEN/Take6

中間試験評価方法・評価基準

アンサンブルを伴う授業なので、積極性を重視します。

出席：50% 平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ギospelを題材にした映画① ♪Hail Holy Queen/天使にラブソングを
- ⑨ ギospelを題材にした映画② ♪His Eyes on the sparrow/天使にラブソングを2
- ⑩ ギospelを題材にした映画③ ♪JOY/天使の贈りもの
- ⑪ ギospelを題材にした映画④ ♪Man In The Mirror/ジョイフルノイズ
- ⑫ ギospel曲になったポピュラーソング① ♪Bridge over Troubled Water/サイモン&ガーファンクル
- ⑬ ギospel曲になったポピュラーソング② ♪September/アース・ウィンド・アンド・ファイアー
- ⑭ ギospel曲になったポピュラーソング③ ♪I Believe I Can Fly /R・ケリー
- ⑮ ギospel曲になったポピュラーソング④ ♪you've got a friend/キャロル・キング

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブルを伴う授業なので、積極性を重視します。

出席：50% 平常点：50%

特記事項

アンサンブルの授業です。安易に休むと他の方の迷惑となります。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルゼミⅡ
担当講師名	安村今日子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

ゴスペルクワイアに所属し、単独ホールコンサート、ジャズミュージシャン等のバックコーラスを行う。また、ディレクターとして数々のクワイアをディレクションしている。

授業内容

ディレクターとなって、ゴスペルクワイアを一人ずつ指揮します。演奏する楽曲は、コンテンポラリーゴスペルの旗手となるアーティストの有名曲です。すべてのパートが歌え、指導ができるレベルまで目指していきます。毎回、課題曲を練習しますが、4クォーター最後のライブに向けて選曲もし、合わせて練習を重ね、クオリティの高いステージを作り上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

名曲の数々をレパートリーにできる。
アンサンブル力の強化。
ディレクション（指揮）力をつける。

授業計画（1回目から7回目）

- 1 エドウィン・ホーキンス ♪Worship the lord
- 2 ジョン・P・キー ♪Wash me
- 3 イスラエル・ホーントン ♪You are good
- 4 リチャード・スモールウッド ♪Total praise
- 5 ゴスペルソングになったクラシック曲① ♪hallelujah①
- 6 ゴスペルソングになったクラシック曲② ♪hallelujah②
- 7 ゴスペルソングになったクラシック曲③ ♪Ode to joy

中間試験評価方法・評価基準

アンサンブルを伴う授業なので、積極性を重視します。
出席：50% 平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- 8 クリスマスソングを歌おう① ♪Now before the lamb/カーク・フランクリン
- 9 クリスマスソングを歌おう② ♪Silent Night /カーク・フランクリン
- 10 クリスマスパティー ♪Real party/メアリーメアリー
- 11 マーサ・ミュニッジ ♪Because of Who You Are
- 12 ヨランダ・アダムス ♪Victory
- 13 メアリーメアリー ♪I just can't give up now
- 14 ブルックリン・タバナクルクワイア ♪Halleluiah you're worthy
- 15 ライブ

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブルを伴う授業なので、積極性を重視します。

出席：50% 平常点：50%

特記事項

アンサンブルの授業です。安易に休むと他の方の迷惑となります。各回メインの楽曲を記載していますが、以前に歌った楽曲も都度おさらいします。

配布されたものは授業毎に持参すること

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ステージパフォーマンス
担当講師名	青井智佳子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

ダンスのテクニックを使いながら、音楽の乗り方、自己の表現の方法を学びます。簡単な筋肉図やイラストを用いて、体の中のことも学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の立ち振る舞いや居姿を改善することができます。各自の求めるパフォーマンスの質を事前に講師と相談し、一部のメニューはそれぞれ個別のものになりますので、より自分に合った方法を取りながら自己表現を高めていくことができます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。
- ② 自分の立ち位置を把握する為、自身の携帯端末などでパフォーマンスの動画を撮影します。
- ③ 自分のパフォーマンスをどの様に作り上げて行きたいか、何が足りないか、どうしたいかなどを聞き取り調査を行います。
- ④ 聴き取った内容に対して授業内で対応できる事や優先順位を学生と話し合っ決定し、メニューの一部を学生と共に作成します。この回から時々プリントを配布します。
- ⑤ 振付課題の音楽の候補を挙げ、学生と話し合っ課題曲を決定します。
- ⑥ 各自に合った必要な基本トレーニングを講師の監督、アドバイスの元実施し、既に付いている振付確認を行います。
- ⑦ 中間試験:各自ごとの課題曲の実技の試験です。一人ずつ行います。試験の実技は動画で撮影して、各自に管理していただきます。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 中間試験の動画を見ながら、考察していきます。改善点の洗い出しを行い、今後の練習メニューを大枠で作成します。
- ⑨ 授業開始からのウォーミングアップメニューは全員が同じものを行い、途中から、既に作成した各自のメニューを元に練習します。最後に振付課題をつけていきます。
- ⑩ 前半は、前回と同じで、後半は振付課題を進めます。
- ⑪ 前半は前回と同じで、後半は、各自のパフォーマンスを動画に撮り、講師とともにチェックを行っていきます。
- ⑫ 前回チェックした項目を改善していきます。後半に動画を撮影し、変化を自分で見つけてもらいます。
- ⑬ 振付課題の振り付けを進めていきます。必要であればこの回も動画の撮影、チェックを行います。
- ⑭ 既に配布されたプリントの内容と振り付け課題の確認を行い、実技試験内容の練習を行います。
- ⑮ 期末試験：各自ごとの課題曲の実技の試験です。一人ずつ行います。試験の実技は動画で撮影して、各自に管理していただきます。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ステージパフォーマンス
担当講師名	青井智佳子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

ダンスのテクニックを使いながら、音楽の乗り方、自己の表現の方法を学びます。簡単な筋肉図やイラストを用いて、体の中のことも学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスのステップや動きを使って、更にステージングを自分で組み立て、魅せられるようになります。自分の立ち振る舞いや居姿を改善することができます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。後半は実技の授業に入ります。
- ② 振付課題を提示して行きます。
- ③ 振付課題のポイントや、特に練習と慣れが必要な部分を抜き出して部分練習します。部分練習は振付そのものの練習だけでなく、それが出来るための基礎的な練習方法もレクチャーして行きます。
- ④ 振付課題の音楽の候補を挙げ、学生と話し合っって課題曲を決定します。
- ⑤ 今まで行っている振付課題に振付を追加していきます。
- ⑥ 振付課題を繰り返し練習し、講師が説明するポイントを理解して、各自で練習に取り組んでいきます。
- ⑦ 中間試験：課題振付の実技による試験を、一人ずつ行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 中間試験の動画を見ながら、考察していきます。改善点の洗い出しを行い、今後の練習メニューを大枠で作成します。
- ⑨ 課題曲の候補をあげ、講師と相談しながら一曲選びます。
- ⑩ 振付課題の設定や目的を説明しますので、それらを理解して、自分のダンスに取り組んでいきます。
- ⑪ ウォーミングアップメニューは全員が同じものを行い、途中から、既に作成した各自のメニューを元に練習します。最後に振付課題を加えて行きます。
- ⑫ 振付課題の細かい所を確認し、より表現を高める目的で説明をし、練習をします。
- ⑬ クラスメイト同士でディスカッションを行い、よりパフォーマンスが改善する方法を講師を交えて話し合っていきます。
- ⑭ 振付課題を何度も練習し、パフォーマンスとして見せることに集中して取り組んでいきます。各自が自分のダンスと向き合い講師のアドバイスのもと、改善のための努力をして行きます。
- ⑮ 期末試験：ダンスの実技の試験を一人ずつ行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	DTM 実践 I
担当講師名	滝口 北斗
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM/DAW を用いた楽曲制作(作編曲・レコーディング)やアーティストプロデューサー(配信レーベルの主宰・運営)の実務経験を持ちます。

授業内容

現在の音楽制作の現場で欠かすことの出来ない DTM/DAW のシステムを用いた楽曲(トラック)制作の方法を学びます。

自身では演奏出来ない楽器を MIDI データとして作成する方法を身につけ、オリジナル楽曲のクオリティアップに役立てられるように、必要最低限のオペレーション能力の習得を目指します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

DTM/DAW アプリケーションを用いた音楽制作の基礎知識とプロセスを理解します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① PC を用いた音楽制作の実状について。
- ② DTM/DAW を使って出来る事をデモンストレーション作品を聴いて学ぶ。
- ③ システムの構成と信号の流れを学び、音を出してみる。
- ④ システムの構成と操作方法を学び、自分の好きな音が鳴らせるセッティングをする。
- ⑤ キーエディターでステップインプットの方法を学ぶ。
- ⑥ ドラムエディターと鍵盤を使い譜例通りのパターンを作成、修正、編集する。
- ⑦ リアルタイム入力によるオリジナルのパターンを作成、修正、編集する。

中間試験評価方法・評価基準

本試験 40% : オリジナルテンプレートとドラムのデータを確認し、オペレーションの理解度を見ます。

平常点 60% : 授業態度。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ ステップ入力でコードを加える。
- ⑨ ステップ入力でメロディを加える。
- ⑩ 実際の作品データ入力。(オリジナル曲、コピー曲共にスコアもしくはコード/メロディ/構成譜を用意。)
- ⑪ ミスタッチやタイミングの修正をする。
- ⑫ コンピュータの基本キーボードショートカットの学習。
- ⑬ 作品を試聴しながらチェック&アドバイス。
- ⑭ 作品の書き出し方と変換方法。iTunes を用いた音楽ファイルの管理方法について。
- ⑮ ここまでの制作内容をバランスを取り、オーディオファイルに書き出す。

期末試験評価方法・評価基準

本試験 40% : 基礎的なオペレーションが身につき、作品に反映されているかを見ます。
平常点 60% : 授業態度。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	DTM 実践Ⅱ
担当講師名	滝口 北斗
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM/DAW を用いた楽曲制作(作編曲・レコーディング)やアーティストプロデューサー(配信レーベルの主宰・運営)の実務経験を持ちます。

授業内容

現在の音楽制作の現場で欠かすことの出来ない、DTM/DAW のシステムを用いた楽曲(トラック)制作の方法を学びます。

春学期に学習した内容を踏まえて、後期はオリジナル作品のデータ制作を行います。様々な楽器の構造や奏法、音色の使い方などの部分も学び、それらをデータに反映させる方法の習得を目指します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

最終形のアレンジをアレンジシャーに託す事も視野に入れ、イメージが伝わりやすいトラック制作方法や簡単なオーディオレコーディング、ミックスなどにも触れ、実際の楽曲制作現場の流れを体感出来るようにして行きます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 自分が描く作品の完成形を目指したプランニングを行う。
- ② 方向性に合わせた素材(コード進行や Loops など)の収集を行う。
- ③ 収集した素材を組み合わせ、楽曲の構成を作っていく。
- ④ 描いた構成に合わせ、リズムトラック、コード、ベースなどを作っていく。
- ⑤ 出来上がったトラックにメロディーラインやコーラスラインを重ねてみる。
- ⑥ 出来上がったトラックに仮歌を入れてラフミックス。スマートフォンの活用。
- ⑦ ラフミックスをオーディオファイルに書き出す。

中間試験評価方法・評価基準

本試験 40% : 各自プランニングに基づいた作品データを確認し、アドバイスをします。
平常点 60% : 授業態度。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 完成形を見据え、現状における修正点の把握や最終的に必要な素材収集などを行う。
- ⑨ リズミ的なアプローチからのアレンジメントとオーディオデータの簡単な波形編集。
- ⑩ フレーズ、音色的なアプローチからのアレンジメントとエフェクトの基礎知識。
- ⑪ 楽曲構成の入れ替え、移調やフルサイズの作成。波形編集の応用。
- ⑫ ファイルのエクスポートとインポートについて。
- ⑬ 各パートの処理(音色や表現)を煮詰める。
- ⑭ 作品を試聴しながらチェック&アドバイス。
- ⑮ 完成した作品を様々なフォーマットに書き出す。

期末試験評価方法・評価基準

本試験 60%：受講学生には最低でも1曲のオリジナルトラックを持って卒業・進級して欲しいと思っています。

アレンジャーに依頼する所までのデータが出来れば50%達成。それ以上の学生は、プランニング通り且つ、1年間学習した内容が作品に反映されているかを見ます。

平常点 40%：授業態度。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	伴奏法 I
担当講師名	岡野勇仁
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

ヴォーカルのサポートピアニストとしての多数のライブ活動、アルバムリリース

授業内容

この科目では、講師の実務経験（サポートピアニストとしての多数のライブ活動、アルバムリリースなど）に基づき、ピアノ弾き語りの基礎から学んでいきます。ピアノ初心者には難しく感じるかもしれませんが、パターンを覚えると、あとは、その応用だけです。基礎練習とレベルを合わせた応用をしていきます。うまくなるコツはとにかくたくさんの曲を弾いてみることに伴奏をしてみる事です。自分のレベルに合わせて目標を決めましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽の基礎であるセオリーを頭に入れた上でコードの成り立ちを理解します。初心者～経験者までレベルはさまざまですが、基礎をしっかりと固める事で、のちの応用がきくようになります。一人ずつチェックし、セオリーとコードを理解するのが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 実際にピアノに触れ、音を目で確かめ、基礎となるセオリーを確認します。
- ② 簡単なコードから実際に演習していきます。
- ③ 歌の伴奏にチャレンジします。
- ④ バッキングにおけるベースラインの機能について学習します。
- ⑤ 課題を確認しながら、試験楽曲のリハーサルをおこないます。
- ⑥ 1クォーターの学習内容を復習しながら演奏練習をします。
- ⑦ 課題曲のピアノの弾き語りを行います。一人ずつ前に出て発表し、本番の緊張感も感じましょう。

中間試験評価方法・評価基準

1クォーターで基礎となるものを全て学んできました。授業で学んだセオリー、コードの基本形、転回形、ベースライン、アルペジオなどを理解し、課題曲に取り入れる事が出来

ていたかを見ます。個人差はありますが、しっかり練習をしたかが大事です。試験 30%出席・授業態度 70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ テンションやオンコード等コードの応用を学びます。
- ⑨ コードにおけるトップノートの役割を学習します。
- ⑩ 循環コードでの伴奏と移調の練習をします。
- ⑪ バッキングの様々なリズムを演習します。
- ⑫ 原曲から移調し、自分であったキーで演奏する練習をおこないます。
- ⑬ 課題を確認しながら、試験楽曲のリハーサルをおこないます。
- ⑭ 2クォーターの復習をしながら、一人ずつ中間発表します。
- ⑮ 2クォーターでは色々なテクニックを学びました。練習の成果を出し、みんなの前で堂々と発表しましょう。

期末試験評価方法・評価基準

授業で学んだ内容を理解し、課題取り入れることが出来ているか、バッキングの用法を全て理解しているかを見ます。簡単ではありませんが、熱心に取り組めば取り組むほどに上達します。弾けるようになると自分で音楽を作り出す感覚がついていきます。試験 30%出席・授業態度 70%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	伴奏法Ⅱ
担当講師名	岡野勇仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

ヴォーカルのサポートピアニストとしての多数のライブ活動、アルバムリリース

授業内容

この科目では、講師の実務経歴（サポートピアニストとしての多数のライブ活動、アルバムリリースなど）に基づき、ピアノ弾き語りの基礎を復習しつつ、さらに内容を深く身につけていきます。第3クォーターは自由曲を決めて、一曲をきちんと弾き語りできるように各自仕上げていきます。第4クォーターは元の曲からのアレンジの歌と伴奏を交互に担当し人の歌を聴きながら伴奏もチャレンジしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

難しいことにチャレンジし、出来た時の喜びや音色の美しさを実感しましょう。練習段階では楽しいものではないかもしれませんが、目標を高く持ち、日々ピアノに向き合えると確実に力がついてきます。個人個人目標を決め、そこにたどり着けるようになりましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 様々なスタイルの楽曲をピアノ弾き語り用にアレンジする手法を学習します。
- ② ピアノソロや間奏にチャレンジします。
- ③ わかりやすい楽譜の書き方を学習します。
- ④ ダイナミクスをつけ、曲にストーリーを持たせ演奏してみましよう。
- ⑤ 曲の構成を理解して、前奏や後奏をつくれるようにします。
- ⑥ 課題を確認しながら、試験楽曲のリハーサルをおこないます。
- ⑦ 表現したいことをはっきりさせた上で一人ずつ前に出て発表しましょう。

中間試験評価方法・評価基準

歌とピアノのダイナミクスがバラバラにならないように注意しましょう。授業で学んだ内容を理解し、曲に取り入れることができているか、自分で曲全体の構成を考え、まとめられているかどうかを見ます。ピアノは日頃の練習が大切です。授業の時だけの練習になら

ないようにしましょう。試験 50%出席 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ リハーサルの進め方を演習しながら学習します。
- ⑨ 作曲方法の概要を解説します。
- ⑩ ピアノ弾き語りに適したオリジナル曲の作曲をおこないます。
- ⑪ 様々なジャンルの音楽の概要を解説します。
- ⑫ ジャンルごとのバックギングのスタイルを学びます。
- ⑬ ジャズの様々なスタイルを紹介します。
- ⑭ 課題を確認しながら、試験楽曲のリハーサルをおこないます。
- ⑮ 表現したいことをはっきりさせた上で一人ずつ前に出て発表しましょう。

期末試験評価方法・評価基準

1年を通して勉強してきたことを全てふまえ、発表出来ていたかを見ます。しっかりとした「作品」に仕上がっているか、またたくさん練習したかを見ます。試験 40%出席 60%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー (JAZZ) I
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして多くのジャズヴォーカリストと共演し、演奏活動を行なっております。

授業内容

スタンダード曲を聴き、歌って自分の中に「ジャズ」というジャンルの引き出しをひとつ増やしてください。そして時代と共に曲調が変わっていく様、歌手によって歌い方が違う、などの知識を養っていけるように進めていきます。
まずは、たくさんの「スタンダード曲」と「ジャズヴォーカリスト」を知りましょう。そして歌えるようにしましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はピアノトリオと一緒に演奏します。フロントに立つヴォーカリストとして、授業で得た知識を生かし、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①L-O-V-E：ジャズの歴史や特徴：Nat King Cole について学習
- ②Fly me to the moon：Frank Sinatra について学習
- ③All of me：Billie Holiday について学習
- ④How high the moon：Ella Fitzgerald について学習
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥試験：このクォーターで学習した4曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。
それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Take the "A" train : Big band & Duke Ellington について学習
- ⑨Summertime : Gerge Gershwin について学習
- ⑩Night and Day : Cole Porter について学習
- ⑪Lullaby Of Birdland : Sarah Vaughan について学習
- ⑫Autumn Leaves : ジャズとシャンソンについて学習
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭試験：このクォーターで学習した5曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー (JAZZ) II
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして多くのジャズヴォーカリストと共演し、演奏活動を行なっております。

授業内容

I. IIクォーターで学んだスタンダード曲にプラスして、いろいろなリズムのフィールにもチャレンジしていきます。ここでも、まず「アーティスト」と「曲」をたくさん知りましょう。知った上で自分のレパートリーに反映できると良いと思います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期同様、試験はピアノトリオと一緒に演奏します。フロントに立つヴォーカリストとして、授業で得た知識を生かし、しっかりパフォーマンスできているかどうか。春学期よりもより濃い内容のパフォーマンスができているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①L-O-V-E : ジャズの歴史や特徴 : Blues について学習
- ②Georgia on my mind : Ray Charles について学習
- ③On the sunny side of the Street : On The Sunny Side Of The Street が創られた背景について学習
- ④Só Danço Samba : Samba & Antonio Carlos Jobin について学習
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥試験 : このクォーターで学習した4曲を Piano, Bass, Drum のピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑦総括 : 試験の映像を見て、反省すると共に、4Q に向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。

それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧My favorite things : The sound of music について学習
- ⑨The girl from Ipanema : Bossa Nova / João Gilberto について学習
- ⑩You'd be so nice to come home to : Helen Merrill について学習
- ⑪My funny valentine : Anita O' day について学習
- ⑫What a wonderful world : Louis Armstrong について学習
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭試験：このクォーターで学習した5曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑮試験の映像を見て、反省すると共に、1年間学習したことを振り返る。

期末試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー (JAZZ) III
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして多くのジャズヴォーカリストと共演し、演奏活動を行なっております。

授業内容

スタンダード曲を聴き、歌って自分の中に「ジャズ」というジャンルの引き出しをひとつ増やしてください。そして時代と共に曲調が変わっていく様、歌手によって歌い方が違う、などの知識を養っていきけるように進めていきます。
まずは、たくさんの「スタンダード曲」と「ジャズヴォーカリスト」を知りましょう。そして歌えるようにしましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はピアノトリオと一緒に演奏します。フロントに立つヴォーカリストとして、授業で得た知識を生かし、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①L-O-V-E：ジャズの歴史や特徴：Nat King Cole について学習
- ②Fly me to the moon：Frank Sinatra について学習
- ③All of me：Billie Holiday について学習
- ④How high the moon：Ella Fitzgerald について学習
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥試験：このクォーターで学習した4曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。
それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Take the "A" train : Big band & Duke Ellington について学習
- ⑨Summertime : Gerge Gershwin について学習
- ⑩Night and Day : Cole Porter について学習
- ⑪Lullaby Of Birdland : Sarah Vaughan について学習
- ⑫Autumn Leaves : ジャズとシャンソンについて学習
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭試験：このクォーターで学習した5曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー (JAZZ) IV
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして多くのジャズヴォーカリストと共演し、演奏活動を行なっております。

授業内容

I. IIクォーターで学んだスタンダード曲にプラスして、いろいろなリズムのフィールにもチャレンジしていきます。ここでも、まず「アーティスト」と「曲」をたくさん知りましょう。知った上で自分のレパートリーに反映できると良いと思います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期同様、試験はピアノトリオと一緒に演奏します。フロントに立つヴォーカリストとして、授業で得た知識を生かし、しっかりパフォーマンスできているかどうか。春学期よりもより濃い内容のパフォーマンスができているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①L-O-V-E : ジャズの歴史や特徴 : Blues について学習
- ②Georgia on my mind : Ray Charles について学習
- ③On the sunny side of the Street : On The Sunny Side Of The Street が創られた背景について学習
- ④Só Danço Samba : Samba & Antonio Carlos Jobin について学習
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥試験 : このクォーターで学習した4曲を Piano, Bass, Drum のピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑦総括 : 試験の映像を見て、反省すると共に、4Q に向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。

それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧My favorite things : The sound of music について学習
- ⑨The girl from Ipanema : Bossa Nova / João Gilberto について学習
- ⑩You'd be so nice to come home to : Helen Merrill について学習
- ⑪My funny valentine : Anita O' day について学習
- ⑫What a wonderful world : Louis Armstrong について学習
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭試験：このクォーターで学習した5曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
- ⑮試験の映像を見て、反省すると共に、1年間学習したことを振り返る。

期末試験評価方法・評価基準

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	レパートリー(R&B) I
担当講師名	福富英明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

セッションで R&B/JAZZ を歌っています。

授業内容

発音や発声そしてリズムを聞き取って歌う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで歌ったことがなかった洋楽が歌えるようになる、

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ain't no mountain high enough 1 コーラス歌唱
- ② Ain't no mountain high enough 2 コーラス歌唱
- ③ Ain't no mountain high enough フルコーラス歌唱
- ④ Ain't no mountain high enough フルコーラス歌唱
- ⑤ Ain't no mountain high enough 歌唱テスト
- ⑥ It don't mean a thing 歌唱
- ⑦ It don't mean a thing 歌唱
- ⑧

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ Rock with you 1 コーラス歌唱
- ⑩ Rock with you 2 コーラス歌唱
- ⑪ Rock with you フルコーラス歌唱
- ⑫ Rock with you フルコーラス歌唱
- ⑬ Rock with you 歌唱テスト
- ⑭ Summer time 歌唱

⑮ Summer time 歌唱

⑯ Summer time 歌唱

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー(R&B)Ⅱ
担当講師名	福富英明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

セッションで R&B/JAZZ を歌っています。

授業内容

発音や発声そしてリズムを聞き取って歌う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで歌ったことがなかった洋楽が歌えるようになる、

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ordinary people 1 コーラス歌唱
- ② Ordinary people 2 コーラス歌唱
- ③ Ordinary people フルコーラス歌唱
- ④ Ordinary people フルコーラス歌唱
- ⑤ Ordinary people 歌唱テスト
- ⑥ This christmas 歌唱
- ⑦ This christmas 歌唱
- ⑧

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ You are my heaven 1 コーラス歌唱
- ⑩ You are my heaven 2 コーラス歌唱
- ⑪ You are my heaven フルコーラス歌唱
- ⑫ You are my heaven フルコーラス歌唱
- ⑬ You are my heaven 歌唱テスト
- ⑭ My funny valentine 歌唱

⑮ My funny valentine 歌唱

⑯ Summer time 歌唱

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー(R&B)Ⅲ
担当講師名	福富英明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

セッションで R&B/JAZZ を歌っています。

授業内容

発音や発声そしてリズムを聞き取って歌う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで歌ったことがなかった洋楽が歌えるようになる、

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ain't no mountain high enough 1 コーラス歌唱
- ② Ain't no mountain high enough 2 コーラス歌唱
- ③ Ain't no mountain high enough フルコーラス歌唱
- ④ Ain't no mountain high enough フルコーラス歌唱
- ⑤ Ain't no mountain high enough 歌唱テスト
- ⑥ It don't mean a thing 歌唱
- ⑦ It don't mean a thing 歌唱
- ⑧

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ Rock with you 1 コーラス歌唱
- ⑩ Rock with you 2 コーラス歌唱
- ⑪ Rock with you フルコーラス歌唱
- ⑫ Rock with you フルコーラス歌唱
- ⑬ Rock with you 歌唱テスト
- ⑭ Summer time 歌唱

⑮ Summer time 歌唱

⑯ Summer time 歌唱

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー(R&B)
担当講師名	福富英明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

セッションで R&B/JAZZ を歌っています。

授業内容

発音や発声そしてリズムを聞き取って歌う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで歌ったことがなかった洋楽が歌えるようになる、

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ordinary people 1 コーラス歌唱
- ② Ordinary people 2 コーラス歌唱
- ③ Ordinary people フルコーラス歌唱
- ④ Ordinary people フルコーラス歌唱
- ⑤ Ordinary people 歌唱テスト
- ⑥ This christmas 歌唱
- ⑦ This christmas 歌唱

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ You are my heaven 1 コーラス歌唱
- ⑨ You are my heaven 2 コーラス歌唱
- ⑩ You are my heaven フルコーラス歌唱
- ⑪ You are my heaven フルコーラス歌唱
- ⑫ You are my heaven 歌唱テスト
- ⑬ My funny valentine 歌唱

⑭ My funny valentine 歌唱

⑮ Summer time 歌唱

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー (ROCK&POPS) I
担当講師名	市川春行
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経歴があります。

授業内容

この科目では、講師の実務経歴（声優アイドルグループプロデュース、J-POP 楽曲コンペ作家）に基づき、個人個人では知りえなかったロック、ポップスの名曲と出会い、歌うことにより、ヴォーカリスト、ミュージシャンとしての幅を広げます。またレパートリーを増やすことに繋がります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲のテイストを自分なりに表現出来るようになること。歌詞の内容を理解した上で、気持ちを込めてパフォーマンス出来るようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①グループミーティング #1、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（同性歌手、歌唱曲を自身で選曲）
- ②初回歌唱 #1、同性歌手の歌唱楽曲を練習します。
- ③仕上げ歌唱 #1、前回授業を踏まえ、同性歌手の歌唱楽曲を完成させます。
- ④グループミーティング #2、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（異性歌手、歌唱曲を自身で選曲）
- ⑤初回歌唱 #2、異性歌手の歌唱楽曲を練習します。
- ⑥仕上げ歌唱 #2、前回授業を踏まえ、異性歌手の歌唱楽曲を完成させます。
- ⑦テスト、1Q で歌った曲より任意でピックアップし、歌唱します。

中間試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧グループミーティング #3、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（英語バラード曲を自身で選曲）
- ⑨初回歌唱 #3、Key 合わせ含め、英語バラード曲を練習します。
- ⑩仕上げ歌唱 #3、前回授業を踏まえ、英語バラード曲を完成させます。
- ⑪グループミーティング #4、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（英語 Rock 又は Dance 曲を自身で選曲）
- ⑫初回歌唱 #4、英語 Rock 又は Dance 曲を練習します。
- ⑬仕上げ歌唱 #4、前回授業を踏まえ、英語 Rock 又は Dance 曲を完成させます。
- ⑭2Q 曲再確認、2Q で歌った曲をおさらい
- ⑮テスト、2Q で歌った曲より任意でピックアップし、歌唱します。

期末試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー (ROCK&POPS)Ⅱ
担当講師名	市川春行
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経験があります。

授業内容

春学期を踏まえ、さらに個人個人では選ばなかったであろう、ミスマッチな楽曲にもチャレンジすることにより、ヴォーカリスト、ミュージシャンとしての幅をいっそう広げ、新しい可能性を探します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

いわゆる食わず嫌いだった曲にもアプローチすることによって自分の可能性をさらに広げること。またハモリ等複数 Vocal の楽しさも実感出来るようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①チームミーティング#5、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（ハモリのあるデュエット曲をチームで選曲）
- ②初回歌唱#5、ハモリのあるデュエット曲を練習します。
- ③仕上げ歌唱#5、前回授業を踏まえ、ハモリのあるデュエット曲を完成させます。
- ④チームミーティング#6、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（複数アイドル又はアニソン曲をチームで選曲）
- ⑤初回歌唱#6、複数アイドル又はアニソン曲を練習します。
- ⑥仕上げ歌唱#6、前回授業を踏まえ、複数アイドル又はアニソン曲を完成させます。
- ⑦テスト、3Qで歌った曲より任意でピックアップし歌唱

中間試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧チームミーティング#7、次回歌唱曲を皆で話し合います。（30年以上前のRock、Pops曲をチームで選曲）
- ⑨初回歌唱#7、30年以上前のRock、Pops曲を練習します。
- ⑩仕上げ歌唱#7、前回授業を踏まえ、30年以上前のRock、Pops曲を完成させます。
- ⑪チームミーティング#8、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（講師制作曲をチームで選曲）
- ⑫初回歌唱#8、講師制作曲を練習します。
- ⑬仕上げ歌唱#8、前回授業を踏まえ、講師制作曲を完成させます。
- ⑭4Q曲再確認、4Qで歌った曲をおさらいします。
- ⑮テスト、4Qで歌った曲より任意でピックアップし歌唱します。

期末試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー (Rock&Pops) III
担当講師名	桑村達人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はシンガーソングライター、歌手、演奏者として長きに渡りライブ、レコーディング活動を行なっています。

授業内容

主にポップクラシックとなっている洋楽を歌唱、そのエッセンスを体感する。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

自分なりのアプローチで、多岐に渡るポップスのボーカルスタイルを消化すること。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①自己紹介、オリエンテーション
- ②What's Going On/Marvin Gaye歌唱1
- ③What's Going On/Marvin Gaye歌唱2
- ④Can't Take My Eyes off You/Frankie Valli歌唱1
- ⑤Can't Take My Eyes off You/Frankie Valli歌唱2
- ⑥1Qで歌った2曲おさらい
- ⑦テスト：1Qで歌った2曲歌唱

中間試験評価方法・評価基準

出席、やる気、受講態度 出席50% 平常点20% 試験30%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧Time After time/Cyndi Lauper歌唱1
- ⑨Time After time/Cyndi Lauper歌唱2
- ⑩It's Not Unusual/Tom Jones歌唱1

⑪It's Not Unusual/Tom Jones歌唱2

⑫Honesty/Billy Joel歌唱1

⑬Honesty/Billy Joel歌唱2

⑭2Qで歌った3曲おさらい

⑮テスト：2Qで歌った3曲歌唱

期末試験評価方法・評価基準

出席、やる気、受講態度、パフォーマンス 出席50% 平常点20% 試験30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリーポップスⅣ
担当講師名	桑村達人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師はシンガーソングライター、歌手、演奏者として長きに渡りライブ、レコーディング活動を行なっています。

授業内容

主にポップクラシックとなっている洋楽を歌唱、そのエッセンスを体感する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

洋楽ポップクラシックを消化することによって、各々の歌唱スタイルのヒント、礎とさせる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Always/Atlantic Starr歌唱1
- ②Always/Atlantic Starr歌唱2
- ③Rain Drops Keep Fallin On My Head/BJ Thomas歌唱1
- ④Rain Drops Keep Fallin On My Head/BJ Thomas歌唱2
- ⑤My Way/Frank Sinatra歌唱1
- ⑥My Way/Frank Sinatra歌唱2
- ⑦テスト：3Qで歌ったうち2曲歌唱

中間試験評価方法・評価基準

出席、やる気、受講態度 出席50% 平常点20% 試験30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Minnie Riperton/Loving You歌唱1
- ⑨Minnie Riperton/Loving You歌唱2

- ⑩Bridge Over Trobled Water/Simon&Garfunkel歌唱1
- ⑪Bridge Over Trobled Water/Simon&Garfunkel歌唱2
- ⑫Back To Black/Amy Winehouse歌唱1
- ⑬Back To Black/Amy Winehouse歌唱2
- ⑭2Qで歌った3曲おさらい
- ⑮テスト：2Qで歌った3曲歌唱

期末試験評価方法・評価基準

出席、やる気、受講態度、パフォーマンス 出席50% 平常点20% 試験30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー（ミュージカル）Ⅰ
担当講師名	松村湧太
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、言語学・音声学・ヴォイストレーニングを組み合わせ、シンプルかつ理論的に声をトレーニング出来、音楽業界、ヴォイストレーナー業界からも高く評価されている「ヴォイトレ・マスター®メソッド」の認定ヴォーカルコーチとして、大手商業ミュージカル主演俳優、劇団四季俳優、武道館出演アーティストなど、数多くの指導実績があります。

授業内容

毎回必ず、発声練習で声帯のバランスを整え、声域を拡大した上で、様々なタイプのミュージカルナンバーに取り組んで頂きます。『その役柄ではどんな声が必要か？』を考え、ただ安定して歌えるだけでなく、その役の声として歌える様に声を作ります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ロングランにも耐えうる発声技術の土台を整えつつ、その楽曲が『どんな演目で、どういうシーンで、どういう心情や目的を持って歌うのか？』といった事まで掘り下げ、その役として歌える表現力も身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ミュージカルで求められる声 ミュージカルというジャンルで歌手が必要なスキルについて知り、実際に発声練習を行います。
- ②発声～課題曲①-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、「コーラスライン」より『愛した日々に悔いはない』に取り組めます。
- ③発声～課題曲①-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、前回の課題曲を更にヴォイストレーニングも交えながら、更に観客に伝わる歌にレベルアップします。
- ④発声～課題曲②-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ディズニーミュージカルから、男性は「アラジン」より『自慢の息子』女性は「リトルマーメイド」より『Part of your world』に取り組めます。
- ⑤発声～課題曲②-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、前回の課題曲を、よりその役柄に合う歌声や表現方法にブラッシュアップします。
- ⑥発声～試験曲 授業で歌った課題曲どちらかを選び、その曲がどんな演目のどんなシーンで、どんな役がどういう想いで歌う曲なのか？といった事も調べた上で、更に観客の心を揺さぶる歌に仕上げます。

⑦中間試験 一人ずつ、ご自身で決めた曲を披露して頂きます。

中間試験評価方法・評価基準

その役柄に求められる声で歌えているか、そして演目や役柄、シーンについて理解した上で歌えているか？を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧発声～課題曲③-① 前期とはまた全く違う声が必要な演目「ジキルとハイド」より、男性は『時が来た』女性は『あんなひとが』に取り組みます。
- ⑨発声～課題曲③-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、引き続き前回の課題曲をヴォイストレーニングを交えて、役柄や心情に合う歌い方にブラッシュアップします。
- ⑩発声～課題曲④-① クラシカルな声の要素が必要な「オペラ座の怪人」より、男性は『ミュージック・オブ・ザ・ナイト』女性は『墓場にて』に取り組みます。
- ⑪発声～課題曲④-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、引き続き前回の課題曲をヴォイストレーニングを交えて、役柄や心情に合う歌い方にブラッシュアップします。
- ⑫発声～試験曲① それぞれご自身で、色々なミュージカルナンバーについて調べて頂き、自分の強みに合う、取り組んでみたい曲を試験曲として持ってきて下さい。
- ⑬発声～試験曲② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲をヴォイストレーニングを交え、その役柄ならではの声、表現で歌える様にします。
- ⑭発声～試験曲③ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲を更に精度を高めます。どんな演目、どんな役柄、どんなシーンなのか？を理解して歌います。
- ⑮期末試験 お一人ずつ、選んだ自由曲を歌って頂きます。

期末試験評価方法・評価基準

その役柄に求められる声で歌えているか、そして演目や役柄、シーンについて理解した上で歌えているか？更に、声のバランスを崩す事なく安定して歌えているか？発声技術も評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レパートリー（ミュージカル）Ⅱ
担当講師名	松村湧太
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ヴォーカルコース

担当科目に関連する実務経歴

講師は、言語学・音声学・ヴォイストレーニングを組み合わせ、シンプルかつ理論的に声をトレーニング出来、音楽業界、ヴォイストレーナー業界からも高く評価されている「ヴォイトレ・マスター®メソッド」の認定ヴォーカルコーチとして、大手商業ミュージカル主演俳優、劇団四季俳優、武道館出演アーティストなど、数多くの指導実績があります。

授業内容

デュエットやコーラスにも取りみ、プリンシパルとしてソロで歌う時と、アンサンブルとしてコーラスを歌う時の、声の作り方の違いを学びます。最後は、それぞれのヴォーカリストとしての強みを活かした、ミュージカルナンバーの18番を1つ仕上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ミュージカルは、演目によって、クラシック、ロック、ジャズ、R & B、ポップス等、様々なジャンルの音楽を歌う必要があり、尚且つ演じる役柄としての芝居の中で歌う必要があり、総合力が一番要される場です。様々なテイストの曲に取り組み、自分の歌手としての強みも理解し、どんな世界でも通用するヴォーカリストとしての総合力を高めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①発声～デュエット課題① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ディズニーミュージカルのデュエット「アラジン」より『ホールニューワールド』に取り組みます。
- ②発声～デュエット課題② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ジャズテイストのデュエット「ミーアンドマイガール」より『ミーアンドマイガール』に取り組みます。
- ③発声～デュエット課題③ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ロックテイストのデュエット「アイダ」より『迷いつつ』に取り組みます。
- ④発声～デュエット課題④ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、グランドミュージカルのデュエット「ミス・サイゴン」より『世界が終わる夜のように』に取り組みます。
- ⑤発声～試験曲① 試験のペアを決め、授業の中で取り組んだデュエットナンバーの中から1曲選び、ブラッシュアップします。
- ⑥発声～試験曲② 引き続き試験曲の精度を高めます。声の安定はもちろん、楽曲の背景を理解した上で、相手と歌の中で感情の交流が成り立つ様に仕上げます。

⑦中間試験 ペア1組ずつ、試験曲を披露して頂きます。

中間試験評価方法・評価基準

今回はソロではなくデュエットです。その役としての声や表現で歌えている事はもちろん、相手の声や感情にも意識を向け、歌の中でのコミュニケーションが取れているか？も評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧発声～コーラス課題①-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、「RENT」より『Seasons of love』に取り組みます。音程感やリズムが全て溶け合うためには、それぞれのパートが何に気をつけるか？学びます。

⑨発声～コーラス課題①-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、前回の課題曲に取り組みます。周りの声も聴き合いつつも、更に観客に大きなエネルギーが伝わるコーラスになる様ブラッシュアップします。

⑩発声～コーラス課題②-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、「レ・ミゼラブル」より『ワン・デイ・モア』に取り組みます。様々な役が登場する複雑な構成の曲です。演目や楽曲の背景を調べてキャストを決めましょう。

⑪発声～コーラス課題②-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、引き続き前回の曲に取り組みます。それぞれの役に最適な声を作りながらも、コーラスの大ナンバーとして壮大に仕上げます。

⑫発声～自由曲① ご自身が将来、どういう活動をしていきたいか？ご自身の歌手としての強み、得意分野は何か？を説明して頂いた上で、それに最適なミュージカル曲を一つ選んで、試験に向けて取り組みます。

⑬発声～自由曲② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲をブラッシュアップします。その曲、役に最も合う声に仕上げていきます。

⑭発声～自由曲③ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲を更に自由な表現で歌える様に仕上げていきます。お互いに感想、意見も出し合ひましょう。

⑮期末試験 お一人お一人、自由曲を披露して頂きます。

期末試験評価方法・評価基準

ヴォイストレーニング面、表現面において、これまで学んだ事を活かして「もっと聞きたい」と思わせる力のあるパフォーマンスだったか？そして歌手としての自分の強み、得意分野を理解し、そこを最大限活かした選曲、表現だったか？を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

アレンジ・作曲コース

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。

クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音⑫：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音⑬：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音⑭：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音⑮：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑰：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑱：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑲：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑳：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音㉑：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音㉒：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅢ
担当講師名	岡澤理絵
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	アレンジ作曲

担当科目に関連する実務経歴

講師には音楽科高等学校受験指導、グレード試験指導など経験があります。

授業内容

作曲家として活動するために必要な基礎的な知識・音楽的基礎能力・演奏力・表現力などを身に付けるための総合的な学習を行います。自作自演・アレンジ・グループでのアンサンブル発表なども交え、授業を受けながら楽しく音楽力がアップできるのを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

リズム感・音感を養い、更に初見力・即興演奏力を磨き、スコアリーディング、指揮なども体験します。尚、作曲家・演奏家として活動するのに必要なことを毎回の授業で身に付けて行くことで、卒業後の活躍に活かさせます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①各自なりに出来ること・努力が必要な分野を整理して、今年度の目標を立てます
- ②リズム感を身に付けよう・4ビート&メロディー視唱&ヒアリング
- ③正しい音程を身に付けよう・8ビート&メロディー視唱&ヒアリング
- ④ベースラインも聴き取ってみよう・16ビート&2重唱&ヒアリング
- ⑤リズムアンサンブル・息を合わせ、工夫して合わせてみよう。
- ⑥リズムアンサンブル&コラール・2人で歌えたら3声に挑戦しましょう。
- ⑦試験・授業内で練習した曲にオリジナルのパートを加えて発表します。

中間試験評価方法・評価基準

経験値のソルフェージュ力ではなく、各自が毎回授業で頑張った分を平常点として評価します。出席+平常点=80%、試験=20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コードを読み、演奏します。弾き歌いにもチャレンジします。

- ⑨コード進行に合わせて、メロディーを作ります。伴奏を付けて歌ってみましょう。
- ⑩メロディーにオブリガートを付け、それを歌いながらメロディーを弾いてみましょう。
- ⑪即興で、単純なリズム、コードのメロディーを少しアレンジして演奏してみよう。
- ⑫歌をアレンジしてアンサンブルを作ります。ハモリを加えたり工夫してみましょう。
- ⑬アンサンブルアレンジ・楽しくアンサンブルができる様に仕上げましょう。
- ⑭アンサンブル合わせ・それぞれの曲を練習して仕上げます。
- ⑮アンサンブルの発表

期末試験評価方法・評価基準

出席＋平常点＝80%、試験＝20%
アンサンブル作りで工夫した点もプラスします。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅣ
担当講師名	岡澤理絵
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	アレンジ作曲

担当科目に関連する実務経歴

講師には音楽科高等学校受験指導、グレード試験指導などがあります。

授業内容

作曲家として活動するために必要な様々な楽器のために書かれた曲や幅広く音楽を理解します。読譜力を付けたいですね。ちょっと難しそうに見えるハ音記号とも馴染んで行きましょう。小編成の弦楽アンサンブルから始め、次第に大きい編成のスコアリーディングを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

リズム感・音感を養い、更に初見力・即興演奏力を磨き、スコアリーディング、指揮なども体験します。尚、作曲家・演奏家として活動するのに必要なことを毎回の授業で身に付けて行くことで、卒業後の活躍に活かします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①弦楽器について学ぼう・ヴァイオリンの曲を聴音してみよう。
- ②アルト記号&即興演奏・ヴィオラの楽譜を読もう。即興で伴奏付の練習も行います。
- ③テナー記号&初見試奏・チェロの楽譜を読もう。そのピアノ伴奏譜も弾いてみよう。
- ④弦楽四重奏譜を弾こう・シューベルト作曲、死と乙女のスコアリーディング。
- ⑤弦楽アンサンブルを弾こう・バーバー作曲、アダージョのスコアリーディング。
- ⑥ヴィヴァルディ作曲、四季のスコアリーディング。
- ⑦試験・各自ができる範囲でスコアリーディングを行います。

中間試験評価方法・評価基準

各自が毎回授業で頑張った分を平常点として評価します。
出席+平常点=80%、試験=20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧オーケストラスコア入門・スコアを見ながら、くるみ割り人形を鑑賞します。
- ⑨フルート・オーボエ・ファゴットパートを読みましょう。
- ⑩移調読みをする木管楽器の種類と移調練習を行い、読み方をマスターしましょう。
- ⑪ホルン・トランペット・トロンボーン・チューバ等金管楽器パートを読みましょう。
- ⑫打楽器のアンサンブルをやります。打楽器は、種類も演奏法も様々です。
- ⑬ハープ・チェレスタが活躍するくるみ割り人形の曲を弾いてみましょう。
- ⑭ピチカート奏法・弱音器音色等イメージをして演奏に活かしてみましょう。
- ⑮オーケストラ曲の演奏・アンサンブルで作品の演奏を行います。

期末試験評価方法・評価基準

毎回授業で頑張った分を平常点として評価します。
出席＋平常点＝80%、試験＝20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュ I
担当講師名	周環悦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	アレンジ・作曲コース

担当科目に関連する実務経歴

コンサートやライブ等でアンサンブルピアニストとして活動しながら、ソルフェージュなどの後進の指導にもあたっています。

授業内容

音楽家の中でも作曲家は特に高い音楽基礎能力と、それを応用する頭の回転の速さが求められます。そのために大切なのはソルフェージュ力です。読譜をメインに視唱や聴音、伴奏付け等様々なソルフェージュの訓練をします。自身の創作や音出しの現場で活躍できるよう、音楽基礎能力の底上げと質の高い聴力を養っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

その場で指定された音楽要素等の条件に基づき短い曲を創作し、自身で歌えるようになる、ト音譜表以外の譜表や移調譜を正確に書き換えられるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽譜に記されているものや基本的な楽典を再確認します。
- ② 読譜① ト音記号とヘ音記号の譜面を用いて読譜や視唱をします。
- ③ 読譜② ハ音記号の譜面を用いて読譜や視唱をします。
- ④ リズム リズム打ちやリズム聴音をします。
- ⑤ 聴音① 単純なリズムと音型の聴音をし、それを用いて視唱をします。
- ⑥ 聴音② 単純なリズムと音型の聴音をし、それを用いて視唱をします。
- ⑦ 中間試験

中間試験評価方法・評価基準

出席・平常点 40%+試験 60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 視唱① ト音記号の譜面を用いて視唱や和音付けをします。

- ⑨ 視唱② ト音記号の譜面を用いて視唱や移調、和音付けをします。
- ⑩ 視唱③ ト音記号とヘ音記号の譜面を用いて視唱や移調、和音付けをします。
- ⑪ 伴奏付け① 和音分析と和音付けをします。
- ⑫ 伴奏付け② 伴奏形の紹介と伴奏付け、発表を行います。
- ⑬ 聴音③ 複雑でないリズムと音型の聴音をし、それを用いて視唱や移調をします。
- ⑭ 聴音④ 複雑でないリズムと音型の聴音をし、それを用いて視唱や移調をします。
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席・平常点 40%+試験 60%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュⅡ
担当講師名	周環悦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	アレンジ・作曲コース

担当科目に関連する実務経歴

コンサートやライブ等でアンサンブルピアニストとして活動しながら、ソルフェージュなどの後進の指導にもあたっています。

授業内容

音楽家の中でも作曲家は特に高い音楽基礎能力と、それを応用する頭の回転の速さが求められます。そのために大切なのはソルフェージュ力です。秋学期は様々な演奏形態の譜面も読めるようにしていきます。移調楽器譜やクレ譜の読譜、楽曲分析、弾き歌い等様々なソルフェージュの訓練をします。自身の創作や音出しの現場で活躍できるよう、音楽基礎能力の底上げと質の高い聴力を養っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

その場で指定された音楽要素等の条件に基づき短い曲を創作し、自身で歌える・演奏できるようにする、移調楽器譜を正確に書き換えられるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 歌曲① コード譜を見ながら弾き歌いします。
- ② 歌曲② 伴奏譜を見ながら弾き歌いします。
- ③ 弦楽四重奏① 楽曲分析をします。
- ④ 弦楽四重奏② ヴィオラパート（アルト譜表）を弾きます。
- ⑤ 弦楽四重奏③ その他のパートを弾き、全パートをリダクションして弾いてみます。
- ⑥ 弦楽四重奏④ パートを分けて合奏します。
- ⑦ 中間試験

中間試験評価方法・評価基準

出席・平常点 40%+試験 60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オーケストラ① オーケストラについての基礎知識について学びます。
- ⑨ オーケストラ② B♭管のパートを弾きます。
- ⑩ オーケストラ③ F管のパートを弾きます。
- ⑪ オーケストラ④ その他のパートを弾きます。
- ⑫ オーケストラ⑤ パートを分けて合奏します。
- ⑬ その他の移調楽器譜① サックス (E♭管) の譜面を弾きます。
- ⑭ その他の移調楽器譜② クラリネット (A管) の譜面を弾きます。
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席・平常点 40%+試験 60%

特記事項

学科名	総合アカデミー学科
科目名	音楽基礎理論
担当講師名	歳森今日子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	作曲

担当科目に関連する実務経歴

講師は舞台・CD・TV 番組などの音楽制作経験を持ちます。大学や専門学校にて音楽基礎科目の担当し、その他音大受験用に楽典指導をしています。

授業内容

この科目では、講師の実務経験（TV・舞台・CD などの音楽制作、大学専門学校における音楽基礎科目担当や受験用楽典指導）に基づき、「新総合音楽講座 1 楽典」をテキストとして用い適宜プリントも使いながら、音楽の基礎的な理論を学びます。クラシックの楽典だけでなく、ポピュラー音楽に必須なコードについても学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽や楽譜の基礎知識を習得することによって、作編曲や演奏の実力向上するための大切な土台を作ります。音楽鑑賞力も向上します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① この授業で学ぶ内容を把握し、それぞれの理解度を把握します。
- ② 記譜法（譜表、音名、音符と休符、拍子）を学びます。
- ③ 記譜法（リズムの書き方、変化記号）を学びます。
- ④ 音程について学びます。（単音程）
- ⑤ 調性のシステムと長音階について学びます。
- ⑥ 短音階、半音階、特殊な音階について学びます。
- ⑦ 中間試験；これまで学んだ内容の課題を筆記試験します。

中間試験評価方法・評価基準

出席 3 割 平常点 2 割 筆記試験 5 割で成績評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 単音程と複音程、転回音程、異名同音音程について学びます。
- ⑨ 3和音の種類とコードネームを学びます。
- ⑩ 4和音の種類とコードネームを学びます。
- ⑪ 移調と移調楽器の譜面について学びます。
- ⑫ 調判定、転調を学びます。
- ⑬ 音楽用語、略記法を学びます。
- ⑭ これまで学んだ内容の演習課題を解きます。
- ⑮ 期末試験：総合演習課題の筆記試験します。

期末試験評価方法・評価基準

出席 3割 平常点 2割 筆記試験 5割で評価します。

特記事項

学科名	総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 A1 (和声)
担当講師名	歳森今日子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	作曲

担当科目に関連する実務経歴

講師は舞台・CD・TV 番組などの音楽制作経験を持ちます。大学や専門学校にて音楽基礎科目の担当し、その他音大受験用に和声対位法の指導をしています。

授業内容

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 三和音基本形の配置を学びます。
- ② 三和音基本形の連結(共通音がある場合)を学びます。
- ③ 三和音基本形の連結(共通音が無い場合と特別な場合)を学びます。
- ④ 和音の機能と終止形について学びます。
- ⑤ 三和音第一転回形の配置を学びます。
- ⑥ 三和音基本形と第一転回形を含む外声課題とバス課題を実習します。
- ⑦ 中間試験：外声課題とバス課題の筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

出席 3割 平常点 2割 筆記試験 5割で成績評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 三和音基本形と第一転回形を含むバス課題を実習します。
- ⑨ 三和音第二転回形の配置を学びます。
- ⑩ 三和音第二転回形の連結を学びます。
- ⑪ 三和音の外声課題を実習します。

。

- ⑫ 三和音の総合バス課題を実習します。
- ⑬ V 7 の和音の配置を学びます。
- ⑭ V 7 の和音の連結を学びます
- ⑮ 期末試験：外声課題とバス課題の筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

出席 3 割 平常点 2 割 筆記試験 5 割で成績評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 A II (和声)
担当講師名	吉田真梨
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽理論の分野における研究、指導、教材作成の経験を有します。

授業内容

西洋音楽史におけるバロックから近代までの和声法を学習し、四声体書法を習得します。和声課題の実施と実際の楽曲の和声分析を並行して行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

初級クラスでは調性音楽の土台となる和声法の基礎の習得を目指します。四声体和声書法を学ぶことにより、聴感覚と和声理論の合致を目標とします。履修学生が実施した和声課題と和声分析を教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンスと基本事項の確認：音程、和音の機能、カデンツ、終止形の復習
- ②三和音基本形、第一転回形、第二転回形の復習
- ③属七の和音：構成音と限定進行音、配置、連結の学習
- ④属七の和音：VI度の和音への連結の学習
- ⑤属七の和音：根音省略形の構成音と連結の学習
- ⑥属七の和音：バス課題の練習
- ⑦中間試験：属七の和音を含むバス課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

課題提出を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧提出課題の返却と直し

- ⑨属九の和音①：構成音と限定進行音、配置と連結の学習
- ⑩属九の和音②：根音省略形の構成音と連結の学習
- ⑪属九の和音③：短調の属九の和音
- ⑫属九の和音④：属九の和音を含むバス課題の練習
- ⑬ドミナント和音のまとめ
- ⑭期末試験へ向けての模擬課題の実施
- ⑮期末試験：様々なドミナント和音を含むバス課題の実施

期末試験評価方法・評価基準

最終日に授業内試験を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

特記事項

授業時間外にも積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 A III (和声)
担当講師名	吉田真梨
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽理論の分野における研究、指導、教材作成の経験を有します。

授業内容

西洋音楽史におけるバロックから近代までの和声法を学習し、四声体書法を習得します。和声課題の実施と実際の楽曲の和声分析を並行して行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

初級クラスでは調性音楽の土台となる和声法の基礎の習得を目指します。四声体和声書法を学ぶことにより、聴感覚と和声理論の合致を目標とします。履修学生が実施した和声課題と和声分析を教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期の復習：主にドミナントの和音について復習します。
- ②II7の和音①構成音と限定進行音、配置、連結の学習
- ③II7の和音②バス課題の実施（基礎編）
- ④II7の和音③バス課題の実施（応用編）
- ⑤楽曲分析：実作品中のII7の用例を参照します。
- ⑥II7の和音のまとめ
- ⑦中間試験：II7の和音を含むバス課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

課題提出を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧提出課題の返却と直し

- ⑨準固有和音①構成音、固有和音からの連結の学習
- ⑩準固有和音②準固有和音を含むバス課題の実施（基礎編）
- ⑪準固有和音③準固有和音を含むバス課題の実施（応用編）
- ⑫楽曲分析：実作品中に見られる準固有和音の用例を参照します。
- ⑬準固有和音のまとめ
- ⑭期末試験へ向けての模擬課題の実施
- ⑮期末試験：準固有和音を含むバス課題の実施

期末試験評価方法・評価基準

最終日に授業内試験を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

特記事項

授業時間外にも積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 A IV (和声)
担当講師名	吉田真梨
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽理論の分野における研究、指導、教材作成の経験を有します。

授業内容

西洋音楽史におけるバロックから近代までの和声法を学習し、四声体書法を習得します。和声課題の実施と実際の楽曲の和声分析を並行して行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

中級クラス春学期では主に借用和音について学習します。
四声体和声書法を学ぶことにより、聴感覚と和声理論の合致を目標とします。
履修学生が実施した和声課題と和声分析を教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ドミナント和音、II7の和音、準固有和音の復習
- ②ドッペルドミナントの和音①：構成音、配置、限定進行音、連結の学習
- ③ドッペルドミナントの和音②：根音省略形
- ④ドッペルドミナントの和音③：下方変位の和音の学習
- ⑤ドッペルドミナントの和音④：バス課題の実施
- ⑥ドッペルドミナントの和音のまとめ
- ⑦中間試験：ドッペルドミナントの和音を含むバス課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

課題提出を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧提出課題の返却と直し
- ⑨IV7 の和音：構成音と限定進行音、配置と連結の学習
- ⑩ドリアの IV7 の和音：構成音と限定進行音、配置と連結の学習
- ⑪ナポリの II の和音：構成音と限定進行音、配置と連結の学習
- ⑫サブドミナント和音のまとめ
- ⑬IV 付加六の和音：構成音と限定進行音、配置と連結の学習
- ⑭期末試験へ向けての模擬課題の実施
- ⑮期末試験：様々なサブドミナント和音を含むバス課題の実施

期末試験評価方法・評価基準

最終日に授業内試験を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

特記事項

授業時間外にも積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 A V (和声)
担当講師名	吉田真梨
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽理論の分野における研究、指導、教材作成の経験を有します。

授業内容

西洋音楽史におけるバロックから近代までの和声法を学習し、四声体書法を習得します。和声課題の実施と実際の楽曲の和声分析を並行して行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

中級クラス秋学期では主に転調に関する和声進行について学習します。四声体和声書法を学ぶことにより、聴感覚と和声理論の合致を目標とします。履修学生が実施した和声課題と和声分析を教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①近親転調①：近親調の確認
- ②近親転調②：転調と和音連結
- ③近親転調③：近親転調を含むバス課題（調設定）
- ④近親転調④：近親転調を含むバス課題（実践）
- ⑤楽曲分析：実作品中に見られる転調の用例を参照します。
- ⑥近親転調のまとめ
- ⑦中間試験：転調を含むバス課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

課題提出を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧提出課題の返却と直し

- ⑨ソプラノ課題①：ソプラノ課題におけるドミナント定型の学習
- ⑩ソプラノ課題②：終止定式の学習
- ⑪ソプラノ課題③：転調を含まない課題の実施
- ⑫ソプラノ課題④：転調を含む課題の実施
- ⑬楽曲分析を行います。
- ⑭期末試験へ向けての模擬課題の実施
- ⑮期末試験：転調を含むソプラノ課題の実施

期末試験評価方法・評価基準

最終日に授業内試験を行います。
正しい和音と調設定、四声体の連結、バスの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

特記事項

授業時間外にも積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 A VI (和声)
担当講師名	吉田真梨
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽理論の分野における研究、指導、教材作成の経験を有します。

授業内容

西洋音楽史におけるバロックから近代までの和声法を学習し、四声体書法を習得します。和声課題の実施と実際の楽曲の和声分析を並行して行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

上級クラス春学期では今までの学習内容を土台に、作曲に近い形の和声法を学ぶことにより、創作への手がかかりとなる技術を身に着けます。
四声体和声書法を学ぶことにより、聴感覚と和声理論の合致を目標とします。
履修学生が実施した和声課題と和声分析を教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①遠隔調への転調①：各種調関係について学びます。
- ②遠隔調への転調②：和音連結と分析
- ③遠隔調への転調③：遠隔調への転調を含むバス課題
- ④遠隔調への転調④：遠隔調への転調を含むソプラノ課題
- ⑤副属七の和音：構成音、配置、限定進行音と連結の学習
- ⑥副属七の和音：バス・ソプラノ課題の実施
- ⑦中間試験：遠隔調への転調を含む課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

課題提出を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、バスまたはソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧提出課題の返却と直し
- ⑨和音の補遺：七の和音のまとめ
- ⑩内部変換①：内部変換の用法の学習
- ⑪内部変換②：内部変換を含むソプラノ課題（基礎編）
- ⑫内部変換③：内部変換を含むソプラノ課題（応用編）
- ⑬転位音の種類 of 学習と楽曲分析
- ⑭模擬課題の実施
- ⑮期末試験：内部変換を含むソプラノ課題の実施

期末試験評価方法・評価基準

最終日に授業内試験を行います。
正しい和音と調設定、四声体の連結、バスの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

特記事項

授業時間外にも積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 A VII (和声)
担当講師名	吉田真梨
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽理論の分野における研究、指導、教材作成の経験を有します。

授業内容

西洋音楽史におけるバロックから近代までの和声法を学習し、四声体書法を習得します。和声課題の実施と実際の楽曲の和声分析を並行して行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

上級クラス秋学期では今までの学習内容を土台に、作曲に近い形の和声法を学ぶことにより、創作への手がかかりとなる技術を身に着けます。
四声体和声書法を学ぶことにより、聴感覚と和声理論の合致を目標とします。
履修学生が実施した和声課題と和声分析を教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①転位音の復習
- ②転位音①：転位音を含む小課題の実施
- ③転位音②：転位音を含むソプラノ課題（基礎編）
- ④転位音③：転位音を含むソプラノ課題（応用編）
- ⑤転位音④：転位音を用いた四声体和声の作成
- ⑥転位音のまとめと楽曲分析
- ⑦中間試験：転位音を含むソプラノ課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

課題提出を行います。
正しい和音設定、四声体の連結、バスの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧提出課題の返却と直し
- ⑨反復進行①：反復進行の定型の学習
- ⑩反復進行②：正進行、準進行型反復進行の学習
- ⑪反復進行③：変進行、複合型反復進行の学習
- ⑫反復進行④：模倣を含む反復進行の実施
- ⑬反復進行⑤：様々な反復進行を含むバス課題
- ⑭まとめと模擬課題の実施
- ⑮期末試験：反復進行を含むバス課題の実施

期末試験評価方法・評価基準

最終日に授業内試験を行います。
正しい和音と調設定、四声体の連結、ソプラノの設定、全体の完成度により評価します。
出席：30%、平常点30%、試験40%

特記事項

授業時間外にも積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

学科名	総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 B1 (対位法)
担当講師名	歳森今日子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	作曲

担当科目に関連する実務経歴

講師は舞台・CD・TV 番組などの音楽制作経験を持ちます。大学や専門学校にて音楽基礎科目の担当し、その他音大受験用に楽典指導をしています。

授業内容

対位法とは複数の旋律がそれぞれの独立性を保ちながら、同時に美しく響きバランスが良い状態を作る技術です。名曲の旋律分析から学び、音程やリズムなどの要素を意識しながら旋律を作る練習を行います。それから定旋律に対して美しくバランスの良い対旋律を作成する練習を行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

定旋律に対して、美しくバランスの良い対旋律を作成出来るようになります。メロディ (主旋律) に対する良いカウンターメロディ (対旋律) やベースラインは、メロディの良さを引き出し曲の魅力を高めるので、創作する楽曲のレベルや鑑賞力向上につながります。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 名曲実例から旋律曲線を学びます。
- ② 順次進行を意識してメロディを自作します。
- ③ 跳躍進行を意識してメロディを自作します
- ④ 名曲実例から旋律曲線を学び、リズムを意識してメロディを作ります。
- ⑤ 多声音楽を鑑賞し、楽譜を見ながら音源と一緒に歌います。
- ⑥ 多声音楽を鑑賞し、曲の構造を分析します。
- ⑦ 中間試験：筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

出席 3 割 平常点 2 割 筆記試験 5 割で成績評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 定旋律に対して対旋律を作るルールを学びます。(1 : 1)
- ⑨ 全音符による対旋律を作ります。(1 : 1の上声課題)
- ⑩ 全音符による対旋律を作ります。(1 : 1の下声課題)
- ⑪ 定旋律に対して対旋律を作るルールを学びます。(1 : 2)
- ⑫ 2分音符による対旋律を作ります。(1 : 2の上声課題)
- ⑬ 2分音符による対旋律を作ります。(1 : 2の下声課題)
- ⑭ 期末試験：1 : 2の対位法の筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

出席 3割 平常点 2割 筆記試験 5割で成績評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論B（対位法）II
三上直子	三上直子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は（全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から）オリジナル作品の楽譜出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

授業内容

色々なカノンについて学び、対位的な音の動かし方を体感し興味を深める。器楽対位法では転調（借用）を含まない1：1の等時対位法までを学習する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1クォーター：各種のカノンについて理解を深め、カノンを書けるようになる。2クォーター：器楽対位法 2声1：1（転調を含まない）において、効果的な音の骨組みを構成できるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス。教科書について。「パッヘルベルのカノン」の鑑賞。
- ②カノンの種類と記譜について。
- ③順行カノン。同度、5度、4度、2度、7度、8度。順行カノンの実習。
- ④反転カノンの実習、拡大カノンの実習。反転、拡大カノンの実習。
- ⑤逆行カノン、巡回カノン等。J. S. バッハ「音楽の捧げもの」「ゴールドベルク変奏曲」の鑑賞。
- ⑥カノンの作曲
- ⑦作品提出

中間試験評価方法・評価基準

オリジナルカノンの提出。各種のカノンについて理解を深めたかどうか。また、オリジナ

ルカノンにおいて、現段階では感覚的でも良いので対位法的な音の動かし方を理解しているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧器楽対位法 / 二声の等時対位法（1：1）について
- ⑨2声1：1（第一段階） / 作例の分析と練習問題
- ⑩2声1：1（第一段階/7th含まず） / 練習問題と解答例の提示
- ⑪2声1：1（第二段階/属7の活用） / 属7和音に置ける7度2度、増4度、減5度。ホルン5度。終止の5度
- ⑫2声1：1（第二段階/属7の活用と分析 / 作例の分析
- ⑬2声1：1（第二段階/属7を含む課題） / 属7を含む練習問題と解答の提示
- ⑭2声1：1（第二段階/属7を含む課題と解答 / 練習問題と解答の提示
- ⑮2声1：1（第二段階/属7の活用）までの課題の提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。転調をふくまない1：1の対位法を理解し、効果的な音の骨組みを構成できるかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

特記事項

指定の教科書を用意すること。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論B (対位法) III
三上直子	三上直子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は（全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から）オリジナル作品の楽譜出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

授業内容

副属和音の活用（属7和音の応用）と、1：2（掛留を含まない）までを学習する。作例の和声分析も併せて行う。作例の和声分析も併せて行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

効果的な音の動かし方を理解し、自作品に役立てられる様になる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①2声（1：1）他調和声の借用 / 副属和音について。副属和音における進行
- ②2声（1：1）他調和声の借用 / 例題の和声分析、2度7度の使用法、クロマティズム。
- ③2声（1：1）他調和声の借用、練習問題
- ④2声（1：1）他調和声の借用、練習問題の実施と解答の提示
- ⑤2声（1：2）（掛留含まず） / 2声の不等時対位法。主拍と副拍。例題の和声分析
- ⑥2声（1：2）（掛留含まず） / 練習問題と解答の提示
- ⑦試験課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

副属和音の活用（属7和音の応用）が正しく出来ているかどうか、また1：2の（掛留含まず）までの理解度を見る。試験80%、出席20%にて評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧2声 (1 : 2) (掛留含まず) 復習 / 3Qの試験課題の解答例の提示
- ⑨2声 (1 : 2) 掛留と結合音。作例の分析
- ⑩2声 (1 : 2) 掛留と結合音を含む練習問題と解答の提示
- ⑪2声 (1 : 2) (1 : 4) / 予備無しの掛留と、声音の装飾法 。作例の和声分析
- ⑫2声 (1 : 4) 練習問題と解答の提示
- ⑬2声 (混合対位法) 作例の和声分析。掛留の修飾と自由声の付加
- ⑭2声 (混合対位法) 練習問題と解答例の提示
- ⑮2声 (混合対位法) の課題提出

期末試験評価方法・評価基準

混合対位法を実施することにより、今迄学習してきた対位法をどこまで理解し応用出来ているかどうか。また、的確に音を動かす事が出来、魅力的なメロディーを構成出来ているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

特記事項

指定の教科書を用意すること。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論B (対位法) IV
三上直子	三上直子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は（全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から）オリジナル作品の楽譜出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

授業内容

混合対位法の復習。J. S. バッハのインベンションの分析。構成、モチーフの活用等への理解を深める。また、インベンションの1番を演奏することにより、対位法的楽曲を体得させる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

簡単なインヴェンションを実習し、対位法的な効果的な動かし方、モチーフの活用。また、スムーズな転調の理解を深める。インヴェンションを書けるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①2声（混合対位法） / 復習。課題の実施
- ②2声（混合対位法）総括
- ③J. S. バッハ 「インヴェンション1番」モチーフ分析と和声分析（前半）
- ④J. S. バッハ 「インヴェンション1番」和声分析（後半）
- ⑤J. S. バッハ 「インヴェンション1番」分析提出
- ⑥J. S. バッハ 「インヴェンション8番」ピアノで演奏
- ⑦ピアノ演奏（もしくは得意な楽器でもよい）

中間試験評価方法・評価基準

インヴェンションの分析をどこまで行えたかどうか。また、J. S. バッハのインヴェンション1番をピアノ演奏（上手に演奏する必要はない）し、対位法的楽曲とは、どのような音の動きをするかを把握出来たかどうか。

試験80%、出席20%にて評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧インヴェンション1 / 全体の構成と主題。対唱。
- ⑨インヴェンション2 / 属調への転調と転調部1（和声進行とモチーフ）
- ⑩インヴェンション3 / 属調への転調と転調部2（転調と旋律の流れ）
- ⑪インヴェンション4 / 平行調への転調と転調部1（和声進行とモチーフ）
- ⑫インヴェンション5 / 平行調への転調と転調部2（転調と旋律の流れ）
- ⑬インヴェンション6 / 主調への転調と転調部（和声進行とモチーフ）
- ⑭インヴェンション7 / 主調への転調と転調部、コーダ（転調と旋律の流れ）
- ⑮インベンション作品の提出

期末試験評価方法・評価基準

簡単なインベンションの実習において、主題に対する的確な対唱、スムーズな転調とモチーフの活用がなされているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

特記事項

指定の教科書を用意すること。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論B（対位法）Ⅴ
三上直子	三上直子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は（全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から）オリジナル作品の楽譜出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

授業内容

インベンションの理解を深める。また、バロックスタイルだけでなく、対位法を様々なジャンルに応用するための課題も用いる。4クォーターのシラバスは1例であり、各学生の応用したいジャンルにそれぞれ対応する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャンルを問わず、対位法を応用的に使う事が出来るようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①2声（混合対位法）総括
- ②J. S. バッハ「インベンション5番」分析
- ③インベンションの実習1 / 全体の構成と主題
- ④インベンションの実習2 / 属調への転調と転調部
- ⑤インベンションの実習3 / 平行調や近親調への転調と転調部
- ⑥インベンションの実習4 / 主調への転調と転調部、コーダ
- ⑦作品の提出

中間試験評価方法・評価基準

2曲目のインベンションを実施するにあたり、1曲目よりも理解を深め、スムーズな転調、スムーズで効果的な音の動かし方が出来ているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧カウンターメロディー/ 課題の実施。提出
- ⑨カウンターメロディーとベースライン/ 課題の実施。提出
- ⑩インベンションの分析1 / 任意の楽曲（素材と構成の分析）
- ⑪インベンションの分析2 / 任意の楽曲（和声分析）
- ⑫オリジナルのインベンションの実施（主題、対唱、属調）
- ⑬オリジナルのインベンションの実施（近親転調と主題、模倣）
- ⑭オリジナルのインベンションの実施（コーダ）
- ⑮オリジナルのインベンションの提出

期末試験評価方法・評価基準

特定のメロディーに対して、カウンターメロディーやベースラインを付けることで、対位法の応用力を見る。また、オリジナルのインベンションにより、一年間の成果を評価する。メロディーは魅力的かどうか。主題に対するモチーフの動きは的確かどうか。転調はスムーズであるか等。試験80%、出席20%にて評価する。

特記事項

指定の教科書を用意すること。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論B（対位法）VI
三上直子	三上直子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は（全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から）オリジナル作品の楽譜出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

授業内容

学習フーガの主要提示部についての理解。また自由唱の作り方、嬉遊句のモチーフ利用やスムーズな和声進行についても学習しながら、副提示部までの構成を把握し実習する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学習フーガの主要提示部から副提示部までを正しく構成。また、自由唱の作り方、嬉遊句のモチーフ利用やスムーズな転調を行うことで、4声の対位法に対して理解を深め、美しく効果的な音の動かし方を学び、自作品に活かせるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①学習フーガの主要提示部について
- ②主唱の和声分析。答唱の正応、変応
- ③答唱の作成
- ④対唱について。また、対唱の作成
- ⑤いくつかの対唱の作成
- ⑥答対唱の作成
- ⑦主課題提出。主唱に対して的確な答唱、対唱、答対唱が作れるかどうか。

中間試験評価方法・評価基準

フーガの主要提示部において必要な主唱、答唱、対唱、答対唱について理解し、正しく導いているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧主要提示部1 / 主要提示部の作成（自由唱の動き）1（バスのライン）
- ⑨主要提示部2 / 主要提示部の作成（自由唱の動き）2（内声）
- ⑩第一嬉遊句 / 平行調への転調
- ⑪副提示部 / 平行調での提示部（主唱、答唱）
- ⑫第二嬉遊句 / 四度調への転調
- ⑬副提示部2 / 四度調提示部、および四度調の併行調提示部
- ⑭第三嬉遊句 / 第三嬉遊句主調への転調
- ⑮主要提示部及び副提示部までの四声のフーガの提出

期末試験評価方法・評価基準

主要提示部から副提示部までを正しく構成出来ているかどうか。また、自由唱の作り方、嬉遊句のモチーフ利用やスムーズな転調（和声進行）が出来ているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論B（対位法）VII
三上直子	三上直子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は（全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から）オリジナル作品の楽譜出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

授業内容

学習フーガの追迫部から結尾までの構成と、ストレッタのたたみ掛け方や保続音上での音の動かし方等を学ぶ。併せて自由唱の作り方、モチーフ利用やスムーズな転調を学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

4月から学習してきた学習フーガ全体の構成を把握。自由唱の作り方、モチーフ利用や、転調がスムーズに作ることが出来る。また、声部ごとのメロディーの流れがスムーズで魅力的に作ることが出来る。4声の対位法になれることで、様々な編成の作品へ対位法を応用する事が可能になる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①追迫部1 / 主要追迫区について、理解と実習。
- ②追迫部2 / 対唱追迫区について、理解と実習。
- ③追迫部3 / 平行調追迫区について、理解と実習。
- ④追迫部4 / 属調への転調と転調部について。
- ⑤追迫部5 / 真正追迫区（5度保続）主調への転調
- ⑥コーダ（1度保続）
- ⑦フーガの提出

中間試験評価方法・評価基準

学習フーガ全体の構成を理解し、正しい方向で捉えられているかどうか。ストレッタの作り方を把握出来たかどうか。自由唱の動き、転調はスムーズであるかどうか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フーガの実習1（主要提示部） / 主唱と対唱、答唱と答対唱、自由唱
- ⑨フーガの実習2（副提示部1） / 副提示部（平行調）
- ⑩フーガの実習3（副提示部2） / 四度調提示部、および四度調の平行調提示部
- ⑪フーガの実習4（主要追迫区） / 主要追迫の実施
- ⑫フーガの実習5（対唱追迫区） / 対唱追迫区の実施
- ⑬フーガの実習6（平行調追迫区） / 平行調追迫区から属調への転調と転調部の実施。
- ⑭フーガの実習7（真正追迫区） / 真正追迫区からコーダの実施。
- ⑮フーガの提出

期末試験評価方法・評価基準

学習フーガ全体の構成を把握出来ているかどうか。また、自由唱の作り方、モチーフ利用や、転調がスムーズであるかどうか。声部ごとのメロディーの流れがスムーズで魅力的かどうか。総合的に判断。

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	基礎作曲技法 I
担当講師名	山本正壽
学期	春学期
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲、編曲、音楽誌での音楽講座執筆などの経験を持ちます。

授業内容

1年間を通して古典派までの様式の成立をソナタ形式を中心に学びます。春学期では、楽式・様式の学びに必要な音楽の基礎知識について記号に着眼して掘り下げ学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽のコミュニケーションは楽譜が基礎になります。聴衆に届ける音楽を表現する演奏者はジャンルで学ぶ音楽のスタイルが異なります。これからの発信者・表現者としてそれぞれに正確な指示が行えるよう、必要な言語としての音楽用語を従来にクラシック音楽にとらわれず身に付けることができます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1Qの到達点を試験問題で確認しシラバスの全体を把握します。
- ② 音楽の仕事を取り上げこれから何を学ぶのか把握します。
- ③ 扱われる音の規格を通して学ぶべき項目を把握します。
- ④ 次代の音や音響について学び今後の表現の可能性について把握します。
- ⑤ 観点、様式、形態、表現方法の多様性についての総括と、楽曲の分析の視点について学びます。
- ⑥ 楽曲の分析に必要な音楽用語・記号について学びます。
- ⑦ 期末試験：既習の楽譜に対する範囲で音楽用語・記号について確認します。

中間試験評価方法・評価基準

40点満点。1回目の授業にて試験問題を配付しますので、自習をしつつまた授業では解説を行い進めていきますので復習してください。疑問点はそのままにせず試験前には習得できるように質問なども行い、満点が取れるようにしてください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1Q 末試験課題復習。2Q の到達点を試験問題で確認しシラバスを把握します。
- ⑨ 表現方法の拡大について楽譜を通して学びます。
- ⑩ 楽式－動機について学びます。分類と特徴
- ⑪ 楽式－小楽節・大楽節について学びます。分類と特徴
- ⑫ 分析－非和声音 1（倚音、経過音、刺繍音）について学びます。ジャンルと特徴
- ⑬ 分析－非和声音 2（逸音、掛留音、保続音）について学びます。ジャンルと特徴
- ⑭ 分析－非和声音 3 実際の楽曲についてジャンルに触れて分析します。
- ⑮ 期末試験：既習の楽譜に対する範囲で分析（非和声音）について確認します。

期末試験評価方法・評価基準

2Q 末試験は 40 点満点とし、1Q 末 40 点、2Q 末 40 点と平常点（出席や課題確認）20 点として 100 点満点で春学期を評価します。丁寧に授業に取り組む学びの習慣を確認します。

特記事項

貴重な夏休み期間は、聞くことや体験することで表現者としての刺激を受け、音楽は現在進行形の学びであることを実感しましょう。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	基礎作曲技法Ⅱ
担当講師名	山本正壽
学期	秋学期
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲、編曲、音楽誌での音楽講座執筆などの経験を持ちます。

授業内容

1年間を通して古典派までの様式の成立をソナタ形式を中心に学びます。秋学期では、変奏曲、舞曲、ソナタ形式について取り上げて分析し、古典時代までの音楽様式について時代背景との関連性に触れながら学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

作曲技法の基本的な学びは、ただ技法の種類を学ぶだけではなく、技法の効果を実際の楽曲を通して分析して試みるのが重要です。名曲として存在する楽曲の様式やスタイルに関わらず学ぶことで、今後表現者としてその技法を活用することができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 3Qの到達点を試験問題で確認しシラバスの全体を把握します。
- ② 変奏曲1－変奏曲の種類と概要
- ③ 変奏曲2－厳格変奏曲。変奏の項目と音楽表現の項目について
- ④ 変奏曲3－厳格変奏曲。演習
- ⑤ 変奏曲4－性格変奏曲。
- ⑥ 舞曲・組曲－地域別・時代別の舞曲と組曲について。現代の音楽パッケージなど
- ⑦ 期末試験：既習の変奏曲について

中間試験評価方法・評価基準

40点満点。1回目の授業にて試験問題を配付しますので、自習をしつつまた授業では解説を行い進めていきますので復習してください。疑問点はそのままにせず試験前には習得できるように質問なども行い、満点が取れるようにしてください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3Q 末試験課題復習。4Q の到達点を試験問題で確認しシラバスを把握します。
- ⑨ 動機労作と主題の変容について
- ⑩ ソナタ形式 1 - 構造とその特徴概要
- ⑪ ソナタ形式 2 - 主題のコントラスト / 主題法
- ⑫ ソナタ形式 3 - 経過区と小結尾
- ⑬ ソナタ形式 4 - 展開部と再現部 / 音楽の二元性とその後の変遷 (古典→ロマン→近現代)
- ⑭ 分析-ソナタ楽曲
- ⑮ 期末試験：既習の内容を対する分析 (非和声音) について確認します。

期末試験評価方法・評価基準

3Q 末試験は 40 点満点とし、4Q 末 40 点、2Q 末 40 点と平常点 (出席や課題確認) 20 点として 100 点満点で秋学期を評価します。丁寧に授業に取り組む学びの習慣を確認します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	楽式研究 I
担当講師名	徳備 康純
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での 20 年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて 30 年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

古典モードから合成音階などの近代から現代に至る音階の使用方法を作品の分析から学び、更に 4 度構成の和声などから多調性、そしてバルトークの論理的な作曲法についてその基本的な考え方を学び、作品を試作してみる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

教会旋法などの使用法から、ペンタトニック、ヘキサトニックなどの技法、更に合成音階や移調の限られた旋法などの技法を理解し、それらによる作品の試作を行い、理解を深める。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① ワーグナーのトリスタン和音から調性の拡大と崩壊と二十世紀を俯瞰する。
- ② 教会旋法などのダイアトニックからペンタトニック、ヘキサトニックなどの、技法の紹介。
- ③ 各種モードの使用について、ドビュッシーの作品から学びます。
- ④ モード技法におけるオスティナータ技法をオネゲルの夏の牧歌や芥川也寸志の作品の分析から学ぶ。
- ⑤ 四度和声、あるいは多調性の技法をストラヴィンスキーの管弦楽作品の分析を通じて学ぶ。
- ⑥ ルーマニア民俗舞曲の分析を通じて教会旋法からより民族的な旋法などの使用とハーモナイズについて学ぶ。
- ⑦ 中心軸システム、フィボナッチの数列、黄金分割などの技法を、バルトークの作品の分析を通じて学ぶ。

中間試験評価方法・評価基準

モード技法による小品を試作し、そのスコアを提出する。モード技法が理解されているか、オスティナートや4度構成の和音などが理解出来ているかなどを、その作品の内容から判断し評価する。試験 80%、出席点 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ バロックの変奏曲形式を応用して作られた作品の分析を通してし、新しい響きを作り出したオネゲルの音楽を学ぶ。
- ⑨ オリヴィエ・メシアンの7つの移調の限られた旋法について学び、その使用例を紹介します。
- ⑩ 作品の分析を通じて、移調の限られた旋法、不可逆リズムなどの技法を紹介します。
- ⑪ ミヨウの小交響曲第1番「春」とオネゲルの「ダヴィデ王」などの分析を行います。
- ⑫ ダヴィデ王の行進曲をもとに、簡単な多調性音楽を試作します。
- ⑬ 11, 13 の和音について、その種類と作り方、使い方を学びます。
- ⑭ ラヴェルの高雅で感傷的なワルツの分析を行い、モード技法と 11, 13 の和音の使用について学びます。
- ⑮ 調性の崩壊へと繋がる、極端な半音階主義、11 の和音や付加音の多用による調性感のあやうさを学びます。

期末試験評価方法・評価基準

近代モードや多調性、中心軸システム、ポリコードなど授業でとりあげた技法のいずれかを使用して、作品を試作し、そのスコアを提出します。これらの技法を理解して作品に応用する技術を身につけているかどうかを、作品のスコアを通して判断し、評価します。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	楽式研究Ⅱ
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

前半は、無調の音楽からドデカフォニー、偶然性の音楽、ミニマル・ミュージックの音楽の紹介とその技法についての理解を深め、それらを使った小曲の試作を行います。また、後半は近代日本の音楽について武満徹氏や細川俊夫氏などの音楽を通じて学びます尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一般的な調性を無くした、無調の小曲の試作を通じて、現代の様々な音楽の様式を理解することを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀はじめに起こったキュビズムと調性の崩壊の新しい芸術運動から、シェーンベルクの弦楽四重奏曲第2番を分析します。
- ② シェーンベルクの「ピエロ・リュネール」からいくつかを分析し、リームなどに繋がる表現主義について学びます。
- ③ 無調のピアノ小品の試作を行い、その作品の試演を行うことで、無調の音楽の作り方について生部。
- ④ 12音音列を作り、そこから反行、逆行、逆反行の音列表を作り、そこから簡単なメロディーを試作します。
- ⑤ 音列技法による徳備作曲の「孤独なカプリチオ」を分析し、実際の楽曲の作り方を学びます。
- ⑥ 作品の分析をし、鏡像、響き、ディナーミクなどのパラメータを明らかにすることで、セリエリズムをより深く学びます。
- ⑦ ウェーベルンの交響曲の分析を通じて、音色旋律、特殊なソナタ形式の分析により、戦

後の現代音楽への道筋を理解する。

中間試験評価方法・評価基準

12音のよる三声の任意の管・弦楽器による様々な種類のカノンを作成し、無調、ドデカフォニーの音楽の理解を深める。楽器の音域、特徴を生かした作品であることを目指しつつ、より完成度の高いカノンを書くこと。試験 80%、出席点 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アイヴズ、ヴァレーズの音楽を紹介し、作品の分析をつうじて 20 世紀前半のアメリカの前衛音楽について学ぶ。
- ⑨ ガーシュウインの音楽と同時代の作曲家たちに与えた影響について紹介し、ラブソディー・イン・ブルーを分析する。
- ⑩ ジョン・ケージの音楽を紹介し、その哲学について理解し、20 世紀音楽に与えた影響について学ぶ。
- ⑪ ミニマル系の音楽をいくつか紹介し、ペルトのブリテンへの追悼歌の分析を行う。
- ⑫ 近衛秀麿の「越天楽」の分析を通じて、ヘテロフォニーなどの技法を、民族の古典に繋がる様式について学ぶ。
- ⑬ 伊福部 昭のリトミカ・オスティナータの分析を通じて、奇数拍の使い方などについて学ぶ。
- ⑭ 武満 徹 ノーヴェンバー・ステップスの分析を通じて、邦楽器の使用した協奏曲が与えたインパクトと、図形楽譜の紹介を行います。
- ⑮ 細川俊夫の「線」、「歌」を中心としてその厳しい創造について学ぶ。

期末試験評価方法・評価基準

授業の中でとりあげた作品、あるいは作曲家について、詳細な分析を交えたレポート (A4 : 5 枚以上) を提出し、その内容、作品、作曲家への考察をもとに評価します。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作曲技法 I
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	作曲

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

本授業は「クラシック作編曲実習」とリンクして進められるもので、各クォーターの制作課題に関連した作曲技法を学んでいきます。この科目では、歴史的な作品をアナリーゼし、自分の作品の幅を広げ本番を想定した楽譜制作をし自分が指揮をして音出しします。Iクォーターではリズムにおける各種技法を、IIクォーターでは音色と和音について取り上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自身作曲作品において終止線を引くこと、パート譜を演奏者が見やすく完成させることまで到達することは本当に大変だと思いますが、音出しまでクラス全員で協力し合って、演奏者の立場を考えて音出しを成功させることです。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リズムと拍子
- ② 奏法と記譜
- ③ 打楽器楽器紹介楽器法 素材カテゴリーに分けて考察
- ④ アンサンブルによるリズム書法 ポリリズムや複合拍子について考えます。
- ⑤ アンサンブルによるリズム書法（実習） 楽器の持ち替え 時間 案サブル譜の応用について考えます。
- ⑥ 打楽器アンサンブルによる作品制作してみます。まずリズムのスケッチを手書きで書き、浄書ソフトによる記譜も実践。
- ⑦ 打楽器アンサンブルによる作品制作および音出し。演奏者にわかりやすく見やすいパート譜やスコア作りと製本を行います。

中間試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%

出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。音出しの時にクラス全員で協力して、音出しを成功させられるか。演奏者の目線での見やすい楽譜作りを実践してもらいます。演奏者とのコミュニケーションもとても大事です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音についての考察
- ⑨ 楽器の音色と倍音 各種楽器の特色、音色の相性
- ⑩ 木管楽器について
- ⑪ 木管五重奏について、曲の紹介
- ⑫ 倍音と倍音列 ホルンの楽器法、音域、ゲシュトップについて
- ⑬ スコアリング実習（前半） ホルンの音域 移調記譜について考えます。
- ⑭ スコアリング実習（後半） 木管楽器の特色を活かす編曲の考え方。装飾音など。作品企画書やスケッチでプレゼンテーション
- ⑮ 木管5重奏による作品制作 ピアノ譜曲を木管5重奏 10重奏にアレンジ

期末試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%

出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。各楽器の音色の特徴を把握しているかどうか。適切な重ね方がなされているかどうか。音出しの時にクラスメートと協力して、音出しを成功させられるか。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	作曲技法
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	作曲

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

本授業は「クラシック作編曲実習」とリンクして進められるもので、各クォーターの制作課題に関連した作曲技法を学んでいきます。Ⅲクォーターでは各種和音について、Ⅳクォーターでは対位法書法について取り上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

習作ですが、そこにどうやって自分のオリジナリティを入れていくか、沢山の作曲家の作品から手法、管弦楽法などを学び、学ぶだけではなく自分の作品に取り入れてみる事が大切です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 和音の構造(1)
- ② 和音の構造(2)
- ③ 金管楽器の歴史 吹奏楽の歴史 アメリカ、ヨーロッパの吹奏楽の違い
- ④ 金管五重奏について。数小節作曲実施
- ⑤ ポリ・コード、クラスター他 ポリコードの積み方 また、金管ポリコードを使った作品を調べてみる
- ⑥ 金管アンサンブル曲作品制作
- ⑦ 金管アンサンブル曲を打ち込みにて発表

中間試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%
金管楽器の重ね方が適切になされているかどうか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋律について
- ⑨ モノフォニー（単旋律、ユニゾン）、ヘテロフォニー他
- ⑩ 対旋律（オブリガート）の書法 **divisi** と重音可能か不可か 対旋律（オブリガート）の書法についての数小節例題課題実施
- ⑪ 対旋律の書法 **solo** と **tutti** や **unison** 伴奏の書法考察 伴奏の書法考察についての課題実施
- ⑫ 複調、多調他 手書きで弦楽合奏のスケッチをスコアに書いてみる。
- ⑬ 弦楽合奏による作品制作（前半）
- ⑭ 弦楽合奏による作品制作（後半）
- ⑮ 弦楽合奏による作品制作および音出し

期末試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。和声、重音、**div,unis,Tutti**,声部受け渡し、,オブリガートなどの工夫が適切になされているかどうか。音出しの時にクラス全員で協力して、音出しを成功させられるか。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作曲技法Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画、番組の音楽を担当する等、実務経験を持ちます。

授業内容

本授業は「クラシック作編曲実習」とリンクして進められるもので、各クォーターの制作課題（→「クラシック作編曲実習」のシラバスを参照）に関連した作曲技法を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

年間を通してオーケストラ曲を書くに当たって必要な楽器法・編曲法を学んで行きます。

テーマ・内容は各授業で行う主な項目であり、オーケストラの書法の試聴・分析・実習は常に進めて行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 保続とその効果(1)
- ② 保続とその効果(2)
- ③ 反復とその効果
- ④ 個別スコアチェック
- ⑤ スコア提出
- ⑥ 木管試演
- ⑦ 1Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

試験 60%
出席 30%
授業内課題等 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 金管アンサンブル(1)
- ⑨ 金管アンサンブル(2)
- ⑩ 金管試演振替休講
- ⑪ カノン試演
- ⑫ 金管アンサンブル個別スコアチェック
- ⑬ 年度末試演曲のCメロ譜提出
- ⑭ 金管アンサンブルスコア提出
- ⑮ 2Q試験

期末試験評価方法・評価基準

試験 50%
出席 30%
その他 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作曲技法Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画、番組の音楽を担当する等、実務経験を持ちます。

授業内容

本授業は「クラシック作編曲実習」とリンクして進められるもので、各クォーターの制作課題（→「クラシック作編曲実習」のシラバスを参照）に関連した作曲技法を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

年間を通してオーケストラ曲を書くに当たって必要な楽器法・編曲法を学んで行きます。

テーマ・内容は各授業で行う主な項目であり、オーケストラの書法の試聴・分析・実習は常に進めて行きます。

〈成果物〉

1Q は木管＋弦楽器編成を制作し、試演を行います。

2Q は金管8重奏を制作し、試演を行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① クライマックス
- ② 譜面総括
- ③ ハープについて
- ④ (振替休講)
- ⑤ ソロ
- ⑥ スコアチェック
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

試験 60%
出席 30%
授業内課題等 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 個別スコアチェック
- ⑨ 作品研究(1)
- ⑩ 作品研究(2)
- ⑪ (振替休講)
- ⑫ 個別スコアチェック
- ⑬ スコア提出
- ⑭ パート譜提出
- ⑮ 4Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

試験 50%
出席 30%
その他 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習 I
担当講師名	岡澤理絵
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	アレンジ・作曲

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ここに登場する楽器のための作品を多々作曲し、演奏されています。

授業内容

各種アコースティック木管楽器を紹介し、各々の楽器の持つ音質、音域、奏法等知識を習得します。またそれぞれの楽器のための小品を作り、曲の試演を行うことにより楽器を身近に感じつつ、さらに理解を深めます。最終的には二重奏を作り、試演会を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器を理解しアンサンブル作品が書けるようになります。試演を行うことにより、将来的には演奏者との打ち合わせ等もスムーズに行えます。尚、吹奏楽の作曲部門のコンクールにチャレンジした履修学生が、卒業後にこの分野の第一人者として活躍しています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①木管楽器全般についてのガイダンスを行います。ソロ楽器のための楽譜の書き方を学び、参考譜を見ながらパート譜を作成します。
- ②フルートの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ③フルートの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ④オーボエの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ⑤オーボエの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ⑥クラリネットを学ぶ準備として、B管・A管の移調楽器について学び、読み方、書き方を練習します。
- ⑦テスト・フルート、オーボエの確認と、移調譜の作成を行います。

中間試験評価方法・評価基準

提出された作品で、楽器の理解度や曲作りの工夫を評価します 60%
 授業の取り組み方・出席など平常点 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧クラリネットの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ⑨クラリネットの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ⑩ファゴットを学ぶ準備としてバス譜表の確認と、テナー譜表の読み方、書き方を練習します。
- ⑪ファゴットの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ⑫ファゴットの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ⑬二重奏の書き方を学びます。ロンドン橋のメロディーを用いて二重奏にアレンジする練習を行います。
- ⑭オリジナル・又はアレンジのデュオ作品を作ります。パート譜も作成します。
- ⑮各自が作ったオリジナル・又はアレンジのデュオ作品の提出と試演会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

提出された作品で、楽器の理解度や曲作りの工夫を評価します 60%
授業の取り組み方・出席など平常点 40%

特記事項

生演奏が体験できる授業ですので、是非とも休まずに出席して下さい。テキストから学べないことも、見聞きすることで沢山学習できます。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習Ⅱ
担当講師名	岡澤理絵
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	アレンジ・作曲

担当科目に関連する実務経歴

講師はここに登場する楽器のための作品を多々アレンジ・作曲し、演奏されています。

授業内容

金管楽器について授業を行います。唇の振動→マウスピース→本体へと音を出す仕組みの理解、倍音で構成される高音の難しさや、圧倒的な音量、音域、奏法等知識を習得します。またそれぞれの楽器のための小品を作り、曲の試演を行うことにより楽器を身近に感じ理解を深めます。最終的には各自がファンファーレを作ります。コンサートで締めくくります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器を理解しアンサンブル作品が書けるようになります。試演を行うことにより、将来的には演奏者との打ち合わせ等もスムーズに行えます。尚、吹奏楽の作曲部門のコンクールにチャレンジした履修学生が、卒業後にこの分野の第一人者として活躍しています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①金管楽器の種類や特性、倍音列を理解します。F管の読み方、書き方も学びます。
- ②トランペットの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ③トランペットの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ④チューバの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ⑤チューバの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ⑥トロンボーンの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ⑦テスト・移調楽器の確認と倍音列の作成

中間試験評価方法・評価基準

移調楽器の楽譜の書き方と倍音の理解 50%

創作と音出しによる意欲など平常点 50%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧トロンボーンの商品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ⑨ホルンの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
- ⑩ホルンの商品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
- ⑪ファンファーレ作りの準備・様々な時代につくられた金管楽器のアンサンブルの曲を、楽譜と音で紹介します。楽譜を読み、分析してみます。
- ⑫ファンファーレ作り～1・ユーモレスクの金管五重奏アレンジを参考に、エンターテナーの始めの部分をアレンジしてみましよう。
- ⑬ファンファーレ作り～2・ハナミズキの歌を、アレンジしてみよう。金管アンサンブルでは、演奏しやすい調を先ず考えましよう。
- ⑭ファンファーレ作り～3・金管アンサンブルの曲を作りましよう。2～5本を使用した編成でのオリジナル作品、又はアレンジの商品作りです。
- ⑮金管楽器の商品提出&試演会・各自が作ったオリジナル・又はアレンジの商品提出と試演会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

提出された作品で、楽器の理解度や曲作りの工夫を評価します 60%

授業の取り組み方・出席など平常点 40%

特記事項

生演奏が体験できる授業ですので、是非とも休まずに出席して下さい。テキストから学べないことも、見聞きすることで沢山学習できます。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習 III
担当講師名	徳備 康純
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での 20 年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて 30 年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

木管五重奏作品を分析し、簡単な作・編曲の練習を繰り返す中から、室内楽の作曲を行います。これにより、アンサンブルの書法を習得し、作った作品の音出しで指揮をするなどして、作曲家としての仕事のあらましを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

木管五重奏の作曲を通じて、楽器法とアンサンブルの書法を理解し、自ら主導して音出しをし、必要ならば指揮をして録音をすることで、作曲の仕事での手順の理解と、実際の仕事での流れを理解する。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 木管五重奏の各楽器の紹介：フルートとオーボエ、クラリネット、ホルン、バスの音域・機能・特徴について説明します。
- ② 移調楽器について：楽器法の続きを行い、クラリネット、ホルンなどの移調楽器の移調方法について実習をします。
- ③ ボザの木管五重奏のための「スケルツォ」のスコアを分析し、アンサンブルの書法、楽器の受け渡しを学びます。
- ④ ミヨーの木管五重奏のための「ルネ王の暖炉」のスコアを分析し、楽器の重ね方を学びます。
- ⑤ イベールの木管五重奏のための「3つの小品」のスコアを分析し、木管五重奏における伴奏の書法を学びます。
- ⑥ フランセの木管五重奏曲第1番の分析：平易な響きの中で、フラッターなどの技法を使った作品の分析を行います。
- ⑦ リゲティの木管五重奏の分析：特殊奏法など木管五重奏の可能性について学びます。

中間試験評価方法・評価基準

オリジナルの木管五重奏を前提としたコンデンススコアとなっているか、また和声の流れ、構成などに無理がないかなどを総合的に評価します。試験 80%、出席点 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 和声的な作品の編曲：ロシア民謡などを題材に、大譜表から木管五重奏に編曲する実習を行います。
- ⑨ トウツティとソロ、響きについて：ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第6番を素材として、トウツティとソロの対比について学びます。
- ⑩ メロディー+伴奏の単純な編曲 1：マーチの大譜表を木管五重奏に編曲する実習を行います。
- ⑪ メロディー+伴奏の単純な編曲 2：ワルツの大譜表を木管五重奏に編曲する実習を行います。
- ⑫ Cメロからの編曲実習 1：よく知られた(よく編曲される)民謡を題材に、声部の受け渡しを使ったコンデンス制作し、木管五重奏への編曲を試作します。
- ⑬ Cメロからの編曲実習 2：シュトラウスのワルツを題材に、コンデンスを制作し、木管五重奏への編曲を試作します。また、音出しに向けパート譜の説明をします。
- ⑭ Cメロからの編曲実習 3：シュトラウスのポルカを題材に、コンデンスを制作し、木管五重奏への編曲を試作します。また、音出しに向けパート譜の説明をします。
- ⑮ 生楽器による音だし・録音：自ら作曲し、編曲した木管五重奏のための作品(1分以上の演奏会用小曲)のスコア、パート譜を制作。

期末試験評価方法・評価基準

オリジナルの木管五重奏作品のスコアを提出し、その作品を音出しする。楽器法を理解し、正しいスコアを書けているか、そして音楽としてまとまりのある音楽がその編成で実現できているかを総合的に判断し、評価する。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習IV
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

弦楽による室内楽作品の分析、そして編曲・作曲などを中心に行いながら、オーケストラの基本である弦楽四重奏をベースとしてそれを拡大していく方法を学び、オーケストラ編曲法の基礎を学び、最終的に弦楽四重奏作品を作曲し、それを自ら主導して試演します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オーケストラの中で中核となる、弦楽セクションの書法を理解し、弦楽四重奏の小品を作曲し、自ら主導してその音出しをし、録音をします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 弦楽器の基本的な説明：楽器の性能・機能、編成の特徴について基本的な理論をまず理解します。
- ② ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第1番の第1楽章冒頭を分析とし、ユニゾンによるTuttiを試作します。
- ③ ベートーヴェン_弦楽四重奏曲第4番の第1楽章を分析し刻みによる弦楽特有の伴奏法を学びます。
- ④ メンデルスゾーンの弦楽四重奏曲第6番を分析しトレモロの扱い方について学びます。
- ⑤ ピツィカートを使つての編曲例を分析し、ピツィカートによる編曲を試作します。
- ⑥ 自然ハーモニクスと人工ハーモニクスについて学び、ハーモニクスを使った編曲を試作します。
- ⑦ ラヴェルの弦楽四重奏曲の分析し、トレモロ、分散和音などの弦楽器特有の書法を学びます。

中間試験評価方法・評価基準

弦楽四重奏を前提としたコンデンススコアとなっているか、また和声の流れ、構成などに無理がないかなどを総合的に評価します。試験 80%、出席点 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コントラバスと弦楽セクションについて学びます。
- ⑨ ストラヴィンスキーの弦楽四重奏曲を原曲とする管弦楽のための3つの小品を分析し、四重奏からの拡大方法について学びます。
- ⑩ ドビュッシーの弦楽四重奏曲の分析し、その曲からコンデンスを書き出して、書法を詳しく学び、それを応用して試作します。
- ⑪ イベールのサクソフォン協奏曲のスコアを分析し、各楽器が一人での室内楽編成での配置を学びます。
- ⑫ ブリテンのシンフォニエッタのスコアを分析し、分厚く音を重ねず、それぞれの楽器の響きを生かした配置を学びます。
- ⑬ 弦楽四重奏からその拡大編成のスコアへの編曲実習で、まずコンデンスを書き、弦楽四重奏に編曲します。
- ⑭ 前の時間からひき続き、弦楽四重奏からのアンサンブルへの編曲を行います。
- ⑮ 自ら作曲し、編曲した弦楽四重奏のための作品(1分以上の演奏会用小曲)のスコア、パート譜を制作。

期末試験評価方法・評価基準

大編成の室内楽作品のスコアを提出し、その音出しをする。楽器法を理解し、正しいスコアを書けているか、そして音楽としてまとまりのある音楽がその編成で実現できているかを総合的に評価します。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー理論基礎 I
担当講師名	隼田義博
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽出版社の作曲家として、TV やトレーラーをはじめとした各種マルチメディア用音楽制作の実務経験を持ちます。

授業内容

ハーモニーとメロディの視点からポピュラーミュージックを分析し、自己の作品に模倣・応用できる様々な作曲知識とスキルを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本的なダイアトニック／ノンダイアトニック・コードおよびスケールに関する理解と、既存曲そして自作曲をメロディそしてコード進行の視点から正しく分析できることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①コード① トライアドとセブンスコードの種類と構造を確認します。
- ②コード② テンションの種類と基本的なボイスイングの構造を確認します。
- ③ダイアトニックコード① メジャー・キーにおける仕組みを確認します。
- ④ダイアトニックコード② メジャー・キーにおける機能と進行の用例を確認します。
- ⑤ダイアトニックコード③ マイナー・キーにおけるコードの仕組みを確認します。
- ⑥ダイアトニックコード④ マイナー・キーにおける機能と進行の用例を確認します。
- ⑦中間試験：コードとスケールについて試験をおこないます。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ダイアトニックコードのコードスケールを確認します。

- ⑨ノンダイアトニックコード① セカンダリドミナントの仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ⑩ノンダイアトニックコード② セカンダリドミナントの用例をさらに確認します。
- ⑪ノンダイアトニックコード③ Dim7 の和音構造、用例、コードスケールを確認します。
- ⑫ノンダイアトニックコード④ Dim7 の用例をさらに確認します。
- ⑬ノンダイアトニックコード⑤ モーダルインターチェンジによる借用和音の仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ⑭ノンダイアトニックコード⑥ モーダルインターチェンジによる借用和音の用例をさらに確認します。
- ⑮期末試験：既存曲の分析を試験としておこないます。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

筆記用具と五線譜を毎回必ず持参、また、配布資料はかならずファイルにまとめ、毎回持参してください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー理論基礎 II
担当講師名	隼田義博
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽出版社の作曲家として、TV やトレーラーをはじめとした各種マルチメディア用音楽制作の実務経歴を持ちます。

授業内容

ハーモニーとメロディの視点からポピュラーミュージックを分析し、自己の作品に模倣・応用できる様々な作曲知識とスキルを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なコードを応用してコード進行を再構築するスキルの習得、トータルハーモニー、モーダルハーモニーそれぞれの仕組みと音楽の響きを柔軟にとらえ、正しく理解し表現できることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① トライトーン SubV7 の仕組み、用例、コードスケールを確認します。
- ② リハモニゼーション① ダイアトニックコードの代理機能を使って考察します。
- ③ リハモニゼーション② ドミナントコードを使って考察します。
- ④ リハモニゼーション③ Dim7 を使って考察します。
- ⑤ リハモニゼーション④ モーダルインターチェンジによる借用和音を使って考察します。
- ⑥ リハモニゼーション⑤ 調に対して非機能的なコードの使用について考察します。
- ⑦ 中間試験：既存曲の分析を試験としておこないます。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 転調の様々なパターンと効果的な用例を確認します。

- ⑨旋法の考え方、旋法と調性の歴史、教会旋法の音階構造を確認します。
- ⑩個々の教会旋法の響きの特徴を確認します。
- ⑪旋法を用いた表現① 旋法の響きを演出する旋律について考察します。
- ⑫旋法を用いた表現② 旋法の響きを演出するコード進行について考察します。
- ⑬旋法を用いた表現③ 旋法の響きを演出する旋法和音について考察します。
- ⑭ほか日本をはじめ諸外国で見られる旋法の音階構造、用例を確認します。
- ⑮期末試験：旋法の音階構造の確認、既存曲の分析を試験としておこないます。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。学習したコード、スケール、用法等に関する理解度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

筆記用具と五線譜を毎回必ず持参、また、配布資料はかならずファイルにまとめ、毎回持参してください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	クラシック作編曲実習 I
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

最終目標であるオーケストラによる作編曲への準備段階として、オーケストラの各セクションの書法について順次学んでいきます。Ⅰクォーターでは、打楽器アンサンブル、Ⅱクォーターでは木管アンサンブルによる作品制作および音出しを行います。音出しの時のレコーディングも勉強します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏者にとって見やすい楽譜、見やすい指揮、言葉遣い、スコアの製本など、コミュニケーションを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 打楽器について
- ② 打楽器の構造および種類 リズム起源
- ③ 各打楽器の音響と奏法 打楽器科の方の楽器紹介を実施
- ④ 打楽器の各種奏法と記譜のしかた
- ⑤ 打楽器アンサンブル曲の分析（邦人作曲家・ケチャ他）
- ⑥ 打楽器アンサンブル作品制作
- ⑦ 打楽器アンサンブルによる作品制作および音出し

中間試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。各種打楽器がうまく扱われているかどうか。打楽器アンサンブルにふさわしい作品であるかどうか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 木管楽器について
- ⑨ 木管楽器の組み合わせ方（嵌め合わせ）とホルン奏法
- ⑩ 木管アンサンブルの書法(1)⑪木管五重奏曲の分析（有名楽曲編曲篇）
- ⑪ 木管五重奏曲の分析（近代）
- ⑫ 木管アンサンブル曲の分析・ホルンミュートの使い方特集
- ⑬ 木管管5重奏による作品制作⑭木管管5重奏による作品制作
- ⑭ 木管5重奏作品制作および音出し。音出しをクラス全員で協力しあって、演奏者に対してわかりやすい楽譜作成

期末試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%

出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。各木管楽器の特性が活かされているかどうか。楽器の使い分けが適切になされているかどうか。音出しにて演奏者とうまくコミュニケーションが取れるか。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	クラシック作編曲実習Ⅱ
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	作曲

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

最終目標であるオーケストラによる作編曲への準備段階として、オーケストラの各セクションの書法について順次学んでいきます。Ⅲクォーターでは、金管アンサンブル、Ⅳクォーターでは弦楽合奏による作品制作および音出しを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ひとつの音楽制作プロダクションと仮定し、音出しをスムーズに細々とした気遣い、全員協力しながら、演奏者との快適な音楽作りを目指し作品を仕上げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 金管楽器について
- ② 金管楽器の特徴、各楽器の音域・特性・奏法など
- ③ 各種ミュート、特殊奏法
- ④ 金管五重奏作品研究
- ⑤ 金管五重奏作品、打ち込んで音源をつくってみましょう。
- ⑥ 金管アンサンブル作品制作
- ⑦ 金管アンサンブル打ち込みにて発表

中間試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。金管アンサンブルにふさわしい作品であるかどうか。各楽器の使い分けが適切になされているかどうか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 弦楽器について
- ⑨ 弦楽器の特徴、各楽器の音域、特性、奏法など
- ⑩ 弦楽器の各種奏法—ヴァイオリン独奏曲の研究・考察
- ⑪ 弦楽四重奏曲の紹介と分析
- ⑫ 弦楽合奏曲の分析—和音の重ね方
- ⑬ 弦楽合奏曲の分析—さまざまな奏法 (バルトーク)
- ⑭ 弦楽合奏による作品制作
- ⑮ 弦楽合奏による作品制作および音出し

期末試験評価方法・評価基準

平常点20% 提出物30% 出席点50%
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。弦楽器の特性が活かされているかどうか。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシック作編曲実習Ⅲ
担当講師名	小松真里
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画、番組の音楽を担当する等、実務経験を持ちます。

授業内容

前年度に進めてきたオーケストラの各セクションの書法の習得を踏まえ、オーケストラの書法を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試演を前提とした楽曲&スコア作りを分析&模倣を反復しながら習得します。

<成果物>

1Qは木管+弦楽器編成を制作し、試演を行います。

2Qは金管8重奏を制作し、試演を行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ①作品研究(1) 作家による書法の違いを分析&実習
- ②オーケストラの各楽器群(1) オーケストラにおける弦楽器群の役割と書法
- ③オーケストラの各楽器群(2) オーケストラにおける管楽器群の役割と書法
- ④指揮実習(1) 変拍子を含む譜面の指揮
- ⑤スコアチェック 個別スコアチェック
- ⑥パート譜提出 試演曲のパート譜提出
- ⑦1Q 試験 試演

中間試験評価方法・評価基準

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧カノンとフーガ 分析と実習
- ⑨作品研究(2) オーケストレーション研究-ベースの割り当て

- ⑩編曲実習 ピアノ曲→小編成オーケストラへの編曲
- ⑪試演 カノン実習で制作した楽曲を試演
- ⑫指揮実習(2) 変拍子、テンポチェンジを含む譜面の指揮
- ⑬スコアチェック 個別スコアチェック
- ⑭金管アンサンブルのパート譜提出
- ⑮2Q 試験 試演

期末試験評価方法・評価基準

提出曲 60%
出席 30%
その他 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシック作編曲実習Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画、番組の音楽を担当する等、実務経験を持ちます。

授業内容

前年度に学習したオーケストラの各セクションの書法を踏まえ、オーケストラの書法を学んでいきます。

学期末に通常編成（2管編成）オーケストラによる作品制作および試演を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試演を前提とした楽曲&スコア作りを分析&模倣を反復しながら習得します。

<成果物>

3Qはオーケストラで使用される楽器の中から1つの楽器をクラスで選択し、楽曲制作→試演を行います。

4Qはオーケストラ作品を制作し、試演を行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オーケストラの書法(1) / 弦楽器群と木管楽器群
- ② オーケストラの書法(2) / 木管楽器群と金管楽器群
- ③ (振替休講) / 3月試演分振替
- ④ ハープについて / 試演用の譜面作成
- ⑤ 指揮実習(3) / 年度末試演曲の指揮実演(アレンジ未完成可)
- ⑥ オーケストラの書法(3) / 全奏（トゥッティ）
- ⑦ 試演

中間試験評価方法・評価基準

試験 60%

出席 30%

授業内課題等 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作品研究(1) / オーケストレーション研究音域、声部の違いによる対比
- ⑨ 作品研究(2) / オーケストレーション研究強弱、動きの違いによる対比
- ⑩ (振替休講) / 3月試演分振替
- ⑪ 作品研究(3) / オーケストレーション研究クライマックスの作り方
- ⑫ 個別スコアチェック
- ⑬ 譜面総括 / 作家・出版社によるスコア、アーティキレーションの違いを考察
- ⑭ 楽曲解説提出 / 試演曲の楽曲解説提出
- ⑮ 試演曲スコア&パート譜提出

期末試験評価方法・評価基準

提出曲 60%

出席 30%

その他 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー音楽理論 I
担当講師名	三塚知貴
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏家、作編曲としての実務経験を持ちます。

授業内容

春学期は 1,2 年時に学習して来た復習から始め、基礎知識の理解度を高めると同時に、単なる復習で終わらず、より難易度の高い内容を講義します。機能的に代理コードを学習し、テンションノートを変イラブルスケール合わせて学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コード進行のアナライズ演習を数多くやる事でコード進行のヴァリエーションを習得します。メロディに即したスケールの選択が出来るようにします。後半はリハモナイズ演習を数多くやる事で応用力を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 小テスト(これまで学習した事の確認)
- ② 代理コードとその機能別分類
- ③ 変イラブルスケールとテンション
- ④ ケーデンスとセカンダリードミナント
- ⑤ リハモナイゼーション 1
- ⑥ リハモナイゼーション 2
- ⑦ 筆記試験(コードスケール、代理コード)

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験 70% 小テスト 20% 出席及び平常点 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Voicing1(アプローチノート 1)

- ⑨ Voicing1(アプローチノート 2)
- ⑩ Voicing3
- ⑪ Voicing4
- ⑫ 2Part Writing
- ⑬ 4WaySpread Harmony1
- ⑭ 4WaySpread Harmony2
- ⑮ 筆記試験と作品提出

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験 50% 提出作品 20% 小テスト 20% 出席及び平常点 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー音楽理論Ⅱ
担当講師名	三塚知貴
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏家、作編曲としての実務経験を持ちます。

授業内容

秋学期は作編曲実習の試演奏に連動しながら講義を進めます。III クォーターは **Upper Structure Triad** を集中的に講義します。IV クォーター前半は短期間で学習するには重い内容なので今後継続して学習して行くべきテーマとして講義します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポップスのオーケストレーションに必要なハーモニーの作り方を習得し、様々なジャンルに使える音作りを出来るようにします。又、ブルースフィーリング、アドリブのフレージングなどポピュラー音楽に必要なフィーリングを応用課題によって習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期の復習
- ② Upper Structure Triad(U.S.T.)1
- ③ U.S.T.2
- ④ U.S.T.3
- ⑤ Modal Phrasing
- ⑥ モーダルハーモニーとリハモナイゼーション
- ⑦ 筆記試験と作品提出

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験 30% 提出作品 40% 小テスト 20% 出席及び平常点 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ポリモードと U.S.T.

- ⑨ 様々なスケール(mode)
- ⑩ リズムヴァリエーションとコード進行
- ⑪ ブルーススケール
- ⑫ アドリブのフレージングのアナライズ
- ⑬ Poly Mode と映像音楽
- ⑭ 1年間の復習と重要なポイントについて
- ⑮ 作品提出・映像音楽と Big Band 譜

期末試験評価方法・評価基準

提出作品 70% 小テスト 20% 出席及び平常点 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー作編曲実習 I
担当講師名	三塚知貴
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏家、作編曲としての実務経験を持ちます。

授業内容

ポップスプラス(サクソを含む)編曲法とポップスストリングス編曲法を講義します。春学期前半はポップスプラス編曲法の基礎を学びます。後半はポピュラーミュージックでは必要不可欠なラテンリズム(ブラジル系&キューバ系)の編曲法も講義します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

ポップスでは不可欠なビート感を各種ジャンルに応じて習得します。またその記譜法も習得します。小編成のブラスセクションとストリングスセクションの書き方を習得します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① リズムセクションの概念
- ② リズムセクションライティング
- ③ 楽器法&記譜法(Sax.)
- ④ 楽器法&記譜法(Trp.&Trb.)
- ⑤ ブラス&Sax のアーテュキュレーション
- ⑥ その他のブラス楽器法
- ⑦ ヒアリング試験

中間試験評価方法・評価基準

ヒアリング試験 50% 演習 40% 出席及び平常点 10%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ スコアライティングの基礎
- ⑨ strings 編曲法 1

- ⑩ strings 編曲法 2
- ⑪ strings 編曲法 3
- ⑫ Jazz Strings 編曲法
- ⑬ ジャズコーラス編曲法
- ⑭ Latin Rhythm
- ⑮ スコア提出と試演奏会

期末試験評価方法・評価基準

提出作品 50% 演習 40% 出席及び平常点 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー作編曲実習Ⅱ
担当講師名	三塚知貴
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏家、作編曲としての実務経験を持ちます。

授業内容

秋学期の前半はポップスでよく使われる **Wood Winds** を中心に講義します。後半はポップスプラス特有のハイノートでの **voicing** やリズムのノリやビートを意識したビッグバンドサウンドを中心に講義します。クォーター末にビッグバンド作品を制作し試演奏をしてスタジオ録音します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ブラス、ストリングスに限らずポップスではいわゆるカッコいいフレージングや **rich** なサウンドを習得します。現代ポップスシーンで必要不可欠な編曲法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Wood Winds 楽器法 1
- ② Wood Winds 楽器法 2
- ③ ノンメカニカル&5note ボイシング
- ④ Rhythm Combination 1
- ⑤ Rhythm Combination 2
- ⑥ Brass Section への応用
- ⑦ スコア提出と試演奏会

中間試験評価方法・評価基準

提出作品 50% 演習 40% 出席及び平常点 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Big Band Writing1
- ⑨ Big Band Writing2
- ⑩ Big Band+Strings
- ⑪ デキシーランドジャズとディズニー映画
- ⑫ ビッグバンドジャズとサスペンス映画
- ⑬ Symphonic Jazz
- ⑭ スコアチェック
- ⑮ スコア提出と試演奏会

期末試験評価方法・評価基準

提出作品 50% 演習 40% 出席及び平常点 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	DTM・DAW I
担当講師名	新井正俊
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲／編曲家、マニピュレーターとしてアーティストへの楽曲提供、アニメ、ゲーム、CM等の音楽制作、ライブサポート経験を持ちます。

授業内容

作品を制作しながら機材操作、MIDIの基礎を習得します。2コマ続きの授業ですので、授業前半ではテクニック解説と操作練習、後半は作品制作作業と個別確認を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

DAWの概念、基本操作、機材の名称を理解します。
PCで表情豊かな演奏、音作りをするためには各種MIDIデータを理解し、使いこなすことが大切です。MIDIの基礎知識と楽器の特徴をとらえた表情豊かなデータ作成を習得し、作品を完成させることを目標とします。尚、履修学生が制作した作品をこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①PCを使った音楽制作について（どんなことができるか、必要な機材等）説明します。電子楽器、音響機器の歴史に触れ、機材の役割を理解します。
- ②DAW基本操作① 教室機材の扱い方を説明します。CUBASEのセッティングからソング保存までを練習します。
- ③DAW基本操作② CUBASE、VOCALOIDの各種機能を説明します。童謡を入力しながら基本操作を練習します。
- ④練習作品制作① 作品を作りながらデータ入力練習を行います。
- ⑤練習作品制作② タイミング、ベロシティ、ノートレングスの編集を行います。
- ⑥練習作品制作③ ピッチベンド、モジュレーション、エクスプレッションを使い演奏に表情を付けます。
- ⑦中間試験：音声ファイルのフォーマットについて説明します。簡単なミックスを行い、作品を提出します。

中間試験評価方法・評価基準

作品を WAV ファイル (48kHz/24bit) で提出します。

DAW ソフトの基本機能を理解できているか、提出作品の完成度から評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

⑧MIDI の基礎知識、ソフト／ハードウェア音源、異なる DAW 環境でのデータのやりとりについて説明します。

⑨楽器の入力テクニック①／作品制作① ドラム&パーカッションの特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。

⑩楽器の入力テクニック②／作品制作② 鍵盤楽器&シーケンスの特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。

⑪楽器の入力テクニック③／作品制作③ ベース&ギターの特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。

⑫楽器の入力テクニック④／作品制作④ 管弦楽器の特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。

⑬譜面作成／作品制作⑤ スコアエディターの使い方を説明します。メロディー&コード譜を作成します。

⑭録音テクニック／作品制作⑥ ミキサーとエフェクターについて説明します。外部音源の録音を実践します。

⑮期末試験：ミックスダウンを行い、作品を完成させます。メロディー&コード譜を PDF ファイルとして書き出します。

期末試験評価方法・評価基準

作品を WAV ファイル (48kHz/24bit) とメロディー&コード譜 (PDF ファイル) として提出します。

表情のある演奏ができているか、提出作品の完成度から評価します。また、見やすい譜面として完成しているか評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	DTM・DAW II
担当講師名	新井正俊
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲／編曲家、マニピュレーターとしてアーティストへの楽曲提供、アニメ、ゲーム、CM等の音楽制作、ライブサポート経験を持ちます。

授業内容

作品を制作しながらシンセサイザーオペレート、オーディオ編集&エフェクトテクニックを習得します。また、オーディオ素材を扱ったリミックス的手法での楽曲構築、ミックスからマスタリングまでの工程を実践し、クオリティーの高い作品制作を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

シンセサイザーとエフェクターの音作り、オーディオ編集テクニック、ミックステクニックを習得し、クオリティーの高い作品に仕上げることを目標とします。尚、履修学生が制作した作品をこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音ネタ制作① シンセサイザーの種類、各パラメーターの機能を説明します。効果音を作りながらシンセサイザーの操作練習を行います。
- ②音ネタ制作② VOCALOIDのパラメーター、入力テクニックについて説明します。
- ③音ネタ制作③ エフェクターやオートメーションを併用し、フレーズ素材を作成します。
- ④オーディオベースでの作品制作① オーディオ素材から楽曲を構築します。曲の構想、モチーフ等を考えます。
- ⑤オーディオベースでの作品制作② オーディオ素材から楽曲を構築します。楽曲構成（展開）について考えます。
- ⑥仕上げと提出 エフェクター（EQ、COMP/LIM）について説明します。ミックスダウン行い完成させ提出します。
- ⑦中間試験：作品の試聴会を行い評価します。

中間試験評価方法・評価基準

作品を WAV ファイル (48kHz/24bit) として提出、試聴会を行います。
音作り／オーディオ編集／エフェクト／ミックスのテクニックを作品の完成度から評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧オーディオ編集テクニック① タイミング修正を実践します。
- ⑨オーディオ編集テクニック② 音程修正を実践します。
- ⑩コンピレーション制作① グループに分かれ、テーマに沿った楽曲を制作します。各自、作品制作にとりかかります。
- ⑪コンピレーション制作② 各自、作品制作作業を行います。
- ⑫コンピレーション制作③ 各自、作品制作作業を行います。グループ内で作業の進捗具合を確認します。
- ⑬コンピレーション制作④ 各自、作品制作作業を行います。ミックス／マスタリングの手順について説明します。
- ⑭仕上げと提出 各自の楽曲のミックス、グループ単位でマスタリングを実践します。アルバムとして完成させ提出します。
- ⑮期末試験：完成したアルバムの試聴会を行い評価します。

期末試験評価方法・評価基準

作品を WAV ファイル (48kHz/24bit) でアルバムとして提出、試聴会を行います。
機材の使いこなし、ミックスを重点におき、個々の楽曲、アルバムとしての完成度を評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ミュージックシンセサイズ I
担当講師名	三堀尚和
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲、レコーディングエンジニア、シンセサイザープログラマーとしての実務経験をもちます。

授業内容

DAW による音楽制作の様々な操作を学ぶ授業です。第 1 クォーターでは音の基礎と録音技術、ProTools と Cubase の違いについて学びます。第 2 クォーターでは Cubase を使用して録音された素材をミックス、マスタリングを行い、完成に至るまでの操作を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

DAW を中心とし、シンセサイザーやサンプラーなどのソフトウェアを使用して、サウンドデザインとシミュレーションの両面において、思い通りの音作りができる能力を得る事を目的とします。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①ガイダンス～音の基礎知識(1)：授業の内容と進め方、評価方法のルールについて説明します。また、基礎知識として音の 3 要素の一つである音量と dB を解説します。
- ②音の基礎知識(2)：基礎知識として音の 3 要素のうち音程について学びます。また周波数の単位である Hz と音階について解説します。
- ③音の基礎知識(3)：基礎知識として音の 3 要素のうち音色について学びます。また音色と倍音、波形との関連について解説します。
- ④現代の録音技術と歴史：録音に必要なアナログ、デジタルの知識を解説します。また音の入口と出口であるマイク、スピーカーなどの機材についても解説します。
- ⑤DAW 上での編集と応用：現在の代表的な DAW である ProTools と Cubase の違い、編集の可能性と各種フォーマットについて解説します。
- ⑥クォーター末試験：基礎知識の理解度を確認するため、筆記試験を行います。
- ⑦試験添削：問題の解答について解説します。理解度の確認を目的とします。

中間試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ミックス課題の実践・PTからのインポート：ProTools であらかじめ録音されたセッションファイルからマルチトラック素材を Cubase へインポートする方法について解説します。
- ⑨Cubase 操作・楽器別のステムミックス：マルチトラック素材のミックスを通して作業の流れ、各トラックの説明とグループ作成、Cubase 操作のポイント、注意点を解説します。
- ⑩エフェクト処理 1・音量：コンプレッサーなど、ダイナミクス系プラグインの種類と操作を解説します。内容により順序が前後することがあります。
- ⑪エフェクト処理 2・音色：各種フィルターを含むイコライザー系プラグインの種類と操作を解説します。内容により順序が前後することがあります。
- ⑫エフェクト処理 3・残響：ディレイ、リバーブなどの残響系プラグインの種類と操作を解説します。内容により順序が前後することがあります。
- ⑬ボーカルのトラック処理：ピッチ修正系を含むボーカル用プラグインの種類と操作を解説します。
- ⑭学期末実技試験：総合的な理解度を確認するため、課題曲の提出をもって実技試験とします。
- ⑮2mix の作成と簡易マスタリング：仕上げの作業として 2mix の作成とマキシマイザーを使用した簡易マスタリングの操作について解説します。

期末試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ミュージックシンセサイズ II
担当講師名	三堀尚和
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲、レコーディングエンジニア、シンセサイザープログラマーとしての実務経験をもちます。

授業内容

DAW による音楽制作の様々な操作を学ぶ授業です。第 1 クォーターでは音の基礎と録音技術、ProTools と Cubase の違いについて学びます。第 2 クォーターでは Cubase を使用して録音された素材をミックス、マスタリングを行い、完成に至るまでの操作を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

DAW を中心とし、シンセサイザーやサンプラーなどのソフトウェアを使用して、サウンドデザインとシミュレーションの両面において、様々な音作りができる能力を得る事を目的とします。成果物として上記を使用した映像用の音楽作品を完成させます。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①シンセサイザーの基礎 1：シンセサイザーの構造～過去から現在までの代表的な音源方式と音作りの基礎となる構造について解説します。
- ②シンセサイザーの基礎 2：シンセサイザー操作の基礎としてオシレーター、フィルター、アンプリファイヤーの仕組みと操作を解説します。
- ③シンセサイザーの基礎 3：シンセサイザー操作の基礎としてエンベロープ、LFO、モジュレーションマトリックスの仕組みと操作を解説します。
- ④シンセサイザーの応用 1：映像課題を通して主にアナログシンセサイザーを使用した効果音作成とプラグインを含めた実際の音作りを解説します。
- ⑤シンセサイザーの応用 2：映像課題を通して主にサンプル素材を使用した効果音作成とプラグインを含めた実際の音作りを解説します。
- ⑥クォーター末試験：総合的な理解度を確認するため、課題曲の発表と提出をもって実技試験とします。
- ⑦課題作品の考察：課題をより高いクオリティに高めるための考察。業界でも主流となるプラグイン音源を使用した楽曲制作、生楽器のシミュレーションなどを解説します。

中間試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧楽曲制作課題・実践と応用1：主にリズムのみで構成されるトラック制作と Cubase のサンプルデータベースの機能の操作を映像課題を通して解説します。
- ⑨楽曲制作課題・実践と応用2：主にリズムのみで構成されるトラック制作とそれに適したプラグインの操作を映像課題を通して解説します。
- ⑩楽曲制作課題・実践と応用3：リズムを主体としたトラックで構成される映像課題を完成させます。またデータベースの扱いについても解説します。
- ⑪楽曲制作課題・実践と応用4：映像課題を通して総合的な楽曲制作を行います。映像に合わせたテンポマップの作成について解説します。
- ⑫楽曲制作課題・実践と応用5：映像課題を通して総合的な楽曲制作を行います。効果音と楽曲に分け、それぞれの様々なテクニックの紹介や操作法を解説します。
- ⑬楽曲制作課題・実践と応用6：映像課題を通して総合的な楽曲制作を行います。各種専用音源の紹介や操作法を解説し、可能な限り個別対応します。
- ⑭学期末実技試験：総合的な理解度を確認するため、課題曲の提出と発表をもって実技試験とします。可能な限り個別対応します。
- ⑮課題作品の考察：課題をより高いクオリティに高めるためには何が必要か考察します。

期末試験評価方法・評価基準

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性を重要視します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	スタジオマニピュレート演習 I
担当講師名	高木則幸
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM,DAW を用いた楽曲制作、マニピレーターの実務経験があります。

授業内容

この科目では Cubase(又は Logic Pro) をホストアプリケーションとした、サードパーティー製音源やプラグイン (KOMPLEAT シリーズ等) の総合的なマニピレートテクニックを学びます。また、代表的なオーケストラ専用音源「Vienna」を使ったオーケストラの再現テクニックを学びます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

サードパーティー製音源やプラグイン (KOMPLEAT シリーズ、Vienna 等) を使いこなして、生楽器のシミュレートテクニックやループ音源の効果的な使い方を習得し、商品レベルの作品を完成させます。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ①科目の内容とスケジュールの確認、使用アプリケーションの解説を行います。
- ②サンプラーを活かした鍵盤系楽器の打ち込みを学びます。
- ③サンプラーを活かしたギター系楽器の打ち込みを学びます (前半)
- ④サンプラーを活かしたギター系楽器の打ち込みを学びます (後半)
- ⑤学習した内容を生かして楽曲をアレンジしていきます。
- ⑥作品を仕上げて提出します。
- ⑦提出作品の発表を行います。

中間試験評価方法・評価基準

サンプラーのプリセットを効果的に使用して制作したオリジナルまたはカバー楽曲の作品を提出します。

完成作品クオリティー、授業の理解度を総合評価：40 点、平常点 (出席点)：60 点

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧サードパーティー製オーケストラ音源「Vienna」について学びます。
- ⑨キースイッチとコントローラーによる音色変化の方法を学びます。
- ⑩より生演奏に近いストリングスパートの打ち込みについて学びます。
- ⑪バイオリン等のソロパートのシミュレーションテクニックを学びます。
- ⑫リアルな管打楽器パートの打ち込みについて学びます。
- ⑬オーケストラ音源のミキシングについて学びます。
- ⑭完成した作品を提出します。
- ⑮提出作品の発表を行います。

期末試験評価方法・評価基準

オーケストラ音源を活かして制作したオリジナルまたはカバー楽曲の作品を提出します。
完成作品クオリティー、授業の理解度を総合評価：40点、平常点（出席点）：60点

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	スタジオマニピュレート演習Ⅱ
担当講師名	高木則幸
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM,DAW を用いた楽曲制作、マニピュレーターの実務経験があります。

授業内容

この科目では各自のオリジナル曲を使い、D-MAC RECORDS 等のレーベル制作で行っているような、楽曲のブラッシュアップと本格的なミキシングとマスタリングを学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

D-MAC RECORDS 等のレーベルと同クオリティーの、商品レベルの楽曲制作とミキシング、マスタリング技術を習得し、商品レベルの作品を完成させます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ブラッシュアップするための作品提出
- ②アレンジのミスや、足りない箇所を修正、追加します。
- ③ドラム系、リズム系の音色を確認、必要であれば音源の差し替えを行います。
- ④その他のパートでも必要に応じて音源の差し替えを行います。
- ⑤ボーカルパートのピッチ補正を行います。
- ⑥Midi パートのオーディオ書き出しを行い、ミキシングに備えた stem データを作成、提出します。
- ⑦提出データの確認と発表、次クオーターに向けた準備を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ブラッシュアップを行い完成させた作品（ミックス前段階）を提出します。
作品の完成度と学習を活かした制作がされているかを評価...40点、平常点（出席点）60点

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ミキシングの心得と準備を行います。
- ⑨トラックの整理とローカットを行います。

- ⑩ダイナミクス系プラグインの設定を行います。
- ⑪FX センドとリバーブの設定を行います。
- ⑫マスターレベルの設定とラフミックスを行います。
- ⑬バランス調整と帯域補正を行います。
- ⑭音圧の設定と測定を行い、マスターを提出します。
- ⑮提出作品の発表を行います。

期末試験評価方法・評価基準

完成作品クオリティー、授業の理解度を総合評価：40点、平常点（出席点）：60点

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽プログラム研究 A
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、スタンフォード大学 CCRMA サマーセッションでの研究、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

コンピュータを使って音楽を表現するために、音楽に関するいろいろな情報、演奏、音、楽器などを数学的、物理的に研究します。この分野で一番大事なのは音楽知識です。従来の演奏・作曲・編曲という知識を違う視点で考え、自分の発想を広げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽をいつもとは違う角度から考察して、新しい発想で音楽を作れるようになります。コンピュータで音楽を作る際に必要な知識を身につけます。音を作るということを理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 電子音楽の歴史と作品の鑑賞。
- ② アナログ、デジタルのシンセサイザーの仕組みを理解します。
- ③ 周波数、波形等音楽を構成する物理的、数学的な要素について学習します。
- ④ CD を始めとするデジタルオーディオについて理解します。
- ⑤ MIDI 規格について学習します。
- ⑥ 初期の自動演奏の仕組みと数字による音楽の表現を理解します。
- ⑦ 筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ FM音源の仕組みと、音の作り方について学習します
- ⑨ アルゴリズムの選択による音の作り方を学習します。
- ⑩ 音を作る。プラグイン音源を使って音を作ります。
- ⑪ 音の定位、響きを作ります。
- ⑫ サンプラーを使って、日常の音で音楽を作ります。
- ⑬ ミニマル系サウンド。繰り返し、単調なフレーズ、リズムを繰り返します。
- ⑭ 音を自由に操って、不思議な音の世界を作ります。
- ⑮ 課題を作成し提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席5点、遅刻3点を減点します。

出席25% 平常点25% 試験50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽プログラム研究 B
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、スタンフォード大学 CCRMA サマーセッションでの研究、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

コンピュータで、実際の音楽を表現してみます。3クォータでは、Max 等を使って、自動演奏を体験します。4クォータでは、XCODE、SWIFT という言語を使って iPhone アプリのプログラミングの基礎を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

MAX,SWIF を使ってプログラミングの基本をマスターし、簡単なアプリを作成できるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Band In A Box の仕組みについて学習します。
- ② Max の基本操作を学習します。
- ③ MIDI 関連、音を出すプログラムを学習します。
- ④ Max を使って音楽を作ります。自動演奏について学習します。
- ⑤ Max を使って音楽を作ります。
- ⑥ 今までの学習内容を応用して Max で作品を作ります。
- ⑦ 作品提出

中間試験評価方法・評価基準

作品提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 5 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ XCODE の基本操作を学習します。
- ⑨ SWIFT の基本を学習します。
- ⑩ 画面上にラベル、ボタンを作成します。
- ⑪ カウンターを作成します。
- ⑫ タイマーを作ります
- ⑬ ボタンをクリックして音を出します。
- ⑭ 今までの学習を元に作品を作ります。
- ⑮ 作成を提出します。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出。授業内容を理解しているか確認します。
欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクト基礎 I
担当講師名	斉藤かんじ
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はゲーム BGM, アニメ劇伴曲、歌楽曲、CM 曲などに実務経験があります。

授業内容

当授業は制作物を完成させながらそのコンテンツ（例えば個々の楽曲など）のクオリティを上げていくことを目標としています。春学期においては音響制作研究作品を作ります。すなわち動画の映像を借りてその音声・音響部分をすべて作り替えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

SE・ME の制作、Pro tools のオペレーションやマイキング、アフレコのディレクション、MA（ミックス作業）など多岐にわたる音響制作の基本的知識と技術の習得と、収録される BGM・劇伴曲のクオリティアップを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス_当授業の目的と目標について説明します。
- ②楽器編成とそのアレンジワークにおいて聞き逃しがちな低音楽器についてその重要性を説明します。
- ③より歯切れの良い楽曲をつくるために必要なアレンジワークとデータエディットについて説明します。
- ④劇伴曲にしばしば用いられる、リディアンモード、ドリアンモードなどを用いた作曲技法について説明します。
- ⑤映像作品のオープニング、エンディングに使用される歌楽曲について、メロディーメイク、アレンジワークを中心に説明します。
- ⑥制作課題_1（指定された場面の BGM の制作と発表）
- ⑦制作課題_2（クォーター末試験_担当する場面に対しての BGM の制作と発表）

中間試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧制作会議 音響制作研究作品の制作にあたり、必要な作業、スケジュール、役割担当の決定と確認をします。
- ⑨録音機器の知識と接続、マイキング、Pro toolsの基本操作を学びます。
- ⑩セリフ、ナレーションの録音時に必要とされるディレクションスキルを学びながら制作します。
- ⑪オーディオ波形編集の技術を学びながら制作します。
- ⑫制作物のオープニング、エンディングの歌楽曲にヴォーカルを録音します。
- ⑬SE・MEの録音とトラック編集
- ⑭完成にむけて担当BGMトラック、担当SE・MEトラックの提出と動画への貼り付けをします。
- ⑮学期末試験 MA作業（最終mix作業）と全行程を終了させること。

期末試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時に勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクト基礎Ⅱ
担当講師名	斉藤かんじ
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はゲーム BGM, アニメ劇伴曲、歌楽曲、CM 曲などに実務経験があります。

授業内容

秋学期では決定されたコンセプトに従い制作された全員の作品を youtube チャンネルにアップロードします。その中で収録楽曲のクォリティーアップを目指すとともに、制作の中で日頃あいまいになりがちな音響用語や各プラグインのパラメーターの意味を確かなものにしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

4年間の折り返し地点において、各々が自信を持って提示出来る楽曲を作ることがまずひとつの目標です。さらにいずれ制作現場で即戦力として活躍できるように必要とされるであろう確かな知識、技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音の三要素、周波数、位相、音圧、サンプリングレート、ビットデプスなどについて
- ②コンプレッサー、リミッターのパラメーターについて、さらになぜそれらが必要とされるかについて
- ③イコライザーのパラメーターについて、さらになぜそれらが必要とされるかについて
- ④シンセサイザーのパラメーターについて
- ⑤時流、メインストリームを意識しつつ、楽曲にデジタル要素を取り入れていく手法、アイデアを学びます。
- ⑥制作課題_1（自らの楽曲の音圧、音のヌケを商品化出来るレベルのものにマスタリングして提出して下さい。）
- ⑦制作課題_2（クォーター末試験_クラシック楽器ベースの楽曲にシンセサイザーを意欲的に盛り込んだ楽曲を提出して下さい。）

中間試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧制作会議 コンセプト、担当楽曲、制作スケジュール等の企画会議
- ⑨デモテイクの提出 楽曲の方向性、モチーフ、構成、楽器編成などの提示
- ⑩リテイクの提出 完成に向けた計画性、期待感の提示
- ⑪制作物に必要なデザイン、文字資料について
- ⑫制作物に利用できる映像素材の収集と編集
- ⑬学生間でのスキル共有、積極的な情報交換の場として
- ⑭完成稿の提出と発表。それらのマスタリング作業
- ⑮学期末試験 制作物の完成と作品のアップロード

期末試験評価方法・評価基準

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時に勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクト AI (コンクール)
担当講師名	徳備 康純
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での 20 年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて 30 年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。また、講師は PTNA の楽曲公募、東京国際作曲コンクールなどに入賞するなど、コンクールに関する実務経験を持つ。

授業内容

日本・世界のコンクールについて調べ、情報を得、どういうコンクールを狙い、自らをキャリアアップしていくかを考えるのが春学期の狙いです。自らもコンクールに作品を応募することを目指して要項に基づいて作品の制作を行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

実際のコンクールに応募する、もしくは応募できる作品を制作し完成させる。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ① 国内コンクールの研究 : コンクールにはどのようなものがあるか? ネットで調べてみよう。
- ② 海外コンクールの研究 : 海外のコンクールについて。応募する時の注意点など。
- ③ 各種コンクール要項の研究 : PTNA の作品募集、合唱コンクールの要項を取り寄せ、読み、何を書くのか話し合ってみよう。
- ④ 入選作品の研究(A/B 部門) : PTNA の入選作品よりソロ部門/やさしい作品を研究します。
- ⑤ 入選作品の研究(C/D 部門) : PTNA の入選作品よりソロ部門/ やや難しい作品を研究します。
- ⑥ 入選作品の研究(連弾/A) : PTNA の入選作品よりソ連弾作品 /A 部門やさしい作品の書法の研究。
- ⑦ 入選作品の研究(連弾/B) : PTNA の入選作品よりソ連弾作品 /B 部門やや難しい作品の書法を研究します。

中間試験評価方法・評価基準

日本各地、あるいは世界の様々なコンクールについて調べたことをレポートし、個々のレベルに合ったコンクールを決定し、その要項に従った作品のテーマなどを作る。特に決まらない場合は、PTNA の課題曲募集をまず目標に要項などを調べ、作品を制作し、そのスコアを提出する。試験 80%、出席点 20%。

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ 国内コンクールの研究(その2)：国際合唱コンクールについて
- ⑨ 地域コンクールの研究：地域コンクールについて(ホール、地域文化団体の主催コンペについて)研究します。
- ⑩ 作品の制作(テーマ選び)：レギュレーションにあわせて、テーマを決め、スタイルを決定する。
- ⑪ 作品の制作(対象の設定)：部門を決めてどこに、誰に聞かせる作品か、企画を明確にした作品を制作することを学びます。
- ⑫ 作品の制作(編成の決定とテーマ作り)：編成を決めて、テーマ(イメージ)を決定し、曲を書きはじめよう。
- ⑬ 作品クリニック：個々の作品の個別の指導を行い、仕上げへと持っていきます。
- ⑭ 応募用紙の書き方：作品を完成させ、応募用紙を書く。個々の略歴をどう書き、アピールするかを始動します。
- ⑮ 応募作品の発表とディスカッション：応募作品の音源とスコアを持ち寄り、それによりディスカッションを行います。

期末試験評価方法・評価基準

個々に決定したコンクールに向けた作品を制作し、その作品を提出、もしくは制作途中のものを提出する。PTNA に応募しようという場合は、曲を完成させ、応募用紙に作品についての説明、自らの略歴などを書き込み、そのコピーを提出する。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクトAⅡ（コンクール）
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。また、講師はPTNAの楽曲公募、東京国際作曲コンクールなどに入賞するなど、コンクールに関する実務経験を持つ。

授業内容

引き続き東京国際合唱作曲コンクールへの応募を目指して、合唱音楽、特にラテン語などによる宗教作品などの研究を行い、作品の制作を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際のコンクールに応募する、もしくは応募できる作品を制作し完成させる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 合唱や歌曲の作曲コンクールの研究：朝日賞など、合唱関係の作曲コンクールの特徴などを調べる。
- ② 歌の作り方について：歌曲などの詩と音楽の関わりについて調べてみよう。
- ③ 歌曲の作り方 1：シューベルト、シューマン、ブラームスなどの先達の作品の詩と音楽について分析する。
- ④ 歌曲の作り方 2 日本語と歌：山田耕筰、團伊玖磨、中田喜直などの先達の作品の詩と音楽について分析する。
- ⑤ 歌曲の作り方 3 伴奏について：シューベルトなどの歌曲の伴奏のあり方について作品を通じて学びます。
- ⑥ 歌曲を作ってみよう 1：詩を選び、それにメロディーをつけてみよう。
- ⑦ 歌曲を作ってみよう 2：前回で作ったメロディーに伴奏をつけ、歌曲を完成させよう。

中間試験評価方法・評価基準

授業で作曲した歌曲の楽譜と詩のコピーを提出する。詩とメロディー、そして伴奏が、歌曲として成立するものとなり得ているかを総合して評価する。試験 80%、出席点 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合唱コンクールのレギュレーションについて：東京国際合唱コンクールのレギュレーションを調べ、ラテン語について学ぶ。
- ⑨ ラインベルガーのミサ・ブレヴィスの分析：ラインベルガーの作品を通じて、ア・カペラの SATB の書法について学びます。
- ⑩ ラテン語について：ミサ曲のラテン語について簡単な読み方と意味について説明。
- ⑪ 子音の扱い方など：歌の作り方の記述的な課題について説明し、実際の作曲に役立てよう。
- ⑫ 合唱作品を作ってみよう 1：応募作品を分析し、各自、参考にしつつ、それぞれに合唱作品を制作する。まず、作品の企画を考えよう。
- ⑬ 合唱作品を作ってみよう 2：前回に設定したスタイル、形式などに従って作品を作ってみよう。
- ⑭ 合唱作品を作ってみよう 3：言葉の抑揚、リズム、表現するものの世界に留意しつつ、前々回に設定したスタイルに則って作曲をすすめる。
- ⑮ 合唱作品を作ってみよう 4：作品を仕上げ、それぞれにコンピューターの音源、ピアノなどで音出しし、作品についてディスカッションする。

期末試験評価方法・評価基準

コンクールに応募した作品を提出する。どうしても提出に至らなかった者は、国内、海外の作曲コンクールについて、レギュレーションや特徴などを A4 レポート五枚以上に 10 枚未満にまとめ提出すること。作品の完成度を、あるいはレポート提出の場合はその内容を総合的に評価する。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクトB I (ソングライティング)
担当講師名	市川 春行
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経験があります。

授業内容

音楽商品としての **J-pop**、というものを「人の声」でメロディーを表現する、という観点から考察を始め、さらにメロディにまつわるアレンジや歌詞にも時代によって様々な手法、切り口があることを学び、そして実際の制作実習体験をしていきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

インスト楽曲には無い、歌もの独特の魅力や制約についての知識を得た上で、実際に歌もの楽曲の制作能力を高めます。また、作曲～アレンジ～**MIX**～マスタリングといった一連の作業を分担し、チーム制作の経験を積みます。尚、履修学生がチームで制作し、**YOUTUBE** 等 **SNS** へアップロードした **MV** をこの授業の教育成果物とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①オリエンテーション、講座の概要説明と各メンバーの音楽的志向の確認をします。
- ②歌もの楽曲制作1、短い歌メロのモチーフをもとに制作実習を行います。
- ③歌もの楽曲制作2、短い歌メロとコード進行のモチーフをもとに制作実習を行います。
- ④歌詞について、テーマの捕らえ方、言葉の使い方・選び方について実例とともに解説します。
- ⑤コード進行について、歌メロを導き、より伝わりやすくするための、また楽曲イメージの背景としてのコード進行を解説します。
- ⑥アレンジについて、歌メロをサポートし、より伝わりやすくするための方法論、また商品としてのニーズに答える方法の解説です。
- ⑦まとめ 授業内で提示されたテーマに沿ったモチーフ、小曲を、今クォータに得た知識を元に作成し、**DATA** を提出します。

中間試験評価方法・評価基準

制作物完成へ至る過程も重視します。

出席 33%、 授業内提出物レポートの評価 33%、 提出作品 33%

授業計画（8回目から15回目）

⑧オリエンテーション、クラスがひとつの制作チームとなり、楽曲の企画、制作、録音、配信までのプロデュース計画を立てます。

⑨プロデュースとは？サウンドプロデューサーと（エグゼクティブ）プロデューサーの違いを考察。

⑩コンセプト作り、作品の商品性も含めたコンセプトを考えます。

⑪曲作りのアイデア考察1 流行のサウンドや、ジャンルについての考察をします。

⑫曲作りのアイデア考察2 キャッチーなフレーズや音楽的仕掛け、サウンドやエフェクトについての考察をします。

⑬仮想テーマ決め、各自に仮想テーマを与え、コンセプトを考え、さらに歌手やタイプ先を想定します。

⑭作品発表1、仮想テーマに沿ってリファレンス曲を決定し、**DEMO** 第一稿として各自の曲をプレゼンテーションします。

⑮作品発表2、前週のプレゼン時に出たメンバーの意見をもとにしつつ、**DEMO** 決定稿を発表します。

期末試験評価方法・評価基準

制作物完成へ至る過程も重視します。

出席 33%、 授業内提出物レポートの評価 33%、 提出作品 33%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクトBⅡ（ソングライティング）
担当講師名	市川 春行
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経験があります。

授業内容

ただ漠然と歌もの楽曲を作るのではなく、リスナー（マーケット）を意識した、「狙いを持った楽曲制作」、「プロデュース」という考え方を学びます。それにより最終的に「作品と商品の両立」を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期よりもさらに一歩進んだ、**J-pop** プロデュースの知識、手法、アイデア等を、実際の **J-pop** 商品から学び、実際に制作してみることにより、より高品質の **J-pop** 制作スキルを身に着けます。尚、履修学生がチームで制作し、**YOUTUBE** 等 **SNS** へアップロードした **MV** をこの授業の教育成果物とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション、現在形の音楽マーケットの考察をします。
- ②ダンス **POPS** について、**R & B**、**EDM**、**Disco** ファンクなどのリズムやアレンジ主体の音楽と **POPS** の違いを考えます。
- ③メロディーについて、歌メロディと器楽メロディの違いを考え、歌詞（言葉）の存在意義についても掘り下げます。
- ④歌詞について、より深いテーマの捕らえ方。言葉、フレーズの拡げ方、使い方、選び方を解説します。
- ⑤音楽に付加価値を与える、音楽に音楽以外のに付加価値を持たせる方法、アイデアをを考察します。
- ⑥アイデアの発想法。魅力的な作品と商品の両立を考えます。
- ⑦作品発表、付加価値を持たせ、より魅力的な商品性ある作品 **DEMO** をプレゼンテーションします。

中間試験評価方法・評価基準

制作物完成へ至る過程も重視します。

出席 33%、 授業内提出物レポートの評価 33%、 提出作品 33%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧オリエンテーション、各人の実際の生活における音楽作品、商品との係わりを自身で振り返り、皆と話し合います。
- ⑨発注、楽曲コンペとは？音楽業界の仕組みや役割分担を、職業作家を軸に解説します。
- ⑩制作実習1 春学期のチーム制作を経て、個人による企画～作曲～MIX までの楽曲制作を計画します。
- ⑪制作実習2 前回授業をうけて、さらに J-pop コンペに対応する DEMO 制作の実習をします。
- ⑫歌モノミックス講座1、実際のデータを使ってのミックス実習、主にエフェクトプラグインのテンプレート制作を目的とします。
- ⑬歌モノミックス講座2、実際のデータを使ってのミックス実習、様々なテクニックやアイデアの習得を目的とします。
- ⑭メジャーとマイナーと同人マーケット、多様化する日本のマーケットのそれぞれの仕組みの違いと、それぞれの特徴について考察します。
- ⑮作品発表、企画プレゼンテーションと楽曲（歌詞とともに）の発表です。

期末試験評価方法・評価基準

制作物完成へ至る過程も重視します。

出席 33%、 授業内提出物レポートの評価 33%、 提出作品 33%

特記事項

学科名	音楽アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクト C I (劇伴)
担当講師名	鷲見 文広
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、映画の劇伴、テレビやウェブ用の CM、企業用のプロモーションビデオなどの、映像のための音楽制作（作曲、編曲、レコーディング、ミックス等）の経験を持ちます。

授業内容

この科目では、講師の実務経験（映画、CM、PV などの音楽制作、作・編曲家としての活動）に基づき、映画、アニメ、CM、PV 等、映像の為の音楽を創作する授業を行います。春学期は映像から感受した印象を、いかに音として表現出来るのかを学びます。自身の音楽スタイルを生かした、映像の為の音楽を創作して下さい。

課題：毎週 1 曲の制作、設計図（スコア）と録音物を提出して頂きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- 1、映像音楽を創作する為に必要な事は何かを習得する事を目標にします。
- 2、自分の音楽スタイルとは何か、自分の音楽性とは何かを理解する事を目標にします。
- 3、限られた時間の中、どのような工程で曲を制作するのかを習得する事を目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

①ガイダンス

この科目の授業全体の流れ、映像音楽とは何か、映像音楽の制作方法はどのようなのか、等の説明をします。

②変化する3つの色に音楽をつける

10秒ごとに変化していく3つの色に対して音楽をつけます。移り変わる色の印象を自由に表現しましょう。

③絵画に音楽をつける

絵画の為に60秒の音楽を創作します。絵画をどう解釈し、どんな音楽が合うのか考察し、創作して下さい。

④写真に音楽をつける

移り変わる12枚の写真の為に90秒の音楽を創作します。写真の印象とストーリーを感じながら創作をして下さい。

⑤風景の映像に音楽をつける

風景の為の音楽を創作します。映像に存在する環境音も音楽の一つとして捉え、自由な音楽を創造します。

⑥人物の映像に音楽をつける

人物の映像に対して音楽を創作します。その人物にはどんな背景があるのかを想像しながら自由に創作をします。

⑦60秒の映像に音楽をつける

用意された60秒の映像に対して、自分なりに感じ、解釈をして、自由に音楽を創作して下さい。

中間試験評価方法・評価基準

映像のために制作した音楽の提出（音源、スコア、企画書）を行います。

授業で学んだ、映像のための音楽制作方法を活用し作品を創作出来ているのか、また自分らしさが表現された作品となっているのかを評価します。

出席と受講状況：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧ガイダンス

第2クォーターに行く、映像に対してより踏み込んだ具体的な音楽制作方法について説明をします。

⑨映像の為のピアノ曲を作る

60秒の映像の中に、積極的に描かれてはいない隠されたテーマを、ピアノを使用し音楽で表現して下さい。

⑩ピアノ曲をオーケストラ曲に編曲する

前回制作したピアノ曲を、同一の目的のもと、オーケストラの楽器を用いて編曲をし、表現して下さい。

⑪空間の為の音楽を作る

自分の得意とする楽器編成によって、主要なメロディーやリズムのない、空間を表現する音楽を創作して下さい。

⑫ストーリーのある映像に音楽をつける

映像の中に描かれたストーリーを解釈し反映させ、指定された楽器編成による音楽を創作して下さい。

⑬映像の動きに同期した音楽を作る

映像のシーンの転換点、人物や背景などの動きに合わせた音楽を、様々な楽器を用いて表現し、創作して下さい。

⑭感情を表現した音楽を作る

感情を表す音楽表現とは何かについて説明をします。また人の感情を表現する音楽を創作して下さい。

⑮60秒の映像の為の音楽を創作する

指定された楽器編成で、動画の持つテーマや趣旨を反映した音楽を制作して下さい。

期末試験評価方法・評価基準

映像のために制作した音楽の提出（音源、スコア、企画書）を行います。

映像の為に制作した音楽の、独自性や完成度、また映像作品に適した音楽になっているの

かどうかを評価をします。

出席と受講状況：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

創作に使用する DAW や音源は自由です。

音源を提出する際は、48000Hz/ 24bit の WAV ファイルフォーマットで提出をして下さい。

スコアは浄書ソフトを用いたものでも、手書きのものでも構いません。

学科名	音楽アカデミー学科
科目名	コンテンツプロダクト CII (劇伴)
担当講師名	鷺見 文広
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は映画の劇伴、テレビやウェブ用の CM、企業用のプロモーションビデオなどの、映像のための音楽制作（主に作曲、編曲、レコーディング、ミックス等）の経験を持ちます。

授業内容

この科目では、講師の実務経験（映画、CM、PV などの音楽制作、作・編曲家としての活動）に基づき、映画、アニメ、CM、PV 等、映像の為の音楽を創作する授業を行います。秋学期は、より具体的な映像に対しての音楽制作を行っていきます。目的の異なる様々な映像に対し、自身の音楽性を生かした多様な制作を行って下さい。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- 1、映像が持つ主旨や目的を大切に、的確で個性的な音楽を創作する事を目標とします。
- 2、いかに映像と融和、あるいは対峙した音楽が創作出来るのかを目標とします。
- 3、限られた創作時間の中、独自性のある音で、映像の為の的確な表現が出来るのかを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①CM 用音楽の制作 # 1
CM 制作をする際に必要な知識と、CM とは何かについて説明をします。また 15 秒の CM の音楽制作をします。
- ②CM 用音楽の制作 # 2
様々な趣旨を持つ CM に対しての音楽制作方法について説明をします。30 秒の CM 音楽制作を行います。
- ③プロモーションビデオ用音楽の制作 # 1
プロモーションビデオとは何かについて説明をします。その後、実際に用意された PV に音楽を創作します。
- ④プロモーションビデオ用音楽の制作 # 2
第3回に引き続き、プロモーションビデオ用の音楽制作を行います。

⑤絵本の為の音楽を制作# 1

ナレーションの入った絵本の映像に対して音楽を制作します。各自担当したシーンに対して音楽制作を行います。

⑥絵本の為の音楽を制作# 2

第5回に引き続き、絵本の為の音楽を制作します。各自担当したシーンの音楽の入った一本の絵本の動画を制作します。

⑦60秒のCM音楽制作

第3クォーターの内容を加味し、ストーリーのある、60秒のCM用音楽を制作して下さい。

中間試験評価方法・評価基準

映像のために制作した音楽の提出（音源、スコア、企画書）を行います。

映像の趣旨に適した音楽になっているのかどうか、また制作した音楽のクオリティと個性を評価します。

出席と受講状況：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧映画音楽の制作# 1

短編映画の音楽を4回にわたり制作していきます。まずは映画の趣旨を理解し必要な音楽のシーンを確認します。

⑨映画音楽の制作# 2

映画全体に対してスケッチ音楽を制作して行きます。映画の趣旨に合った、象徴的な音楽を制作して下さい。

⑩映画音楽の制作# 3

音楽が必要とされているシーンの音楽制作をします。そのシーンに必要な音楽は何かを考え創作して下さい。

⑪映画音楽の制作# 4

さらに映画音楽を制作します。異なるシーンに統一感を持たせる方法とは何かを考え創作をして下さい。

⑫MA (Multi Audio) における音楽

全四回で制作した映画音楽を実際に使い、映像音楽の最後の工程であるMAについて説明をします。

⑬ゲームの為の音楽制作

ゲーム音楽とは何かを説明します。また、実際のゲームのプレイ映像に対して音楽を制作します。

⑭アニメーション用音楽制作

アニメーション音楽とは何かについて説明します。また、実際にアニメの映像に対して音楽を制作します。

⑮映像の為の自由な音楽制作

年間を通して培ってきた技術と音楽性を生かし、映像の為の音楽制作を行って下さい。テーマは自由です。

期末試験評価方法・評価基準

映像のために制作した音楽の提出（音源、スコア、企画書）を行います。
映像の為の楽曲制作において、自分の個性が活かされ、映像作品に適した音楽になっているかどうかを評価します。
出席と受講状況：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

創作に使用する DAW や音源は自由です。
音源を提出する際は、48000Hz/ 24bit の WAV ファイルフォーマットで提出をして下さい。
スコアは浄書ソフトを用いたものでも、手書きのものでも構いません。

学科名	音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース
科目名	アレンジ・作曲就業支援講座
担当講師名	佐々木 清裕
学期	集中（春）
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はこの科目の内容に関連する実務経験（音楽制作、作曲、レコーディングエンジニアとしての活動）を持っております。

授業内容

作曲家、アレンジャーなどの音楽クリエイターやアーティストとして専門活動を行うこと、または就職や進学を目指す卒業年次生が必要な知識を身に付けて希望進路の実現をサポートするための授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

進路に関しての曖昧な情報や噂だけに基づいて行動すると進路実現が達成できません。この講座を受講することによって正確な情報を得て、的確な行動を行い、進路実現を達成できることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 進路についての考察を行い、進路の選択肢をしっかりと把握したうえで、自分の進路を決めるために注意すべきことを理解します。
- ② 専門活動・就職・進学について、それぞれの具体的な内容を把握します。
- ③ 安易にフリーターになってしまうと生じる中長期的な危険性と、フリーターを選択する場合の諸条件について理解します。
- ④ 音楽家は具体的にどのような手段で収入を得ているのかを把握します。
- ⑤ 音楽家としての能力や技術以外にも必要とされる事柄について把握します。
- ⑥ 就業に必要な基本知識として、正しいメールの書き方、履歴書の書き方、面接の受け方等を把握します。
- ⑦ 社会人として必要なマナーについて学習します。（前編）

中間試験評価方法・評価基準

講座で学習したことをまとめたレポートを提出。その内容についての評価をします。（100%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。（ソングライター編）
- ⑨ 魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。（劇伴作家編）
- ⑩ 魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。（自作自演アーティスト編）
- ⑪ 音楽クリエイターやアーティストになるために必要な基本ツールとしてのデモ音源とプロフィールの作成方法を学習します。
- ⑫ 学内の「業界オーディション」と学外のオーディションに関する情報とそれぞれの活用方法を把握します。
- ⑬ 音楽事務所とは関わらずに自主的な音楽活動を行う際に必要なことを理解します。
- ⑭ キャリアカウンセリングを用いた進路情報収集や進路相談等の活用方法について把握します。
- ⑮ 社会人として必要なマナーについて学習します。（後編）

期末試験評価方法・評価基準

希望の進路と具体的な就業活動内容についてまとめたレポートを提出。その内容についての評価をします。（100%）

特記事項

集中講座

ピアノコース

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。

クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音⑫：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音⑬：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音⑭：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音⑮：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑰：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑱：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑲：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑳：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音㉑：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音㉒：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともあります。その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	ピアノ学科
科目名	専攻ソルフェージュ I
担当講師名	野崎 玲欧
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ピアノとソルフェージュの指導経験があり、多くの音大合格者やコンクール入賞者を輩出しています。

授業内容

音楽を演奏することに必要な「基礎能力」を養っていくのが「ソルフェージュ」です。春学期は、主に楽典を中心とした基礎知識の習得と聴音力を養います。基礎トレーニングを積むことで、実際の演奏に役立つ総合的な音楽能力の向上を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- (1)基礎的な音楽理論が理解できる。
- (2)読譜、視唱、リズム打ち、及び様々な形態による聴音ができる。
- (3)理解した知識や方法論を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：授業の説明、小テスト、楽典の基礎
- ②聴音・楽典：単旋律聴音、リズムと拍子
- ③聴音・楽典：単旋律聴音、音程の理論と実践
- ④聴音・楽典：単旋律聴音、近親調と転調の理解
- ⑤聴音・楽典：単旋律聴音、三和音と七の和音
- ⑥聴音・楽典：単旋律聴音、非和声音の理解
- ⑦中間試験：単旋律聴音、楽典の試験

中間試験評価方法・評価基準

毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。

実技・提出50% 出席30% 平常20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧聴音・楽典：二声聴音導入、長音階と短音階
- ⑨聴音・楽典：二声聴音、教会旋法と様々な音階
- ⑩聴音・楽典：二声聴音、移調楽器の理解①
- ⑪聴音・楽典：二声聴音、移調楽器の理解②
- ⑫聴音・楽典：二声聴音、移調の実践
- ⑬聴音・楽典：二声聴音、調判定の実践
- ⑭復習と補完：春学期の総復習
- ⑮期末試験：春学期まとめの試験

期末試験評価方法・評価基準

毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。

実技・提出50% 出席30% 平常20%

特記事項

五線紙と筆記用具は必ず持参のこと。

学科名	ピアノ学科
科目名	専攻ソルフェージュⅡ
担当講師名	野崎 玲欧
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ピアノとソルフェージュの指導経験があり、多くの音大合格者やコンクール入賞者を輩出しています。

授業内容

音楽を演奏することに必要な「基礎能力」を養っていくのが「ソルフェージュ」です。秋学期は、実際の楽曲を使用しながら、聴きとる、または歌う、リズムを叩くなど、試行錯誤しながら学んでいきます。幅広い音楽に触れながら、音楽的な感性も伸ばしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- (1)基礎的な音楽理論が理解できる。
- (2)読譜、視唱、リズム打ち、及び様々な形態による聴音ができる。
- (3)理解した知識や方法論を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①聴音・リズム・視唱：聴音、ルネサンス期のリズム&視唱
- ②聴音・リズム・視唱：聴音、バロック期のリズム&視唱①
- ③聴音・リズム・視唱：聴音、バロック期のリズム&視唱②
- ④聴音・リズム・視唱：聴音、古典派のリズム&視唱①
- ⑤聴音・リズム・視唱：聴音、古典派のリズム&視唱②
- ⑥聴音・リズム・視唱：聴音、古典派のリズム&視唱③
- ⑦中間試験：聴音、リズム、視唱の試験

中間試験評価方法・評価基準

毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。

実技・提出50% 出席30% 平常20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧聴音・リズム・視唱：聴音、ロマン派のリズム&視唱①
- ⑨聴音・リズム・視唱：聴音、ロマン派のリズム&視唱②
- ⑩聴音・リズム・視唱：聴音、ロマン派のリズム&視唱③
- ⑪聴音・リズム・視唱：聴音、近現代のリズム&視唱①
- ⑫聴音・リズム・視唱：聴音、近現代のリズム&視唱②
- ⑬聴音・リズム・視唱：聴音、近現代のリズム&視唱③
- ⑭復習と補完：秋学期の総復習
- ⑮期末試験：秋学期まとめの試験

期末試験評価方法・評価基準

毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。

実技・提出50% 出席30% 平常20%

特記事項

五線紙と筆記用具は必ず持参のこと。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 I
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

コードの勉強を中心に、様々なジャンルの特徴も学習していきます。テキストは全部で 10 チャプター、音楽の基礎になる大切な授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コードを勉強しながらいろいろなジャンルを知り、最終的には、自分でオリジナル曲を作編曲、そして、作った曲を自分たちでアレンジして演奏出来るようになるための授業です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①まず、基本のメジャーのコード、マイナーコードがわかるように勉強します。主要3和音を覚えましょう。
- ②主要3和音をしっかり学びます。ダイアトニックコードは4声で考えます。
- ③7thの音程を確認し、コードにした時の書き方を覚えます。また、ドラムの譜面やキーボード上の
- ④m7thのコードを学習。ベースの譜面の書き方を学びます。また、ブルース形式のコード進行も学習していきます。
- ⑤M7thのコードを学習。ベースのアレンジの仕方、譜面の書き方などを学習。バスドラとベースの
- ⑥オーギュメントのコードを学び、5thの変化を確認します。ギターの譜面の書き方も学習します。
- ⑦中間試験 指示されたスコア譜に書いて提出

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業の取り組みをチェックしますので、出席を重視することになります。また、スコア譜は、コードネームとコードが合っているか、指示されたようにベーストバスの動きを合わせて書いてあるかなどを採点します。出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 転回コードを勉強していきます。コードトーンのそれぞれの音を最低音にして考えます。また、16ビートのリズムも学習します。
- ⑨ ディミニッシュコードを4声で考えます。転回形も考えます。4リズムのアレンジも学習していきます。
- ⑩ 7sus4 のコード・代理和音としての分数コードを勉強します。ビートルズでは、シャッフルのリズムを学習します。
- ⑪ リード音指定の転回コードを勉強していきます。シャッフルの譜面をどう書くのか、基本を学びます。
- ⑫ ここまでで学習したコードの、3rd、7th、5th、sus4 の音程を確認します。
- ⑬ ここまでで学習したビートの8ビート、16ビート、シャッフルのバーと確認をします。
- ⑭ 短くてもいいので、オリジナル曲を作り、スコア譜に書いていきます。
- ⑮ オリジナル曲をスコア譜に書いて提出

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業の取り組みをチェックしますので、出席を重視することになります。曲名、テンポ表示、楽器名、スコア譜の省略する書き方やしっかりコードが書けているかをチェックします。出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

テキストの他に、各チャプターのスコア譜を配ります。参考になりますのでなくさないように。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅱ
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

春学期に学習したコードを確実に理解した上で、コード進行を学んでいきます。ドミナントモーション、エクステンションオブツーファイブドミナントモーション、セカンダリドミナント、順次進行など、いろいろな名曲を参考にしながら自分のものにしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コード、コード進行、ビートを学習しながら、オリジナル曲制作にチャレンジします。様々なジャンルのスタイルを参考にして、スコア譜の書き方を学びましょう。このクォーターでは、16 バウンス、ボサノバ、スィングのリズムを学習、アレンジの参考にし、2年のアンサンブルのためのオリジナル曲を仕上げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①初めてコード進行を学習していきます。はじめは、ドミナントモーション。4度進行の確認をしま
- ②前回に引き続き、ドミナントモーションを膨らませて、ツーファイブドミナントモーションをダイ
- ③sus4 から 3rd への進行そしてドミナントモーション。7sus4 からのドミナントモーション、内声の
- ④順次進行の勉強をします。ベースラインを上手に作って、流れを作っていきます。
- ⑤シンプルな2声のボイスイングを考えます。どの音が必要か、必要な音が複数あった場合、どう選択
- ⑥コード進行をボイスイング。必要な音をつないで、内声の流れを作っていきます。
- ⑦移調したスコア譜を提出。

中間試験評価方法・評価基準

出席を重視、普段の課題の取り組みも採点に反映させます。今クォーターで学んだコード進行を取り入れ、参考にしながらオリジナル曲やアレンジを考えて譜面にします。ビートルズで学んだ4リズムの譜面の書き方が出来ているかをチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧セカンダリードミナントを学習します。参考曲の譜面に、ドミナントモーションやツーファイブの印を書き込んで学習します。
- ⑨ボサノバのリズムを学び、使われているコードのテンションやコード進行を確認していきます。
- ⑩4ビートの曲を勉強します。どのように譜面に表すのか、どんなノリで演奏するのか、弾いたり書いたりしてみましよう。
- ⑪マイナーキー、スケール3種類、トニックマイナーに向かうツーファイブドミナントモーションなど、確認しましょう。
- ⑫テンションコードとコード進行の確認をします。また、オリジナル曲を考えます。
- ⑬これまでに学習したビートの復習です。様々なビートの書き表し方を確認。オリジナル曲の参考に
- ⑭2声3声のボイスイングの復習をしていきます。オリジナル曲の制作、アレンジをしっかりまとめていきます。
- ⑮オリジナル曲をスコア譜で提出

期末試験評価方法・評価基準

出席を重視します。普段の課題をしっかりと取り組んでいれば、いい作品が出来ているのではないかと思います。ボイスイングのやり方を覚え、演奏する時に役立ててほしいと思います。スコア譜の書き方も採点します。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

たくさんいろいろなジャンルの曲を聴いてください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅲ
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

1年生で学んだコード、コード進行、ビートなどを基本に、さらにステップアップして作・編曲を学んでいきます。ダイアトニックコードの持つスケールや、1音1音に対するアプローチ、ボイスイングを学習し、オリジナル曲を作っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

前半は、ダイアトニックコードの一つ一つが持っているスケールを学びます。後半は1音1音に対するボイスイングの練習をしていきます。また、オリジナル曲では、メロディーとコードとオブリガードなどをまとめて書く、マスターリズム譜を書いてみましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ダイアトニックコードのⅠ、Ⅱm7、Ⅲm7 のコードが持つスケールを学びます。オリジナル曲も少しずつ考えていきます。
- ②ダイアトニックコードのⅣ、Ⅳ7 のコードが持つスケールを学びます。オリジナル曲も少しずつ考えていきます。
- ③ダイアトニックコードのⅤ7 のコードが持つスケールを学びます。オリジナル曲も少しずつ考えていきます。
- ④ダイアトニックコードのⅥm7、Ⅶm7 b5 のコードが持つスケールを学びます。オリジナル曲も少しずつ考えていきます。
- ⑤ここまで学習したスケールをもう一度復習します。オリジナル曲も少しずつ考えていきます。
- ⑥オリジナル曲をマスターリズム譜に書いていきます。
- ⑦オリジナル曲をマスターリズム譜で提出。

中間試験評価方法・評価基準

出席を重視します。普段の課題への取り組みをチェックします。オリジナル曲も内容の他に、マスターリズム譜の書き方も採点の対象とします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1音1音に対するボイスイングの練習をします。イオニアン、ドリアン、フリジアンスケールでのアプローチを考えます。
- ⑨ 1音1音に対するボイスイングの練習をします。リディアン、リディアン7thスケールでのアプローチを考えます。
- ⑩ 1音1音に対するボイスイングの練習をします。ミクソリディアンスケールでのアプローチを考えます。
- ⑪ 1音1音に対するボイスイングの練習をします。エオリアン、ロクリアンスケールでのアプローチを考えます。
- ⑫ 総合的なボイスイングの練習をします。
- ⑬ 1年生で学んだスコア譜の書き方を思い出し、第1クォーターで作ったオリジナル曲をスコア譜に書いていきます。
- ⑭ スコア譜制作
- ⑮ オリジナル曲をスコア譜に書いて提出

期末試験評価方法・評価基準

出席、普段の課題への取り組み、分かりやすくスコア譜に書いてあるかを採点します。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

テキストはありませんので、この教科用のファイルを作ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅳ
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

コード進行のいろいろを、様々な参考曲をもとに勉強していきます。同じコード進行でたくさんのフレーズを作ったり、逆に同じメロディーにコードを変えて考えてみたりしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

毎回、曲の一部の 16 小節くらいのメロディーをボイスシングしていく練習をします。1音1音のアプローチも練習します。最終的には、そのテクニックをオリジナル曲のアレンジに活かしていきましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①循環コードでメロディーを考えていきます。今回は1-6-2-5の循環コードで考えます。
- ②循環コード② 2-5-1-6の循環コードで考えます。
- ③順次進行でコード進行を作って、メロディーを考えていきます。
- ④5thの変化やテンションの変化を生かしたコード進行を考えてみます。
- ⑤様々なコード進行を使ってオリジナル曲を制作していきます。
- ⑥オリジナル作品制作
- ⑦これまでで学習したコード進行やテクニックを生かし、オリジナル曲をアレンジしていきましょう。

中間試験評価方法・評価基準

出席重視、普段の課題への取り組み、スコア譜の基本、タイトル、テンポ、楽器名、ページナンバー、リハーサルマークなど、細かくチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ダブルリードのブロックコードテクニック
- ⑨ドロップ2のテクニック
- ⑩ドロップ3のテクニック
- ⑪音域や楽器によつてのドロップ2、3を使い分けるテクニック
- ⑫1音1音に対するボイスイングのアプローチテクニック
- ⑬オリジナル曲でもそれ以外でも、任意の曲を選び、4声でのアレンジ制作をします。
- ⑭前回の続きのアレンジ制作
- ⑮スコア譜で4声でのアレンジ作品を提出

期末試験評価方法・評価基準

出席重視、普段の課題への取り組み、これまでの課題を十分生かして制作してあるかどうかを採点します。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

これからも、この授業で学んだことを活かして、様々な作編曲を楽しんでください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法 I (クラシック系)
担当講師名	徳備 康純
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

尚美オリジナルのテキストに沿って、ピアノの書法をよく理解し、スコアを書く力をつけていくこと。
大譜表で考える力をつけて、大きな編成のスコアを理解できる力をつけていく。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

作編曲試演実習の授業と連動したデュオ作品を制作し、そのスコアを提出する。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ピアノという楽器の特徴。音色と音域、機能についての概要の説明
- ② ピアノにおける左手で伴奏する書法、特に適した音域などを学ぶ。
- ③ 単純な和音奏から、リズムを加え、バスを独立させていく方法を学ぶ。
- ④ 単純なワルツやマーチのバスを独立させて行う伴奏とオルタネーティング・ベースを学ぶ。
- ⑤ 音域に留意して、アルペジオによる伴奏を試作し、これを学ぶ。
- ⑥ バッハの平均律などのアルペジオの音楽の書法を分析し、いくつかの和声形から、アルペジオだけの音楽を試作します。
- ⑦ 単純な和音奏による伴奏から、リズム的な変奏を加え、バスを独立させていく方法を学びます。

中間試験評価方法・評価基準

簡単なメロディー+伴奏のピアノの曲を書き、それを提出する。ピアノの音域の特徴を生かした伴奏が書けているか、メロディーの音域が極端になっていないかなどを考慮し、総合的に評価する。試験80%、出席点20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 片手で行っていた伴奏を、ソロ楽器とピアノの二重奏用に両手で行う書法を学ぶ。
- ⑨ マーチやワルツでのリズム的なパターンでの両手伴奏の方法を学ぶ。
- ⑩ アルペジオで両手にアルペジオを持つもの、左手がバスのもの、両手同時のアルペジオとなるものなどを学びます。
- ⑪ バスを延ばす、あるいは保続するなどして、バスのラインをを強調することで、音楽を立体的に聞かせる方法を学ぶ
- ⑫ カウンター・メロディーで、音楽を立体的に聞かせる方法を学びます。
- ⑬ 独奏楽器と役割を換えての場合の独奏楽器のパートの書き方とピアノの音域の分割を学ぶ。
- ⑭ 休符をソロにどれだけ与えるか、またピアノは休みはあるのかなど、全休符について学ぶ。
- ⑮ 制作した作品のスコアを浄書し、それを提出する。

期末試験評価方法・評価基準

複合形式によるデュオ作品のスコアを提出し、楽器法、和声法、構成などを、総合的に評価する。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅱ(クラシック系)
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

作編曲試演実習の授業と連動しつつ、弦楽四重奏の各楽器の性能、特色を理解し、有名曲などを分析しながら、楽器の特性を生かした書法について学び、さらに弦楽四重奏などのアンサンブルの書法にまで理解を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

弦楽三重奏、もしくは四重奏とそれぞれの専攻楽器とのオリジナル作品を下書きから室内楽作品へと仕上げることで作曲・編曲の力がつきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 第1テーマの作曲：ワルツかマーチを前提に第1テーマを作ります。
- ② 第2テーマの作曲：近親調について説明し、名曲における第1テーマと第2テーマの関係を学び、前の時間で作ったテーマに対する第2テーマを作ります。
- ③ 大楽節に発展させる：半終止と完全終止を学び、8小節のメロディーを繰り返して16小節の大楽節に発展させます。
- ④ 最初の部分のブリッジを作る：ブリッジのコード・パターンを説明し、第1主題の一部のゼクエントでそこに展開させて、ブリッジを作ります。
- ⑤ 中間部のブリッジを作る：異なるコード・パターンによる第2主題の動機を使ったブリッジを作ります。
- ⑥ 曲にまとめる：AからB、BからAへの転調部分のつなぎを作ります。
- ⑦ 前奏とコーダをつけて、コンデンススコアを提出。

中間試験評価方法・評価基準

楽器法も考慮しつつ、室内楽作品の下書きとして、まとまった作品に仕上がっているかどうかを、その和声の流れ、構成などに留意しつつ総合的に評価する。試験80%、出席点20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 弦楽四重奏の書法：弦楽の楽器法を Violin Viola, Violoncello の弦楽四重奏の編成を学び、奏法などを紹介し、弦楽四重奏の概略を学びます。
- ⑨ ピツィカートを使っての編曲例を分析し、その書法を学びます。
- ⑩ トレモロを使っての編曲例を分析し、その書法を学びます。
- ⑪ 重音奏法の説明と編曲例を分析し、その書法を学びます。
- ⑫ 重音奏法を応用した分散和音の編曲例を分析し、その書法を学びます。
- ⑬ 自然ハーモニクスと人工ハーモニクスの編曲例を分析し、その書法を学びます。
- ⑭ 弦楽の様々な書法を理解し、下書きから弦楽四重奏のスコアを制作する。
- ⑮ 制作した作品のスコアを浄書し、それを提出する。

期末試験評価方法・評価基準

楽器法を理解した、効果的なアンサンブル作品となっているかなどに留意しつつ、作品の完成度を総合的に評価する。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅲ(クラシック系)
担当講師名	徳備 康純
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

木管五重奏もしくは金管五重奏、サクソ四重奏の演奏会用の小品を、その下書きをまず完成させ、そこから楽器法を学びながら、木管五重奏の書法に則りスコアを制作します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

木管五重奏などの編成の作品を適時紹介・分析をしつつ、オリジナル作品を下書きから室内楽作品へと仕上げることで作曲・編曲の力がつきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 木管五重奏の各楽器の紹介と金管五重奏、サクソ四重奏のコンデンス・スコアの書き方について説明。
- ② 第1テーマと第2テーマの関連について、古典作品の分析などを通じて学び、各々が試作します。
- ③ 試作したテーマを使って、まずAの部分を大譜表にまとめていく。
- ④ 試作したテーマを使って、中間部を大譜表にまとめていく。
- ⑤ 各部分のつながりで転調をスムーズに行いつつ、曲をまとめていく。
- ⑥ イントロ、エンディングを主題を用いつつ制作する。
- ⑦ コンデンス・スコアを完成させ、提出する。

中間試験評価方法・評価基準

オリジナルの木管五重奏を前提としたコンデンススコアとなっているか、また和声の流れ、構成などに無理がないかなどを総合的に評価します。試験80%、出席点20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンサンブルの楽器法を復習し、スコアの書き方を学びます。
- ⑨ ボザの木管五重奏のための「スケルツォ」のスコアを分析し、アンサンブルの書法、楽器の受け渡しを学びます。
- ⑩ アーノルドの金管五重奏のための作品のスコアを分析し、金管特有のヴォイシングなどを学びます。
- ⑪ デザンクロのサクソ四重奏曲の分析を通じて、サクソ四重奏のヴォイシングなどを学びます。
- ⑫ 各自コンデンス・スコアから、それぞれの専門楽器を含む編成の四重奏、五重奏のスコアへ、まず最初の部分の編曲を行います。
- ⑬ 中間部の編曲を行い、編曲の変化と統一について学んでいきます。
- ⑭ 最初の部分と変化した、再現部の編曲を行い、スコアの完成を目指します。
- ⑮ 完成したスコアを浄書し、提出します。

期末試験評価方法・評価基準

オリジナルの木管五重奏作品のスコアを提出し、その作品を音出しする。楽器法を理解し、正しいスコアを書けているか、そして音楽としてまとまりのある音楽がその編成で実現できているかを総合的に判断し、評価する。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅳ(クラシック系)
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

作編曲試演実習の授業と連動して、近現代の技法から今日でも使える簡単ないくつかの技法を作品分析などを通じて学び、それを応用して作曲を行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な近代的な様式・技法によるコンデンス・スコアを制作し、そこから木管・弦楽による十重奏(+ソロ)の室内楽作品に編曲してそのスコアを提出する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 教会旋法について概略を説明し、ドビュッシーなどの作品での応用例を分析します。
- ② 合成音階によるモード技法について説明し、バルトーク、イベールなどの作品の応用例を学びます。
- ③ 旋法を応用して、第1テーマ、第2テーマを試作します。
- ④ モード技法による第1テーマからAの部分のコンデンススコアを制作します。
- ⑤ モード技法による第2テーマからBの部分のコンデンススコアを制作します。
- ⑥ 移行部と再現部を作り、曲をまとめる
- ⑦ イントロとエンディングを作り、コンデンススコアを完成させ、提出する。

中間試験評価方法・評価基準

授業でとりあげた技法を使用しての作品作りが出来ているかに留意し、提出された作品を評価する。試験80%、出席点20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 木管(fl/ob/cl/fg/hr)の楽器法を復習します。
- ⑨ 弦楽の楽器法の復習とコントラバスの楽器法について学びます。
- ⑩ デュボアの十重奏曲のスコアの分析し、音の厚みの変化、重ね方などについて学び、コンデンスからスコアを試作します。
- ⑪ イベールのサクソ協奏曲を分析し、書法について理解を深めながら、更に自らの作品のコンデンススコアから総譜を制作します。
- ⑫ ブリテンのシンフォニエッタを分析し、書法について理解を深めながら、更に自らの作品のコンデンススコアから総譜を制作します。
- ⑬ コンデンス・スコアから総譜を制作し、完成させる。
- ⑭ 作品の浄書を行い、提出する。
- ⑮ 作品の音出しを自ら主導して行い、録音する。

期末試験評価方法・評価基準

楽器法を理解した、効果的なアンサンブル作品となっているかなどに留意しつつ、作品の完成度を総合的に評価する。 試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 I (クラシック)
担当講師名	徳備 康純
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

作編曲技法と連動して、それぞれの専攻楽器とピアノ、あるいはヴァイオリンもしくはフルートなどの高音楽器とピアノによるデュオ作品を制作し、それを音出しして録音する。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基礎楽式による複合3部形式以上の小品を自ら作曲し、それをそれぞれの専攻楽器、もしくはフルートなどの高音楽器とピアノのための二重奏作品に編曲することができるようになります。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 第1テーマの作曲 : 音程と調性の関係と、それからまずワルツかマーチを前提に第1テーマを作ります。
- ② 第2テーマの作曲 : 近親調について説明し、名曲における第1テーマと第2テーマの関係を学び、前の時間で作ったテーマに対する第2テーマを作ります。
- ③ 大楽節に発展させる : 半終止と完全終止を学び、8小節のメロディーを繰り返して16小節の大楽節に発展させます。
- ④ 最初の部分のブリッジを作る : ブリッジのコード・パターンを説明し、第1主題の一部のゼクエントでそこに展開させて、ブリッジを作ります。
- ⑤ 中間部のブリッジを作る : 異なるコード・パターンによる第2主題の動機を使ったブリッジを作ります。
- ⑥ 曲にまとめる : AからB、BからAへの転調部分のつなぎを作る
- ⑦ コーダを作る : 前奏とコーダをつけて、コンデンススコアを提出する。

中間試験評価方法・評価基準

楽曲から和声の流れを理解し、終止形の基本的な形を（完全終止、半終止等）を理解し、実際の楽曲における用法を書きだし、そのモデル化をして活用できるようにできたかどうかを提出作品から総合的に評価する。試験 80%、出席点 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ヴァイオリン/フルートの楽器法：楽器法を学び、特徴のある奏法(pizz)やトレモロ、重音奏法、音域による音色の変化などを学びます。
- ⑨ デュオ作品への編曲の設計：デュオ作品への編曲の設計を行い、大譜表から2つの楽器にまずメモで振り分けていきます。
- ⑩ デュオ作品への編曲(Aの部分)：最初の部分のデュオ作品への編曲を設計に基づいて行います。
- ⑪ デュオ作品への編曲(中間部)：中間部のデュオ作品への編曲を、設計に基づいて各自行い、の指導をそれぞれに対して行います。
- ⑫ デュオ作品への編曲(再現部)：再現部のデュオ作品への編曲を、設計に基づいて各自行い、の指導をそれぞれに対して行います。
- ⑬ スコアの仕上げ：スコアを仕上げ、清書する。スラーやアーティキュレーション、ダイナミック、テンポの変化などをもれなく書き込む。
- ⑭ パート譜の制作：パート譜の書き方を指導し、それに基づきパート譜を制作する
- ⑮ 二重奏作品の音だし：自ら作曲し、編曲したデュオ作品を音出しし、録音する。

期末試験評価方法・評価基準

複合形式によるデュオ作品らしいやりとりが出来ているか。和音が単純であっても正確につけられているか。等を、音出しでの演奏結果と総合的に判断し、評価する。試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 II (クラシック)
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

作編曲試演実習の内容と連動して、それぞれの専攻楽器と弦楽三重奏、もしくは四重奏の演奏会用の室内楽作品を、まず下書きとしてコンデンス・スコアを制作し、そこからアンサンブルへと編曲。演奏会用の小品を制作し、それを音出しして録音する。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

作編曲試演実習の授業と連動しつつ、弦楽三重奏、もしくは四重奏とそれぞれの専攻楽器とのアンサンブル作品のスコアとパート譜を制作し、自らが主導する形で音出しを行う。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① コンデンス・スコアの書き方について。大譜表に下書きをする意味と重要性について理解する
- ② 第1テーマの作曲：曲の性格を決めて制作し、それに関連づけての第2テーマを制作する。
- ③ 大楽節に発展させる：春学期のことを復習しつつ、テーマを発展させ、コンデンス・スコアを制作。
- ④ 最初の部分のブリッジを作る：ブリッジのコード・パターンを復習。第1主題の一部のゼクエツでそこに展開させて、ブリッジを作ります。
- ⑤ 中間部のブリッジを作る：中間部も同様にコンデンス・スコアを制作する。
- ⑥ 曲にまとめる：AからB、BからAへの転調部分のつなぎを作ります。
- ⑦ 前奏とコーダをつけて、コンデンススコアを提出。

中間試験評価方法・評価基準

楽器法を理解した、効果的なアンサンブル作品となっているかなどに留意しつつ、作品の完成度を総合的に評価する。 試験 80%、出席点 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽器法：弦楽の楽器法を学び、特徴のある奏法(pizz)やトレモロ、重音奏法などを学びます。
- ⑨ コンデンス・スコアから弦楽四重奏のスコアへの編曲の試作を、特にピツィカートを使って行う。
- ⑩ コンデンス・スコアから弦楽四重奏のスコアへの編曲の試作を、特にトレモロを使って行う。
- ⑪ コンデンス・スコアから弦楽四重奏のスコアへの編曲の試作を、特に重音奏法を使って行う。
- ⑫ コンデンス・スコアから弦楽四重奏のスコアへの編曲の試作を、特に重音奏法を応用した分散和音を使って行う。
- ⑬ コンデンス・スコアから弦楽四重奏のスコアへの編曲の試作を、特にハーモニクスを応用した分散和音を使って行う。
- ⑭ スコアを完成させ、パート譜の制作を行う。
- ⑮ 制作した作品の試演・録音を各々が主導して行う。

期末試験評価方法・評価基準

楽器法を理解した、効果的なアンサンブル作品となっているかなどに留意しつつ、作品の完成度を総合的に評価する。 試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 III (クラシック)
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

作編曲技法と連動して、木管五重奏、金管五重奏、あるいはサクソフォン四重奏などの編成による演奏会などで演奏できる小品を制作し、自らが主導してその音だしを行う。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

木管五重奏、金管五重奏、あるいはサクソフォン四重奏などの編成によるオリジナル作品を下書きから室内楽作品へと仕上げることで作曲・編曲の力がつきます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 編成の説明 : 編成の説明と書法についての説明
- ② 第1テーマを作る : 各自選んだ編成のための第1テーマを作る。
- ③ 第2テーマを作る : 第2テーマの作り方について復習し、その方法により第2テーマを作曲する。
- ④ 第1部のブリッジを作る : 第1テーマを大楽節に発展させ、続けてブリッジを作る。
- ⑤ 中間部のブリッジを作る : 第2テーマを大楽節に発展させ、続けてブリッジを作る。
- ⑥ 転調部分の制作 : 第1部から中間部へ、そして中間部から再現部への移行部(転調)を作る。
- ⑦ コーダを作曲する : 主題を使って、作品に相応しいコーダを作り、曲を仕上げる。

中間試験評価方法・評価基準

大譜表で提出されたオリジナル作品をメロディーとハーモニーのミスはないか、あるいは五重奏などの編成を想定した楽譜になっているかなどを考慮しつつ、総合的に判断し評価する。試験80%、出席点20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 木管五重奏の楽器について：フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、バスの各楽器の音域、特徴などについて説明を行います。
- ⑨ 金管五重奏の各楽器についての説明：トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバの各楽器の音域、特徴などについての説明を行います。
- ⑩ 編曲の準備：コンデンス・スコアからそれぞれの編成に合った楽器への振りわけをメモしていく。
- ⑪ 最初の部分を編曲：編曲を行い、一部を実際に音出しして確認してみます。
- ⑫ 中間部の編曲：中間部の編曲をコンデンスから行う。
- ⑬ 再現部の編曲：再現部の編曲をコンデンスから行い、全体を推敲し、仕上げる。
- ⑭ バート譜の制作：バート譜を制作し、演奏者にわたす。
- ⑮ 試演・録音：自ら作曲し、編曲した五重奏作品を音出しし、録音する。

期末試験評価方法・評価基準

それぞれが提出した作品のスコアから、各自が楽器法をよく理解しているか、そしてスコアは正確に書けているかなどを総合的にその完成度を判断し評価する。試験80%、出席点20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 IV (クラシック)
担当講師名	徳備 康純
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ音楽振興会での20年あまりに及ぶ音楽スタッフ手としての勤務の後、作曲家として海外を含めて30年以上にわたって作品を発表し、全音をはじめとする出版社からも作品を発表している。

授業内容

作編曲技法の授業と連動して、一管編成のオーケストラ編成による演奏会などで演奏できる作品を大譜表にて下書きを完成し、そしてそこから楽器法に留意しつつ、フル・スコアとパート譜を制作し、その音だしをする。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

一管編成のオーケストラの原型の編成での作品制作を通じて、大きな編成の作曲・編曲からその実演まで体験することで、様々な編成の作品制作への自信と力がつきます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 教会旋法を用いてのテーマの試作を行います。
- ② 合成音階を用いてのテーマの試作を行います。
- ③ モード技法の伴奏の書き方をドビュッシーの「映像」やストラヴィンスキーの組曲第1番などを分析し、それらの技法を用いて試作します。
- ④ モード技法による第1テーマからAの部分のコンデンススコアを制作します。
- ⑤ モード技法による第2テーマからBの部分のコンデンススコアを制作します。
- ⑥ 移行部と再現部を作り、曲をまとめる
- ⑦ コンデンス・スコアを完成させ、提出する

中間試験評価方法・評価基準

授業でとりあげた技法を使用しての作品作りが出来ているかに留意し、提出された作品を評価する。試験80%、出席点20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成の説明：楽器法、弦と管の合わせ方、拡大法などを説明する。
- ⑨ コンデンス・スコアから総譜を試作してみる。
- ⑩ 楽器の厚みの変化、音の重ね方に特に留意してスコアの試作を行う。
- ⑪ ソロの大切さに留意し、ブリテンのシンフォニエッタを参考に、メロディーの受け渡しなどに留意してスコア制作を行う。
- ⑫ イベールの協奏曲を参考に、Dixtuor とソロの受け渡し、伴奏などについて留意してスコア制作を行う。
- ⑬ 総譜を完成させる。
- ⑭ 浄書を行い、パート譜を制作する。
- ⑮ 作品の音出しを自ら主導して行い、録音する。

期末試験評価方法・評価基準

第3クォーターで制作した作品を、大編成の室内楽作品へ編曲し、スコアとパート譜を制作し、自らが主導して音出しを行う。提試験 80%、出席点 20%。

特記事項

学科名	ピアノ学科
科目名	音楽ソフト基礎 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

パソコンの基本操作とアプリケーションについて学びます。Word と Excel では、文字の入力、装飾、書式設定などを確実に習得し、さらに応用力も身につけます。PowerPoint では、スライド作成の技術だけでなく、プレゼンテーション能力も高めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Word, Excel を使用して文章の作成、表の作成ができるようになることを目指します。Powerpoint を使用してプレゼンテーションを作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① PC の基本操作、Word の基本操作、タイピング、日本語変換について学びます。
- ② Word の基本的な編集・設定について学びます。
- ③ Word の便利な機能について学びます。ここまでの復習で達成度を確認します。
- ④ Excel の基本操作を学習します。
- ⑤ 基本的な数式と関数の利用を学びます。
- ⑥ エクセルを使って予定表を作成します。
- ⑦ 課題を完成させ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ プレゼンテーションについて学習します。
- ⑨ PowerPointの基本操作をマスターします。
- ⑩ プレゼンテーションのテーマを考えます。
- ⑪ プレゼンテーションに必要な資料を収集し、スライドで整理します。
- ⑫ スライドのデザインを考えます。プレゼン内容のプランを提出します。
- ⑬ ここまでの内容の復習をします。さまざまなオブジェクトの挿入を演習します。
- ⑭ プレゼンテーションを完成させます。
- ⑮ プレゼンテーションファイルを完成させ、提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5点、遅刻 3点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

学科名	ピアノ学科
科目名	音楽ソフト基礎 II
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

Finale の機能を例題演習によって習得し、コンピューターでの楽譜作成技術を身につけます。メロディ、コード、歌詞の基本的な楽譜の作り方を学びます。毎授業で多くのパターン、多くの曲の楽譜を作成しながら、使用する機能を増やしていくことにより、復習と新規習得を同時に行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コード、歌詞を伴うメロディ譜から、簡単なピアノ譜の作成を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Finale の基本画面について学びます。デフォルトファイルの作成と編集を学びます。
- ② ステップ入力でメロディを入力します。メロディ譜を作成します。
- ③ コードの入力。基本的な記号を学びます。作成したメロディ譜にコードを入力し完成させます。
- ④ 歌詞の入力を学びます。
- ⑤ メロ譜の作成と特殊な記号について学習します。
- ⑥ 課題曲の譜面を入力します
- ⑦ 課題を完成させ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 基本操作の確認。ピアノ譜の作成について学びます
- ⑨ レイヤーの使い方。高速ステップ入力。
- ⑩ ドラム・パーカッションの入力方法を学びます。
- ⑪ 発想記号・変形図形・アーティキュレーションツールについて学びます。
- ⑫ ピアノ譜を作成します。
- ⑬ セットアップ・ウィザードを使用した新規作成。スコアマネージャを学習します。
- ⑭ 課題曲の譜面を入力します。
- ⑮ 課題を完成させ提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	伴奏法 I
担当講師名	多 紗於里
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は管・弦・打楽器・声楽・オペラの伴奏、オーケストラピアノ、伴奏法セミナー指導と音楽祭伴奏スタッフのマネージメントなどの実務経験を持ちます。

授業内容

様々な伴奏スタイル、伴奏スキル、リハーサルテクニックなどを学び、他の楽器の特徴的なポイント、楽譜の読み方、歌詞の理解と発音などを研究していきます。初見トレーニングも定期的に行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

伴奏レパートリーを研究し、多面的な伴奏能力を身につけます。「伴奏」の理解、パートの練習法を学びます。1Q は楽器の伴奏について、2Q は歌の伴奏について学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業内容の確認に続き、伴奏者に必要なスキルなどを学びます。初見トレーニングも始めます
- ② ハイドン・チェロ・コンチェルト前奏のカットを練習します。理想的なカットのタイミングを考えます
- ③ モーツァルト・ヴァイオリン協奏曲の前奏カットを練習します。弦楽器とのバランスについて考えます
- ④ シュターミッツとホーフマイスター・ヴィオラ・コンチェルトの伴奏法とハ音記号の読み方を学びます
- ⑤ モーツァルト・クラリネット・コンチェルト前奏のカットの他、移調楽譜の読み方を学びます
- ⑥ モーツァルト・ホルン・コンチェルト 3 曲の前奏カットと多数の移調楽器について学びます
- ⑦ 指定されたピアノ・コンチェルト前奏の伴奏パートを演奏。初見（ピアノ曲）

中間試験評価方法・評価基準

授業出席と準備・参加 70%
試験・演奏実技 30%
欠席、遅刻は減点

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 様々な声楽スタイルの伴奏と歌詞の理解と発音の重要性について学びます
- ⑨ コラールの伴奏と練習方法について学びます。コラールのテキストの言語を見分けられるか確認します
- ⑩ ソリスト、合唱とオーケストラのための大曲の伴奏と練習方法とラテン語の発音について学びます
- ⑪ ドイツ語リートレパートリーより複数の曲目を分析します。ドイツ語の歌詞の発音を聴き取りリピートします
- ⑫ フランス語の歌曲を分析し、発音について学びます。フランス語の歌詞を聴き取りリピートします
- ⑬ バロックと古典派オペラの伴奏について学びます。オールドイングリッシュとドイツ語発音の確認します
- ⑭ ロマン派のオペラの伴奏について学びます。ヴェルディのオペラの例でイタリア語発音について学びます
- ⑮ ドイツ語歌曲の分析と解説（口頭）とピアノパートの演奏発表。初見(4声コラール)

期末試験評価方法・評価基準

授業出席と準備・参加 70%
試験：実技・解説・初見 30%
欠席、遅刻は減点

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	伴奏法 II
担当講師名	多 紗於里
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は管・弦・打楽器・声楽・オペラの伴奏、オーケストラピアノ、伴奏法セミナー指導と音楽祭伴奏スタッフのマネージメントなどの実務経験を持ちます。

授業内容

秋学期のキーワードは「コラボレーション」で、弦楽器、木管楽器とヴォーカルのソリストと実際に合わせてみます。相手とのコミュニケーションスキル、リハーサルテクニック等を高めます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

伴奏レパートリーの知識を深めて、ソリストと共に曲を作り上げていきます。春学期に続けて初見トレーニングもグレードアップします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ドイツ語歌曲の合わせを準備し、パートを練習します。歌詞の発音と内容理解を確認します
- ② ヴォーカルのソリストと準備した歌曲を合わせてみます。アンサンブル、ブレスのタイミングなどに注目します
- ③ ヴァイオリンとの伴奏を準備してパートの練習を行い、カットなどを確認します。
- ④ 準備した曲目をヴァイオリン奏者と合わせてみます。弦楽器、弓と奏法について学びます
- ⑤ 木管楽器の伴奏を準備してパートの練習を行い、カットなどを確認します
- ⑥ 準備した曲目を木管楽器奏者と合わせてみます。木管楽器の特徴と奏法について学びます
- ⑦ 合唱の伴奏。中高年の歌の伴奏（日本語）。初見（伴奏曲）

中間試験評価方法・評価基準

授業出席と準備・参加 70%
試験・演奏実技：30% 欠席、遅刻は減点

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ドイツ語歌曲の合わせを準備・練習し、歌詞の発音と内容理解を確認します
- ⑨ ヴォーカリストと準備した曲目を合わせてみます。ブレスのタイミングなどに注目します
- ⑩ ヴァイオリンと木管の伴奏の準備を続けます。パートを練習し、理想的なテンポで合わせをできるようにします
- ⑪ ヴァイオリンとの合わせを続けます。1回目の合わせで学んだスキルの確認とボーイングに注目します
- ⑫ 木管楽器との合わせを続けます。1回目の合わせで学んだスキルの確認とブレスのタイミングなどに注目します
- ⑬ ヴァイオリンとの合わせを続け、ヴァイオリニストにとって理想的なテンポで通せるか最終確認します
- ⑭ 木管楽器と合わせを続け、木管楽器奏者にとって理想的なテンポで通せるか最終確認します
- ⑮ 秋学期中重ねて練習してきたヴァイオリン・木管の伴奏を演奏発表します。初見（ピアノ曲）

期末試験評価方法・評価基準

授業出席と準備・参加 70%

試験・演奏実技：30%

欠席、遅刻は減点

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ音楽史 I
担当講師名	武正久美子
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はピアニストとして演奏会出演、企画、国内外の演奏家との共演の他、国際音楽祭、マスタークラスレッスン、講習会での英語通訳・コレペティトゥアの実務経験を持ちます。

授業内容

西洋音楽、クラシック音楽の歴史を学びます。春学期は、中世ヨーロッパからバロック時代、古典派を中心に、当時の作曲家たちやその作品のスタイルを知り、どのように音楽が発展したかを考察します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

日ごろ親しんでいる楽曲に、どのような背景があるのかを知り、作品とその作曲家への理解を深めることを目的としています。幅広い視点と知識を持つことで、より豊かな感性を持って音楽に向きあえるよう目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 音楽史概要/中世ヨーロッパ・キリスト教音楽の始まり/グレゴリオ聖歌の発展とポリフォニー音楽の起源
- ② 教会旋法の響きとは/ゴシック様式の芸術/ノートルダム大聖堂の音楽/中世の楽譜とリズム表記/アルス ノヴァ
- ③ ルネサンスの音楽/世俗音楽の興隆
- ④ バロック時代/概要と音楽の特徴/通奏低音、対位法/長・短調の確立
- ⑤ 器楽・鍵盤音楽作品の種類～J. S. バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの作品を通して～
- ⑥ 舞曲・組曲の種類と特徴/変奏曲、トッカータ、コンチェルト グロッソ 他
- ⑦ 授業内試験

中間試験評価方法・評価基準

実施前にあらかじめ出題する設問に対して、各自自作の文章にて回答する記述式試験を行

います。

試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧ 古典派/概要と音楽の特徴/前古典派の作曲家たちと作風
- ⑨ 多感様式・C. P. E. バッハのソナタ/オーケストラの発展・マンハイム楽派
- ⑩ ウィーン古典派三大巨匠/ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの交響曲と弦楽四重奏曲
- ⑪ ウィーン古典派・様々な作品/オーケストラのしくみと楽器の音色
- ⑫ ソナタ形式、ロンド形式の構成/主題労作・モーツァルトの協奏曲、交響曲の分析から知る
- ⑬ ベートーヴェンのピアノソナタ/作風、音域、ペダルの使用に見るピアノの発達
- ⑭ 18世紀のオペラ/オペラの種類と名作
- ⑮ 授業内試験

期末試験評価方法・評価基準

実施前にあらかじめ出題する設問に対して、各自自作の文章にて回答する記述式試験を行います。

試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ音楽史Ⅱ
担当講師名	武正久美子
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ピアニストとして演奏会出演、企画、国内外の演奏家との共演の他、国際音楽祭、マスタークラス、講習会での英語通訳・コレペティトゥアの実務経験を持ちます。

授業内容

ロマン派から近現代をピアノ音楽中心に学びます。また、協奏曲、交響曲、オペラなど多様なスタイルの作品も紹介しながら、各時代の作曲家の個性に触れていきます。20世紀以降は、新しい感性や思想を追求した現代音楽家、ジャズの影響、邦人音楽家も取り上げ、現代に至る迄の音楽の発展や変化を辿ります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

時代の流れと背景を学び、各時代の音楽的特徴、活躍した音楽家や作品への理解を深めていくことが目標です。楽器の機能、演奏会のスタイル、音楽家の在り方など歴史上でのクラシック音楽の変化と過程を知り、その価値を再確認する事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ロマン派概要/時代背景と文化の特色、文学とのつながり
- ② ロマン派を支えるピアノ音楽/古典派的なロマン派作曲家たち/シューベルトのドイツ歌曲
- ③ シューマンの歌曲とピアノ作品/ヴィルトゥオーゾの活躍/ピアノの発達と演奏会スタイルの変化
- ④ 標題音楽/リストの交響詩
- ⑤ 国民楽派の音楽/東欧、北欧、ヨーロッパ諸国の音楽家/ロシア五人組
- ⑥ ロマン派のオペラ～イタリア、ドイツ、フランス～作曲家と作品
- ⑦ 授業内試験

中間試験評価方法・評価基準

実施前にあらかじめ出題する設問に対し、自作の文章で答える記述式試験を行います。
試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 19世紀末のウィーン・アールヌーヴォーの芸術/フランス音楽の再始動/印象主義の絵画と音楽への影響
- ⑨ ドビュッシーの音楽/前音音階の響きと音色に表れる印象派の趣
- ⑩ 近代ロシアの作曲家/スクリャービンの神秘和音/ラフマニノフ
- ⑪ 新ウィーン楽派/シェーンベルクの十二音技法/リズムの改革・ストラヴィンスキー、バルトーク
- ⑫ 新古典主義・フランス六人組の作風/ジャズの影響
- ⑬ メシアン/その音楽観・日本人音楽家とのつながり
- ⑭ ケージ・偶然性の音楽/新発想のピアノ奏法/プリペアドピアノ他、日本における西洋音楽
- ⑮ 授業内試験

期末試験評価方法・評価基準

実施前にあらかじめ出題する設問に対し、自作の文章で答える記述式試験を行います。
試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ステージング研究
担当講師名	大導寺錬太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内のコンクール審査員、PTNA ステップのアドバイザーを担当、30 回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

授業内容

ピアノにおける基本的なステージマナーを実際の演奏を伴った形で学びます。舞台に立つ時の心構えも含め演奏内容も向上するような美しく自然なマナーを身に付けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

舞台上の振舞の良し悪しが、観客の印象を大きく左右する事を良く理解し、無駄の無い美しいステージマナーを実践できることが目標です。ステージマナーに集中する為には演奏に余裕が必要、クレ読み・初見を行ない読譜力を高めます。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 良いステージマナー・悪いステージマナー: コンサート・発表会の映像を鑑賞し、ステージ上の振る舞いで注意すべきポイントを解説します。
- ② ピアノソロステージマナー Vol.1(+初見): 演奏を伴ったステージマナーの実践。各学生 1～2 曲演奏し、その際のステージマナーをチェックします。
- ③ ピアノソロステージマナー Vol.2(+初見): Vol.1 の講評まとめを配付、各自確認し Vol.2 に活かします。前回と異なる曲を演奏。初見を行なう事もあります。
- ④ 連弾ステージマナー Vol.1(+初見): 3 人 1 組の班を作り、各班数曲を披露。3 回の授業内で必ず Primo・Secondo・譜捲りの役割を体験して頂きます。
- ⑤ 連弾ステージマナー Vol.2(+初見・クレ読み): 第 4 回の時と役割を変えて実施。読譜力向上の為、初見に加えクレ読みを行なうこともあります。
- ⑥ 連弾ステージマナー Vol.3(+初見・クレ読み): 第 4・5 回の時と役割を変えて実施。更に高度な初見・クレ読み課題を行ないます。
- ⑦ 授業のまとめ(3 クォーター末試験): 自由曲(任意のソロ又は連弾曲)の演奏を伴ったステージマナーの実践、初見とクレ読み課題を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

出席 25%(第 1 回～第 6 回各 3 点、試験の第 7 回のみ 7 点で計算。遅刻は減点 1)、平常点 25%(受講態度の他、授業内での演奏内容や講評記入内容も含まれます)、試験 50%の割合で評価します。

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧連弾ステージマナーVol.5(6 手連弾): 6 手連弾のステージマナーを学びます。人数が増えることで注意すべきポイントも多くなります。
- ⑨連弾ステージマナーVol.6(6 手連弾): 第 1 回と曲又は担当を変えて実施。ステージマナーの他、演奏面(アンサンブルのポイント等)も指導します。
- ⑩2 台ピアノステージマナーVol.1: 初見演奏を伴う 2 台 PF のステージマナーを学びます。各パートの演奏・譜捲りを体験し注意点を整理します。
- ⑪2 台ピアノステージマナーVol.2: 中規模の作品でステージマナーを確認します。演奏面(主にリズムやテンポの正確さ等)も指導します。
- ⑫2 台ピアノステージマナーVol.3: 中規模の作品でステージマナーを確認します。演奏面(合図の出し方、響きのバランス等)も指導します。
- ⑬2 台ピアノステージマナーVol.4: 中規模の作品でのステージマナー確認。演奏面(細部の表現等)も指導します。
- ⑭2 台ピアノステージマナーVol.5: 試験に向けてのリハーサルを行いません。問題点を整理し、試験までの調整の仕方を考えます。
- ⑮授業のまとめ(4 クォーター末試験): 演奏(2 台ピアノ)を伴ったステージマナーの披露。又ステージマナーの注意点を問う筆記試験も行いません。

期末試験評価方法・評価基準

出席 25%(第 1 回～第 7 回各 3 点、試験の第 8 回のみ 4 点で計算。遅刻は減点 1)、平常点 25%(受講態度の他、授業内での演奏内容や講評記入内容も含まれます)、試験 50%の割合で評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンサート企画研究
担当講師名	大導寺錬太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内のコンクール審査員、PTNA ステップのアドバイザーを担当、30 回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

授業内容

コンサートを企画運営する事の難しさ、楽しさを体験。具体的な聴衆をイメージしたコンサートを企画します。チラシやプログラムノートも作成、プレイヤーとしての更なる自覚、責任を持ちましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

決められた時間(3～40分)の中で、対象となる聴衆やテーマに沿った内容で楽しめるコンサートを披露する事が目標です。その為に必要なノウハウを体得できる上、グループの中で作業を進めるうちに調整力や忍耐力も養われます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①試験(コンサート)に向け:6 回の授業の中でどのように準備を進めていくかを解説します。チラシ等の提出締切日も告知します。
- ②演奏会のプログラムを考えよう Vol.1:幾つかの班に分かれてテーマを決め、それに沿ったプログラムを考えます。演奏時間の計測等も行ないます。
- ③演奏会のプログラムを考えよう Vol.2:幾つかの班に分かれてテーマを決め、それに沿ったプログラムを考え、完成させます。
- ④チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.1:チラシのデザインや盛り込む内容を検討します。字体や文字の大きさも考える必要があります。
- ⑤チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.2:演奏曲について調べ、曲目解説を仕上げます(文字校正含む)。レイアウトも検討します。
- ⑥リハーサル:本番と同じように全体を通します。演奏面・ステージマナー等様々な角度から確認、問題点を整理します。
- ⑦1 クォーター末試験(ミニコンサート):30～40 分程度の演奏会を実施。他班に対しての講評も記入、客観的に見る事で自身の反省へとつなげます。

中間試験評価方法・評価基準

出席 25%、平常点 25%(試験の講評内容、普段の受講態度等)、試験 50%(チラシ・プログラムノートの完成度、ステージマナー、演奏内容等、複数項目を採点し 50 点に換算)の割合で評価します。

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧演奏会を企画しよう/スケジュール検討:具体的な聴衆をイメージして演奏会を企画します。試験に向けた準備のスケジュールを検討します。
- ⑨演奏会のプログラムを考えよう Vol.3:幾つかの班に分かれ、初回で決めた具体的な対象をイメージしたプログラムを考えます。
- ⑩演奏会のプログラムを考えよう Vol.4:プログラムを完成させます。選曲に負担はないか、全体の時間に過不足ないか等、最終確認を行ないます。
- ⑪チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.3:チラシを作成します。見易く、対象に相応しい雰囲気になるよう、アイデアを練ります
- ⑫チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.4:内容の確認や文字校正を行ないチラシを完成させます。プログラムノートにも着手します。
- ⑬チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.5:必要事項が過不足なく盛り込まれているかを確認し、文字校正を経てプログラムノートを完成させます。
- ⑭リハーサル:本番と同様に全体を通します。演奏面・ステージマナー等様々な角度から確認、問題点を整理します。
- ⑮2 クォーター末試験(ミニコンサート):ミニコンサートの実施及び講評記入。授業の総括に相応しい内容かチェックします。

期末試験評価方法・評価基準

出席 25%、平常点 25%(試験の講評内容、普段の受講態度等)、試験 50%(チラシ・プログラムノートの完成度、ステージマナー、演奏内容等、複数項目を採点し 50 点に換算)の割合で評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	ピアノアンサンブル技法 I
担当講師名	瀬川千穂
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は数々のコンサートでソロや声楽や楽器の伴奏、2台ピアノなど、アンサンブルの実務経験を持ちます。

授業内容

春学期はピアノで表現力のある演奏をするための基礎となるさまざまな知識や奏法について学んでいきます。ピアノという楽器をどうやってより美しく響かせるか、また聴いている人を納得させる表現をするために演奏者は何をすべきか、を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

I クォーターは、ピアノの構造、身体の使い方を学び、楽譜を正確に読み取る力をつけて表現力のある演奏をすることを目標とします。II クォーターは課題曲を使ってアナリーゼから演奏法を探っていきます。曲のイメージを膨らまして、ペダルや音色のバリエーションや音楽的表現を深めることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ピアノ基礎奏法 1. ピアノの構造について学びます。弦やハンマーやダンパーなどの動きを実際に見てみましょう。
- ② ピアノ基礎奏法 2. 身体の使い方について学びます。手の形や姿勢などをチェックしましょう。
- ③ ピアノ基礎奏法 3. タッチについて学びます。指や手の使い方タッチをコントロールする方法を実習します。
- ④ ピアノ基礎奏法 4. 拍子・リズムについて学びます。色々な曲の拍子を感じ取ってみましょう。
- ⑤ ピアノ基礎奏法 5. 楽譜を読み取ろう。題名、テンポ、強弱、記号などを確認します。
- ⑥ ピアノ基礎奏法 6. 楽譜を読み取ろう。楽語やフレーズ、アーティキュレーションについて確認します。
- ⑦ クォーター末試験 ペーパーテストと自由曲を1曲演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

平常点50% (授業で積極的に課題にしっかり取り組めたか)

試験50% (ペーパーテスト、実技演奏に授業内容を生かすことが出来たか) を合計して評価を出します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ ピアノ基礎奏法 7. 演奏解釈について学びます。時代様式や作曲家についての知識をどう演奏と結びつけるか考えます。課題曲を選び、演習しながら研究します。
- ⑨ ピアノ基礎奏法 8. 音楽の形式、構造について学びます。ソナタ形式など、様々な曲の構造を考えていきます。
- ⑩ ピアノ基礎奏法 9. 拍節法について学びます。和声分析や楽曲分析から演奏法を導き出す方法を解説します。
- ⑪ ピアノ基礎奏法 10. 「練習」について、考察します。課題曲の演習も進めます。
- ⑫ ピアノ基礎奏法 11. イメージの具体化について、課題曲を使って考察し、演習します。
- ⑬ ピアノ基礎奏法 12. ペダルについて、様々なテクニックと可能性を研究します。
- ⑭ ピアノ基礎奏法 13. 響きのバランス、音色について、課題曲を使って演習します。
- ⑮ クォーター末試験 ペーパーテストと課題曲を1曲演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

平常点50% (授業で積極的に課題にしっかり取り組めたか)

試験50% (ペーパーテスト、実技演奏に授業内容を生かすことが出来たか) を合計して評価を出します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	ピアノアンサンブル技法 II
担当講師名	瀬川千穂
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は数々のコンサートでソロや声楽や楽器の伴奏、2台ピアノなど、アンサンブルの実務経験を持ちます。

授業内容

秋学期はピアノアンサンブルとして連弾と2台ピアノを実習していきます。息の合わせ方、バランスの取り方など、パートナーと一緒に音楽的表現を追求していきましょう。IIIクォーターは定番の連弾曲を、IVクォーターは2台ピアノに取り組み、コンサートへの応用を目指します。毎回の授業に向けて練習してくることが重要です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の練習はもちろん、相手のパートについても理解した上で、積極的に合わせ練習に取り組むことが大事です。お互いに良く聴き合い、良いアンサンブルができるよう、パートナーと意見を出し合って共に一つの音楽表現を作り上げることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 連弾演習 1. 簡単な連弾曲を使って実際にパートナーと合わせてアンサンブルの楽しさを体験します。
- ② 連弾演習 2. モーツァルトの連弾作品を演習します。メロディと伴奏の役割とバランスのとり方を実習しながら学びます。
- ③ 連弾演習 3. モーツァルトの連弾作品を演習します。曲の構造、調性について考察しながら演習します。
- ④ 連弾演習 4. ブラームスの連弾作品を演習します。メロディと伴奏の役割とバランスのとり方を実習しながら学びます。
- ⑤ 連弾演習 5. ブラームスの連弾作品を演習します。呼吸の合わせ方、テンポが変化する時の合わせ方を研究します。
- ⑥ 連弾演習 6. 試験に向けて曲を仕上げていきます。
- ⑦ クォーター末試験 IIIクォーターで勉強した曲の中から1曲、または2曲演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

平常点50%（授業で積極的に課題にしっかり取り組めたか）
試験50%（充実した連弾アンサンブルができたか）を合計して評価を出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 2台ピアノ演習 1. 学期末試験と学科コンサートに向けてのプログラムを演習します。音源を聴き、スコアリーディングをします。
- ⑨ 2台ピアノ演習 2. 自分のパートが受け持つ役割を理解して、合わせの演習をします。
- ⑩ 2台ピアノ演習 3. 自分の音だけでなくパートナーの音も聴きましょう。より良い演奏にするために自分たちで意見を出し合ひましょう。
- ⑪ 2台ピアノ演習 4. クラスメイトの演奏を聴いて、バランスの良い響きや、良いペダリング、表現力などについて考えましょう。
- ⑫ 2台ピアノ演習 5. 楽譜を正確に読み取っているかチェックしましょう。
- ⑬ 2台ピアノ演習 6. 仕上がりをイメージしてテンポ、アンサンブルの精度などを確認しましょう。
- ⑭ 2台ピアノ演習 7. 試験に向けて曲を仕上げていきます。
- ⑮ クォーター末試験 IV クォーターで勉強した曲を演奏します。一年のまとめとして「お客さま」に聴いてもらうことを意識して演奏しましょう。

期末試験評価方法・評価基準

平常点50%（授業で積極的に課題にしっかり取り組めたか）
試験50%（充実した2台ピアノアンサンブルができたか）を合計して評価を出します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノアンサンブル技法Ⅲ
担当講師名	加藤 明子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンサートにおいてピアノアンサンブルをはじめ弦楽器・管楽器とのアンサンブル経験も数多くあり、本校及び他の教育機関において、幅広い年代を対象に長年授業・実技の指導育成に携わるなどの実務経歴を有しています。

授業内容

1年時に学んだアンサンブル技法の基礎を元に、様々な時代、様々な編成のアンサンブル作品にチャレンジしていきます。又春学期はオリジナル作品を中心にアンサンブル能力のアップを図ります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノは本来1人で音楽創りをする事が基本ですが、アンサンブルを経験することによって、音量・ダイナミクス・アゴーギグの変化など、他者と共に音楽創りをする事を経験し、柔軟で幅広い表現力、より高い音楽的技量を身につける事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① [テーマ] アンサンブルの歴史
[授業内容] アンサンブル作品がどのようにして生まれたのか、どのような軌跡を辿って現在に至ったのかを学びます。
- ② [テーマ] 連弾演奏の基礎知識
[授業内容] 特に連弾で起きる問題点にフォーカスしながら、アンサンブルにおける基本的な注意点を学んでいきます。
- ③ [テーマ] アンサンブル演奏法・連弾(1)
[授業内容] 連弾の「オリジナル作品」を実際に演奏しながら、アンサンブル作品の曲創りを学びます。
- ④ [テーマ] アンサンブル演奏法・連弾(2)
[授業内容] まずは作曲家の生涯を把握し、楽曲分析をした後、サウンドチェックをしながら進めていきます。
- ⑤ [テーマ] アンサンブル演奏法・連弾(3)
[授業内容] 演奏家だけでなく聴き手としての「耳」を育て、皆で意見交換をしながら

音楽創りをしていきます。

- ⑥ [テーマ] 1クォーターまとめ
[授業内容] 試験に向けてリハーサルをしながら最終確認をしていきます。
- ⑦ [テーマ] 試験
[授業内容] コンサート形式で各曲の解説もスピーチしながら進行していきます。

中間試験評価方法・評価基準

演奏(100点満点)、演奏時の曲目解説・コメント(100点満点)の平均点に出席点を加減します。

授業計画(8回目から15回目)

- ⑧ [テーマ] 連弾・「編曲作品」にチャレンジ
[授業内容] オリジナル作品との違い、そして原曲を理解した上でどのようにピアノでの演奏へつなげていくかを学びます。
- ⑨ [テーマ] 連弾・編曲作品の演奏法(1)
[授業内容] 作曲家の生涯を把握し、楽曲分析、又原曲との比較をしながら曲をしっかり理解していきます。
- ⑩ [テーマ] 連弾・編曲作品の演奏法(2)
[授業内容] 録音をとりサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き合い、意見交換をしながら音楽創りをしていきます。
- ⑪ [テーマ] 2台ピアノ・オリジナル作品
[授業内容] 今度は編成を変え、2台ピアノ・オリジナル作品に挑戦します。
- ⑫ [テーマ] 連弾と2台ピアノとの相違
[授業内容] 基本要素(作曲家生涯・楽曲分析)を把握し、連弾と2台ピアノの演奏法の違いについて学びます。
- ⑬ [テーマ] 2台ピアノ作品の演奏法(1)
[授業内容] 録音をとりサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き合い、意見交換をしながら音楽創りをしていきます。
- ⑭ [テーマ] 2クォーターまとめ
[授業内容] 試験に向けてリハーサルをしながら最終確認をしていきます。
- ⑮ [テーマ] 試験
[授業内容] コンサート形式で各曲の解説もスピーチしながら進行していきます。

期末試験評価方法・評価基準

演奏(100点満点)、演奏時の曲目解説・コメント(100点満点)の平均点に出席点を加減します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノアンサンブル技法Ⅳ
担当講師名	加藤 明子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

本科目では講師自身のコンサート活動及びコンサート企画、数多くのコンクール審査と云った実体験と、様々な場において幅広い年代を対象とした指導育成に携わった実務経験が有効に生かせると考えます。

授業内容

アンサンブル技法応用編として、広い視野から音楽を捉えられるように、アンサンブル能力の向上を図ります。3月のアンサンブルコンサート『infinity』でのステージ演奏をイメージしながら進めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各作品(オリジナル作品・編曲作品)、各編成(1台4手・2台4手・2台8手・1台8手)、のどのような作品にも対応できる能力を身につけていきます。最終的にはステージ上で、いかに豊かなパフォーマンスが出来るか!を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① [テーマ] アンサンブルの発展Ⅰ
[授業内容] オークストラ作品の2台ピアノ用に編曲された作品に取り組んでいきます。3月のインフィニティーコンサート出演を視野に。
- ② [テーマ] スコアリーディング
[授業内容] オークストラ用スコアを見ながら各楽器がどのようにピアノパートへ変換されているかを学んでいきます。
- ③ [テーマ] 2台ピアノ(オケ編)演奏法(1)
[授業内容] オークストラ作品を2台ピアノで再現するダイナミックなサウンドを体感し追及していきます。
- ④ [テーマ] 2台ピアノ(オケ編)演奏法(2)
[授業内容] パートナーといかにアーティキュレーションを合わせ、ダイナミクスを創っていくかを学んでいきます。
- ⑤ [テーマ] 2台ピアノ(オケ編)演奏法(3)
[授業内容] 録音をとりサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き

合い、意見交換をしながら音楽創りをしていきます。

- ⑥ [テーマ] 3クウォーターまとめ
[授業内容] 試験に向けてリハーサルをしながら最終確認をしていきます。
- ⑦ [テーマ] 試験
[授業内容] コンサート形式で演奏をしていく。又スコアリーディングのテストを実施します。

中間試験評価方法・評価基準

下記各 100 点満点の平均点に出席点を加減します。

・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏 ・レポート=曲目解説・作品分析

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ [テーマ] アンサンブルの発展Ⅱ
[授業内容] ここからは2台8手・1台8手など今まで経験していない様々な編成の作品にチャレンジしていきます。
- ⑨ [テーマ] 新しい編成へ
[授業内容] 新しい編成の作品についても、原曲把握、スコアリーディング、楽曲分析を経て作品への理解を深めていきます。
- ⑩ [テーマ] 2台8手作品の演奏法(1)
[授業内容] 引き続き楽曲分析やスコアリーディングを並行しながら音楽創りをしていきます。
- ⑪ [テーマ] 2台8手作品の演奏法(2)
[授業内容] 録音をとりサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き合い、意見交換をしながら音楽創りをしていきます。
- ⑫ [テーマ] 2台8手作品の演奏法(3)まとめ
[授業内容] 自分達の演奏の録音を客観的に聴き、細かいニュアンス・様々なコントロールなどをチェックしながら追求していきます。
- ⑬ [テーマ] 1台8手作品の演奏法(1)
[授業内容] 狭いキャパシティーの中でどのように様々なコントロールをし、8手のバランスを作っていくのか、実際に体感・演奏していきます。
- ⑭ [テーマ] 年度末・総括
[授業内容] この一年間学んできた様々な編成のアンサンブル作品について、夫々の注意点を確認していきます。
- ⑮ [テーマ] 試験
[授業内容] コンサート形式で進行していきます。

期末試験評価方法・評価基準

下記各 100 点満点の平均点に出席点を加減します。

・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏 ・レポート=曲目解説・作品分析

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュA I
担当講師名	宇都宮 三花
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏者、指導者としての実務経験があります。

授業内容

音楽を演奏することに必要な基礎能力を養います。基本的な音楽能力の向上と音感の育成を図り、高い音楽性の習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基礎知識を踏まえた視唱、リズム打ち、初見演奏、聴音ができる。理解した知識を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業の説明・実力テスト
- ②記譜法：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ③長音階：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ④短音階：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑤半音階：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑥特殊な音階：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧調の種類：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑨調号と臨時記号：視唱、初見、リズム打ち、聴音

- ⑩近親調：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑪単音程：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑫複音程：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑬転回音程と異名同音程：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑭協和音程と不協和音程：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

特記事項

五線紙・筆記用具・コールユーブンゲンを持参のこと。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュA II
担当講師名	宇都宮 三花
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏者、指導者としての実務経験があります。

授業内容

音楽を演奏することに必要な基礎能力を養います。基本的な音楽能力の向上と音感の育成を図り、高い音楽性の習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

視唱、リズム打ち、初見演奏、楽典による基礎知識、聴音ができる。理解した知識を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 3和音：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ② 7の和音：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ③ 移調：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ④ 転調：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑤ 調判定：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑥ 和音機能と分散和音：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 二拍子系：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑨ 三拍子系：視唱、初見、リズム打ち、聴音

- ⑩四拍子系：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑪混合拍子：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑫三連符：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑬シンコペーションとタイ：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑭ハ音記号：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

特記事項

五線紙・筆記用具・コールユーブンゲンを持参のこと。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュA III
担当講師名	宇都宮 三花
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏者、指導者としての実務経験があります。

授業内容

音楽を演奏することに必要な基礎能力を養います。高度な音楽能力と音感の育成を図り、高い音楽性の習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

視唱、リズム打ち、初見演奏、和声学、楽式を踏まえた聴音ができる。理解した知識を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①四声体の基礎1：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ②四声体の基礎2：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ③四声体の基礎3：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ④四声体の基礎4：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑤四声体の基礎5：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑥四声体の基礎6：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧四声体の応用1：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑨四声体の応用2：視唱、初見、リズム打ち、聴音

- ⑩四声体の応用3：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑪四声体の応用4：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑫四声体の応用5：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑬四声体の応用6：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑭四声体の応用7：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

特記事項

五線紙・筆記用具・コールユーブンゲンを持参のこと。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュA IV
担当講師名	宇都宮 三花
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は演奏者、指導者としての実務経験があります。

授業内容

音楽を演奏することに必要な基礎能力を養います。高度な音楽能力と音感の育成を図り、高い音楽性の習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

高度な視唱、リズム打ち、初見演奏、和声学、楽式を踏まえた聴音ができる。理解した知識を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業の説明・実力テスト
- ②1部形式：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ③2部形式：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ④3部形式：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑤複合2部形式：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑥複合3部形式：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ロンド形式：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑨変奏曲：視唱、初見、リズム打ち、聴音

- ⑩ソナタ形式：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑪インベンション：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑫カノン：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑬フーガ：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑭総復習：視唱、初見、リズム打ち、聴音
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

実技・課題提出50% 出席30% 平常20%
試験結果の他に学習意欲と出欠・遅刻も考慮します。

特記事項

五線紙・筆記用具・コールユーブンゲンを持参のこと。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	専攻ソルフェージュ B I
担当講師名	土屋淑子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

BLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、多数のコンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。また個人で主宰する音楽教室でのクラシック～ポピュラー・ジャズのピアノ実技、ソルフェージュレッスンの実績は30年以上となります。

授業内容

「ソルフェージュ」という言葉から何を連想しますか？聴音、新曲視唱、等々のイメージが漠然と浮かぶかもしれません。そうした「点」を「線」へとつなげることが、この授業で意味する「ソルフェージュ」です。Cメロ譜の初見など、実戦につながる課題もこなしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

聴音力、初見力、コードを聴く力、弾く力も付けていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス
- ② 町で聞くあの音～①（日常にある音の聴音（4小節程度）、初見 sol.）
- ③ 町で聞くあの音～②（日常にある音の聴音（8小節程度）、初見 sol.）
- ④ 小テスト
- ⑤ コードについて（基礎の確認と聴音、初見、sol.）
- ⑥ スケールについて（基礎の確認と聴音、初見、sol.）
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑦ 聴く・書く・歌う～①／旋律・2声聴音 (Major、minor)、初見 sol.
- ⑧ 聴く・書く・歌う～②／旋律・2声聴音 (M、m～ $\sharp \times 1$)、初見 sol.
- ⑨ 聴く・書く・歌う～③／旋律・2声聴音 (M、m～ $\flat \times 1$)、初見 sol.
- ⑩ 小テスト
- ⑪ 聴く・書く・歌う～④／旋律・2声聴音 (M、m～ $\sharp \times 2$)、初見 sol.
- ⑫ 聴く・書く・歌う～⑤／旋律・2声聴音 (M、m～ $\flat \times 2$)、初見 sol.
- ⑬ 聴く・書く・歌う～⑥／旋律・2声聴音 (M、m～ \sharp 、 $\flat \times 2$ まで)、初見 sol.
- ⑭ 学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。
テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

特記事項

授業には五線ノートを必ず持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	専攻ソルフェージュ BII
担当講師名	土屋淑子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

BLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、多数のコンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。また個人で主宰する音楽教室でのクラシック～ポピュラー・ジャズのピアノ実技、ソルフェージュレッスンの実績は30年以上となります。

授業内容

ソルフェージュとは、音楽の総合力と捉えます。日常生活の中にも、たくさんのミュージカルナンバーやオペラのアリアがあります。初見力、耳コピーの力、コード付けの力・・・等々。実際のミュージカルやオペラから題材をとって、総合的な力を身につけていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

聴音力、初見力、耳コピーやコード付けの力。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ミュージカル①～ミュージカルナンバーから初見、聴音、sol. ①
- ②ミュージカル②～ミュージカルナンバーから初見、聴音、sol. ②
- ③ミュージカル③～ミュージカルナンバーから初見、聴音、sol. ③
- ④小テスト
- ⑤オペラ①～オペラのアリアから初見、聴音、sol. ①
- ⑥オペラ②～オペラのアリアから初見、聴音、sol. ②
- ⑦クオーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ミュージカル④～ミュージカルナンバーから初見、聴音、sol. ④
- ⑨ミュージカル⑤～ミュージカルナンバーから初見、聴音、sol. ⑤
- ⑩ミュージカル⑥～ミュージカルナンバーから初見、聴音、sol. ⑥
- ⑪小テスト
- ⑫オペラ③～オペラのアリアから初見、聴音、sol. ③
- ⑬オペラ④～オペラのアリアから初見、聴音、sol. ④
- ⑭オペラ⑤～オペラのアリアから初見、聴音、sol. ⑤
- ⑮学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。
テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

特記事項

授業には五線ノートを必ず持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	専攻ソルフェージュ BIII
担当講師名	土屋淑子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

BLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、多数のコンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。また個人で主宰する音楽教室でのクラシック～ポピュラー・ジャズのピアノ実技、ソルフェージュレッスンの実績は30年以上となります。

授業内容

「ソルフェージュ」とは音楽力の基盤ととらえます。見たもの・聴いたものを正確に弾く、歌う、書くことができるためには、耳で聴きとる力、心の耳で鳴らすことのできる力、この2つが対等に必要です。この両方とも音楽をする上で必要不可欠なものです。それによってメロディーに対してすぐにコード付けができたり、初見は正確さにもつながります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今学期は、1段譜の初見からヴォイシングを通じて、アナリゼをしながら曲の全体像をつかんでいきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ヴォイシング～1（初見で早く、正確に）
- ② ヴォイシング～2（初見で早く、正確に）
- ③ 小テスト
- ④ ヴォイシング～3（初見で早く、正確に）
- ⑤ ヴォイシング～4（初見で早く、正確に）
- ⑥ ヴォイシング～5（初見で早く、正確に）
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 聴く・書く・歌う～1（旋律・4声（Open,Close）Major 初見 sol.）
- ⑨ 聴く・書く・歌う～2（旋律・4声（Open,Close）minor 初見 sol.）
- ⑩ 聴く・書く・歌う～3（旋律・4声（Open,Close）M、m 初見 sol.）
- ⑪ 小テスト
- ⑫ 聴く・書く・歌う～4（旋律聴音＋コード付け Major 初見 sol.）
- ⑬ 聴く・書く・歌う～5（旋律聴音＋コード付け minor 初見 sol.）
- ⑭ 聴く・書く・歌う～6（旋律聴音＋コード付け M、m 初見 sol.）
- ⑮ 学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

特記事項

授業には必ず五線紙ノートを持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	専攻ソルフェージュ BIV
担当講師名	土屋淑子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

BLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、多数のコンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。また個人で主宰する音楽教室でのクラシック～ポピュラー・ジャズのピアノ実技、ソルフェージュレッスンの実績は30年以上となります。

授業内容

クラシック以外の分野では、いわゆる耳コピーを必要とする場面が多々あります。よく知られている歌謡曲でも、改めて聴音してみると新しい発見もあります。「聴いたものをそれらしく再現する」力はとても重要なスキルです。授業ではそのスキルを身につけるために、いろいろな曲を取り上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期では、ポピュラーソングのメロディーを聴音したのちに、頭の中で鳴っているハーモニーをつけていきます。そして改めて原曲の楽譜を比べてみましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①聴音とコード付け～1（ポップスの旋律聴音・コード付け（M）/初見 sol.）
- ②聴音とコード付け～2（ポップスの旋律聴音・コード付け（M）/初見 sol.）
- ③小テスト
- ④聴音とコード付け～3（ポップスの旋律聴音・コード付け（m）/初見 sol.）
- ⑤聴音とコード付け～4（ポップスの旋律聴音・コード付け（m）/初見 sol.）
- ⑥聴音とコード付け～5（ポップスの旋律聴付けコード聴音/（M、m）、初見 sol.）
- ⑦クオーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧聴音とコード付け～1（旋律・4声（Open, Close）Major 初見 sol.）
- ⑨聴音とコード付け～2（旋律・4声（Open, Close）minor 初見 sol.）
- ⑩聴音とコード付け～3（旋律・4声（Open, Close）M、m 初見 sol.）
- ⑪小テスト
- ⑫フレーズとコード～1（ジャズの耳コピーに挑戦（2小節程度）、初見 sol.）
- ⑬フレーズとコード～2（ジャズの耳コピーに挑戦（4小節程度）、初見 sol.）
- ⑭フレーズとコード～3（ジャズの耳コピーに挑戦（8小節程度）、初見 sol.）
- ⑮学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。
テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

特記事項

授業には五線ノートを必ず持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシック演奏法研究 I
担当講師名	大導寺錬太郎
学期	春学期
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

バロック、特にバッハはクラシックを勉強する上で必要不可欠な作曲家です。しかしその緻密で複雑な作曲構造の為、苦手意識をもたれ易いのも事実。バッハのオリジナル（鍵盤）作品の分析は勿論、ポピュラー編曲、ジャズ編曲作品も取り上げ、様々なジャンルの音楽にも対応できるバッハ音楽の懐の深さも紹介します。CD鑑賞、実演を通して耳で、身体でバッハを楽しみましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポリフォニー作品の演奏に必要な分析力(テーマ調べ・転調調べ・各種舞曲の特徴の理解等)を身に付け、複数の声部を聴き分ける耳を養い、当時の様式から逸脱しない立体的な響きの演奏を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①バロック以前の音楽～バッハの登場:バッハ登場以前の音楽の歴史や活躍した作曲家を学び、各時代の特徴を整理して覚えます。
- ②ポリフォニー音楽とは J.S.バッハの作品:ポリフォニー音楽の特徴を学び、作品の簡単な分析や実際の小品を演奏することによって理解を深めます。
- ③インヴェンション①/いろいろな版:当時と現代の記譜の違いをバッハの自筆譜を通して理解します。又、様々な版の特徴を学びます。
- ④インヴェンション②/作品分析:第1番の分析を実施します。演奏に必要な最低限のアナリーゼの仕方を学びます。
- ⑤シンフォニア①/作品分析・演奏:第8番の分析を行ないます。各声部の横の動きを把握し、どのように絡んでいるか演奏を通して理解します。
- ⑥シンフォニア②/装飾音・曲の配列:第5番を取り上げ、多種多様な装飾の記号・名称・奏法を学びます。又15曲の曲の配列の特徴を解説します。
- ⑦授業のまとめ(1クォーター試験):授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技課題は授業で取り上げた作品より指定します。

中間試験評価方法・評価基準

出席 25%(第 1～6 回は各 3 点、試験の第 7 回のみ 7 点で計算。遅刻は減点 1)平常点 25%、(授業態度及び授業内での演奏内容)、試験 50%。成績は 2 クォーターの初回授業時に配付します。

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧BWV 番号の解説:バッハ作品主題目録番号を学び、ジャンルごとに分かれた番号を覚えます。
- ⑨平均律①/作品の成り立ち: 作品の成立年・評価・特徴を学び、タイトルの「平均律」について当時の調律法を絡めて考察します。
- ⑩平均律/プレリュードの多様性他: 第 1 巻全 24 曲の前奏曲を 5 つの特徴に分けて解説します。又各曲の適切なテンポについても考察します。
- ⑪平均律③/グノー:アヴェ・マリアとの関連:グノーのアヴェ・マリアの伴奏としても知られる第 1 番のプレリュードを分析し、2 曲の関連を学びます。
- ⑫平均律④/フーガの分析・演奏聴き比べ: 第 1 巻第 1 番の分析を通してフーガの特性を理解します。又様々な演奏を鑑賞し、解釈の多様性を実感します。
- ⑬組曲①/バッハの残した組曲:代表的な組曲作品の大まかな特徴を学び、そこに登場する舞曲の名称・特徴を覚えます。
- ⑭組曲②、その他の名作、D.スカルラッティ:舞曲、平均律以外の主要な鍵盤作品及びその他の名曲、D.スカルラッティ作品の解説・鑑賞を行ないます。
- ⑮授業のまとめ(2 クォーター試験): 授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技は指定した課題の演奏となります。

期末試験評価方法・評価基準

出席 25%(第 1～7 回各 3 点、試験の第 8 回のみ 4 点で計算。遅刻は減点 1)平常点 25%、(授業態度及び授業内での演奏内容等)、試験 50%の割合で算出。1・2 両クォーターの成績の平均が、学期末の評価となります。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシック演奏法研究Ⅱ
担当講師名	大導寺錬太郎
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

バロックに引き続き、古典派についてピアノ作品を中心にその様式感を学びます。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品を中心に代表的な作品を取り上げ、簡単な形式論を学び、分析を通して演奏法を研究します。同時にピアノ作品と他ジャンルの関連性やピアノの発達についても研究し、CDなどの鑑賞と実習を織り交ぜながら演奏表現法を考えます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

古典派の基本的な知識やリズム感を身に付け、感性だけに頼らない安定かつ説得力のある演奏が出来るようにします。また鍵盤作品以外の名曲を学ぶ事で、作曲家の音楽的な特徴を把握し、適切なタッチやフレージング等を自ら考える事の出来る力を養います。

授業計画（1回目から7回目）

- ①バロック時代から古典派の時代へ:J.S.バッハ没後からハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンが活躍するまでの歴史を学びます。
- ②古典派時代の「ソナタ」/様々な形式①:古典派時代に確立された「ソナタ」の構成他、様々な形式を学びます。
- ③様々な形式②/ソナチネ作品演奏:様々な形式の「型」が実際の作品にどう当てはめられているかを、演奏を通して実感します。
- ④J.ハイドン①～その生涯～:77年の生涯を解説。仕えた貴族や師匠、Mozartとの友情、人物像等を学び名作の生まれた背景を理解します。
- ⑤J.ハイドン②～交響曲他、Hob.番号～:ハイドンの残した主要な作品の解説・鑑賞。ハイドン作品目録番号の解説も行ないます。
- ⑥J.ハイドン③～ピアノソナタの分析～:代表的なピアノソナタを分析し、ハイドンの作曲上の工夫を知り、適切な表現の仕方を学びます。
- ⑦授業のまとめ(3クォーター試験):授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技は事前に指定した課題の演奏となります。

中間試験評価方法・評価基準

出席 25%(第 1～6 回は各 3 点、試験の第 7 回のみ 7 点で計算。遅刻は減点 1)平常点 25%、(授業態度及び授業内での演奏内容)、試験 50%。成績は 4 クォーターの初回授業時に配付します。

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧モーツァルト①～幼年時代の演奏旅行～:父親と長きに渡る演奏旅行で起きた出来事や影響を受けた人物、彼の天才ぶりを表すエピソード等を解説します。
- ⑨モーツァルト②～初期作品演奏・K.番号等～:記念すべき第 1 作他、初期の小品を演奏し、彼の音楽・感性を体感します。K.番号にも触れます。
- ⑩モーツァルト③～作風・ピアノソナタ～:作品の特徴を解説。又 18 曲のピアノソナタより有名な数曲を解説・鑑賞します。
- ⑪モーツァルト④～その他ジャンルの名曲:様々なジャンルの名曲解説・鑑賞を通して彼の魅力に迫り、ピアノ作品との関連も学びます。
- ⑫ベートーヴェン①～交響曲～:ベートーヴェンの交響曲についての解説・鑑賞。鑑賞に伴い、スコアの基本的な読み方も学びます。
- ⑬ベートーヴェン②～ピアノ協奏曲・ソナタ～:PF 協奏曲の解説。32 のピアノソナタより名曲を選んで解説・鑑賞・読譜をします。
- ⑭ベートーヴェン③～小品他、シューベルト:その他小品や変奏曲、室内楽、F.シューベルトのピアノ作品、D 番号について等、解説・鑑賞します。
- ⑮授業のまとめ(4 クォーター試験):授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技は事前に指定した課題の演奏となります。

期末試験評価方法・評価基準

出席 25%(第 1～7 回各 3 点、試験の第 8 回のみ 4 点で計算。遅刻は減点 1)平常点 25%、(授業態度及び授業内での演奏内容等)、試験 50%の割合で算出。3・4 両クォーターの成績の平均が、学期末の評価となります。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシック演奏法研究Ⅲ
担当講師名	加藤 明子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は自身の演奏活動に加え、本校及び音楽大学付属の教育機関において、幅広い年代を対象に長年授業・実技の指導にあたり、コンクールで入賞者を輩出しているなどの実務経歴を有しています。

授業内容

ロマン派ピアノ作品を中心に、その様式感や演奏技法を学びます。作曲家の生きざまや時代背景を知ることによって、ロマン派作品の理解を深め、学生それぞれの豊かな表現力を育てていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業内で学んだ事を元に、譜読み[読譜力]から本番までのプロセスを自身でしっかり考えられ、そして本番で多彩で豊かな音楽を表現でき、伝えられるピアニストになる事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① [テーマ] バロック、古典からロマン派へ
[授業内容] 1年時に学んだバロック・古典時代の復習・確認をした上で、どのようにロマン派へと引継がれていくかを学びます。
- ② [テーマ] ピアノの歴史
[授業内容] ピアノという「楽器」について、起源からどのように発展、進化し現代のピアノに至ったのかを学びます。
- ③ [テーマ] ロマンチズム ショパン(1)
[授業内容] ショパンの生涯を把握し、その生きざまがどのように作品に影響しているのかを学びます。
- ④ [テーマ] ロマンチズム ショパン(2)
[授業内容] ショパンの作品を分析・演奏を通して学んでいきます。課題曲・24のプレリュード op. 28 より。
- ⑤ [テーマ] ロマンチズム ショパン(3)
[授業内容] ショパンの舞曲、ワルツ・ポロネーズについて楽曲分析をし、舞踏の特

徴を理解した上で演奏法を学んでいきます。

- ⑥ [テーマ] ロマンチズム ショパン(4)
[授業内容] ショパンの舞曲・マズルカについて楽曲分析をし、舞踏の特徴を理解した上で演奏法を学んでいきます。
- ⑦ [テーマ] 試験
[授業内容] 授業内で学んだ曲より任意の曲を選択し演奏する。又、授業の内容についてのレポートを提出する。

中間試験評価方法・評価基準

下記各 100 点満点の平均点に出席点を加減します。

- ・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏 ・レポート=曲目解説・作品分析

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ [テーマ] ヴィルトゥオーゾ・リスト
[授業内容] リストの生涯を把握し、ヴィルトゥオーゾ作品の演奏法、又リストの音楽界への功績やオーケストラ作品についても学びます。
- ⑨ [テーマ] 性格的小品 メンデルスゾーン(1)
[授業内容] メンデルスゾーンの生涯を把握し、その生きざまがどのように作品に影響をしているかを学びます。
- ⑩ [テーマ] 性格的小品 メンデルスゾーン(2)
[授業内容] メンデルスゾーンの「無言歌」についての楽曲分析・演奏法を学んでいきます。
- ⑪ [テーマ] 標題音楽 シューマン(1)
[授業内容] シューマンの生涯を把握し、「子供の情景」を通して 2 回に分け、楽曲分析・演奏法を学んでいきます。
- ⑫ [テーマ] 標題音楽 シューマン(2) 「子供の情景」(後半)
[授業内容] 楽曲分析・演奏法を引き続き学びます。
- ⑬ [テーマ] 新古典主義 ブラームス(1)
[授業内容] ブラームスの生涯を把握し、作風を学びます。又同時代の 5 人の作曲家の演奏についても学びます。
- ⑭ [テーマ] 本番で最高のパフォーマンスを目指す「心・技・体」
[授業内容] 本番に向けての練習と工夫。本番当日のメンタルコントロール。そして「自分流」を発見していきます。
- ⑮ [テーマ] 試験
[授業内容] 上記作品より一曲演奏する。分析・解説したレポートも提出する。

期末試験評価方法・評価基準

下記各 100 点満点の平均点に出席点を加減します。

- ・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏 ・レポート=曲目解説・作品分析

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシック演奏法研究Ⅳ
担当講師名	岡野勇仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

近代音楽・現代音楽のコンサート活動実績があり、音楽史に関する研究もおこなっています。

授業内容

レパートリーの拡充と音楽的視野を拡大する観点から、ピアニストに必要な近代以降のピアノ作品を紹介します。現代音楽の授業では時代背景や思想、音楽観などの解説もおこないます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業でとりあつかった内容を参考に、オリジナリティのあるプログラミングができるようになることが目標です。様々な様式の音楽を総合的に理解することにより、自分で音楽を分析する力も身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ドビュッシー 主要なピアノ楽曲の奏法や管弦楽曲を紹介します。絵画や詩との関連性も解説します。印象派と旋法についての理解を目標とします。
- ② ラヴェル 主要なピアノ楽曲の奏法や管弦楽曲を解説します。全作品の特徴を把握することを目標とします。
- ③ フランスの作曲家とサティ ミヨー、プーランク、シャブリエ、セヴェラック、デュティユー、サティの作品と時代背景を理解します。
- ④ フランス～バロック、古典への回帰 サン・サーンス、フォーレ、フランクの楽曲の様式を学習します。同時代の作品と比較することにより、古典様式への理解を深めます。
- ⑤ 北欧～グリーグを中心に グリーグ、カスキ、シベリウス等の作品を紹介し、北欧の音楽の雰囲気理解することを目標とします。
- ⑥ スペインの作曲家 アルベニス、グラナドス、ファリャ、モンポウの作品を学習します。スペインのギター音楽等との関連性の理解も目標とします。
- ⑦ 試験 授業で指定した試験用課題曲を演奏。授業内容についての口頭試問。作曲家の様式や思想を理解しているかを評価します。

中間試験評価方法・評価基準

出席と授業内容の理解度により評価します。試験50%、出席30%、平常点20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ バルトーク・東欧 バルトーク、シマノフスキー、チェコの作曲家をとりあげます。バルトークの作曲法や思想を理解することを目標とします。
- ⑨ プロコフィエフ・ロシア ロシア5人組、ストラヴィンスキー、ショスタコーヴィッチ、カバレフスキー等の作品を紹介します。
- ⑩ ラフマニノフ フマニノフのピアノ楽曲の奏法や管弦楽曲の紹介をおこないます。同時代の他の作品と比較しながら、特長を学びます。
- ⑪ スクリャービン スクリャービンのピアノソナタを中心としたピアノ曲や管弦楽曲を学習します。スクリャービンの様式、和声、旋法等を理解します。
- ⑫ 現代音楽のメインストリームと特殊奏法 新ウィーン楽派〜クセナキス、メシアン、シュトックハウゼン、リゲティなどの語法と歴史を学習します。
- ⑬ アメリカの現代音楽と南米の作曲家ミ ニマル音楽、即興音楽、ジョン・ケージとブリペアード・ピアノ、ヴィラ・ロボス、ヒナステラ、アストル・ピアソラ等の音楽を学習します。
- ⑭ 同時代の作曲家西 村朗、野村誠、武満徹、伊左治直、ジョン・ウィリアムズ、エンニオ・モリコーネ等同時代の作曲家の作品を学習します。
- ⑮ 試験 授業で指定した試験用課題曲を演奏。授業内容についての口頭試問。作曲家の様式や思想を理解しているかを評価します。

期末試験評価方法・評価基準

出席と授業内容の理解度により評価します。試験50%、出席30%、平常点20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ジャズ・ポピュラーピアノ研究 I
担当講師名	秋谷えりこ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、TV、CM、ポップス業界において、演奏、作曲・編曲、プロデュースの実務経験を持ちます。

授業内容

演奏・アレンジ・作曲に必要なコードの基礎、テンションを含むクローズ・ヴォイスイング全般を習得。また様々なポップス曲の例題を通し、基本的リズム、長調のダイアトニック・コード進行、ヴォイスイング・アレンジの方法をマスターしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コードの基本「クローズ・ヴォイスイング」と「長調のダイアトニック・コード進行」の基本知識を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① メジャーとマイナー・トライアドの全キー習得。
- ② メジャーとマイナー・トライアド、曲中で実践。例題曲：恋はあせらずに
- ③ 4和音の全キー習得。曲中で実践。例題曲：ヘイ・ジュード
- ④ SUS4・コード&ディミニッシュ 7th・コードの習得。例題曲：ラヴィング・ユー
- ⑤ 3和音と4和音を含む楽曲（8 Beat）で実践。例題曲：レット・イット・ビー
- ⑥ 3和音と4和音を含む楽曲の総復習。
- ⑦ 中間試験：クローズ・ヴォイスイング筆記問題と曲の演奏。

中間試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施し、3和音と4和音のクローズ・ヴォイスイングの理解度で評価します。

出席：10% 平常点：20% 試験：70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ テンションの種類と使い方(9th・11th・13th)／置き換えの基本。6種の裏技エクササイズの実習。
- ⑨ 裏技エクササイズを曲中で実践。／例題曲：イズント・シー・ラブリー。
- ⑩ 長調のダイアトニック1／表を覚える。例題曲：ティアーズ・イン・ヘブンなど。
- ⑪ 長調の曲作り1／主要三和音をモチーフとして、代理コードを当てはめ主題を作る。
- ⑫ 長調のダイアトニック2／アナライズ。例題曲：ユア・ソング、オネスティなど。
- ⑬ 長調の曲作り2／ダイアトニック並進行を使用してサビを作る。
- ⑭ 長調のダイアトニック3／ベースを重視した進行。例題曲：イエスタディ・ワンス・モアなど。
- ⑮ 期末試験：長調の曲の提出と、テンションを含む楽曲の演奏。

期末試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施する中、テンションを含むクローズ・ヴォイシング及び、長調のダイアトニック進行の理解度で評価します。

出席：10% 平常点：20% 試験：70%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ジャズ・ポピュラーピアノ研究 II
担当講師名	秋谷えりこ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、TV、CM、ポップス業界において、演奏、作曲・編曲、プロデュースの実務経験を持ちます。

授業内容

短調のダイアトニックを理解し演奏。またオープン・ヴォイスングを用いてヴォイスング・アレンジの幅を広げていきます。4クォーターでは基本的なアドリブ方法を学び、ペンタトニックやブルー・ノート・スケールなどの理解を深めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「短調のダイアトニック・コード進行」の基本知識、ソロピアノに欠かせない「オープン・ヴォイスング」、及び「アドリブの基本知識」を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オープン・ヴォイスング 1/ベーシック・ヴォイスング (R. 5.3&R. b7.3) の捉え方。
- ② オープン・ヴォイスング 2/曲中で実践。例題曲：オーバー・ジョイド など。
- ③ 短調のダイアトニック 1/表を覚える。例題曲：イツ・トゥー・レイト、ケアレス・ウィスパー など。
- ④ 短調のダイアトニック 2/例題曲：キリング・ミー・ソフトリー など。
- ⑤ 短調のダイアトニック 3/ベースを重視した進行。例題曲：パートタイム・ラヴァー。
- ⑥ 短調のダイアトニック 4/特殊なコード(IIIm7,IV7,Vm7) 例題曲：ホワッチャ・ゴナ・ドゥ・フォー・ミー など。
- ⑦ 中間試験：オープン・ヴォイスング筆記問題と短調の曲の演奏。

中間試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施する中、オープン・ヴォイスングの理解と2種のヴォイスングの使い分け方、及び、短調のダイアトニック進行の理解度で評価します。

出席：10% 平常点：20% 試験：70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アドリブ1 / ペンタトニックとブルー・ノート・スケール。例題曲：ドント・ノー・ホワイ。
- ⑨ アドリブ2 / ペンタトニックとブルー・ノート・スケール。例題曲：フィール・ライク・メイキン・ラヴ。
- ⑩ アドリブ3 / マイナー・ペンタトニックとブルー・ノート・スケール。例題曲：ウォーター・メロンマン。
- ⑪ アドリブ4 / マイナー・ペンタトニックとブルー・ノート・スケール。例題曲：チェンジ・ザ・ワールド。
- ⑫ アドリブ5 / メジャー&マイナーペンタトニック・スケールの混合。例題曲：ワッツ・ゴーイング・オン。
- ⑬ アドリブ6 / 基本スケールの確認と筆記テスト対策。
- ⑭ アドリブ7 / アドリブ曲の総復習。
- ⑮ 期末試験：アドリブ曲の演奏と、基本スケールの筆記。

期末試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施する中、アドリブに必要な基本スケール、使用方法の理解度で評価します。

出席：10% 平常点：20% 試験：70%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ジャズ・ポピュラーピアノ研究 III
担当講師名	秋谷えりこ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズ系の演奏、作曲・編曲、プロデューサーとして、多数の海外アーティストとレコーディングの実務経験を持ちます。

授業内容

ジャズ系やラテン系の曲を通して、「3つの主要な借用コードを含むコード進行」「2つの主要なヴォイシング方法の実践」「アドリブ」を演習形式でマスターしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャズ系の基本の形式の理解、2種のヴォイシングを混ぜる実践、3つの主要な借用コードを理解して、スタンダードのレパートリーを増やしていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ヴォイシング応用1 / トップ・ノート別ヴォイシングとサブドミナント・マイナー。
例題曲：モーニング・ダンス。
- ② ヴォイシング応用2 / V7でのテンション併用裏技。サブドミナント・マイナー。
例題曲：情熱大陸。
- ③ ヴォイシング応用3 / ダブル、リードとセカンダリー・ドミナント。例題曲：ジョージ・ポージー
- ④ ヴォイシング応用4 / II-Vでのテンション併用裏技。SubV7。例題曲：ユー・アー・マイ・ヘブン
- ⑤ アドリブ応用1 / ペンタトニック、ブルー・ノート、ドリアン・スケールの使い分け。例題曲：モーニン。
- ⑥ アドリブ応用2 / リディアン・スケール。例題曲：くよくよするなよ。
- ⑦ 中間試験：アドリブ曲の演奏。スケール、3つの主要な借用コードのディクテーションを含む筆記問題。

中間試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施する中、ヴォイシング2種の使い分け、3つの主要な借用コー

ド、アドリブの理解度で評価します。
出席：10% 平常点：20% 試験：70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑦ 初見コーチング／ジャズのノリと譜読みに強くなる 5 つのポイント。例題曲：フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン
- ⑧ ジャズ・ソロピアノ1／オープン・ヴォイシングの基本。題曲：いつか王子様が。
- ⑩ ジャズ・ソロピアノ2／クローズとオープンの混合1。例題曲：A列車で行こう
- ⑪ ジャズ・ソロピアノ3／クローズとオープンの混合2。例題曲：ペリーズ・パラソル
- ⑫ ジャズ・ソロピアノ4／借用を含むスタンダード。例題曲：マイ・ロマンス
- ⑬ ジャズ・ソロピアノ5／オスティナートをを使い演奏。例題曲：サマー・タイム
- ⑭ ジャズ・ソロピアノ6／カプリングとヴォイシング・アレンジ。：枯葉
- ⑮ 期末試験：スタンダード曲の演奏とヴォイシングの筆記。

期末試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施する中、ソロピアノに必要な基本ヴォイシングを使いこなせているか、また使用方法の理解度で評価します。
出席：10% 平常点：20% 試験：70%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ジャズ・ポピュラーピアノ研究 IV
担当講師名	秋谷えりこ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズ系の演奏家、作曲・編曲家、プロデューサーとして多数の海外アーティストとレコーディングの実務経験を持ちます。

授業内容

III クォーターに引き続き、スタンダード曲を通し、ジャズ系やラテン系の楽曲演奏に必要な、コード進行・ヴォイス方法・アドリブを演習形式でマスターしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なリズムのジャズ曲を弾きこなし、借用コードと定番コード進行の理解と応用力をつけ、スタンダードのレパートリーを増やしていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ジャズ・スタンダード1 / セカンダリーと SubV7。例題曲：アイ・リメンバー・エイプリル
- ② ジャズ・スタンダード2 / ノン・ダイアトニック II-V。例題曲：サテン・ドール
- ③ ジャズ・スタンダード3 / サブドミナント・マイナー。例題曲：オーバー・ザ・レインボウ
- ④ ジャズ・スタンダード4 / ブルージーな奏法。例題曲：ジョージア・オン・マイ・マインド
- ⑤ ジャズ・スタンダード5 / オルタード&リディアンb7&Hmp5↓を使用するアドリブ。例題曲：チュニジアの夜。
- ⑥ ジャズ・スタンダードジャズ・スタンダード6 / コンビネーション・オヴ・ディミニッシュ・スケールを使用するアドリブ。例題曲：スペイン
- ⑦ 中間試験：ノン・ダイアトニック・コードの筆記テストと曲の演奏。

中間試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施する中、ジャズの様々なジャンルのリズムに対応できた演奏ができてきているか、またジャズらしい借用コード及びアドリブのスケール理解度で評価します。

出席：10% 平常点：20% 試験：70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ・コーチング／ヴォイシング・アレンジとリハモナイズを混ぜてスタンダードをアレンジするコツを学ぶ。
- ⑨ ペダル／例題曲：マイ・フリーッシュ・ハート。
- ⑩ 変拍子／例題曲：テイク・ファイブ。
- ⑪ クリシェ／2種の記譜法を理解する。例題曲：マイ・ワン・アンド・オンリー・ラヴ。
- ⑫ ディミニッシュ／用法とそのアドリブを理解する。例題曲：アルマンデス・ルンバ
- ⑬ ジャズ・ワルツ／カプリング・ヴォイシングを使用し演奏。例題曲：いつか王子様が
- ⑭ コンサート・コーチング／コンサートや本番で実力を出すための対策について学ぶ。
- ⑮ 期末試験：スタンダード曲の演奏と様々な用法の筆記テスト。

期末試験評価方法・評価基準

筆記テストと演習を実施する中、ジャズ演奏に必要なコード進行・ヴォイシング方法・アドリブ・スケールの使用方法の理解度で評価します。

出席：10% 平常点：20% 試験：70%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー・レパートリー研究 I
担当講師名	岡野勇仁
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指導者としての実務経験があります。

授業内容

1 段譜(C メロ譜)からソロピアノ(2 段譜)にアレンジしていく方法を学びます。まずはコードネームを正確に理解し、きちんと配置(Voicing)をできるように学習します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

メロディーとコードネームの一段譜(リードシート)から左右の内声を使用しての Solo ピアノ・スタイルに仕上げます。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ① コードネームから読み取る Voicing(和音の配置)Vol.1
- ② コードネームから読み取る Voicing Vol.2
- ③ コードネームから読み取る Voicing Vol.3
- ④ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.1
- ⑤ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.2
- ⑥ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.3
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

実技試験(20%)、出席(80%)
使用する楽曲 Cinema Paradiso(A.Morricone)他 5 曲の中から 1 曲選びます。

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ コードネームから読み取る Voicing Vol.1

- ⑨ コードネームから読み取る Voicing Vol.2
- ⑩ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.1
- ⑪ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.2
- ⑫ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.3
- ⑬ アドリブ(書きリブも可)についての考察 Vol.1
- ⑭ アドリブ(書きリブも可)についての考察 Vol.2
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

実技試験(20%)、出席(80%)

使用する楽曲 River Quay(P.Metheny)他 5 曲の中から 1 曲選びます。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー・レパートリー研究Ⅱ
担当講師名	岡野勇仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指導者としての実務経験があります。

授業内容

後期は、リズムックなアプローチについて考えます。これはピアノ学習者のほとんどが苦手としている分野ではないでしょうか。この授業では、それぞれのリズムスタイルの持つ特徴的な音価(Comping)を学び、ポピュラー曲のレパートリーを増やしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なリズムを駆使して1段譜からのアレンジを試みる。
 アレンジを試みる。
 左右の内声、オブリガード、Compingなどを交え、Solo・Pianoスタイルに仕上げる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① コードネームから読み取る Voicing Vol.1
- ② それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.1
- ③ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.2
- ④ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.3
- ⑤ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.4
- ⑥ オブリガードの研究
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

実技試験(40%)、出席(60%)
 使用する楽曲 Se Todas Fossem Iguais a Voce(A.C.Jobim)他 6 曲の中から 1 曲選びます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コードネームから読み取る Voicing Vol.1
- ⑨ コードネームから読み取る Voicing Vol.2
- ⑩ リハモナイズの考察 Vol.1
- ⑪ リハモナイズの考察 Vol.2
- ⑫ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.1
- ⑬ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.1
- ⑭ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.2
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

実技試験(40%)、出席(60%)

使用する楽曲 My Foolish Heart (N.Washington)他 6 曲の中から 1 曲選びます。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー・レパートリー研究Ⅲ
担当講師名	岡野勇仁
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指導者としての実務経験があります。

授業内容

1 段譜(C メロ譜)からソロピアノ(2 段譜)にアレンジしていく方法を学びます。まずはコードネームを正確に理解し、きちんと配置(Voicing)をできるように学習します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

メロディーとコードネームの一段譜(リードシート)から左右の内声を使用しての Solo ピアノ・スタイルに仕上げます。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ① コードネームから読み取る Voicing(和音の配置)Vol.1
- ② コードネームから読み取る Voicing Vol.2
- ③ コードネームから読み取る Voicing Vol.3
- ④ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.1
- ⑤ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.2
- ⑥ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.3
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

実技試験(20%)、出席(80%)
使用する楽曲 Cinema Paradiso(A.Morricone)他 5 曲の中から 1 曲選びます。

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ コードネームから読み取る Voicing Vol.1

- ⑨ コードネームから読み取る Voicing Vol.2
- ⑩ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.1
- ⑪ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.2
- ⑫ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.3
- ⑬ アドリブ(書きリブも可)についての考察 Vol.1
- ⑭ アドリブ(書きリブも可)についての考察 Vol.2
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

実技試験(20%)、出席(80%)

使用する楽曲 River Quay(P.Metheny)他 5 曲の中から 1 曲選びます。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラー・レパートリー研究Ⅱ
担当講師名	岡野勇仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指導者としての実務経験があります。

授業内容

後期は、リズムックなアプローチについて考えます。これはピアノ学習者のほとんどが苦手としている分野ではないでしょうか。この授業では、それぞれのリズムスタイルの持つ特徴的な音価(Comping)を学び、ポピュラー曲のレパートリーを増やしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なリズムを駆使して1段譜からのアレンジを試みる。
 アレンジを試みる。
 左右の内声、オブリガード、Compingなどを交え、Solo・Pianoスタイルに仕上げる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① コードネームから読み取る Voicing Vol.1
- ② それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.1
- ③ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.2
- ④ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.3
- ⑤ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.4
- ⑥ オブリガードの研究
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

実技試験(40%)、出席(60%)
 使用する楽曲 Se Todas Fossem Iguais a Voce(A.C.Jobim)他 6 曲の中から 1 曲選びます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コードネームから読み取る Voicing Vol.1
- ⑨ コードネームから読み取る Voicing Vol.2
- ⑩ リハモナイズの考察 Vol.1
- ⑪ リハモナイズの考察 Vol.2
- ⑫ ソロ・ピアノ編曲法 Vol.1
- ⑬ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.1
- ⑭ それぞれのリズム、スタイルに応じた Comping の型 Vol.2
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

実技試験(40%)、出席(60%)

使用する楽曲 My Foolish Heart (N.Washington)他 6 曲の中から 1 曲選びます。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシックレパートリー研究 I
担当講師名	小野哲也
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は主にクラシックピアニストとしての演奏活動経験を持ちます。

授業内容

ピアノ音楽の幅広い時代のレパートリーの中から、演奏を通じて表現すべきことを各々見つけ出します。春学期は、バロックの時代後半からロマン派の時代前半の鍵盤楽器作品を演奏します。学期の後半では、受講生の皆さんが春学期で学ぶ時代の範囲から課題曲を選びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

この時代の背景や音楽作品の特徴を学んだ上で、それを演奏に活かせるようにしていきます。学期の後半では、曲選び自体も各々の意思を持って取り組めるようにします。遠い時代の作品と、今を生きる私たちとの関わりの中から表現できることを見つけていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① バロックの時代からロマン派前期までの鍵盤作品群からの課題曲を紹介します。
- ② バロックの時代の鍵盤作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ③ 古典派の時代のピアノ作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ④ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑤ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑥ 課題曲のレッスン③ バロック・古典の音楽についての復習も並行して行います。
- ⑦ 中間試験：課題曲の演奏をします。

中間試験評価方法・評価基準

中間試験の演奏では、作品への理解力と表現意欲を重視し評価します。
出席：40% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 古典派からロマン派への移り変わりを、その時代の作品群に触れて学びます。
- ⑨ 19 世紀前半のピアノ作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ⑩ バロック～ロマン派前期の範囲の鍵盤作品群から、受講生の皆さん自身が課題曲を決めて、選曲の動機を含めて発表します。
- ⑪ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑫ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑬ 課題曲のレッスン③ 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑭ 課題曲のレッスン④ 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑮ 期末試験：課題曲の演奏をします。その曲についてのレポートも 1 枚提出します。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験では、演奏での表現力を重視し評価します。

出席：40% 試験 60%

特記事項

レポートは、B5 または A4 の紙を使用して下さい。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシックレパートリー研究Ⅱ
担当講師名	小野哲也
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は主にクラシックピアニストとしての演奏活動経験を持ちます。

授業内容

ピアノ音楽の幅広い時代のレパートリーの中から、演奏を通じて表現すべきことを各々見つけ出します。秋学期は、ロマン派後期から近現代音楽(19世紀後半から20世紀前半まで)のピアノ作品を演奏します、学期の後半では、受講生の皆さんが秋学期で学ぶ時代の範囲から課題曲を選びます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

この時代の背景や音楽作品の特徴を学んだ上で、それを演奏に活かせるようにしていきます。学期の後半では、曲選び自体も各々の意思を持って取り組めるようにします。演奏上の個性と客観性の両立を目指します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ロマン派後期から近現代までのピアノ作品群からの課題曲を紹介します。
- ② ロマン派後期のピアノ作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ③ 国民学派のピアノ作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ④ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑤ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑥ 課題曲のレッスン③ ロマン派後期や国民学派の音楽についての復習もします。
- ⑦ 中間試験：課題曲の演奏をします。

中間試験評価方法・評価基準

中間試験の演奏は、作品への理解力と表現意欲を重視し評価します。
出席：40% 試験：60%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 19世紀から20世紀初頭の作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ⑨ 1950年代までの作品群に触れ、時代背景の変化を含め、その音楽的特徴を学びます。
- ⑩ ロマン派後期～近現代の範囲のピアノ作品から、受講生の皆さん自身が課題曲を決めて、選曲の動機も含めて発表します。
- ⑪ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑫ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑬ 課題曲のレッスン③ 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑭ 課題曲のレッスン④ 20世紀半ばまでのピアノ音楽について、復習もします。
- ⑮ 期末試験：課題曲の演奏をします。その曲についてのレポートも1枚提出します。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験では、作品の理解力と演奏での表現力を重視し評価します。

出席：40% 試験：60%

特記事項

レポートは、B5またはA4の紙を使用して下さい。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシックレパートリー研究Ⅲ
担当講師名	小野哲也
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は主にクラシックピアニストとしての演奏活動経験を持ちます。

授業内容

ピアノ音楽の幅広いレパートリーの中から、演奏を通じて表現すべきことを各々見つけ出します。春学期は、20世紀から現在までのピアノ作品を学びます。学期の後半では、受講生の皆さんが各々テーマを設定し、19世紀末までと20世紀以降の作品を1曲ずつ(計2曲)を選び、演奏します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

様々な地域や思想から生み出された音楽作品の特徴を学び、それを演奏表現に活かせるようにします。学期の後半では、各自テーマを設定することで時代や民族を超えて共通する内容を見つけていき、独自でプログラム作りをする能力をつけていきます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 20世紀から現在までのピアノ作品群からの課題曲を紹介します。
- ② 20世紀のピアノ作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ③ 20世紀～21世紀のピアノ作品群に触れ、その音楽的特徴を学びます。
- ④ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑤ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑥ 課題曲のレッスン③ 現代音楽について、復習もします。
- ⑦ 中間試験：課題曲の演奏をします。

中間試験評価方法・評価基準

中間試験の演奏では、表現意欲や実現力を重視し評価します。
出席：40% 試験：60%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 明治時代以降、日本はどのように西洋クラシック音楽を受け入れていったかを作品に触れて学びます。
- ⑨ 日本の現代音楽の発展を作品に触れて学び、私たち自身との関係を考えます。
- ⑩ 受講生の皆さんが選んだ2曲について、各自設定したテーマを含めて発表します。
- ⑪ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑫ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑬ 課題曲のレッスン③ 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑭ 課題曲のレッスン④ 各々の課題の曲目解説も提出します。
- ⑮ 期末試験：課題曲の演奏をします。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験では、テーマ設定や演奏の創造性を重視し評価します。

特記事項

曲目解説は、2曲合計400字前後にまとめて下さい。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	クラシックレパートリー研究Ⅳ
担当講師名	小野哲也
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は主にクラシックピアニストとしての演奏活動経験を持ちます。

授業内容

ピアノ音楽の幅広いレパートリーの中から、演奏を通じて表現すべきことを各々見つけ出します。秋学期は、前年度から学び続けてきた時代の流れをもう一度振り返り、今後の活動にどう繋げていくかを見つけて出します。学期の後半では、受講生の皆さんが各々テーマを設定し、全ての時代の鍵盤楽器作品から2曲を選び、演奏します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

膨大なクラシックピアノのレパートリーの中から、それぞれが専門家として何を選び何を伝えられるか、将来を見据えて各自選択する力をつけていきます。演奏技術と表現力の一致も目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20～21世紀のピアノ連弾(または2台ピアノ)作品からの課題曲を紹介します。
- ② 17～18世紀の音楽を俯瞰して、演奏を通じてその特徴を復習します。
- ③ 19世紀の音楽を俯瞰して、演奏を通じてその特徴を復習します。
- ④ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑤ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑥ 課題曲のレッスン③ 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑦ 中間試験：課題曲の演奏をします。

中間試験評価方法・評価基準

中間試験の演奏では、作品への立体的な視野と、アンサンブル能力を重視し評価します。
出席：40% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 近現代のピアノ音楽を俯瞰して、その特徴を復習します。
- ⑨ 全ての時代の音楽を俯瞰して、過去から未来に繋がる音楽の普遍的意味を考えます。
- ⑩ 受講生の皆さんが選んだ2曲について、各自設定したテーマを含めて発表します。
- ⑪ 課題曲のレッスン① 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑫ 課題曲のレッスン② 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑬ 課題曲のレッスン③ 課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
- ⑭ 課題曲のレッスン④ 各々の課題の曲目解説も提出します。
- ⑮ 期末試験：課題曲の演奏をします。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験では、テーマ設定や演奏の創造性を重視し、演奏の完成度も加えて評価します。

特記事項

曲目解説は、2曲合計400字前後にまとめて下さい。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析 I (クラシック楽典)
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

基礎的な音楽理論、楽典などから学び、音楽のなりたち（形式、メロディー分析、コード分析やモチーフのさまざまな用い方など）を分析していく。またアレンジ能力を総合的に身につけさまざまなジャンルに対応できるような伴奏型を学ぶ。クォーター毎にオリジナル作品を作曲し、発表する。作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽譜を正しく書く。バイエル程度の曲を自身の力でアナリーゼし、演奏表現につなげていく。オリジナル作品を計画性を持って完成させる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 音楽のなりたち。メロディーとコードの関係について。非和声音について学ぶ。与えられたコード進行にメロディーを作成してみよう。
- ② 音楽のなりたち。非和声音を取り入れてメロディー制作に反映させる。モチーフの研究。
- ③ 音楽のなりたち。ピアノ伴奏型を学ぶ。与えられたコードにしたがっていろんな種類の伴奏型を作ってみよう。
- ④ 作品制作。オリジナル作曲をするにあたって。構成を考えよう。イメージをふくらませよう。計画をたてよう。
- ⑤ 作品制作。メロディーを書き始める。コードとの関係。伴奏型を工夫して作ってみよう。
- ⑥ 作品制作。仕上げに向けて。速度表示、アーティキレーション、強弱など、表現を考えてみよう。
- ⑦ 1クォーター試験。1クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。

中間試験評価方法・評価基準

オリジナルピアノ曲、楽譜提出（40%）、出席（30%）、平常点（30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音楽のなりたち。長音階、短音階についてしっかり理解し、演奏する。調性について学ぶ。調判定の課題を実施。
- ⑨ 音楽のなりたち。形式について。二部形式、三部形式について。モチーフの展開について考えてみよう。
- ⑩ 楽曲分析：ソナチネ。ソナチネ作品を分析する。形式、調判定や転調など、メロディーと和声の関係について。
- ⑪ 楽曲分析：各自の楽曲。自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。時代、形式、調や転調について、モチーフの展開について。
- ⑫ 楽曲分析：各自の楽曲。自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。第4回目の授業内容のつづき。
- ⑬ 作品制作。オリジナルピアノ作品を作る。＜夏＞をテーマに、イメージをふくらませよう。
- ⑭ 作品制作。オリジナルピアノ作品を作る。＜夏＞をテーマに、メロディーを書き進める。形式感を意識して曲の頂点となる部分をしっかり作ろう。
- ⑮ 2クォーター試験。2クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。音楽理論筆記試験。

期末試験評価方法・評価基準

オリジナルピアノ曲、楽譜提出（40%）、筆記試験（30%）、出席（20%）、平常点（10%）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析Ⅱ（楽典・分析基礎）
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

音楽理論、楽典などを学び、音楽のなりたち（形式、メロディー分析、コード分析やモチーフのさまざまな使い方など）を分析していく。またアレンジ能力を総合的に身につけさまざまなジャンルに対応できるような伴奏型を学ぶ。クォーター毎にオリジナル作品を作曲し、発表する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ロンド、ソナタ形式の曲を自身の力でアナリーゼし、演奏表現につなげていく。オリジナル作品を計画性を持って完成させる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 作品分析：和音 和声について。調判定をしっかりと理解できるように学ぶ。和音の機能を学び、ドミナント進行をしっかりと意識する。
- ② 作品分析：ロンド形式 ロンド形式について学ぶ。小ロンド形式 Mozart SONATA ハ長調3楽章をアナリーゼし、発表しよう。
- ③ 作品分析：ロンド形式 ロンド形式について続き。ロンドソナタ形式をアナリーゼし、発表しよう。
- ④ 作品制作 オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。メロディーの方向性を考える。
- ⑤ 作品制作 オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。和音の工夫を考えてみよう。
- ⑥ 作品制作 オリジナルピアノ曲仕上げに向けて。アーティキレーション、表現を考える。
- ⑦ 3クォーター試験 3クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。

中間試験評価方法・評価基準

オリジナルピアノ曲、楽譜提出（40%）、出席（30%）、平常点（30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作品分析：和声 和声について。和音の機能についておさらい。借用和音、偶成和音について学ぶ。
- ⑨ 作品分析：ソナタ形式 ソナタ形式についてテキストに沿って学ぶ。形式、第一テーマと第二テーマの調整について。
- ⑩ 作品分析：ソナタ形式 ソナタ形式についての続き。Beethoven SONATA No.1 f moll 一楽章をアナリーゼし、意見を出し合う。
- ⑪ 作品分析：各自の楽曲 自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。時代、形式、調や転調について、モチーフの展開について。
- ⑫ 作品分析：各自の楽曲 自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。第4回目の授業内容のつづき。
- ⑬ 作品制作 オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。メロディーの方向性を考える。
- ⑭ 作品制作 オリジナルピアノ曲仕上げに向けて。アーティキレーション、表現を考え仕上げる。
- ⑮ 4クォーター試験 4クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

オリジナルピアノ曲、楽譜提出（40%）、筆記試験（30%）、出席（20%）、平常点（10%）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ作品分析Ⅲ（分析）
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

ピアノ作品の分析、歴史的背景、楽曲分析などのアナリゼを実施し学習する。和声の知識を深める。またクォータ事にオリジナル作品を制作し、発表する。様々なスタイルの楽曲を例に学び、レパートリーの充実をはかる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

和声の課題実施を通して正しく理解する。バロック、古典派、ロマン派などのピアノ作品をアナリゼし、どのように演奏表現に反映させていけるか、を自身の力で考えていけるように学習する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 和声課題実施。四声体の和声課題の実施。第一章、予備知識、第二章基本位置3和音の配置について学ぶ。
- ② 和声課題実施。四声体の和声課題の実施。第二章、基本位置3和音の配置の続き。第三章、基本位置3和音の連結<共通音のある和声連結>
- ③ 楽曲分析：インベンション。対位法的楽曲について。Bach インベンションのアナリゼをしよう。
- ④ 楽曲分析：平均律。対位法的楽曲について。Bach 平均律プレリュードとフーガのアナリゼをしよう。
- ⑤ 楽曲制作。オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。メロディーの方向性を考える。
- ⑥ 楽曲制作。オリジナルピアノ曲仕上げに向けて。アーティキレーション、表現を考え仕上げる。
- ⑦ Iクォーター試験実施。Iクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品楽譜提出。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験（40％）、楽譜提出（30％）、出席（20％）、平常点（10％）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 和声課題実施。四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結の続き。＜共通音のない和声連結＞
- ⑨ 和声課題実施。四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結の続き。＜II→Vの連結について＞⑩
- ⑩ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題の実施。第三章、の続き。＜V→VIの連結について＞自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
- ⑪ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題の実施。第四章、和音設定の原理。自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
- ⑫ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題の実施。第五章、8小節課題の実施。自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
- ⑬ 和声課題実施。楽曲制作。四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。オリジナルピアノ曲を作ろう。
- ⑭ ⑭和声課題実施。楽曲制作。四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。オリジナルピアノ曲制作仕上げに向けて。
- ⑮ IIクォーター試験実施。IIクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品楽譜提出。和声課題の試験。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験（40％）、楽譜提出（30％）、出席（20％）、平常点（10％）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析Ⅳ(作曲技法・様式)
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

ピアノ作品の分析、歴史的背景、楽曲分析などのアナリゼを実施し学習する。和声の知識を深める。またクォータ事にオリジナル作品を制作し、発表する。様々なスタイルの楽曲を例に学び、レパートリーの充実をはかる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

和声の課題を積み重ねることによって、盤石な和声感覚を身につけ、演奏表現に反映させていく。二年間の集大成となる楽曲を制作する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 和声課題実施。四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置について
- ② 和声課題実施。四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置の続き。8小節課題
- ③ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題実施。第七章、3和音の第二転回位置。自身の試験曲：アナリゼ
- ④ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について。自身の試験曲：アナリゼ
- ⑤ 和声課題実施。楽曲制作。四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について。オリジナル作品の制作をはじめ。
- ⑥ 和声課題実施。楽曲制作。四声体の和声課題実施。第八章、V7のつづき。オリジナル作品の制作を進めて仕上げに向ける。
- ⑦ Ⅲクォーター試験実施。Ⅲクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品楽譜提出。和声課題の試験。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験（40％）、楽譜提出（30％）、出席（20％）、平常点（10％）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 和声課題実施。四声体の和声課題実施。第九章、V9の和音について
- ⑨ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題実施。第十章、D諸和音の総括について。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリゼ
- ⑩ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題実施。カデンツの総括について。自身のレッスン曲や発表曲のアナリゼ
- ⑪ 和声課題実施。楽曲分析。四声体の和声課題実施。補充課題。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリゼ
- ⑫ 和声課題実施。楽曲制作。四声体の和声課題実施。S諸和音について。自身の試験曲や発表曲のアナリゼ
- ⑬ 和声課題実施。楽曲制作。四声体の和声課題実施。借用和音について。オリジナル作品の制作をはじめ、進める。
- ⑭ 和声課題実施。楽曲制作。四声体の和声課題実施。ソプラノ課題について。オリジナル作品の制作をまとめ仕上げに向けて。
- ⑮ IVクォーター試験実施。IVクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品、楽譜提出。和声課題の試験

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験（40％）、楽譜提出（30％）、出席（20％）、平常点（10％）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析Ⅴ
担当講師名	篠田昌伸
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、クラシックの作曲を専門とした出版、録音、受賞等があり、ピアニストとしても現代曲を中心としつつ、器楽、声楽、合唱の伴奏等広く活動している。

授業内容

ロマン派の作曲家ショパンとシューマンをとりあげ、それぞれの代表的なピアノ曲を俯瞰しつつ、作品を詳細に分析していく

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

分析の基礎について理解し、モチーフや構成などを発見することができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 分析の基礎について学ぶ。ショパン「バラード」1, 3番の分析
- ② ショパン「スケルツォ」1, 2番の分析
- ③ ショパン「ソナタ」2, 3番の分析
- ④ ショパン「プレリュード」の分析
- ⑤ ショパン「エチュード」の分析
- ⑥ ショパン「幻想曲」「子守歌」「舟歌」の分析
- ⑦ 中間試験：ショパン「エチュード」から授業で取り上げていない1曲を選択し、詳細な分析を試みる。

中間試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。分析の基礎的な理解を中心に評価する
出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ シューマンの作品について。「子供の情景」の分析
- ⑨ シューマン「謝肉祭」の分析

- ⑩ シューマン「アベッグ変奏曲」「交響的練習曲」の分析
- ⑪ シューマン「ソナタ第2番」「幻想曲ハ長調」の分析
- ⑫ シューマン「クライスレリアーナ」の分析
- ⑬ シューマン「女の愛と生涯」の分析
- ⑭ シューマン「ピアノ協奏曲イ短調」の分析
- ⑮ 期末試験：シューマン「幻想小曲集」から1曲選択し、詳細な分析を試みる。

期末試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。中間試験の成果を踏まえ、楽曲の全体的な理解を中心に評価する

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析 VI
担当講師名	篠田昌伸
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、クラシックの作曲を専門とした出版、録音、受賞等があり、ピアニストとしても現代曲を中心としつつ、器楽、声楽、合唱の伴奏等広く活動している。

授業内容

印象派の作曲家ドビュッシーとラヴェルをとりあげ、それぞれの代表的なピアノ曲を俯瞰しつつ、作品を詳細に分析していく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

印象派特有の語法について理解し、旋法や音階も含めて分析することができる

授業計画（1回目から7回目）

- ① 印象派の音楽、歴史、和声法について
- ② ドビュッシー「版画」の分析
- ③ ドビュッシー「ピアノのために」の分析
- ④ ドビュッシー「映像第1集」の分析
- ⑤ ドビュッシー「練習曲集」の分析
- ⑥ ドビュッシー「前奏曲集」の分析
- ⑦ 中間試験：「前奏曲集」から授業で取り上げていない1曲選択し、詳細な分析を試みる

中間試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。印象派の語法の理解を中心に評価する。
出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ラヴェル「ソナチネ」の分析
- ⑨ ラヴェル「鏡」の分析
- ⑩ ラヴェル「夜のガスパール」の分析

- ⑪ ラヴェル 連弾、2台ピアノの曲について
- ⑫ ラヴェル 室内楽作品について
- ⑬ ラヴェル ピアノ協奏曲ト長調の分析
- ⑭ ラヴェル「クープリンの墓」の分析
- ⑮ 期末試験：ラヴェル「クープリンの墓」から授業で取り上げていない1曲を選択し、詳細な分析を試みる

期末試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。中間試験の成果を踏まえ、作曲家、形式の理解等を中心に評価する。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析 VII
担当講師名	篠田昌伸
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、クラシックの作曲を専門とした出版、録音、受賞等があり、ピアニストとしても現代曲を中心としつつ、器楽、声楽、合唱の伴奏等広く活動している。

授業内容

前半は19世紀後半の作曲家としてブラームスとリスト、後半はロシアの作曲家ラフマニノフとスクリャーピンを取り上げ、それぞれの代表的なピアノ曲を俯瞰しつつ、作品を詳細に分析していく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

前年度の分析の基礎の上に立った、より深い分析をすることができる

授業計画（1回目から7回目）

- ① ブラームスについて。「ソナタ」第1, 3番の分析
- ② ブラームス「ハイドンの主題により変奏曲」の分析
- ③ ブラームス「2つのラプソディー」「4つのピアノ小品」の分析
- ④ リストについて。「超絶技巧練習曲」の分析
- ⑤ リスト「ソナタ短調」の分析
- ⑥ リスト「巡礼の年」の分析
- ⑦ 中間試験：ブラームスの小品から1曲選択し、詳細な分析を試みる。

中間試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。分析の完成度を中心に評価する。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ラフマニノフについて。「前奏曲集」の分析
- ⑨ ラフマニノフ「音の絵」第2集の分析

- ⑩ ラフマニノフ「ソナタ第2番」の分析
- ⑪ ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」の分析
- ⑫ ラフマニノフ「コレルリの主題による変奏曲」の分析
- ⑬ スクリャービンについて。「前奏曲」「練習曲」ほか小品の分析
- ⑭ スクリャービン「ソナタ」第2、5、9番の分析
- ⑮ 期末試験：ラフマニノフ「前奏曲集」から授業でとりあげていない1曲を選択し、詳細な分析を試みる。

期末試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。各作曲家の理解を中心に評価する。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析 VIII
担当講師名	篠田昌伸
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、クラシックの作曲を専門とした出版、録音、受賞等があり、ピアニストとしても現代曲を中心としつつ、器楽、声楽、合唱の伴奏等広く活動している。

授業内容

前半はロシア近代の作曲家としてプロコフィエフ、ショスタコーヴィチ、後半は毎回異なる近代の作曲家を取り上げ、それぞれの代表的なピアノ曲を俯瞰しつつ、作品を詳細に分析していく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

2年間のまとめとして、自分なりの視点での分析をすることができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① プロコフィエフについて。「ソナタ」1, 2, 3番の分析
- ② プロコフィエフ「戦争ソナタ」7番の分析
- ③ プロコフィエフ「ピアノ協奏曲第3番」の分析
- ④ プロコフィエフ「ヴァイオリンソナタ第2番」の分析
- ⑤ ショスタコーヴィチについて。「ソナタ」1, 2番の分析
- ⑥ ショスタコーヴィチ「24の前奏曲とフーガ」の分析
- ⑦ 中間試験：ショスタコーヴィチ「24の前奏曲とフーガ」から1曲選び分析を試みる。

中間試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。分析の完成度や独自性を中心に評価する。
出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アルベニスについて。組曲「スペイン」「イベリア」の分析

- ⑨ グラナドスについて「ゴイエスカス」の分析
- ⑩ シマノフスキについて「4つの練習曲」「マスク」の分析
- ⑪ ヤナーチェクについて「ピアノソナタ」「霧の中で」ほか小品の分析
- ⑫ バルトークについて「ピアノソナタ」ほか様々な作品の分析
- ⑬ リゲティについて「ムジカリチェルカータ」「エチュード」の分析
- ⑭ カプースチンについて「8つの演奏会用エチュード」ほかの分析
- ⑮ 期末試験：バルトークの小品から1曲選択し、詳細な分析を試みる。

期末試験評価方法・評価基準

各自分析したものを提出する。各作曲家の理解を中心に評価する。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法 I
担当講師名	溝部洋子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

21世紀に求められているピアノ教師像とは？実際のレッスン映像を見、レッスングッズの実物を使っての実際的な授業です。「ピアノは弾けるけど教え方が分からない」新米ピアノ教師になった時、困らないためのノウハウを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

なぜピアノ指導は面白いの？他の職業と何が違うの？ピアノ教師って何がいいの？
 沢山あるピアノ教本の選び方、初めて教えるとき、何から教えればいいのかなどを学び理解しましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「ピアノ指導法」授業の目的は？：なぜ、この授業があるの？「ピアノ指導法」をなぜ勉強する必要があるのかを知りましょう。
- ② ピアノ指導者の仕事とは？：ピアノ講師の仕事って、どういう仕事？ピアノ講師、ピアノ教師の仕事について学びましょう。
- ③ 沢山あるピアノ教本について：ピアノ教本が沢山あることを知りましょう。なぜ沢山あるのでしょうか？それを考えよう！
- ④ ピアノ教本の分類法：沢山あるピアノ教本やピアノテキストを見分けられる方法について、その分類の方法を学びます。
- ⑤ 「ミドルCアプローチ」とは？：「ミドルCアプローチ」って何？を習います。「ミドルCアプローチ」のピアノテキストも沢山紹介します。
- ⑥ 「ランドマークアプローチ」とは？：「ランドマーク」の意味って何？それを「読譜」に利用するとどうなる？発想を転換するスキルをゲットしよう！
- ⑦ 私が選んだピアノテキスト：1クォーターで学んできたことを元に「良いと思う」テキストを選びをし、それについてレポートを作成しましょう。

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②楽譜売り場に行き、授業時の指示に従い、ピアノ教本について調べます。③課題は必ず期限までに提出しましょう。

①出席 40% ②平常点 20% ③課題 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 夏休みに誰かを教えてみよう！：夏休みの課題である「誰かを実際に教えてみる」について「どうやって生徒を見つけるの？」など理解しましょう。
- ⑨ 全調メソッドとは？：「全調メソッド」って何？なぜ全調メソッドが必要な？全調メソッドについて学びます。
- ⑩ 「バイエル」とは？：「バイエル」って何？なぜ「バイエル」はロングセラーなの？バイエルについて学びましょう。
- ⑪ 「教える生徒」についての発表：夏休みに教える生徒について、プレゼンテーションしましょう。どうやって生徒をみつけたか？何を教えるか？など。
- ⑫ 夏休みの「レッスンプラン」の発表：どういう風にレッスンするか？どんなテキストや曲を使うか、など夏休みのレッスンについて発表しましょう。
- ⑬ 「夏休みのレッスン」の報告：夏休みに行ったレッスンはどうでしたか？自分の行ったレッスンについて発表します。
- ⑭ 教えたレッスンでわからなかったこと：夏休みに行ったレッスンで、わからなかったこと、難しかったこと、途惑ったこと、などを発表し、解決方法を学びましょう。
- ⑮ 夏休みに教えたレッスンレポート：実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②夏休みに誰かを教えます。③夏休みに教えるレッスンプランの発表をします。④夏休みに教えたレッスンの発表をします。⑤教えたレッスンのレポートを作成します。

① 35% ②③④で30% ⑤ 35%

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法Ⅱ
担当講師名	溝部洋子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

先生役&生徒役になって、バーチャルレッスンをを行い、具体的な指導のスキルや問題解決の方法を学びます。お手本となる演奏についても考え、指導者として示すべき模範、アンサンブルの必要性についても学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バーチャルレッスンを通し、具体的な指導のスキルや問題解決の方法を学びます。クラスメイトの発表からは、沢山のことが学べることでしょう。アンサンブルの必要性、指導者として示すべき模範と教えるべきポイントについても学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① レッスンで最初に教えること：初めてのレッスンで教えるべきことは何か？を考えます。必要不可欠な5項目を学びます。
- ② 鍵盤上の音名：テーマ①「鍵盤上の音名」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンを行います。
- ③ ドレミの配列：テーマ②「ドレミの配列」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンを行います。
- ④ 譜表上の音名：テーマ③「譜表上の音名」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンを行います。
- ⑤ 音の方向&音程読み：テーマ④「音の方向&音程読み」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンを行います。
- ⑥ リズムと拍子：テーマ⑤「リズムと拍子」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンを行います。
- ⑦ 全6回のまとめ：全6回の授業を通して、クラスメイトの行ったレッスンを振り返り、ディスカッションをしましょう。

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②バーチャルレッスンのためのグッズ制作をします。③先生役のレッスン計画を作り、実行しましょう。④生徒役を適正に行いましょう。

①出席40% ②③課題40% ④平常点20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ お手本となる演奏とは：模範となる演奏について考えます。なぜお手本の演奏が必要なのでしょう？皆で話し合います。
- ⑨ 演奏と発表①導入期の曲：導入期の曲でお手本とするべきポイントは？導入期には何を押さえなければいけないか？を学びます。
- ⑩ 演奏と発表②初級レベルの曲：初級レベルの曲でお手本とするべきポイントは？初級期には何を押さえなければいけないか？を学びます。
- ⑪ 演奏と発表③中級レベルの曲：中級レベルの曲でお手本とするべきポイントは？中級期には何を押さえなければいけないか？を学びます。
- ⑫ アンサンブルの必要性和合わせ方：なぜアンサンブルが必要なの？連弾や2台ピアノを早くから導入する必要性和合わせ方の基本を学びます。
- ⑬ 連弾又は2台ピアノの演奏：導入・初級・中級レベルより1つ選び、クラスメイトと連弾又は2台ピアノの曲を決めて演奏発表します。
- ⑭ 私が選んだ作曲家について：選択した曲の作曲家について調べ、発表します。子供の生徒でもわかるよう、わかり易く説明しましょう。
- ⑮ 学期末試験：ピアノ指導法の1年間の学びを振り返り、何を学んだか？何が印象に残ったか？などをレポートします。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②導入・初級・中級のレパートリーから1曲選択して演奏します。③導入・初級・中級の連弾又は2台ピアノのレパートリーから1曲選択して演奏します。④1年のまとめをレポートします。

①40% ②③④で60%

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法Ⅲ
担当講師名	溝部洋子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

昨年度学習した事柄や知識を基に、更に深く「ピアノ指導法」について追及します。教える立場に立った時に困らないよう、良いテキストの選び方や年齢別の指導法その他、細かいノウハウを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

理想的なピアノテキストを選べるようになるための知識を身につけましょう。教える時、生徒に学習させるべき項目を考え、良いレッスンを展開できる力をつけましょう。学んだことを最大限に活かして、夏休みに実際に教えてみましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 初めに選ぶ教本：理想的なピアノテキストとは？について考えていきます。昨年の授業を参考に皆でディスカッションしましょう。
- ② 3、4歳児向けのテキストその①：3、4歳児向けのテキストにはどんなものがあるの？3、4歳児向けのテキストに必要なことは？について考えます。
- ③ 3、4歳児向けのテキストその②：沢山販売されている3、4歳児向けテキストについて、詳しく見ていきます。
- ④ 3、4歳児の教え方：前3回で学んだ、3、4歳児向けテキストの使い方と教え方について学びます。
- ⑤ 5～8歳児向けのテキストその①：5～8歳児向けのテキストにはどんなものがあるの？5～8歳児向けのテキストに必要なことは？について考えます。
- ⑥ 5～8歳児向けのテキストその②：沢山販売されている5～8歳児向けテキストについて、詳しく見ていきます。
- ⑦ 5～8歳児の教え方：前3回で学んだ、5～8歳児向けテキストの使い方と教え方について学びます。

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②楽譜売り場に行き、授業時の指示に従い、ピアノ教本について調べます。③課題は必ず期限までに提出しましょう。

①出席40% ②平常点20% ③課題40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 大きい子供と大人の初心者：9歳以上の生徒と大人の初心者の指導について学びます。大きい生徒や大人の初心者レッスンは、子供と何が違うの？
- ⑨ 大きい子供と大人の初心者向けテキスト：大きい生徒や大人の初心者向けのテキストについて学びます。
- ⑩ 夏休みのレッスン①：夏休みに行うレッスンの予行演習を授業内で行います。レッスン計画の立て方を学びます。
- ⑪ 夏休みのレッスン②：夏休みに行うレッスンをシュミレーションしてみましよう。
- ⑫ 夏休みの「レッスンプラン」の発表：どういう風にレッスンするか？どんなテキストや曲を使うか、など夏休みのレッスンについて発表しましょう。
- ⑬ 「夏休みのレッスン」の報告：夏休みに行ったレッスンはどうでしたか？自分の行ったレッスンについて発表します。
- ⑭ 教えたレッスンでわからなかったこと：夏休みに行ったレッスンで、わからなかったこと、難しかったこと、途惑ったこと、などを発表し、解決方法を学びましよう。
- ⑮ 夏休みに教えたレッスンレポート：実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②夏休みに誰かを教えます。③夏休みに教えるレッスンプランの発表をします。④夏休みに教えたレッスンの発表をします。⑤教えたレッスンのレポートを作成します。

①35% ②③④で30% ⑤35%

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法Ⅳ
担当講師名	溝部洋子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

今まで学んだ知識を基に、中級レベルへつなげるためのテキストの選び方、様々なレパートリーの指導方法を学びます。教室の開き方や保護者対策、発表会の開き方、ピアノ教師になった時、困らないための事柄を学び、しめくります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「四期」の指導がなぜ必要なの？ポップス・ジャズにまでつなげるために、どういうテキストを使う必要があるの？ピアノの講師になった時に困らないためにはどうすればいいの？などの知識をゲットしましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 四期の指導の重要性：なぜ四期を教える必要があるかを考える授業です。「四期」を指導する必要性って何？
- ② 四期の指導①バロック：初級ピアノテキストの中から、バロックにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
- ③ 四期の指導②古典：初級ピアノテキストの中から、古典のソナチネにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
- ④ 四期の指導③ロマン：初級ピアノテキストの中から、ロマン派の曲につながるページや曲を探し、分析していきましょう。
- ⑤ 四期の指導④近・現代：初級ピアノテキストの中から、近・現代の曲につながるページや曲を探し、分析してみましょう。
- ⑥ 四期の指導⑤ポップス・ジャズ：アメリカのピアノメソッドがポップス・ジャズにもつながる理由を考え、テキストを見ていきましょう。
- ⑦ 四期の指導⑥ポップス・ジャズ：プレゼンテーション：もし私がポップス・ジャズを教えるとしたら？これがクォーター末の課題です。

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②四期の中から1つ選び演奏します。③四期の中から1つ選び、クラスメートを教えます。④ポップス・ジャズも演奏又は指導します。

①40% ②③④で60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ教室の開き方：どうやって教室を開くの？生徒募集はどうするの？お月謝の設定は？etc を学びます。
- ⑨ 教室理念とルール作り：大切な「教室理念」と教室の「ルール作り」について詳しく学びます。
- ⑩ 教室経営法：どうやったらスムーズに教室が運営できるか、そのノウハウについて考えていきましょう。
- ⑪ 保護者や生徒の対人対策：人とのコミュニケーション能力が必須のピアノ教師です。生徒や保護者対応、対策を考えましょう。
- ⑫ もし教室を開くとしたら？：私がもし教室を開くとしたら、どんな教室にする？どうやって教室を開いたらいい？を考えます。
- ⑬ もしピアノ講師になったら？：私がもしピアノ講師、ピアノ教師になったらどういう先生になりたい？何をしたい？を考えましょう。
- ⑭ 私が理想とする「教室&講師」像：自分が理想とする教室とその講師像についてプレゼンテーションしましょう。
- ⑮ 1年間のまとめ：1年間学んできたことを振り返り、その詳細についてレポートしましょう。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②理想とする「教室」像についてプレゼンテーションしましょう。③自分がなりたい「講師」像についてプレゼンテーションしましょう。④1年間で何を学んだか詳細にレポートしましょう。

①40% ②③④で60%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法Ⅴ
担当講師名	溝部洋子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

ピアノを教える時に一番必要な知識「テキスト」について深く学びます。「ミドルC」「ランドマーク」「全調」「バイエル」・・・etc. 必ず押さえておかなければならない分類法と大人のレッスンについて学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノ講師になった時に困らないための「テキストの知識」、「子供のレッスン」と「大人のレッスン」の違いを知りましょう。夏休みには誰かを教えて、教えるスキルをアップさせましょう。「3年生」ならではの学び方を修得しましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 良いテキストの選び方：良いピアノテキストとは？良いピアノテキストの条件について考え、確認しましょう。
- ② ピアノ教本分類法：「ミドルC」「ランドマーク」「全調」アプローチなど、沢山あるピアノテキストを分類方法について学びます。
- ③ ミドルCアプローチのテキスト：「ミドルC」アプローチって何？そのテキストにはどのようなものがあるの？を学ぶ授業です。
- ④ ランドマークアプローチのテキスト：聞き慣れない「ランドマーク」アプローチ、その秘密を探ります。これを導入するとレッスンが大きく変わります。
- ⑤ 全調メソッドのテキスト：「全調」の指導は必須アイテムです。「全調メソッド」のテキストについて学びます。
- ⑥ 幼児向けテキスト：幼児向けテキストは沢山あるけれど、何をポイントにどう選び、使えばいいの？を学びます。
- ⑦ 私が選んだ良いテキスト：良いと思うテキストを楽譜屋さんに行って調べ、レポートしましょう。なぜそれが良いと思ったのですか？

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②楽譜売り場に行き、授業時の指示に従い、ピアノ教本について調べます。③課題は必ず期限までに提出しましょう。

①出席40% ②平常点20% ③課題40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 大人のレッスン：大人のレッスンと子供のレッスンはどこが違うの？大人のレッスンについて学びます。
- ⑨ 大人のピアノテキスト：大人のピアノテキストにはどのようなものがあるか？大人向けには、どういうテキストを使えば良いか？を学びます。
- ⑩ 大人の生徒の教え方：子供とは違う大人の生徒への対応の仕方や教え方を細かく考え、学びましょう。
- ⑪ 夏休みに教えるレッスン：夏休みに教える生徒について、プレゼンテーションしましょう。どうやって生徒をみつけたか？何を教えるか？など。
- ⑫ 夏休みの「レッスンプラン」：どういう風にレッスンするか？どんなテキストや曲を使うか、など夏休みのレッスンについて発表しましょう。
- ⑬ 「夏休みのレッスン」の報告：夏休みに行ったレッスンはどうでしたか？自分の行ったレッスンについて発表します。
- ⑭ 行ったレッスンを改善するために：夏休みに行ったレッスンで、わからなかったこと、難しかったこと、戸惑ったこと、などを発表し、解決方法を学びましょう。
- ⑮ 夏休みに教えたレッスンレポート：実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②夏休みに誰かを教えます。③夏休みに教えるレッスンプランの発表をします。④夏休みに教えたレッスンの発表をします。⑤教えたレッスンのレポートを作成します。

①35% ②③④で30% ⑤35%

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法VI
担当講師名	溝部洋子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

「4期」ではない「5期」の指導とは何か？中級・上級へつなげていくために、押さえておかなければならないテキストの選び方や教え方を学びます。必須の「発表会」、生徒や保護者対応についても学びましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「5期」が意味するもの、目指すものが何か？それを踏まえてのレッスンの展開の仕方を理解しましょう。講師になった時に困らないための様々な知識をゲットしてください。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 4期ではなく「5期」の指導：なぜ5期を教える必要があるかを考える授業です。なぜ「5期」なの？
- ② バロック期の教え方：初級・中級ピアノテキストの中から、バロックにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
- ③ 古典派の教え方：初級・中級ピアノテキストの中から、古典のソナチネにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
- ④ ロマン派の教え方：初級・中級ピアノテキストの中から、ロマン派の曲につながるページや曲を探し、分析していきましょう。
- ⑤ 近・現代期の教え方：初級・中級ピアノテキストの中から、近・現代の曲につながるページや曲を探し、分析してみましょう。
- ⑥ ポップス・ジャズを教えるには？：もしポップス・ジャズを教えるとしたら、どうする？レッスン方法を考えましょう。
- ⑦ 「私が展開する」レッスン：「5期」の中から、一番興味のある様式を選び、クラスメイトにレッスンしてみましょう。

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②5期の中から1つ選び演奏します。③5期の中から1つ選び、クラスメイトを教えます。④ポップス・ジャズも演奏又は指導します。

①40% ②③④で60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 発表会は、なぜ必要？：発表会の必要性について考え、クラスメイトと話し合ひましょう。
- ⑨ 発表会の実例：色々な教室の色々な発表会DVDを見ながら、発表会の実例について学びましょう。
- ⑩ 発表会の開き方：発表会はどのように開くのかを考え、発表会の開き方について学んでいきます。
- ⑪ 発表会で押さえておくべきポイント：発表会を開催する時に、どうしても押さえておかななくてはならないポイントについて学びます。
- ⑫ 講師演奏をしたら？：発表会で恒例の「講師演奏」について学びます。注意すべきポイントや理想的なレパートリーについて。
- ⑬ 講師演奏の準備：実際にピアノ講師になった時に困らないために、講師演奏のためのレパートリーを弾いてみよう。
- ⑭ 生徒と保護者対策：1人1人異なる個々の生徒への対応の仕方や保護者対策について考え学びましょう。
- ⑮ 1年間のまとめ：「ピアノ指導法」1年間の授業はどうでしたか？レポートを作成し、発表しましょう。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②自分が開いてみたい理想の「発表会」像についてプレゼンテーションしましょう。③1年間で何を学んだか、詳細にレポートしましょう。

①40% ②と③で60%

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法Ⅶ
担当講師名	溝部洋子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

3年間の指導法の授業を基に、知っておくべきピアノテキストの内容を分析し、使い方を細かく学びます。卒業後、ピアノ講師になることを前提とした授業を展開します。春学期は、日本人著者によるシリーズのテキストを勉強します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3年間の指導法の授業を基盤にして、1年後にピアノ講師になることを想定し、テキストの内容について、しっかり理解しましょう。各テキストの長所や短所、具体的な使い方を確実に理解し、マスターできるようにしましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① みんなのおけいこ（音友）：全3巻の特徴と導入の方法、テキストの使い方について学びます。
- ② うたとピアノの絵本（音友）：①みぎて②ひだりて③りょうての全3冊の導入の方法と使い方について学びます。
- ③ アキピアノ教本（音友）：うたとピアノの絵本の続編であるアキピアノ教本①②③について学びます。
- ④ みんなのオルガンピアノの本1、2（ヤマハ）：日本で最も歴史のあるテキストです。内容の分析と使い方を学びます。
- ⑤ みんなのオルガンピアノの本3、4（ヤマハ）：第4回の授業で学んだテキストの続きがどうなっているのかを学びます。
- ⑥ ピアノひけるよジュニア1、2（ドレミ）：みんなが知っている歌や曲ばかりを使って「ひけるよ」シリーズについて学びます。
- ⑦ ピアノひけるよジュニア3（ドレミ）：第3巻の押さえるべきポイント、使い方や教え方を学びます。

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②1クォーターで学んだ全てのテキストについてまとめましょう。③課題は必ず期限までに提出しましょう。

①出席40% ②平常点20% ③課題40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノひけるよシニア（ドレミ）：ひけるよジュニア終了後に使うシニアシリーズはどのようなものか見ていきましょう。
- ⑨ ピアノランド（音友）：このシリーズの中心は何かを中心に学びます。
- ⑩ ぴあのどリーむ（学研）：このシリーズの長所と短所について分析します。
- ⑪ こどものひだりて（サーベル）：なぜこのテキストが必要かを考え、使い方や対象生徒について考えます。
- ⑫ はじめてのピアノ教本（サーベル）：このシリーズの特徴は何か、使う利点、使い方などを学びます。
- ⑬ ソーヨ姫とファードス王子（全音）：このテキストの斬新なアイデアを知り、使い方を考えてみましょう。
- ⑭ わかーるピアノ（全音）：邦人のテキストとしては最も新しいテキストのひとつである「わかーるピアノ」について学びます。
- ⑮ 夏休みに教えたレッスンレポート：実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②授業への取り組み方、積極性など。③春学期に学んだ全てのテキストの中から良いと思うテキストを選び、そのテキストを使って誰かに教え、そのレポートを作成します。

①出席40% ②平常点20% ③課題40%

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ピアノ指導法Ⅷ
担当講師名	溝部洋子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

授業内容

春学期の授業を基に、秋学期は海外のメソッドで邦訳されているテキストについて詳しく学びます。導入～上級まで、どのようにつながるのか細かく分析し、使い方を学びます。4クォーターは「演奏」がテーマです。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

あと半年で卒業！ピアノ講師になった時、少しでも困らないよう、テキストの知識を総まとめできるようにしましょう。生徒を教える時のシュミレーションもできるようにしましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アルフレッド導入コース A、B（全音）：なぜこのテキストが必須なのかを学び、絶対に押さえるべきポイントをマスターしましょう。
- ② アルフレッド導入コース C（全音）：このテキストの「必須」のポイントと、その教え方を学びます。
- ③ アルフレッド基礎コース（全音）：導入コースと何が違うのか、このコースの目指すところは何なのかを学びます。
- ④ バスティンピアノパーティー（東音）：このテキストの画期的な点は何なのか、なぜそれが重要なのかを中心に勉強します。
- ⑤ バスティンライブラリー（東音）：このテキストが目指していること、なぜ良いのかを分析し学びます。
- ⑥ バスティンベーシックス（東音）：パーティーシリーズ、ライブラリーシリーズとは何がどう違うのかを中心に学びます。
- ⑦ ラーニングトゥプレイ（全音）：このテキストの長所と特徴、もし短所があるとしたら何なのかを見ていきましょう。

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②3クォーターで学んだ全てのテキストについてまとめましょう。③課題は必ず期限までに提出しましょう。

①出席40% ②平常点20% ③課題40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 導入期のレッスンその①：導入期のレッスンで、押さえるべき弾き方のポイントを演奏を通して学びます。
- ⑨ 導入期のレッスンその②：導入期のレッスンで、気を付けたい奏法やテクニックを演奏を通して学びます。
- ⑩ 導入期のレッスンその③：このレベルでできるアンサンブルを考え、クラスメイトと合わせましょう。
- ⑪ 初級のレッスンその①：初級のレッスンで、押さえるべき弾き方のポイントを演奏を通して学びます。
- ⑫ 初級のレッスンその②：初級のレッスンで、気を付けたい奏法やテクニックを演奏を通して学びます。
- ⑬ 中級のレッスンその①：中級のレッスンは初級の時と何が違うべきなのか、演奏を通して学びます。
- ⑭ 中級のレッスンその②：中級のレッスンで、気を付けたい奏法やテクニックを演奏を通して学びます。
- ⑮ 学期末試験：中級レベルのソロ、アンサンブルの実技試験です。4年間のまとめとなるハイレベルの演奏を目指しましょう。

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は次の通りです。

①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②授業への取り組み方、積極性など。③レパートリーから各々1曲選択して演奏します。

①出席40% ②平常点20% ③課題40%

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習(伴奏法応用) I
担当講師名	大導寺錬太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内のコンクール審査員、PTNA ステップのアドバイザーを担当、30 回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

授業内容

主にピアノのアンサンブル(4 手連弾、2 台 4 手、2 台 8 手等)を勉強します。アンサンブルに必要な様々な知識・技術を習得し、より深く多彩な表現を楽しみましょう。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

本授業で学んだ成果を 10 月実施予定のコンサートで披露します。各自のレベルで最高の演奏が出来る事が本授業の目標です。日々の練習方法、気持ちの高め方など、本番を迎えるにあたっての様々な準備の仕方を体得することが出来ます。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ①読譜～作品の概要を把握する～:楽譜に書かれている様々な情報を確認し、また音源を聴き、曲の大まかな雰囲気をつかみます。
- ②基本的事項の確認及び練習:確実に弾ける速度で、音・リズム等の確認をします。頭に入りにくい部分は何度も反復し覚えます。
- ③音楽的な掘り下げ①～フレージング～:スラーの長さ等からどこからどこまでが 1 つのまとまりになっているかを読み解き、音楽の流れを理解します。
- ④技術面の強化①～苦手な部分の確認～:技術的に難しい部分の練習を行ないます。1 フレーズ又は数小節の単位で確実に弾ける速度で反復し、苦手部分を把握します。
- ⑤技術面の強化②〈具体的な練習方法の習得〉:技術的に難しい部分の様々な練習方法を学びます。効率の良い練習法を体得し、安定したテクニックを身に着けます。
- ⑥音楽面・技術面のバランスを確認:試験に向け現段階で出来ている部分に磨きをかけます。曲全体を通し、俯瞰する事で現在の進捗状況を整理します。
- ⑦授業のまとめ(3 クォーター末試験):これまで練習してきた曲を披露します。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

中間試験評価方法・評価基準

出席 25%(第1回～6回各3点、第7回のみ7点で計算。遅刻は-1。)平常点 25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験 50%の割合で評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧1 クォーターの反省及び練習計画の検討:1 クォーター末試験講評まとめを確認、その内容や自身の反省に基づき、本番に向けての練習計画を練ります。
- ⑨側面から作品を理解する:作品の成り立ちや作曲家について調べ、ピアノに向かう練習以外の視点から曲の理解を深めます。
- ⑩「耳」を働かせた演奏～響きの調和～:ペダリングを検討。和声進行を理解し、響かせ方・歌わせ方の考え方を共有、統一感のある響きを目指します。
- ⑪技術面の強化③～運指のチェック～:指使いの再確認を行います。楽譜の運指が合わない部分は無理をせず、自身の手にあったものを検討します。
- ⑫音楽的な掘り下げ②～相手との絡み～:呼吸の合わせ方、フレーズの感じ方、*cresc.dim.*のタイミング等細かい部分が共有出来ているかを確認します。
- ⑬音楽的な掘り下げ③～細部の確認～:アーティキュレーションの再確認し、アンサンブルの一体感を高め、完成度を上げていきます。
- ⑭試験に向けて～ステージマナーの確認～:演奏とステージマナーの最終確認を行ないます。見た目にも美しい舞台になるよう仕上げていきます。
- ⑮授業のまとめ(2 クォーター末試験):1 クォーターから練習してきた曲の総仕上げ。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

期末試験評価方法・評価基準

出席 25%(第1回～7回各3点、第8回のみ4点で計算。遅刻は-1。)平常点 25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験 50%の割合で評価します。3・4両クォーターの平均が学年末評価となります。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習(伴奏法応用)Ⅱ
担当講師名	大導寺錬太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内のコンクール審査員、PTNA ステップのアドバイザーを担当、30 回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

授業内容

春学期で学んだアンサンブルのノウハウ、又コンサートでの舞台経験を活かし、新たな作品に挑戦します。異なるジャンルを学ぶ事でレパートリーが広がり、様々なタイプのアンサンブルへの対応が可能になります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期学んだ成果を 3 月実施予定のコンサートで披露します。春学期で培った練習方法やメンタル面の調整の仕方等を活かし、各自のレベルで 1 年間の集大成に相応しい演奏が出来る事が本授業の目標です。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①読譜～作品の概要を把握する～:楽譜に書かれている様々な情報を確認し、また音源を聴き、曲の大まかな雰囲気をつかみます。
- ②基本的事項の確認及び練習:確実に弾ける速度で、音・リズム等の確認をします。頭に入りにくい部分は何度も反復し覚えます。
- ③音楽的な掘り下げ①～フレージング～:スラーの長さ等からどこからどこまでが 1 つのまとまりになっているかを読み解き、音楽の流れを理解します。
- ④技術面の強化①～苦手な部分の確認～:技術的に難しい部分の練習を行ないます。1 フレーズ又は数小節の単位で確実に弾ける速度で反復し、苦手部分を把握します。
- ⑤技術面の強化②〈具体的な練習方法の習得〉:技術的に難しい部分の様々な練習方法を学びます。効率の良い練習法を体得し、安定したテクニックを身に着けます。
- ⑥音楽面・技術面のバランスを確認:試験に向け現段階で出来ている部分に磨きをかけます。曲全体を通し、俯瞰する事で現在の進捗状況を整理します。
- ⑦授業のまとめ(3 クォーター末試験):これまで練習してきた曲を披露します。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

中間試験評価方法・評価基準

出席 25%(第1回～6回各3点、第7回のみ7点で計算。遅刻は-1。)平常点 25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験 50%の割合で評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧3 クォーターの反省及び練習計画の検討:3 クォーター末試験講評まとめを確認、その内容や自身の反省に基づき、本番に向けての練習計画を練ります。
- ⑨側面から作品を理解する:作品の成り立ちや作曲家について調べ、ピアノに向かう練習以外の視点から曲の理解を深めます。
- ⑩「耳」を働かせた演奏～響きの調和～:ペダリングを検討。和声進行を理解し、響かせ方・歌わせ方の考え方を共有、統一感のある響きを目指します。
- ⑪技術面の強化③～運指のチェック～:指使いの再確認を行います。楽譜の運指が合わない部分は無理をせず、自身の手にあったものを検討します。
- ⑫音楽的な掘り下げ②～相手との絡み～:呼吸の合わせ方、フレーズの感じ方、*cresc.dim.*のタイミング等細かい部分が共有出来ているかを確認します。
- ⑬音楽的な掘り下げ③～細部の確認～:アーティキュレーションの再確認し、アンサンブルの一体感を高め、完成度を上げていきます。
- ⑭試験に向けて～ステージマナーの確認～:演奏とステージマナーの最終確認を行ないます。見た目にも美しい舞台になるよう仕上げていきます。
- ⑮授業のまとめ(4クォーター末試験):3クォーターから練習してきた曲の総仕上げ。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

期末試験評価方法・評価基準

出席 25%(第1回～7回各3点、第8回のみ4点で計算。遅刻は-1。)平常点 25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験 50%の割合で評価します。3・4両クォーターの平均が学年末評価となります。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅲ
担当講師名	多 紗於里
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はピアノと管・弦楽器、パーカッションアンサンブル、ピアノアンサンブルなどの室内楽演奏と指導の実務経験を持ちます。

授業内容

木管楽器・チェロとピアノによる三重奏のレパートリーを研究します。異なる楽器とのアンサンブルには様々なスキルが必要であります。Semesterを通して指定された曲目を合わせて仕上げます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業はレッスンスタイルで進めていきます。高度なアンサンブルスキルを目指してピアノ学科コンサート「Infinity I」に向けて準備し、演奏発表します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 今年度の内容に関するミーティングを行います。今後のスケジュール、曲目確認とパートの配布を行います
- ② 指定された曲の合わせを始めます。チェロ、及び木管楽器とのチューニング方法などを確認します
- ③ 合わせを続けます。チェロ、及び木管楽器の音程調整について学びます
- ④ 合わせを続け、パートの確認も行います。チェロのボーイングに注目し、どのような音色変化が可能か聴き取ります
- ⑤ 指使い、ペダリング、フレーズングなどを確認します。ピアノパートのアーティキュレーションに注目します
- ⑥ アンサンブルのバランスに注目します。チェロ、及び木管楽器とのタイミング合わせについて学びます
- ⑦ 1Qのまとめ。これまで合わせた部分を確認し今後の課題を探し出します

中間試験評価方法・評価基準

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 曲目の合わせを続けます。理想のテンポに少しずつ近づけるようにします
- ⑨ ピアノパートのテクニカルな問題を解決できるようにします。ペダリングと指使いも確認します
- ⑩ 曲の流れと内容に関して学びます。テンポ通りで合わせをできるか確認します
- ⑪ 相手のパートを聴きながら弾けるか確認します。相手のアーティキュレーションに合わせられるようにします
- ⑫ 相手のフレージング、ボーイング、ブレスのタイミングを聴き取れるか確認します
- ⑬ 曲目を少しずつまとめて仕上げていきます。曲目の内容、表現と全体の流れを確認します
- ⑭ 曲目の通しを行い、細かく仕上げていきます。アンサンブル、バランス、テンポの安定感などを確認します
- ⑮ 各グループの曲目を演奏し、全体のアンサンブルスキルを確認します

期末試験評価方法・評価基準

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅳ
担当講師名	多 紗於里
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はピアノと管・弦楽器、パーカッションアンサンブル、ピアノアンサンブルなどの室内楽演奏と指導の実務経験を持ちます。

授業内容

春学期のグループを入れ替えて木管楽器とチェロのトリオの研究深めます。セメスターを通して指定された新しい曲目を合わせて仕上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業はレッスンスタイルで行います。学科コンサート「Infinity II」に向けて準備し、演奏発表します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① グループの組み合わせと曲目の確認を行います。秋学期のスケジュール確認も行います
- ② 春学期と異なるアンサンブルで合わせを始めます。前期とどのような違いを感じるか考えてみます
- ③ パートの確認と問題点を探し出します。ピアノパートの練習法を学びます
- ④ 指使い、ペダリング、フレージングなどを確認します。相手のフレージングに合わせられるか確認します
- ⑤ バランスとアンサンブルに注目します。音色、タッチ、音の長さなどが一致しているか確認します
- ⑥ 相手のアーティキュレーションに注目します。ボーイング、ブレスのタイミングを意識しながら弾けるか確認します
- ⑦ 3Qのまとめ。秋学期の曲目がどの程度進んでいるかチェックします

中間試験評価方法・評価基準

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ テンポ選びとアンサンブルスキルの確認を行います。理想的なテンポ選びについて考えます
- ⑨ 相手のパートを聴きながら弾けるか確認します。相手の細かいパッセージに合わせられるか確認します
- ⑩ 相手のアーティキュレーションを聴き取れるか確認します。ダイナミクスとバランスもチェックします
- ⑪ 曲目を通して少しずつまとめていきます。曲目の内容を表現できているか確認します
- ⑫ テンポ通りの通しのトライアルをしてみて新たな問題点があるか確認します
- ⑬ 曲目の仕上げ。曲目を通してアンサンブル全体のバランスと流れをチェックします
- ⑭ 通しリハーサルを行います。ピアノパートの最終確認とステージに向けて準備します
- ⑮ グループの曲目を演奏し、アンサンブルスキルの確認をします。室内楽演奏のステージマナーも確認します

期末試験評価方法・評価基準

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミ I
担当講師名	江尻 弘子
学期	春
授業の形態	講義と実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウエディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

オルガンの歴史、構造については、音や写真を参考に講義中心に進めます。実技では、テキストを使い、基礎的なオルガン奏法から学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

四声体の演奏の確立、ペダリングの習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽器の概要について、演奏を取り入れながら、オルガンの世界の話しをします。
- ② オルガンの起源から、現代使用されている実際の楽器の種類など、資料を見ながら説明していきます。
- ③ 鍵盤の名称（国による違い）パイプの材質、種類など解説していきます。
- ④ パイプの形状と音との関係を理解します。テキストを元に、打鍵、離鍵、指のトレーニングをします。
- ⑤ ペダル記号、姿勢、奏法を説明し体験します。手鍵盤では、ドリルプリントを使用し四声体の習得をします。
- ⑥ 第3回に配布する試験曲、ラインハルトの中から、課題曲の仕上げを目指します。
- ⑦ 中間試験 手鍵盤の課題曲2曲をバリオホールにて演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

授業で学んだコーラル的要素、対位法要素を含んだ演奏法が習得されているか、完成度を評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オルガンの時代背景① ゴシック、ルネッサンスまで、音を聞きながら考察していきます。
- ⑨ オルガンの時代背景② バロックから、ロマンティックを考察し、テキストよりアンサンブル体験します。
- ⑩ パイプの種類について① フルー管のプリンツィパルグループ、フルートグループの説明をします。
- ⑪ パイプの種類について② 弦楽器グループ、リード管について楽器で音を出しながら、説明していきます。
- ⑫ パイプの復習をしながら、ペダルのドリルを使ってトレーニングしていきます。
- ⑬ 第10回に配布し、パート別奏法を習得したものを、ソロ演奏して仕上がるよう確認していきます。
- ⑭ 春学期を通して学習したものを、試験に向けまとめていきます。
- ⑮ 期末試験 教室内にて筆記試験、バリオホールにて、J. シュナイダーオルガン曲より第2番を演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、授業で説明したことの理解度をみます。

実技試験では、正しいペダリングの確認をします。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミ II
担当講師名	江尻 弘子
学期	秋
授業の形態	講義と実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウエディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

春学期で、学習した演奏法のレベルアップを目指し、レパートリーとなる作品をマスターしていきます。讃美歌となっているアメージンググレイスを題材に編曲体験、J.S バッハの「8つの小プレリュードとフーガ」から第1番を演奏します。併せて、音色の組み合わせも学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オルガン音楽を意識した編曲の実践、音色（ストップ）の組み合わせの自立を目指します。演奏面では、バッハの作品に触れ、バロックの奏法を習得します。また、教会のクリスマスで演奏される讃美歌の演奏もマスターします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 讃美歌の成り立ちの説明、いろいろな編曲されているアメージンググレイスを分担奏し、内容を考察していきます。
- ② 対位法的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
- ③ 和声的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
- ④ 各自、編曲楽譜を作成していき、個人確認を行っていきます。讃美歌 2 曲、配布します。
- ⑤ 個別に確認しながら、編曲の完成を目指します。音色のイメージを作りながら進めます。
- ⑥ 編曲の完成と共に、クリスマス讃美歌の奏法を確認していきます。
- ⑦ 中間試験 自編曲のアメージンググレイスとクリスマス讃美歌 2 曲をバリオホールにて演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

自身の編曲楽譜も提出します。讃美歌の演奏とも合わせ、完成度を評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作曲技法の基本ともいわれるカノンを説明し、パツフェルベルのカノンをスコア見ながらアンサンブル体験します。
- ⑨ バリエーション、プレリュード、フーガ、パッサカリア等、実際の曲に触れながら、学習します。
- ⑩ ドイツのオルガン音楽を、北部、中部、南部に分け、オルガニストが多数生まれた経緯など、歴史を紐解き進めます。
- ⑪ ドイツとは対照的なフランスのオルガン、音源を聞き、テキストと照らし合わせ考察します。
- ⑫ 第10回に配布のバッハのプレリュードについて、細かく奏法を説明し、分担奏していきます。
- ⑬ ストップリストを見ながら、バッハの作品に特徴的な音色作りを学習していきます。
- ⑭ 秋学期で学んだ授業内容の確認をしながら、実技では、演奏の個別確認をしていきます。
- ⑮ 期末試験 教室内にて筆記試験、バリオホールにて、バッハの作品「8つの小プレリュードとフーガ」より第1番を演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、秋学期で学んだことの理解度をみます。

実技試験では、演奏の完成度を評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミ III
担当講師名	江尻 弘子
学期	春
授業の形態	講義と実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウェディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

2 年目に入りましたので、よりオルガン奏法、演奏テクニックの向上を目指します。チャペルウェディングでの演奏の体験として、実際に使用される曲を取り上げ、進行に従っての演奏体験をします。また、コラール作品も演奏、ストップの考察も深めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実践で使える演奏力、音色作りの自立も目指します。チャペルウェディングでの演奏では、応用力も身に付け、デビュー出来るようもっていきたいと考えています。いずれも、毎回の授業に変化があり、出席が重要になります。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 日本のブライダル事情について、現状のお話しをします。キリスト教式、人前式等。
- ② 講師の演奏によるキリスト教式の DVD を鑑賞し、式次第による選曲についての説明をします。
- ③ 迎賓から入場、アヴェ・ヴェルム・コルプス、ワーグナーの婚礼の合唱、奏法を分析、解説します。
- ④ 讃美歌より合唱、アヴェマリアより、ソリスト、それぞれの伴奏法について学びます。
- ⑤ メンデルスゾーンの結婚行進曲を題材に、退場時の歩幅に合わせた、演奏のタイミング、エンディングの合わせ方、即興力をつける学習をします。
- ⑥ 全 5 曲を流れに沿って演奏していきます。実際に必要な応用力など身に付けていきます。
- ⑦ 中間試験 バリオホールにて、他の学生に新郎新婦を想定し、実際に歩いてもらい、本番さながらの演奏をします。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

挙式の流れに沿って 5 曲を演奏しますが、併せて終止の奏法、歌伴奏のタイミングなども見ていきます。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オルガン奏法で使われるアーティキュレーションの研究、テキストより選曲して学習します。
- ⑨ 歌うコラールとオルガンコラールとの違い、バッハ、ブラームスを取り上げ、比較、考察していきます。
- ⑩ 単旋律から、四声体、そしてオルガンコラールに変化していく経緯を紐解いていきます。
- ⑪ テキストからの奏法実践① オルガン独特のテクニックが必要な曲を、ピックアップし奏法実践していきます。
- ⑫ テキストからの奏法実践② ペダルのレガート奏法、ロマンティックなオルガンで使われるトゥヒールの実践をします。
- ⑬ 試験課題曲、テキストのブラームスコラール「一輪のバラに咲きて」完成を目指します。
- ⑭ テキストより選曲した、各時代、国の作品に、指示された音色を作っていきます。ストップの組み合わせの自立を目指します。
- ⑮ 期末試験 課題曲ブラームスコラール「一輪のバラに咲きて」をバリオホールにて、演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

演奏の完成度を評価していきます。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミ IV
担当講師名	江尻 弘子
学期	秋
授業の形態	講義と実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウエディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

春学期で学んだ実践の演奏法をよりステップアップし、完成度の高い演奏を目指します。バロック時代の通奏低音の知識、そして知名度、作品完成度の高い、小フーガト短調の演奏及び 2 年間使用したオルガンテキストから、任意の曲をレパートリーとなるような演奏を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オルガン曲の中でも、難易度が高いといわれるフーガ演奏の習得を目指します。また、数曲のオルガンレパートリーをもてることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フーガの説明後、テキストの楽譜を見ながら、各声部を織りなす主題の印を付けながらアナリーゼしていきます。
- ② 主題の奏法を意識し、アーテクチュレーションの分析をしていきます。
- ③ 各パートを分担奏しながら、指使い、手鍵盤の声部を意識して演奏。ペダリングの確認をします。
- ④ 装飾の学習として、トリル、モルデント、シュライファーの奏法について、テキストの楽曲を取り出し考察します。
- ⑤ パート別に確認しながら、声部を増やし、分担奏から全体を作っていきます。
- ⑥ 小節を区切りながら、ソロ演奏を仕上げていきます。
- ⑦ 中間試験 J.Sバッハの小フーガト短調 BWV578をバリオホールにて、演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。
難易度の高い楽曲の挑戦ですが、演奏レベルが上がっていることを目指します。

楽曲への理解度、ステージマナーも含め評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 通奏低音の説明をし、ヴィバルディ四季より冬を、スコアを見ながら、通奏低音の即興的要素を聞き比べします。
- ⑨ 数字付き低音に和音を付けていきます。モーツァルトのレクイエムを題材に通奏低音の体験をします。
- ⑩ テキストの曲を題材に和音付けをし、即興的要素を織り交ぜながら、仕上げていきます。
- ⑪ 2年間学んだテキストから6曲選曲し、アンサンブル演奏をし、その中から各自選曲していきます。
- ⑫ 讃美歌の出来るまでの歴史、時代背景を考察していきます。各国の特徴など讃美歌集から見ていきます
- ⑬ 各声部の捉え方、前奏、後奏の奏法をテキストから取り出し、演奏体験します。
- ⑭ 筆記試験に向け、学習内容の確認、個々の演奏曲の確認をしていきます。
- ⑮ 期末試験 教室内にて筆記試験、バリオホールにて、実技試験をします。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、学習してきた内容、理解度を確認します。

実技試験では、各自選曲した楽曲がレパートリーとなり得る演奏レベルに到達出来ているか確認し、評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ I
担当講師名	大木 和音
学期	春学期
授業の形態	演習・実技
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

「バロック」といわれる時代の音楽や文化的背景について、学んでいきます。また各回の授業内で、チェンバロ・レッスン時間を設け、バッハをはじめとする作品を弾いてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バロック時代の文化を理解し、チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを目指します。そして各自の専攻楽器でバロック作品を弾く時のイメージの糧にもなることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① バロックとは
- ② チェンバロについて
- ③ J. S. バッハとその息子たち
- ④ 当時の様々な鍵盤楽器について
- ⑤ 組曲について その1
- ⑥ 組曲について その2
- ⑦ 中間試験：J. S. バッハまたはC. Ph. E. バッハの短い作品を演奏してもらいます。受講生同士発表してもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

リズム良く良い流れで演奏できているか、自分の音を良く聴きながら演奏できているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ イタリアのバロック（今クオーターは、イタリアの作品について学びます）
- ⑨ バッハとイタリア趣味（「イタリア協奏曲」が生まれるまで）
- ⑩ ヴィヴァルディ「四季」（スコアを見ながら鑑賞します）
- ⑪ ラ・フォリア（様々な作曲家のフォリアを聴き比べます）
- ⑫ 即興演奏、装飾音について
- ⑬ トリオ・ソナタについて
- ⑭ スカルラッティのチェンバロ・ソナタについて
- ⑮ 期末試験：D. スカルラッティのソナタから、与えた課題の中から 1 曲選択して、演奏してもらいます。受講生同士、互いに聴き合います。

期末試験評価方法・評価基準

スカルラッティ独特の和声を味わいながら弾いているか、リズムをしっかり感じて弾いているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ II
担当講師名	大木 和音
学期	秋
授業の形態	演習・実技
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿で栄えたフランスの作品を学びます。第4クォーターでは声楽曲や管弦楽作品へも広げ、バロック作品を総合的に学びます。チェンバロ・レッスンも引き続き、授業の中で行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを目指します。そして各自の専攻楽器でバロック作品を弾く際、イメージの糧となることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① クラヴサン(仏：チェンバロ)について
- ② 華やかなフランス宮廷文化
- ③ ヴェルサイユ
- ④ プレリュード・ノン・ムジュレ
- ⑤ F. クープラン：クラヴサン奏法
- ⑥ J-Ph. ラモー：クラヴサン曲集
- ⑦ 中間試験：ラモー「クラヴサン曲集」よりこちらが指定した曲の中から一曲選んで、演奏してもらいます。受講生同士、聴き合います。

中間試験評価方法・評価基準

流れ良く演奏できているか、ラモー独特の装飾音も音楽に溶け込ませながら演奏できているか、楽器を鳴り響かせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ バロックの歌唱作品
- ⑨ バッハ/カンタータ
- ⑩ バッハ/ブランデンブルク協奏曲 第1番～第3番
- ⑪ バッハ/ブランデンブルク協奏曲 第4番～第6番
- ⑫ バッハ/管弦楽組曲
- ⑬ バッハの管弦楽作品とチェンバロ舞曲との関連
- ⑭ 試験に向けて（期末試験を目前にレッスンに集中し、最後の仕上げに入ります）
- ⑮ 期末試験：G.F. ヘンデルの組曲より、こちらが指定した曲の中から一曲を選んで演奏してもらいます。受講生同士、聴き合います。

期末試験評価方法・評価基準

各舞曲の特性をつかんで演奏できているか、楽器をしっかり鳴り響かせているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ III
担当講師名	大木 和音
学期	春
授業の形態	演習・実技
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず、近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

バロック音楽ゼミ III・IV では、一年を通じてチェンバロ実技に集中し、この楽器をより美しく楽しく弾けることを目指していきます。課題曲はこちらで指定した中から一曲選んでもらい、レッスンは互いに聴き合い、共に学びます。演奏曲は「バロック音楽ゼミ I・II」よりも、さらにチェンバロを深く楽しんでもらえる作品にしています。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…などを目標とします。そして専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏するときの糧になること、さらには楽器を深く鳴らすことも目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① チェンバロについて（前年度にゼミ I&II を受講していなかった学生、また二年目の学生には復習も兼ねて、楽器を囲んでもらい、仕組み等お話をします）
- ② 試験曲について（B. ガルツピ：ソナタ数曲より）
- ③ 試験曲決定とレッスン（各自チェンバロ練習時間を順に与え、その後レッスンを開始します。）
- ④ 試験曲レッスン
- ⑤ 試験曲レッスン
- ⑥ 試験曲レッスン
- ⑦ 中間試験：B. ガルツピ ソナタ（指定した楽章より一曲選んで演奏、互いに聴き合います）

中間試験評価方法・評価基準

音楽を理解して楽しみながら演奏できているか、音楽は自然に流れているか、チェンバロの音は深く鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 試験曲「J. S. バッハ：フランス組曲」について（J. S. バッハについて、フランス組曲について考察します。試験課題曲数曲を配布、取り組みたい曲を考えます）
- ⑨ 試験曲決定とレッスン（各自チェンバロ練習時間を設けた後、レッスンに入ります）
- ⑩ 試験曲レッスン
- ⑪ 試験曲レッスン
- ⑫ 試験曲レッスン
- ⑬ 試験曲レッスン
- ⑭ 試験曲レッスン
- ⑮ 中間試験：選んだ舞曲を、ひとりひとり順番に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

期末試験評価方法・評価基準

舞曲のキャラクターをつかんで演奏しているか、バッハの装飾音が音楽的に奏でられているか、チェンバロの音をしっかり響かせられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ IV
担当講師名	大木 和音
学期	秋
授業の形態	演習・実技
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず、近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿時代の華やかなフランス作品を演奏していきます。第4クォーターでは、各自が希望した曲を演奏してもらい、一年を締めくくります(希望曲が見つからない場合は、こちらで与えた数曲の中から一曲選んでもらいます)。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…等を目標とします。そして専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏する際の糧に、さらには楽器で深い音を鳴らせることも目指します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 試験曲について(J-Ph. ラモー、F. クープラン：クラヴサン曲集よりこちらが指定・配布した中から一曲選択してもらいます)
- ② 試験曲決定とレッスン(それぞれの作曲家の装飾音表や序文を読み、準備をします)
- ③ 試験曲レッスン
- ④ 試験曲レッスン
- ⑤ 試験曲レッスン
- ⑥ 試験曲レッスン
- ⑦ 中間試験：選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

中間試験評価方法・評価基準

音楽を理解し楽しみながら演奏できているか、装飾音は自然と音楽に溶け込ませられているか、チェンバロは豊かに鳴り響かせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮し

ながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 試験曲について（各自演奏してみたい曲：2 ページ程度 を持参・提示してもらい、確認させてもらいます。課題が思いつかない学生には、こちらで楽譜を配布します）
- ⑨ 試験曲決定とレッスン
- ⑩ 試験曲レッスン
- ⑪ 試験曲レッスン
- ⑫ 試験曲レッスン
- ⑬ 試験曲レッスン
- ⑭ 試験曲レッスン
- ⑮ 期末試験：選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

期末試験評価方法・評価基準

音楽を理解し楽しみながら演奏できているか、装飾音は音楽的に奏でられているか、チェンバロは美しく鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	現代音楽演奏ゼミ I
担当講師名	中村和枝
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内とヨーロッパにおける現代音楽演奏コンクールでの優勝歴を持ち、多くの現代会に出演し、作曲家の信頼を得て作品の初演・再演に携わっています。

授業内容

好奇心を拡げ、心と身体を開放する「新しい音楽」を習得します。今まで学んできたクラシック音楽を基礎として、更に、既存の常識にとらわれない新しい手法で描かれた楽譜を解読し演奏します。また、鍵盤だけでなくピアノの内部を触って美しい音を奏でる演習を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期では先ず、様々なタイプの現代音楽を聴き未知の世界に触れることを目標とします。新しい音楽に興味を持ちチャレンジする冒険心や積極性を伸ばすための基本となる「読譜力」を養います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 西洋音楽史の流れの中で、どのように現代音楽が発生したのか。「現代音楽」とは何なのか。その概要を説明します。
- ② J.クルタークのピアノ曲集「遊び」の中から様々な新しい記譜法を学び実践します。
- ③ H.カウエルのピアノ曲「エオリアンハープ」を教材にピアノ内部を演奏する「内部奏法」を実践します。
- ④ 内部奏法のためのプレパレーション（準備）を学び演奏します。ピアノに負担をかけずに美しい音を出す研究をします。
- ⑤ H.カウエルのピアノ曲「マノンウンの潮流」を教材にトーンクラスター奏法等の特殊奏法を経験します。
- ⑥ 特殊奏法を美しく奏でることを目標に、演奏として曲を仕上げます。
- ⑦ 中間試験：1クォーターで取り上げた曲から課題曲を選曲し、コンサート形式で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦する姿勢を特に評価します。

出席：50% 平常点 25% 試験:25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 12音音楽① 12音音楽についての概要の説明と楽曲の紹介をします。
- ⑨ 12音音楽② A. ウェーベルン作曲「子供のための小品」を教材に楽曲分析を行います。
- ⑩ 12音音楽③ 「子供のための小品」を教材にリズムやアーティキュレーションについて学び演奏します。
- ⑪ 0.メシアン音楽① メシアンのピアノ作品を紹介します。
- ⑫ 0.メシアン音楽② それぞれの課題曲を選び構造を学びます。
- ⑬ 0.メシアン音楽③ 読譜をして演奏について研究します。
- ⑭ 0.メシアン音楽④ 演奏を研鑽します。
- ⑮ 期末試験：春学期で取り上げた曲から課題曲を選曲しコンサート形式で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦する姿勢を特に評価します。

出席：50% 平常点 25% 試験:25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	現代音楽演奏ゼミⅡ
担当講師名	中村和枝
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内とヨーロッパにおける現代音楽演奏コンクールでの優勝歴を持ち、多くの現代会に出演し、作曲家の信頼を得て作品の初演・再演に携わっています。

授業内容

現代音楽演奏ゼミⅠで学んだことを基礎として、更に、様々な現代のピアノ作品についての知識と見聞を拓げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な現代の音楽の世界を知り、その中から自分の個性と感性に合った曲を見つけレパートリーとすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 図形楽譜① 様々な図形で表記された図形楽譜の曲を紹介します。
- ② 図形楽譜② H. ラッヘンマン作曲「グエロ」を教材に楽譜の解説と奏法について学びます。
- ③ 図形楽譜③ M. エンリケ作曲「1×4」を教材に楽譜の解説と奏法について学びます。
- ④ 武満徹のピアノ曲① 武満徹のピアノ作品を紹介します。
- ⑤ 武満徹のピアノ曲② それぞれの課題曲を選び、読譜をします。
- ⑥ 武満徹のピアノ曲③ 演奏について研究し演習します。
- ⑦ 中間試験：クォーター内で取り上げた曲から課題曲を選曲し、コンサート形式で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦し表現する姿勢を特に評価します。

出席：50% 平常点 25% 試験:25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ミニマルミュージックについての概要の説明と楽曲の紹介をします。
- ⑨ S. ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」「ピアノフェーズ」を教材に演習を行います。
- ⑩ 平石博一作曲「UP TO DATE」を教材に演習します。
- ⑪ P. ブーレーズ「12の音」① ブーレーズのピアノ曲「12の音」を紹介します。
- ⑫ P. ブーレーズ「12の音」② 「12の音《1》」を教材に楽譜の解説や奏法について学びます。
- ⑬ P. ブーレーズ「12の音」③ 「12の音《2》」を教材に楽譜の解説や奏法について学びます。
- ⑭ P. ブーレーズ「12の音」④ 「12の音《3》」を教材に楽譜の解説や奏法について学びます。
- ⑮ 期末試験：学期内で取り上げた曲から課題曲を選曲し、コンサート形式で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦し表現する姿勢を特に評価します。

出席：50% 平常点 25% 試験:25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	現代音楽演奏ゼミⅢ
担当講師名	中村和枝
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内とヨーロッパにおける現代音楽演奏コンクールでの優勝歴を持ち、多くの現代会に出演し、作曲家の信頼を得て作品の初演・再演に携わっています。

授業内容

現代音楽演奏ゼミⅠ・Ⅱで学んだことを基礎として、更に、様々な現代のピアノ作品についての知識と見聞を拓けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な現代の音楽の世界を知り、自分自身の生き生きとした感性を掘り起こし、将来のレパートリー作りに繋がる研鑽を積むことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① メシアンのパiano曲① メシアンのパiano作品を紹介します。
- ② メシアンのパiano曲② それぞれの課題曲を選び、曲の構造を学びます。
- ③ メシアンのパiano曲③ 演奏について研究し演習します。
- ④ メシアンのパiano曲④ グループレッスン方式で演習を続けます。
- ⑤ メシアンのパiano曲⑤ グループレッスン方式で演習を続けます。
- ⑥ メシアンのパiano曲⑥ グループレッスン方式で演習を続けます。
- ⑦ 中間試験：それぞれの課題曲をコンサート形式で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦し表現する姿勢を特に評価します。

出席：50% 平常点 25% 試験:25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ A. シェーンベルクのパiano曲① シェーンベルクのパiano作品を紹介します。
- ⑨ A. シェーンベルクのパiano曲② それぞれの課題曲を選び、構造を学びます。

- ⑩ A. シェーンベルクのピアノ曲③ 演奏について研究し演習します。
- ⑪ A. シェーンベルクのピアノ曲④ 演習を仕上げます。
- ⑫ A. ウェーベルンのピアノ曲① ウェーベルンのピアノ作品を紹介します。
- ⑬ A. ウェーベルンのピアノ曲② 構造を学び読譜をします。
- ⑭ A. ウェーベルンのピアノ曲③ 演奏について研究し演習します。
- ⑮ 期末試験：学期内で取り上げた曲から課題曲を選び、コンサート形式で発表します。

期末試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦し表現する姿勢を特に評価します。

出席：50% 平常点 25% 試験:25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	現代音楽演奏ゼミⅣ
担当講師名	中村和枝
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師は国内とヨーロッパにおける現代音楽演奏コンクールでの優勝歴を持ち、多くの現代会に出演し、作曲家の信頼を得て作品の初演・再演に携わっています。

授業内容

様々な現代のピアノ作品についての知識と見聞を広げ、演奏に直結した合理的な譜読み方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

これまでにゼミで学習した事を基に、自身の個性を知り将来のレパートリー作りに繋がる研鑽を積むことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 日本人作曲家のピアノ作品① 日本人作曲家の優れたピアノ作品を紹介します。
- ② 日本人作曲家のピアノ作品② それぞれの課題曲を選び、構造を学びます。
- ③ 日本人作曲家のピアノ作品③ とらえた特徴を音にするための工夫を考えながら演習を行います。
- ④ 日本人作曲家のピアノ作品④ グループレッスン形式で演習を続けます。
- ⑤ 日本人作曲家のピアノ作品⑤ グループレッスン形式で演習を続けます。
- ⑥ 日本人作曲家のピアノ作品⑥ グループレッスン形式で演習を続けます。
- ⑦ 中間試験：課題曲をコンサート形式で発表します。

中間試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦し表現する姿勢を特に評価します。
出席：50% 平常点 25% 試験:25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 更に新しい音楽を見つけよう① 国内外の優れたピアノ作品を紹介します。

- ⑨ 更に新しい音楽を見つけよう② それぞれの個性にあったレパートリーとなる曲を選択します。
- ⑩ 更に新しい音楽を見つけよう③ クラス全員で楽譜を共有し、それぞれの課題曲についての特徴や魅力をプレゼンテーションします。
- ⑪ 更に新しい音楽を見つけよう④ グループレッスン形式で演習を行います。
- ⑫ 更に新しい音楽を見つけよう⑤ グループレッスン形式で演習を続けます。
- ⑬ 更に新しい音楽を見つけよう⑥ グループレッスン形式で演習を続けます。
- ⑭ 更に新しい音楽を見つけよう⑦ グループレッスン形式で演習を続けます。
- ⑮ 期末試験：コンサート形式で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

授業で学んだことに積極的に挑戦し表現する姿勢を特に評価します。

出席：50% 平常点 25% 試験:25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード講座（演奏）Ⅰ
担当講師名	土屋淑子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ本部財団センターにてシステム講師として勤務（演奏／指導グレード3級）のち、個人で音楽教室開設。門下生よりヤマハシステム講師認定試験、グレード5～3級への合格実績多数。指導歴30年以上。

授業内容

音楽版の「英検」「漢検」とも例えられる一番ポピュラーな資格が「ヤマハグレード」といえます。演奏グレードの試験科目において、楽曲演奏以外の部分、主に初見、即興演奏を中心とした授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

おもに（b）即興の力を付けていきます。春学期の課題は長調を中心とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス（ヤマハグレードとは）
- ② （b）即興とは～そのスタイルを学ぶ
- ③ カデンツとは～カデンツのベースラインとパターン
- ④ 小テスト
- ⑤ （b）即興の最初の8小節部分のパターンを学ぶ①
- ⑥ （b）即興の最初の8小節部分のパターンを学ぶ②
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ (b) 即興 B 部分のコード進行①
- ⑨ (b) 即興 B 部分のコード進行②
- ⑩ (b) 即興 B 部分のコード進行③
- ⑪ 小テスト
- ⑫ (b) 即興を 24 小節で完成させる①
- ⑬ (b) 即興を 24 小節で完成させる②
- ⑭ (b) 即興を 24 小節で完成させる③
- ⑮ 学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数 40%、出席率 20%、平常点 20%、その他 20%

特記事項

テキスト、五線ノート、プリント類は必ず忘れずに授業に持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード（演奏）Ⅱ
担当講師名	土屋淑子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ本部財団センターにてシステム講師として勤務（演奏／指導グレード3級）のち、個人で音楽教室開設。門下生よりヤマハシステム講師認定試験、グレード5～3級への合格実績多数。指導歴30年以上。

授業内容

音楽版の「英検」「漢検」と例えられる一番ポピュラーな資格が「ヤマハグレード」といえます。主に演奏グレードの初見、即興演奏を中心とした授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

♯、b×1までの長調、短調＝6つの調で確実に（b）即興のパターンを身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① カデンツ①（C-dur/a-moll）
- ② カデンツ②（G-dur/e-moll）
- ③ カデンツ③（F-dur/d-moll）
- ④ 小テスト
- ⑤ モチーフ課題①（b）即興のA部分8小節①
- ⑥ モチーフ課題②（b）即興のA部分8小節②
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧（b）即興のB部分のコード進行①（C-dur/a-moll）
- ⑨（b）即興のB部分のコード進行②（G-dur/e-moll）

- ⑩ (b)即興のB部分のコード進行③ (F-dur/d-moll)
- ⑪ 小テスト
- ⑫ モチーフ課題① (C-dur/a-moll)
- ⑬ モチーフ課題② (G-dur/e-moll)
- ⑭ モチーフ課題③ (F-dur/d-moll)
- ⑮ 学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

特記事項

テキスト、五線ノート、プリント類は必ず忘れずに授業に持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード（演奏）Ⅲ
担当講師名	土屋淑子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ本部財団センターにてシステム講師として勤務（演奏／指導グレード3級）のち、個人で音楽教室開設。門下生よりヤマハシステム講師認定試験、グレード5～3級への合格実績多数。指導歴30年以上。

授業内容

音楽版の「英検」「漢検」と例えられる一番ポピュラーな資格が「ヤマハグレード」といえます。主に演奏グレードの初見、即興演奏を中心とした授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

おもに（a）即興のパターンを、まずはC-dur/mollを中心に、確実に身につけていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス(a)即興とは
- ② 右手の変奏パターン①
- ③ 右手の変奏パターン②
- ④ 小テスト
- ⑤ 左手の変奏パターン①
- ⑥ 左手の変奏パターン②
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ （a）即興の応用①～C-dur 課題①

- ⑨ (a)即興の応用②～C-dur 課題②
- ⑩ (a)即興の応用③～C-dur 課題③
- ⑪ 小テスト
- ⑫ (a)即興の応用①～a-moll 課題①
- ⑬ (a)即興の応用②～a-moll 課題②
- ⑭ (a)即興の応用③～a-moll 課題③
- ⑮ 学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

特記事項

テキスト、五線ノート、プリント類は必ず忘れずに授業に持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード（演奏）IV
担当講師名	土屋淑子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ本部財団センターにてシステム講師として勤務（演奏／指導グレード3級）のち、個人で音楽教室開設。門下生よりヤマハシステム講師認定試験、グレード5～3級への合格実績多数。指導歴30年以上。

授業内容

音楽版の「英検」「漢検」と例えられる一番ポピュラーな資格が「ヤマハグレード」といえます。主に演奏グレードの初見、即興演奏を中心とした授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

6つの調で確実に（a）即興のパターンを身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 変奏即興①（C-dur）
- ② 変奏即興②（G-dur）
- ③ 変奏即興③（F-dur）
- ④ 小テスト
- ⑤ 左手の変奏パターン①
- ⑥ 左手の変奏パターン②
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ (a) 即興の応用①（C-dur 課題）
- ⑨ (a) 即興の応用②（G-dur 課題）

- ⑩(a)即興の応用③ (F-dur 課題)
- ⑪小テスト
- ⑫(a)即興の応用④ (a-moll 課題)
- ⑬(a)即興の応用⑤ (e-moll 課題)
- ⑭(a)即興の応用⑥ (d-moll 課題)
- ⑮学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率、平常点（授業に臨む態度）を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

特記事項

テキスト、五線ノート、プリント類は必ず忘れずに授業に持ってきてください。

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード講座(指導) I
担当講師名	羽田正明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ5～3級グレード試験官歴30年

授業内容

指導グレード実技～伴奏付け、移調奏、弾き歌い伴奏
指導グレード筆記～楽典、コード進行法a, コード進行法b、聴音

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヤマハグレード取得

授業計画（1回目から7回目）

- ①ヤマハグレードの概要
- ②伴奏付けの基礎
- ③楽典の基礎
- ④カデンツの練習Ⅰ
- ⑤カデンツの練習Ⅱ
- ⑥カデンツの練習Ⅲ
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験伴奏付け、筆記試験楽典
試験50%、平常点40%、出席点10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧伴奏付け一段目
- ⑨楽典、音程
- ⑩伴奏付け全体Ⅰ

- ⑪伴奏付け全体Ⅱ
- ⑫伴奏付け全体Ⅲ
- ⑬楽典調性判断
- ⑭伴奏付け仕上げ
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験伴奏付け、筆記試験楽典
試験50%、平常点40%、出席点10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード講座（指導）Ⅱ
担当講師名	羽田正明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ5～3級グレード試験官歴30年

授業内容

指導グレード実技～伴奏付け、移調奏
指導グレード筆記～楽典、コード進行法a, b

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヤマハ指導グレード5級取得

授業計画（1回目から7回目）

- ①伴奏付けⅠ
- ②伴奏付けⅡ
- ③伴奏付けⅢ
- ④楽典、調性判断
- ⑤移調奏
- ⑥コード進行a
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

伴奏付け、楽典～音程、調性判断
試験50%、平常点40%、出席点10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コード進行a
- ⑨コード進行法b
- ⑩伴奏付けⅠ

- ⑪伴奏付けⅡ
- ⑫伴奏付けⅢ
- ⑬移調奏
- ⑭コード進行法a
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

移調奏、コード進行法a
試験50%、平常点40%、出席点10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード講座(指導)Ⅲ
担当講師名	羽田正明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ5～3級グレード試験官歴30年

授業内容

指導グレード実技～伴奏付け、移調奏、弾き歌い伴奏
指導グレード筆記～楽典、コード進行法a, コード進行法b、聴音

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヤマハグレード取得

授業計画（1回目から7回目）

- ①ヤマハグレードの概要
- ②伴奏付けの基礎
- ③楽典の基礎
- ④カデンツの練習Ⅰ
- ⑤カデンツの練習Ⅱ
- ⑥カデンツの練習Ⅲ
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験伴奏付け、筆記試験楽典
試験50%、平常点40%、出席点10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧伴奏付け一段目
- ⑨楽典、音程
- ⑩伴奏付け全体Ⅰ

- ⑪伴奏付け全体Ⅱ
- ⑫伴奏付け全体Ⅲ
- ⑬楽典調性判断
- ⑭伴奏付け仕上げ
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験伴奏付け、筆記試験楽典
試験50%、平常点40%、出席点10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	外部グレード講座（指導）Ⅳ
担当講師名	羽田正明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

ヤマハ5～3級グレード試験官歴30年

授業内容

指導グレード実技～伴奏付け、移調奏
指導グレード筆記～楽典、コード進行法a, b

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヤマハ指導グレード5級取得

授業計画（1回目から7回目）

- ①伴奏付けⅠ
- ②伴奏付けⅡ
- ③伴奏付けⅢ
- ④楽典、調性判断
- ⑤移調奏
- ⑥コード進行a
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

伴奏付け、楽典～音程、調性判断
試験50%、平常点40%、出席点10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コード進行a
- ⑨コード進行法b
- ⑩伴奏付けⅠ

- ⑪伴奏付けⅡ
- ⑫伴奏付けⅢ
- ⑬移調奏
- ⑭コード進行法a
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

移調奏、コード進行法a
試験50%、平常点40%、出席点10%

特記事項

電子オルガンコース

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。

クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音⑫：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音⑬：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音⑭：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音⑮：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑰：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑱：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑲：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑳：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音㉑：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音㉒：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともあります。その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	講義・演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、習熟度チェック これまでの音楽経験などを伺います。
- ②譜表・音名/音符・休符 楽譜の基礎となる項目を学びます。
- ③拍子/リズムの記譜法/変化記号 リズム周りの項目を学びます。
- ④前回までの復習、5度圏表と調 記譜のための基礎を固め、調について学びます。
- ⑤音階① 長音階を学びます。
- ⑥音階② 短音階を学びます。
- ⑦1Q末ペーパー試験 1Qで学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音程① 音程の基礎を学びます。
- ⑨音程② 臨時記号のついた音程、転回音程などを学びます。

- ⑩和音・コード① 基本的な和音とコードの型を学びます。
- ⑪和音・コード② ダイアトニックコードを学びます。
- ⑫夏休み前のまとめ これまでの学習を振り返り、夏休み中の課題を提示します。
- ⑬総合復習① 調、音階について復習します。
- ⑭総合復習② 音程、コード、その他必要と思われる項目について復習します。
- ⑮2Q 末ペーパー試験

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	講義・演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①1Q2Qの復習① 主に音階、調の復習をします。
- ②1Q2Qの復習② 主に音程の復習をします。
- ③移調と転調① 移調と転調について、基礎を学びます。
- ④移調と転調② 移調楽器の記譜音、実音の違いを演習します。楽曲の転調箇所を分析を行います。
- ⑤楽語・記号 教科書巻末に記載された、楽語・記号を総合的に学びます。
- ⑥音楽理論のまとめ これまでに学んだ音楽理論を振り返ります。
- ⑦3Q末ペーパー試験 1Q～3Qまでに学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コード① 基本の型について復習します。
- ⑨コード② ダイアトニックコードを復習します。

- ⑩コード③ ドミナントモーション、ツーファイヴワンについて学びます。
- ⑪コード④ セカンダリードミナント、コードプログレッションについて学びます。
- ⑫コード⑤ カデンツ、代理コードについて学びます。
- ⑬コード⑥ テンションコードについて学びます。
- ⑭これまでの総復習、まとめ
- ⑮4Q 末ペーパー試験 1年間で学んだ全項目の試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ペンタトニック・スケール
- ② セカンダリー・ドミナント
- ③ パッシング・ディミニッシュ
- ④ 循環コード(1)
- ⑤ 循環コード(2)
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 1Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ サブドミナント・マイナー
- ⑨ バッキング
- ⑩ カノン
- ⑪ リズム

- ⑫ カウンターライン、カウンターメロディ
- ⑬ リフ
- ⑭ KBD ハーモニー
- ⑮ 2Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 裏コード
- ② コード付け
- ③ ホルンの5度(1)
- ④ ホルンの5度(2)
- ⑤ ナポリの和音
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ドリアン
- ⑨ ミクソリディアン
- ⑩ フリジアン
- ⑪ ジプシー

- ⑫ ブルー・ノート
- ⑬ 試演 (1)
- ⑭ 試演 (2)
- ⑮ 4Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	演習・作品制作
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い、音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れることで、作編曲の手法を学んでいきます。1Q では様々なコード進行の例を知り、2Q では様々な楽器編成を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 皆さんの好きな曲などを伺い、聴いてみます。
- ②長調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ③短調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ④循環コードの楽曲について、いくつかのコード例を演奏し、分析をします。
- ⑤カノン進行の楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑥王道コードの楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑦1Q 末試験提示された構造の例を用い、短い作品の編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。
提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧『オーケストラストーリーズとなりのトトロ』より『さんぽ』オーケストラの楽器、編

成を学びます。

- ⑨『花束を君に』 混成四部合唱の編成を学びます。
- ⑩『Purple Haze』 (Kronos Quartet) 弦楽四重奏の編成を学びます。
- ⑪『ラブソディ・イン・ブルー』 サクソフォーン四重奏の編成を学びます。
- ⑫『リベルタンゴ』 木管五重奏を学びます。
- ⑬『ルパン三世のテーマ』 ジャズオーケストラの編成を学びます。
- ⑭『東風』 ピアノ連弾の編成を学びます。
- ⑮2Q 末試験 自身の専攻楽器を用いた楽曲を作曲します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	演習・作品制作
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れ、作編曲の手法を学んでいきます。

3Qでは、これまでに音楽理論で学んできたコードに慣れるために、有名なミュージカル楽曲を歌い、分析しながら、コード伴奏を付けていきます。

4Qでは作曲に挑戦し、作品を完成させます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 『Let It Go』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ② 『In to the unknown』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ③ 『A Whole New World』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ④ 『Chim Chim Cher-ee』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑤ 『A Dream Is a Wish Your Heart Makes』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑥ 『Winter Wonderland』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑦ 3Q末試験 課題のメロディをもとに、コードを用いて編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲作品への取り組み① これまで学んだことを活かし、作曲作品を作り始めます。
- ⑨作曲作品への取り組み② 作曲を続けていきます。
- ⑩作曲作品への取り組み③ 作曲を続けていきます。
- ⑪作曲作品への取り組み④ 作曲を続けていきます。
- ⑫作曲作品への取り組み⑤ 作曲を続けていきます。
- ⑬作曲作品への取り組み⑥ 作曲を続けていきます。
- ⑭作曲作品への取り組み⑦ 作曲を続けていきます。
- ⑮作曲作品完成へ 作品を完成させ、楽譜で提出します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲作品を提出してもらいます。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲Ⅲ
担当講師名	権山潤一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、TV、映画、CM の音楽制作の経験

授業内容

現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガンの特性を背景に実際のオルガンスキルに還元する。

電子オルガンならではの内部電子音源の仕組みを研究する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

本授業の内容上ある程度の基礎知識が要求されますが、あまり従来の法則や知識にとらわれず自由にオリジナル曲やアレンジが出来るようになれば幸いである。

授業計画（1回目から7回目）

- ① PC 環境での可能性 おすすめ PC&アプリケーション紹介
- ② ツールとしての PC シーケンスソフトの概念&説明
- ③ DTM 本来の役割 StudioOne&Logic&Cubase どう違う？
- ④ 制作概要 1 チャンネルとトラックの概念の説明
- ⑤ 制作概要 2 System Exclusive の説明
- ⑥ 音源フォーマットについて ELS-02 における XG フォーマットの説明
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか

提出物は納品レベルかどうなのか。

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ DTM (MIDI) 楽曲の中身とは? デュレーション・ベロシティの説明
- ⑨ リアルな表現 Strings 系
- ⑩ リアルな表現 Brass 系
- ⑪ リアルな表現 Guitar 系
- ⑫ リアルな表現 Piano 系
- ⑬ リアルな表現 Rhythm 系
- ⑭ Rhythm 制作実習
- ⑮ クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲IV
担当講師名	樺山潤一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、TV、映画、CM の音楽制作の経験

授業内容

現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガンの特性を背景に実際のオルガンスキルに還元する。

電子オルガンならではの内部電子音源の仕組みを研究する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

PC を用意し電子オルガンと接続し指導する。主に MIDI での作業を中心とする。多角的な編曲ができるように指導する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 音響&レコーディング 周辺機器、ケーブル類の説明
- ② 有機的な連携 EO・シンセ・DTM・PC の長短所を説明
- ③ 作品編集 既存 DTM 作品を編集
- ④ 他楽器の導入 オケ制作のノウハウも含めた形で展開
- ⑤ アレンジ・コーディネイト アレンジ・サウンド面のコーディネイト作業
- ⑥ MIDI 作品研究 音響面のバランス、スコアの確認
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 授業の理解度はどうなのか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ リスニング実習 選曲をする

- ⑨ リスニング導入編 採りやすい音から短い曲をコピー
- ⑩ リスニング基本編 ベースライン・ハーモニーにチャレンジ
- ⑪ リスニング応用編 リズムセクション・パターンスコア譜の出力
- ⑫ スコアの導入 弦楽四重奏のスコア譜を入力
- ⑬ スコアからの編曲1 音色・表現をアドバイス
- ⑭ スコアからの編曲2 音色・表現をアドバイス
- ⑮ クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか。
提出物は納品レベルかどうなのか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	D T M基礎 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

パソコンの基本的な使い方、MIDI シーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、および MIDI の基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生での DAW への学習の基礎の習得とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase の基本操作を習得し、MIDI ファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① PC の基本操作を学びます。
 - ② Cubase を起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
 - ③ Cubase にデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
 - ④ 与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。
 - ⑤ ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
 - ⑥ パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑦ プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
- ⑧ MIDI について学習します。MIDI チャンネルについて。
- ⑨ アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
- ⑩ ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
- ⑪ 拍子、テンポを設定します
- ⑫ 課題作成作業
- ⑬ 課題作成作業
- ⑭ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	DTM基礎 II
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

MIDI 規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase で音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ベロシティーを設定してドラムのアクセントをつけます。
 - ② プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します。
 - ③ クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リムパターン作成。
 - ④ ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
 - ⑤ パーカッションパートを追加します。
 - ⑥ 課題作成作業
 - ⑦ 課題提出
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑨ ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
- ⑩ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑪ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
- ⑫ トラックをコピーして、パートを増やします。
- ⑬ トラックをコピーして、パートを増やします。データを確認します。
- ⑭ 全体のバランスを取り完成させます
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDI だけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

MIDI データをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubase でオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 基礎内容を復習し保存方法、データのバージョン管理、操作方法等を確認します。
- ② CD からオーディオファイルを読み込みます。
- ③ オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作った MIDI パートを重ねます。
- ④ オーケストラのスコアを入力します。
- ⑤ 強弱、テンポ変化等の表現をつけます。
- ⑥ 各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
- ⑦ 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
- ⑨ エフェクト処理について学習します。
- ⑩ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑪ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑫ 1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
- ⑬ アレンジ作業。MIDI エフェクトを追加します。
- ⑭ トラックダウン作業
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書Ⅱ
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得した DTM の知識を応用し、DTM ソフトと譜面浄書の連携をマスターします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Finale を使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フィナーレの起動から初期設定ステップ入力について。
- ② 音符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。簡単なメロディーの入力。
- ③ 各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。
- ④ 歌詞入力。ページレイアウト設定。
- ⑤ コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させます。
- ⑥ ページレイアウトの基本設定を学習します。
- ⑦ 課題曲の楽譜を完成させ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
- ⑨ ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
- ⑩ 2クオータに提出したオリジナル曲の MIDI データを読み込んでスコアを作成します。
- ⑪ 読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。
- ⑫ セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。
- ⑬ 各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
- ⑭ ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
- ⑮ スコアを完成させ提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法 I
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

作編曲を専攻としない学生のためのポピュラーミュージックの作編曲講座。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディ、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなおわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 転調
- ⑤ モチーフ・フレーズ
- ⑥ セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括 1年の授業予定とガイダンス

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）
- ⑨ アレンジ 2（リズムセクション 2）

- ⑩ アレンジ3 (他、うわものアレンジ)
- ⑪ アレンジ4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作1
- ⑬ 楽曲制作2
- ⑭ 楽曲制作3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅱ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 様々なスタイルのポップス 1
- ② 様々なスタイルのポップス 2
- ③ 様々なスタイルのポップス 3
- ④ 様々なスタイルのポップス 4
- ⑤ 楽曲制作 1
- ⑥ 楽曲制作 2
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法 1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法 2
- ⑩ 楽曲制作 1

- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験をもちます。

授業内容

作編曲を専攻としない学生を対象に、ポピュラーミュージックの編曲を学びます。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディー、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。3年次に学習した内容をより深く掘り下げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 転調
- ⑤ モチーフ・フレーズ
- ⑥ セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）

- ⑨ アレンジ 2 (リズムセクション 2)
- ⑩ アレンジ 3 (他、うわものアレンジ)
- ⑪ アレンジ 4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作 1
- ⑬ 楽曲制作 2
- ⑭ 楽曲制作 3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

作編曲を専攻としない学生を対象に、過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げていきます。3年次に学習した内容をより深く掘り下げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 様々なスタイルのポップス 1
- ② 様々なスタイルのポップス 2
- ③ 様々なスタイルのポップス 3
- ④ 様々なスタイルのポップス 4
- ⑤ 楽曲制作 1
- ⑥ 楽曲制作 2
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法 1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法 2

- ⑩ 楽曲制作 1
- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 I
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2 クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1 コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 楽曲制作・モチーフ・フレーズ
- ⑤ 楽曲制作・転調
- ⑥ 楽曲制作・セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）
- ⑨ アレンジ 2（リズムセクション 2）
- ⑩ アレンジ 3（ほかうわものアレンジ）

- ⑪ アレンジ4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作1
- ⑬ 楽曲制作2
- ⑭ 楽曲制作3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習Ⅱ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽曲分析プレゼンテーション
- ② 学生プレゼンテーション1・作曲実習
- ③ 学生プレゼンテーション2・作曲実習
- ④ 学生プレゼンテーション3・作曲実習
- ⑤ 学生プレゼンテーション4・作曲実習
- ⑥ 作曲実習
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法 1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法 2
- ⑩ 楽曲制作 1

- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 楽曲制作・モチーフ・フレーズ
- ⑤ 楽曲制作・転調
- ⑥ 楽曲制作・セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）
- ⑨ アレンジ 2（リズムセクション 2）
- ⑩ アレンジ 3（ほかうわものアレンジ）

- ⑪ アレンジ4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作1
- ⑬ 楽曲制作2
- ⑭ 楽曲制作3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽曲分析プレゼンテーション
- ② 学生プレゼンテーション1・作曲実習
- ③ 学生プレゼンテーション2・作曲実習
- ④ 学生プレゼンテーション3・作曲実習
- ⑤ 学生プレゼンテーション4・作曲実習
- ⑥ 作曲実習
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法 1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法 2
- ⑩ 楽曲制作 1

- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	リズムトレーニング I
担当講師名	樺山潤一郎
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験

授業内容

音楽の 3 要素であるリズムに焦点を絞った科目である。体を動かし、口でリズムを歌い、両手でリズムを取りながら、グルーヴとは何かを学習する。

1 クォーターでは 8 ビートの基礎訓練が主体となる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ① ジャズビートとは何かを理解する。
- ② メトロノームを使った練習法の理解。
- ③ 8 ビート、3 連に於ける 4 分音符の理解。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① オリエンテーション あなたのリズム感は何？自己診断テスト。
- ② 8 ビート メトロノームを 8 分の裏に感じる訓練
- ③ 8 ビートと 3 連 8 ビートに於ける 4 分音符と 3 連
- ④ 体でノッてみよう 付点 4 分と 8 分音符の繰り返し (3+1)
- ⑤ アクセント (ひざでパタパタ)
- ⑥ 模擬テスト クォーター末試験の予行演習を個別指導
- ⑦ クォーター末試験 8 ビート (メトロノーム 2, 4) と 3 連の一拍 (メトロノームを 3 連の裏) 各 1 分間

中間試験評価方法・評価基準

8 ビートと 3 連の一拍を各 1 分間 鍵盤で表現できるか。

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3連のウラ1 メトロノームを3連の裏に感じる訓練（アクセントなし）
- ⑨ 3連のウラ2 左右の手のバランスを取る訓練
- ⑩ アクセント 細かいビートを表現しながらアクセントをつける訓練
- ⑪ 2拍3連と3拍2連の関係
- ⑫ シャッフル
- ⑬ 4ビート
- ⑭ 模擬テスト 3連の色々なアクセントが歌えているか（メトロノームを3連の裏）
- ⑮ クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

3連グルーヴ（アクセントなし）（頭アクセント）（2拍3連）（2拍3連の裏）
（3連の裏）（シャッフル）が 手、足、口でバランス良く表現できているか。
評価基準：出席50%、平常点25%、試験25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	リズムトレーニングⅡ
担当講師名	樺山潤一郎
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験

授業内容

音楽の 3 要素であるリズムに焦点を絞った科目である。体を動かし、口でリズムを歌い、両手でリズムを取りながら、グルーヴとは何かを学習する。

3 クォーターでは 16 ビートのグルーヴについて学習し、

4 クォーターではシンコペーション、アフリカン、シャッフルについて学習する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ①16 ビートのジャストビートが理解でき表現できる。
- ②半拍半フレーズの理解。
- ③16 ビートの色々な場所にストレス無しにアクセントが付けられる。
- ④シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏できる。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 16 ビート（アクセント無し） メトロノームを 8 分の裏に感じながら訓練。
- ② 曲にノッテみよう 曲を聴きながら手、足、口を動かしてみる
- ③ アクセント 細かいビートを表現しながらアクセントをつける訓練
- ④ 半拍半フレーズ 連続する付点 8 分の訓練（3 種類）
- ⑤ 16 ビートパターン 代表的な 16 ビートグルーヴを学習
- ⑥ 模擬テスト クォーター末試験の予行演習を個別指導
- ⑦ クォーター末試験 16 ビートグルーヴ（半拍半フレーズ）

中間試験評価方法・評価基準

16 ビートグルーヴ（半拍半フレーズ）を鍵盤で表現できるか。

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 復習 8ビート、3連、16ビート（平坦、アクセント）
- ⑨ シンコペーション 8ビート、16ビート、3連に於けるシンコペーションの歌い方
- ⑩ 4拍3連と3拍4連の関係 4拍3連と3拍4連の歌い方とその訓練法
- ⑪ アフリカン アフリカン12/8拍子の理解ならびに訓練
- ⑫ シャッフル・ベースライン1 実際どの様にリズムを歌っているのか
- ⑬ シャッフル・ベースライン2 シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏
- ⑭ 模擬テスト 一人でベースラインを鍵盤で演奏出来るか（メトロノーム3連の裏）
- ⑮ クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

一人でストレス無く、シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏出来るか。
評価基準：出席50%、平常点25%、試験25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	リズムトレーニングⅢ
担当講師名	権山潤一郎
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験

授業内容

音楽の3要素であるリズムに焦点を絞った科目である。

- 1 クォーターでは楽曲の中でのロック、ファンク、ラテンのグルーブについて学習する。
- 2 クォーターではポリリズム系のグルーブについて学習、ラ・フェスタを演奏する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ①メトロノームを使ってジャストビートが採せる。
- ②16の裏ビートが歌えて表現ができる。
- ③モンテューノの基本的グルーブが出来る。
- ④ラ・フェスタ（イントロ～ソロの手前まで）鍵盤でストレス無く演奏が出来る。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション
- ② ロック・グルーブ（8ビート）
- ③ ロック・グルーブ（シャッフル）
- ④ ファンク・グルーブ（16ビート）
- ⑤ ラテン・グルーブ1 モンテューノの基本的グルーブの学習（ベースライン）
- ⑥ ラテン・グルーブ2 モンテューノの基本的グルーブの学習（ピアノコンピング）
- ⑦ クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

一人でストレス無くモンテューノのグルーブが出せるか

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 2拍3連と3拍2連
- ⑨ ポリリズム 12/8拍子を6拍子と4拍子でグルーヴ
- ⑩ リズム聴音 楽曲を聴きながらリズムを足、両手、口で表現
- ⑪ コンピング バッキングの歌い方、感じ方
- ⑫ 表現法 メロの歌い方、感じ方 系
- ⑬ ラ・フェスタの演奏 ドラムとデュオで演奏して確認
- ⑭ Rhythm 制作実習
- ⑮ クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	リズムトレーニングⅣ
担当講師名	権山潤一郎
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験

授業内容

音楽の3要素であるリズムに焦点を絞った科目である。
 3クォーターでは楽曲の中でラテンのグルーブについて学習する。
 4クォーターではポリリズム系のグルーブについて学習、ラ・フェスタを演奏する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ①メトロノームを使ってジャストビートが採せる。
- ②16の裏ビートが歌えて表現ができる。
- ③モンテューノの基本的グルーブが出来る。
- ④ラ・フェスタ（イントロ～ソロの手前まで）鍵盤でストレス無く演奏が出来る。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ボサノバ ボサノバのグルーブをピアノで出せるか
- ② サンバ サンバのグルーブをピアノで出せるか
- ③ カリプソ 基本コンピングパターンの練習
- ④ ルンバ 基本コンピングパターンの練習
- ⑤ サルサ 基本コンピングパターンの練習
- ⑥ マンボ 基本コンピングパターンの練習
- ⑦ クォーター末試験 楽曲を聴きながらリズムを足、両手、口で表現

中間試験評価方法・評価基準

一人でストレス無くコンピングのグルーブが出せるか
 評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 2拍3連と3拍2連
- ⑨ ポリリズム 12/8拍子を6拍子と4拍子でグルーブ
- ⑩ リズム聴音 楽曲を聴きながらリズムを足、両手、口で表現
- ⑪ コンピング バッキングの歌い方、感じ方
- ⑫ 表現法 メロの歌い方、感じ方 系
- ⑬ ラ・フェスタの演奏 ドラムとデュオで演奏して確認
- ⑭ 模擬テスト ピアノトリオで演奏練習
- ⑮ クォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

ピアノトリオに於いて、スムーズなりハーサルが出来、本番でアピール出来たか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	スコアリーディング I
担当講師名	齋藤 良
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は電子オルガンを使用するオペラ・ミュージカル公演に携わり、指揮者と同じオーケストラスコアを用いて（スコアリーディング奏法）全幕の演奏（3～4時間）の経験を有します。

授業内容

電子オルガン専攻者にとってのソルフェージュ力とは、スコアリーディング力もあってこそ。オーケストラスコアから、オケの配置、編成、それぞれの楽器特有の記号なども学習し、楽器の特性を踏まえた奏法も研究しながら、スコアリーディング奏法を習得していきます。

また、秋のクラシックコンサートの準備も同時に行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

電子オルガンの3段譜ではなく、オーケストラスコアそのものを見ながら演奏する力をつけます。編成がイレギュラーで、足りないパートがあるバンドのアシストがその場ででき、現場で使える人を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/スコアリーディング奏法を体験/コンサートの選曲
- ② 弦楽器の特性、配置や、弦楽器のみに用いられる用語に取り組み、電子オルガンにおける音色選択の違いも学びます/コンサートの選曲
- ③ ハ音記号の読みのコツ
コンサート曲の譜分け、レジストを組むにあたり注意事項等を確認
- ④ ハ音記号の演奏に慣れる
コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑤ コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑥ 弦楽器を中心とした小編成の楽曲に取り組みます
コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑦ 中間試験：弦楽アンサンブル曲を演奏する

中間試験評価方法・評価基準

弦楽器を中心とした小編成の楽曲をスコアリーディング奏法にて演奏します。

普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。

出席：20% 平常点：50% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 木管楽器特有の記譜を学びます。楽器の特性、配置を踏まえながら木管アンサンブルの楽曲に取り組みます/コンサート曲の譜分け
- ⑨ 金管楽器特有の記譜を学びます。楽器の特性、配置を踏まえながら木管アンサンブルの楽曲に取り組みます/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面レジスト確認、演奏
- ⑩ H a r p のチューニングや記譜を学びます。グリッサンドに隠された秘密を解き、電子オルガンでの対応を研究します/コンサート曲の譜分け・前回分の譜面レジスト確認、演奏
- ⑪ 管弦楽曲に取り組む I ①/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑫ 管弦楽曲に取り組む I ②/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑬ 管弦楽曲に取り組む I ③/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑭ 管弦楽曲に取り組む I ④/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
打楽器譜面の書き方づくり方
- ⑮ 期末試験：管弦楽曲を演奏する

期末試験評価方法・評価基準

管弦楽曲をスコアリーディング奏法にて演奏します。

普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。

出席：20% 平常点：50% 試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	スコアリーディングⅡ
担当講師名	齋藤 良
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は電子オルガンを使用するオペラ・ミュージカル公演に携わり、指揮者と同じオーケストラスコアを用いて（スコアリーディング奏法）全幕の演奏（3～4時間）の経験を有します。

授業内容

春学期で学んだことを踏まえ、編成の大きな楽曲に取り組み、譜分けの方法、演奏法を学び、スコアリーディング力を高めていきます。
クラシックコンサートの準備も同時に行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

電子オルガンの3段譜ではなく、オーケストラスコアそのものを見ながら演奏する力をつけます。編成がイレギュラーで、足りないパートがあるバンドのアシストがその場ででき、現場で使える人を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 小編成の協奏曲①/コンサート曲の確認
- ② 小編成の協奏曲②/コンサート曲の確認
- ③ ハ音記号の読みのコツ
コンサート曲の譜分け、レジストを組むにあたり注意事項等を確認
- ④ 管弦楽曲に取り組むⅡ①/コンサート曲の確認
- ⑤ 管弦楽曲に取り組むⅡ②/コンサート曲の確認
- ⑥ 管弦楽曲に取り組むⅡ③/コンサート曲の確認
- ⑦ 中間試験：管弦楽曲を演奏/コンサート曲の確認

中間試験評価方法・評価基準

管弦楽曲をスコアリーディング奏法にて演奏します。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
出席：20% 平常点：50% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 小編成の交響曲①：交響曲とは？/譜分け
- ⑨ 小編成の交響曲②：研究と演奏の実際
- ⑩ 小編成の交響曲③：研究と演奏の実際
- ⑪ 大編成の交響曲①
- ⑫ 大編成の交響曲②
- ⑬ 大編成の交響曲③：期末試験に向けて
- ⑭ 大編成の交響曲④：期末試験に向けて
- ⑮ 期末試験：交響曲の演奏

期末試験評価方法・評価基準

交響曲をスコアリーダーディング奏法にて演奏します。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。

出席：20% 平常点：50% 試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	スコアリーディングⅢ
担当講師名	齋藤 良
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は電子オルガンを使用するオペラ・ミュージカル公演に携わり、指揮者と同じオーケストラスコアを用いて（スコアリーディング奏法）全幕の演奏（3～4時間）の経験を有します。

授業内容

2年生で学んだ復習をふくめ、編成の大きな楽曲に取り組み、譜分けの方法、演奏法を学び、スコアリーディング力を高めていきます。
クラシックコンサートの準備も同時に行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

電子オルガンの3段譜ではなく、オーケストラスコアそのものを見ながら演奏する力をつけます。編成がイレギュラーで、足りないパートがあるバンドのアシストがその場ででき、現場で使える人を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/コンサートの選曲
- ② 管弦楽曲Ⅰ①/コンサートの選曲
- ③ 管弦楽曲Ⅰ②/コンサート曲の譜分け、レジストを組むにあたり注意事項等を確認
- ④ 管弦楽曲Ⅰ③/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑤ 管弦楽曲Ⅰ④/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑥ 管弦楽曲Ⅰ⑤/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑦ 中間試験：管弦楽曲を演奏する

中間試験評価方法・評価基準

管弦楽曲をスコアリーディング奏法にて演奏します。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
出席：20% 平常点：50% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 管弦楽曲Ⅱ①/コンサート曲の譜分け
- ⑨ 管弦楽曲Ⅱ②/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑩ 管弦楽曲Ⅱ③/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑪ 管弦楽曲Ⅱ④/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑫ 管弦楽曲Ⅱ⑤/コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑬ 管弦楽曲Ⅱ⑥：期末試験に向けて
コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑭ 管弦楽曲Ⅱ⑦/期末試験に向けて
コンサート曲の譜分け、前回分の譜面・レジスト確認、演奏
- ⑮ 期末試験：管弦楽曲の演奏

期末試験評価方法・評価基準

管弦楽曲をスコアリーダーイング奏法にて演奏します。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
出席：20% 平常点：50% 試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	スコアリーディングⅣ
担当講師名	齋藤 良
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は電子オルガンを使用するオペラ・ミュージカル公演に携わり、指揮者と同じオーケストラスコアを用いて（スコアリーディング奏法）全幕の演奏（3～4時間）の経験を有します。

授業内容

春学期で学んだ事をふまえ、編成の大きな楽曲に取り組み、譜分けの方法、演奏法を学び、スコアリーディング力を高めていきます。
クラシックコンサートの準備も同時に行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

電子オルガンの3段譜ではなく、オーケストラスコアそのものを見ながら演奏する力をつけます。編成がイレギュラーで、足りないパートがあるバンドのアシストがその場ででき、現場で使える人を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管弦楽曲Ⅲ①/コンサート曲の確認
- ② 管弦楽曲Ⅲ②/コンサート曲の確認
- ③ 管弦楽曲Ⅲ③/コンサート曲の確認
- ④ 管弦楽曲Ⅲ④/コンサート曲の確認
- ⑤ 管弦楽曲Ⅲ⑤/コンサート曲の確認
- ⑥ 管弦楽曲Ⅲ⑥/コンサート曲の確認
- ⑦ 中間試験：管弦楽曲を演奏する

中間試験評価方法・評価基準

管弦楽曲をスコアリーディング奏法にて演奏します。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
出席：20% 平常点：50% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ曲からオーケストレーション①：有名作品から手法を学びます
- ⑨ ピアノ曲からオーケストレーション②：選曲
- ⑩ ピアノ曲からオーケストレーション③：楽器の特性、音域にあったフレーズの確認
- ⑪ ピアノ曲からオーケストレーション④：ピアノ特有のフレーズの変換
- ⑫ ピアノ曲からオーケストレーション⑤：原曲には無い動きやフレーズ
- ⑬ ピアノ曲からオーケストレーション⑥：期末試験に向けて
- ⑭ ピアノ曲からオーケストレーション⑦：期末試験に向けて
- ⑮ 期末試験：取り組んだ曲の演奏

期末試験評価方法・評価基準

オーケストレーションした楽曲を演奏します。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
出席：20% 平常点：50% 試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	スコアリーディングⅤ
担当講師名	大木裕一郎
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	EO

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

長い時間をかけ、秋のクラシックコンサートに向けて数曲をじっくり作り上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クラシック楽曲のアレンジから演奏まで。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 本科目1年間の概説 クラシックコンサートについて
- ② バロック・古典派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
- ③ ロマン派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
- ④ ③のレジスト作成をして音出しをします。
- ⑤ 近現代楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
- ⑥ ⑤のレジスト作成をして音出しをします。
- ⑦ 中間試験：進んだ譜面を提出します。

中間試験評価方法・評価基準

⑥で仕上げた楽曲演奏をします。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ エレクトーンでオーケストラサウンドを表現する際に必要なことを研究しますⅠ
- ⑨ エレクトーンでオーケストラサウンドを表現する際に必要なことを研究しますⅡ
- ⑩ 演奏法に関する研究をしますⅠ
- ⑪ 演奏法に関する研究をしますⅡ

- ⑫ 打楽器との合わせをする為の準備をします。(パート譜、サイズの確認など)
- ⑬ 打楽器との合わせⅠ
- ⑭ 打楽器との合わせⅡ
- ⑮ 最終確認をし本番に備えます。

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加しているか、本番の演奏を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	スコアリーディングⅥ
担当講師名	大木裕一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	EO

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

長い時間をかけ、秋のクラシックコンサートに向けて数曲をじっくり作り上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クラシック楽曲のアレンジから演奏まで。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ムソルグスキー：展覧会の絵 プロムナード・キエフの大門
オーケストラスコアを見ながらパート毎に演奏します。
- ② 木管、金管、弦に分けて、それぞれの楽譜を起こしていきます。
- ③ 各楽器の特性を知り、エレクトーンでの音色作りをしていきます。
- ④ リスニング～大編成～交響曲・組曲・・・他 ソロのアレンジをします。
- ⑤ 木管、金管、弦に分かれてアンサンブルをします。
- ⑥ テストに向けて課題提示をして予習します。
- ⑦ 簡単な管弦楽曲の演奏をします。

中間試験評価方法・評価基準

簡単な管弦楽曲の演奏をし評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ドボルザーク：交響曲第9番「新世界」の抜粋をアレンジします。
- ⑨ 木管、金管、弦に分けて、それぞれの楽譜を起こします。
- ⑩ 各楽器の特性を知り、エレクトーンでの音色作りをしていきます。

- ⑪ 木管、金管、弦に分かれてアンサンブルします。
- ⑫ ローテーションでアンサンブルをします。
- ⑬ ピアノ曲のオーケストラ版を聴きます。ラヴェル：クープレランの墓 その他。
- ⑭ ピアノ曲のオーケストレーション。例を挙げていきながら実習します。
- ⑮ 期末試験：仕上がった曲を発表します。

期末試験評価方法・評価基準

データ作成と楽曲演奏をします。
作品の完成度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	インプロヴィゼーション I
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガンコース学生対象

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております。

授業内容

ポピュラー音楽で使う、コードやアドリブについて学習していきます。
 1 クォーターは”ブルース”と”リズムチェンジ”について学習します。同時にテンションコードについても学習します。
 2 クォーターはⅡm7 と V7 で使えるモードスケールを使ってソロをとる練習をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はピアノトリオの形で行います。授業で得た知識を生かし、ピアニストとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①JazzBlues ① : key of C
- ②JazzBlues ② : key of F
- ③Rhythm Change ① : key of Bb
- ④Rhythm Change ② : key of Bb
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥中間試験：このクォーターで学習した曲とトランスクリाइブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。
 出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
 出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧モードスケール：モードスケールを覚える
- ⑨ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ①：Major key
- ⑩ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ②：曲を使って実習
- ⑪ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ③：Minor key
- ⑫ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ④：曲を使って実習
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭期末試験：このクォーターで学習した曲とトランスクライブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガンコース学生対象

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております。

授業内容

Ⅱm7 V7 I、フレーズを練習していきます。代理コードを用いて新しいフレーズをどんどん学習していきます。基本的なⅡm7 V7 I、フレーズをたくさん覚えて自分のソロの引き出しを増やしていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はピアノトリオの形で行います。授業で得た知識を生かし、ピアニストとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Intro の創り方①：テーマモチーフ、ペダルポイント、コードプログレッション
- ②Ending の創り方：リピート、逆循環コード
- ③アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ①：クロマティックアプローチ
- ④アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ②：インダイレクト・リゾリューション
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥中間試験：このクォーターで学習した曲とトランスクリाइブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、4Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。
 加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Solo の組み立て方 ①：Play / Rest の練習
- ⑨Solo の組み立て方 ②：モチーフを繰り返す
- ⑩すべてのメジャーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ①：12 keys
- ⑪すべてのメジャーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ②：12 keys
- ⑫すべてのマイナーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ①：12 keys
- ⑬すべてのマイナーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ②：12 keys
- ⑭期末試験：このクォーターで学習した曲とトランスクライブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、1年間の授業を振り返る。

期末試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅢ
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガンコース学生対象

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております。

授業内容

ポピュラー音楽で使う、コードやアドリブについて学習していきます。
 1 クォーターは”ブルース”と”リズムチェンジ”について学習します。同時にテンションコードについても学習します。
 2 クォーターはⅡm7 と V7 で使えるモードスケールを使ってソロをとる練習をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はピアノトリオの形で行います。授業で得た知識を生かし、ピアニストとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①JazzBlues ① : key of C
- ②JazzBlues ② : key of F
- ③Rhythm Change ① : key of Bb
- ④Rhythm Change ② : key of Bb
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥中間試験：このクォーターで学習した曲とトランスクリाइブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。
 出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
 出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧モードスケール：モードスケールを覚える
- ⑨ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ①：Major key
- ⑩ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ②：曲を使って実習
- ⑪ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ③：Minor key
- ⑫ツーファイブ進行におけるⅡm7 とV7で使えるスケール ④：曲を使って実習
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭期末試験：このクォーターで学習した曲とトランスクライブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅣ
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガンコース学生対象

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております。

授業内容

Ⅱm7 V7 I、フレーズを練習していきます。代理コードを用いて新しいフレーズをどんどん学習していきます。基本的なⅡm7 V7 I、フレーズをたくさん覚えて自分のソロの引き出しを増やしていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はピアノトリオの形で行います。授業で得た知識を生かし、ピアニストとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Intro の創り方①：テーマモチーフ、ペダルポイント、コードプログレッション
- ②Ending の創り方：リピート、逆循環コード
- ③アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ①：クロマティックアプローチ
- ④アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ②：インダイレクト・リゾリューション
- ⑤このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥中間試験：このクォーターで学習した曲とトランスクライブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、4Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。

加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Solo の組み立て方 ①：Play / Rest の練習
- ⑨Solo の組み立て方 ②：モチーフを繰り返す
- ⑩すべてのメジャーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ①：12 keys
- ⑪すべてのメジャーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ②：12 keys
- ⑫すべてのマイナーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ①：12 keys
- ⑬すべてのマイナーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ②：12 keys
- ⑭期末試験：このクォーターで学習した曲とトランスクライブした曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、1年間の授業を振り返る。

期末試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レジストリー研究 I
担当講師名	大木裕一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

レジストレーションデータ作成をマスターしていくことを目的とした授業です。
また、必要であればイベントで演奏する楽曲のデータも作成、編集していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レジスト作成の基本をマスターします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年間のガイダンス 1年間の授業の流れの確認をします。
- ② データ作成手順を確認 専門用語復習と平行して、操作を覚えていきます。
- ③ PRESET 音色 STRINGS① プリセットのストリングス音色の特徴を知ります。
- ④ PRESET 音色 STRINGS② プリセットのストリングス音色の組み合わせ方を知ります。
- ⑤ PRESET 音色 BRASS① プリセットのブラス音色の特徴を知ります
- ⑥ PRESET 音色 BRASS② プリセットのブラス音色の組み合わせ方を知ります。
- ⑦ STRINGS 音色の小テスト 音色について簡単なテストをします。

中間試験評価方法・評価基準

小テストを行います。
授業で学んだ各種機能を活用しているかを評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ PRESET 音色 W. WIND① プリセットの木管楽器音色の特徴を知ります。
- ⑨ PRESET 音色 W. WIND② プリセットの木管楽器音色の組み合わせ方を知ります。
- ⑩ PRESET 音色 その他 Tutti や、特徴のあるカテゴリーの音色を知ります。

- ⑪ PRESET 音色と VOICE CONDITION 各機能の説明と復習をします。
- ⑫ RHYTHM-パターン作成の基本 リズムパターン作成の基本を学びます。
- ⑬ リズムパターンを組んでみよう！ リズム/レジスト、シーケンス機能を使用します。
- ⑭ レジストとリズムを作成してみよう！ 1曲分のレジストデータを作成します。
- ⑮ 期末試験 春学期のまとめをテストします。

期末試験評価方法・評価基準

データ作成と楽曲演奏をします。
授業で学んだ各種機能、知識を活用しているか、また作品の完成度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

演習、講義、実技を内容により形態が変わります。
専用のノート、フラッシュメモリを準備してください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	レジストリー研究Ⅱ
担当講師名	大木裕一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

レジストレーションデータ作成をマスターしていくことを目的とした授業です。また、必要であればイベントで演奏する楽曲のデータも作成、編集していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年のまとめ、また2年次の準備として簡単なスコアなどからアレンジをしレジストレーションデータも制作して、作品の完成を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 様々なジャンルのリズムをELSで再現していきます。
- ② 内蔵されているパターンを研究していきます。
- ③ 様々なパターンを入力し操作に慣れていきます。
- ④ アセンブリーを使ってオリジナルパターンを作ります。
- ⑤ アカンパニメントの効果的な使用法も研究します。
- ⑥ 期末試験に向けての復習をします。
- ⑦ 小テストとしてレジストデータを作成し演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

小テストを行います。
授業で学んだ各種機能を活用しているかを評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 簡単アレンジ① オーケストラスコアから3段譜にアレンジします。
- ⑨ 簡単アレンジ② オーケストラスコアから3段譜にアレンジします。

- ⑩ REGIST 制作① アレンジした譜面に沿ってデータを作っていきます。
- ⑪ REGIST 制作② アレンジした譜面に沿ってデータを作っていきます。
- ⑫ REGIST 制作③ 実際に音出しをしながら、バランスを取っていきます。
- ⑬ REGIST 制作④ 実際に音出しをしながら、バランスを取っていきます。
- ⑭ 期末試験に向けて仕上げをしていきます。
- ⑮ 期末試験： データを制作し、演奏までを試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

データ作成と楽曲演奏をします。

授業で学んだ各種機能、知識を活用しているか、また作品の完成度を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

演習、講義、実技を内容により形態が変わります。

専用のノート、フラッシュメモリを準備してください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	サウンドメイク I
担当講師名	大木裕一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

1年で学んだ、データ制作の経験を活かし、アレンジを絡めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

更に機能に入り込んでいき、積極的にアレンジに取り入れていけることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 1年間の授業の流れの確認をします。
- ② VOICE EDIT① この機能でできること、一つ一つの意味や動作を理解します。
- ③ VOICE EDIT② 実際に応用します。
- ④ VOICE EDIT③ アレンジに取り入れていく方法を説明します。
- ⑤ EFFECT① エフェクトの種類を説明します。
- ⑥ EFFECT② 実際の活用法を学びます。
- ⑦ 中間試験 VOICE EDITの小テストをします。

中間試験評価方法・評価基準

小テストを行います。

授業で学んだ各種機能を活用しているかを評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ クラシックアレンジ① オーケストラスコアから3段譜にアレンジをします。
- ⑨ クラシックアレンジ② 2台用アレンジするには？様々なパート分けをします。
- ⑩ クラシックアレンジ③ ②のレジストを作成します。
- ⑪ クラシックアレンジ④ 実際に音出しをしてチェックをしていきます。

- | | | |
|---|---------|---------------------------|
| ⑫ | ボイス選択復習 | 音色の研究-よりリアルな音を追求していきます。 |
| ⑬ | リズム研究 | オーケストラパーカッションの打ち込み研究をします。 |
| ⑭ | 試験に向けて | バランスを取りながら仕上げをしていきます。 |
| ⑮ | 期末試験 | Ⅱクォーターでアレンジした曲を演奏します。 |

期末試験評価方法・評価基準

楽曲演奏をします。

授業で学んだ各種機能、知識を活用しているか、また作品の完成度を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

演習、講義、実技を内容により形態が変わります。

専用のノート、フラッシュメモリを準備してください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	サウンドメイクⅡ
担当講師名	大木裕一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

春学期で取り上げた内容に更に踏み込んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

更に機能に入り込んでいき、積極的にアレンジに取り入れていけることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アレンジ① アレンジの曲決めなどをします。
- ② アレンジ② 市販曲集を用いて、アレンジの分析をします。
- ③ アレンジ③ 楽曲の音源を参考に、パートを割り振ります。
- ④ アレンジ④ アレンジをした曲のレジストデータを作成します。
- ⑤ アレンジ⑤ アレンジをした曲のリズムデータなどを作成します。
- ⑥ アレンジ⑥ 2台用のバランスを取りながら仕上げをします。
- ⑦ 1クォーターの確認 アレンジの譜面をチェックします。

中間試験評価方法・評価基準

アレンジした譜面のチェックをします。
 アレンジがまとまっているか、授業で学んだ各種機能を活用しているかを評価します。
 出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ポピュラーアレンジ① 選曲をし、バンドスコアを用いてアレンジしていきます。
- ⑨ ポピュラーアレンジ② 出来る範囲で、音源のコピーに挑戦します。
- ⑩ ポピュラーアレンジ③ アレンジをした曲のレジストデータを作成します。
- ⑪ ポピュラーアレンジ④ アレンジをした曲のリズムを作成します。

- ⑫ ポピュラーアレンジ⑤ アレンジをした曲のリズムを作成します。
- ⑬ ポピュラーアレンジ⑥ レジストデータのバランスを取っていきます。
- ⑭ 1年間のまとめ 1年間で取り上げた内容の復習をします。
- ⑮ 期末試験 実技試験-アレンジをした曲の演奏を試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

楽曲演奏をします。

授業で学んだ各種機能、知識を活用しているか、また作品の完成度を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

演習、講義、実技を内容により形態が変わります。

専用のノート、フラッシュメモリを準備してください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラージャンル研究 I
担当講師名	駿河 智子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

1クォーターは映画、ミュージカルといった複合芸術における音楽を取り上げ、その映像における効果や音楽としての特徴を、文化や社会的背景を意識しながら探っていきます。2クォーターではクラシックの中からバロック、近現代を取り上げ、その様式感を歴史的背景や地域特性などを踏まえて探っていきます。ピアノ実技では1クォーターはスケールとカデンツ、2クォーターは小作品の演奏に取り組みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な楽曲の特徴を明確に捉え、分類・分析する力を身に付けます。音楽の基礎知識やメディアミックスにおける音楽の効果学ぶことによって、自分に取り組んでいく音楽を深く理解し、電子オルガンなどの作品制作や表現技法につなげていきます。ピアノ実技では基本的な奏法や表現技術を習得していきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①実際の映画作品において音楽がどのように使われているかを検証していきます。
ハ長調、イ短調のスケール、カデンツを練習します。
- ②50年代頃までの映画音楽の傾向を掴み、スタンダードナンバーとしてのいろいろなアレンジ例に触れていきます。ヘ長調、ニ短調のスケール、カデンツを練習します。
- ③60年代を中心に、ロックやジャズを取り入れた映画音楽を分析していきます。
変ロ長調、ト短調のスケール、カデンツを練習します。
- ④ストーリーとリンクしていろいろなイメージを喚起させる映画音楽を取り上げ、効果的なモチーフやオーケストレーションを分析します。今までのスケールとカデンツを復習、確認します。
- ⑤初期のミュージカルから生まれたスタンダードナンバーの傾向を掴み、スタンダードナンバーとしてのジャズ演奏に触れていきます。変ホ長調のスケール、カデンツを練習します。
- ⑥5～60年代の黄金期のミュージカル作品を分析していきます。
ハ短調のスケール、カデンツを練習します。

- ⑦ヨーロッパのミュージカル作品を分析していきます。中間試験としてレポートの提出、また、スケール、カデンツを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

レポート提出をします。映像に対する音楽の効果や、その音楽としての特徴を適格に分析できているかを評価します。ピアノ実技ではスケール、カデンツの演奏において、基礎的技術が習得できているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧中世、ルネサンス、バロックの世俗曲や器楽曲の変遷を辿り、そこからバロックの位置づけや特徴を理解していきます。ピアノ小作品の演奏に取り組みます。
- ⑨ビバルディの楽曲を取り上げ、いろいろな器楽や形式、通奏低音など様々な基礎知識を確認していきます。スコアリーディングも体験します。引き続きピアノ小作品に取り組みます。
- ⑩バッハの楽曲を取り上げ、フーガ形式や和声を分析します。引き続きピアノ小作品の演奏に取り組みます。
- ⑪ヘンデルの楽曲の優れた旋律やホモフォニック性に触れて電子オルガンでのアレンジを考えます。引き続きピアノ小作品の演奏に取り組みます。
- ⑫バロック以降の変遷を辿り、そこから近現代音楽の多様性を考察していきます。引き続きピアノ小作品の演奏に取り組みます。
- ⑬フランス音楽、特に印象派の和声面の特徴を分析し、電子オルガンでのアレンジも考えていきます。引き続きピアノ小作品の演奏に取り組みます。
- ⑭ストラヴィンスキーの楽曲を取り上げ、そのオーケストレーションやリズムの表現を分析します。レポートの提出をします。
- ⑮期末試験として、これまでの授業内容に関する筆記試験を行います。実技試験として、ピアノ小作品の中から1曲を演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、授業内容を総合的に捉える力を問うため、選択問題や穴埋め問題ではなく、全て記述形式での解答となります。ピアノの実技では、楽曲の流れをしっかりと理解し、適切な表現ができているかを評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%（筆記30%、実技20%）

特記事項

エレクトーンメロディーズベストコレクション Vol.1 を補助教材として使用します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ポピュラージャンル研究Ⅱ
担当講師名	駿河 智子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

ポピュラー音楽シーンにおけるロックとジャズのルーツ、誕生、その普及や変化の様子を辿りながら、なぜ国境や世代を超えて多くの人々を魅了し影響を及ぼすに至ったのか、その普遍性を文化や世相など絡ませて分析していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

電子オルガンで表現をする機会の多いポピュラー音楽について、そのジャンル感の習得を目指すことにより、電子オルガンでの楽曲制作やパフォーマンスの向上に繋げていきます。ピアノ実技においては、テクニックの習得と共にソナチネ～ソナタ相当のレパートリー一曲を作っていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ロックンロールの誕生とそのルーツ、初期のスタイルと波及の様子を見ていきます。
ト長調、ホ短調のスケール、カデンを練習します。
- ②60年代におけるモータウンサウンドの戦略と特徴を分析していきます。
二長調、ロ短調のスケール、カデンツを練習します。
- ③イギリスを中心としたヨーロッパにおけるロックの進化を、クラシックや民族音楽との融合といった視点で見ていきます。今までのスケールとカデンツを復習、確認します。
- ④70年代のアメリカのフォークロックを中心に、そのアレンジとメッセージ性を見ていきます。イ長調のスケール、カデンツを練習します。
- ⑤80年代におけるデジタル技術の進歩に伴うサウンドの構築性、またMTVの躍進などメディア的変化を見ていきます。嬰へ短調のスケール、カデンツを練習します。
- ⑥6～70年代のファンクのサウンドを分析してホーンセクションやリズムセクションのアレンジを考察します。
- ⑦80年代以降のヨーロッパを中心としたクラブ系のサウンドを分析して、そのリズムセクションアレンジを考察していきます。中間試験としてレポートの提出、またスケール、カデンツを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

レポート提出をします。いろいろなポップスのサウンドの要素を聴き分け、分析できているかを評価します。ピアノ実技ではスケール、カデンツの演奏において、基礎的技術が習得できているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧有名なスタンダードナンバーやアーティストを通して、いろいろなスタイルのジャズを聴きます。一段譜からの演奏の構築を意識します。ソナチネ、ソナタ、またはそれに準ずるピアノ作品の演奏に取り組みます。
- ⑨ジャズの誕生やそのルーツ、初期のジャズの特徴と波及の様子を見ていきます。引き続きピアノ作品の演奏に取り組みます。
- ⑩スイング時代のジャズを分析していきます。そこからビバップの誕生の様子も見ていきます。引き続きピアノ作品の演奏に取り組みます。
- ⑪モダンジャズからコンテンポラリージャズへ、その変化の様子と特徴を分析していきます。引き続きピアノ作品の演奏に取り組みます。
- ⑫70年代のフュージョンムーブメントを通して、ジャズの表現の広がり様子を見ていきます。引き続きピアノ作品の演奏に取り組みます。
- ⑬いろいろな楽器によるジャズ演奏を聴き、それぞれ楽器特性による表現の違いを理解し、電子オルガンでの演奏につなげていきます。引き続きピアノ作品の演奏に取り組みます。
- ⑭スムーズジャズのアレンジやサウンドを分析して、電子オルガンでのアレンジの参考としてイメージの作り方を探っていきます。レポートの提出をします。引き続きピアノ作品の演奏に取り組みます。
- ⑮期末試験として、これまでの授業内容に関する筆記試験を行います。実技試験として、ピアノ作品の中から1曲を演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、授業内容を総合的に捉える力を問うため、選択問題や穴埋め問題ではなく、全て記述形式での解答となります。ピアノ実技では楽曲の流れをしっかりと理解し、適切な表現ができているかを評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%（筆記30%、実技20%）

特記事項

エレクトーンメロディーズベストコレクション Vol.1 を補助教材として使用します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イベント制作 I
担当講師名	樺山潤一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、コンサート/ライブ出演の経験

授業内容

実技レッスンとリンクした形で展開し、これまでのレパートリー曲と後の自編曲を含む演奏表現の幅を広げます。ピアノ・キーボード・シンセサイザーを活用し、より高度な演奏を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ソロ演奏からアンサンブルやバンド形式での演奏スタイルを身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 映画劇伴、アニメ劇伴の研究 作品から読み取る
- ② 演奏しよう1 レパートリー実習&クリニック
- ③ 演奏しよう2 レパートリー実習&クリニック
- ④ 演奏しよう3 レパートリー実習&クリニック
- ⑤ 演奏しよう4 レパートリー実習&クリニック
- ⑥ 演奏しよう5 レパートリー実習&クリニック
- ⑦ クォーター末試験 まとめの発表会

中間試験評価方法・評価基準

レパートリー曲の拡充と仕上げの具合。 技術的な進歩があったかどうか。
 評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 実技の計画 2クォーターの目標設定
- ⑨ 演奏クリニック1 作品がどの様に使われるかを考える
- ⑩ 演奏クリニック2 メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑪ 演奏クリニック3 メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑫ キーボード・テクニック1 ミックス
- ⑬ キーボード・テクニック2 ミックス
- ⑭ キーボード・テクニック3 マスタリング
- ⑮ クォーター末試験 アンサンブル実習

期末試験評価方法・評価基準

ピアノ/シンセサイザー等の電子オルガン以外での演奏に対応可能かどうか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イベント制作Ⅱ
担当講師名	樺山潤一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、コンサート/ライブ出演の経験

授業内容

実技レッスンとリンクした形で展開し、これまでのレパートリー曲と後の自編曲を含む演奏表現の幅を広げます。ピアノ・キーボード・シンセサイザーを活用し、より高度な演奏を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ソロ演奏からアンサンブルやバンド形式での演奏スタイルを身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽器研究 1 弦楽器（ストリングス）
- ② 楽器研究 2 管楽器（木管・金管）
- ③ 楽器研究 3 オルガン
- ④ 楽器研究 4 ピアノ
- ⑤ 楽器研究 5 打楽器
- ⑥ 演奏への応用 1 オーケストラ編成
- ⑦ 演奏への応用 2 その他、民族音楽

中間試験評価方法・評価基準

楽器に対する常識的な知識を持つこと、それらを編曲に応用できることがポイントです。
 評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音楽で社会貢献しよう 童謡のレパートリーを持つ
- ⑨ 音楽で社会貢献しよう 民謡のレパートリーを持つ
- ⑩ 音楽で社会貢献しよう 昭和唱歌のレパートリーを持つ
- ⑪ 音楽で社会貢献しよう 演歌のレパートリーを持つ
- ⑫ 音楽で社会貢献しよう ダンス音楽のレパートリーを持つ
- ⑬ 音楽で社会貢献しよう 幼児向けのレパートリーを持つ
- ⑭ 音楽で社会貢献しよう 子供向け楽曲のレパートリーを持つ
- ⑮ ライブ演奏実習 任意のテーマに基づき発表

期末試験評価方法・評価基準

総合的な構成能力を身につけ、音楽をまとめ上げる能力が必要になります。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イベント制作Ⅲ
担当講師名	日下将太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を春学期で作りに上げていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ライブ実施についての概要を説明、続いて役割分担など、必要事項の取り決めを行ないます。
- ②ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
- ③引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
- ④コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
- ⑤オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
- ⑥進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
- ⑦台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
- ⑨スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。

- ⑩引き続き、編曲を進めます。
- ⑪スコアに基づいて、パート譜を作成します。
- ⑫レジストレーションを作成します。
- ⑬音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑭ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
- ⑮1回目から取り組んできた内容を発表。

期末試験評価方法・評価基準

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イベント制作Ⅳ
担当講師名	日下将太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を秋学期で作りに上げていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期のライブを踏まえて、次ライブの概要について説明し、必要事項の取り決めを行ないます。
- ② ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い全体の方向を定めていきます。
- ③引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
- ④コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
- ⑤オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
- ⑥進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
- ⑦台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
- ⑨スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。

- ⑩引き続き、編曲を進めます。
- ⑪スコアに基づいて、パート譜を作成します。
- ⑫レジストレーションを作成します。
- ⑬音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑭ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
- ⑮1回目から取り組んできた内容を発表。

期末試験評価方法・評価基準

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンサート・ディレクション I
担当講師名	日下将太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を春学期で作りに上げていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ライブ実施についての概要を説明、続いて役割分担など、必要事項の取り決めを行ないます。
- ②ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
- ③引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
- ④コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
- ⑤オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
- ⑥進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
- ⑦台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
- ⑨スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。

- ⑩引き続き、編曲を進めます。
- ⑪スコアに基づいて、パート譜を作成します。
- ⑫レジストレーションを作成します。
- ⑬音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑭ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
- ⑮1回目から取り組んできた内容を発表。

期末試験評価方法・評価基準

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンサート・ディレクションⅡ
担当講師名	日下将太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を秋学期で作りに上げていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期のライブを踏まえて、次ライブの概要について説明し、必要事項の取り決めを行ないます。
- ② ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い全体の方向を定めていきます。
- ③引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
- ④コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
- ⑤オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
- ⑥進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
- ⑦台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
- ⑨スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。

- ⑩引き続き、編曲を進めます。
- ⑪スコアに基づいて、パート譜を作成します。
- ⑫レジストレーションを作成します。
- ⑬音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑭ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
- ⑮1回目から取り組んできた内容を発表。

期末試験評価方法・評価基準

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンサート・ディレクションⅢ
担当講師名	笠原康弘
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンピュータデザイン会社にてマイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

コンサートの企画を立て、運営する。それに伴う企画書、ステージ表、進行台本等のファイル作成、ポスター、フライヤー等のデザインも自ら行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を作り上げていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ライブについての説明
- ② コンセプト①
- ③ コンセプト②
- ④ 選曲
- ⑤ 進行について①
- ⑥ 進行について②
- ⑦ 内容確認

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽曲分析
- ⑨ 課題実習① 編曲
- ⑩ 課題実習② 編曲

- ⑪ 課題実習③ 編曲
- ⑫ 課題実習④ 音色作成
- ⑬ 課題実習⑤ 演奏
- ⑭ リハーサル
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	コンサート・ディレクションⅣ
担当講師名	笠原康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンピュータデザイン会社にてマイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を作り上げていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 次ライブに向けて
- ② コンセプト①
- ③ コンセプト②
- ④ 選曲
- ⑤ 進行について①
- ⑥ 進行について②
- ⑦ 内容確認

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽曲分析
- ⑨ 課題実習① 編曲
- ⑩ 課題実習② 編曲
- ⑪ 課題実習③ 編曲

- ⑫ 課題実習④ 音色作成
- ⑬ 課題実習⑤ 演奏
- ⑭ リハーサル
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析基礎 I
担当講師名	日下将太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

1～7 回目では、原曲を忠実に再現することをテーマに、採譜から演奏まで順を追って取り組んでいきます。8～15 回目では、スタンダード曲をアレンジして演奏することをテーマに、それぞれ進めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

採譜してそれを演奏するまでの再現力と、それを応用して、オリジナル編曲する創造力を養います。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①リズムセクションの知識を習得します。
- ②課題楽曲の構成やスタイルを分析します。
- ③音源から採譜していきます。
- ④スコアを書いていきます。
- ⑤楽曲に基づく音色を考え、作成します。
- ⑥音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑦作品の楽譜提出と演奏発表。

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点で 50%、試験（作品内容）50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧ポピュラー音楽のジャンルについて
- ⑨候補曲をピックアップし、編曲の方向性を決定します。

- ⑩楽曲の構成を考えます。
- ⑪スケッチで、各パートの役割や配分を考えます。
- ⑫スコアを作成します。
- ⑬レジストレーションを組み立てていきます。
- ⑭音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑮作品の楽譜提出と演奏発表。

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点で 50%、試験（作品内容）50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析基礎Ⅱ
担当講師名	日下将太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

1～7 回目では、春学期の応用としてブラスセクションのコピーを行ない、それをスコアにして演奏します。8～15 回目では、構成や編成の複雑なオリジナル・アレンジに取り組みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

採譜してそれを演奏するまでの再現力と、それを応用して、オリジナル編曲する創造力を養います。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①ホーンの知識を習得します。
- ②ブラスセクションを含んだ楽曲を分析します。
- ③課題楽曲の各パートを採譜します。
- ④ブラスセクションのスコアを作成します。
- ⑤ブラス音色の作り方を実習します。
- ⑥音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑦作品の楽譜提出と演奏発表。

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点で 50%、試験（作品内容）50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧ポピュラー音楽のジャンルについて
- ⑨候補曲をピックアップし、編曲の方向性を決定します。

- ⑩楽曲の構成を考えます。
- ⑪スケッチで、各パートの役割や配分を考えます。
- ⑫スコアを作成します。
- ⑬レジストレーションを組み立てていきます。
- ⑭音色（楽器）に見合う演奏法を探ります。
- ⑮作品の楽譜提出と演奏発表。

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点で 50%、試験（作品内容）50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	作品分析 I
担当講師名	齋藤 良
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は電子オルガンを使用するオペラ・ミュージカル公演に携わり、指揮者と同じオーケストラスコアを用いて（スコアリーダー奏法）全幕の演奏（3～4時間）の経験を有します。

授業内容

クラシックコンサートに向けて選曲。これまでに学習したことをふまえ、分析・研究をしながら3段譜にリダクションしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

これまでスコアからそのまま演奏していたものを3段譜にきちんと形にすると同時に、スコアには書かれていない部分を読み取る力をつけていきます

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/スケジュールの確認/選曲
- ② 分析1：楽曲を全体的にとらえる
- ③ 分析2：楽曲を細分化
- ④ リダクション1：譜分けをし、リダクションする
- ⑤ リダクション2：セクションごとにレジストも作成し、演奏する
- ⑥ リダクション3：演奏確認
- ⑦ 中間試験：作品の確認

中間試験評価方法・評価基準

作品の譜面の確認、演奏。
 普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
 出席：20% 平常点：60% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ リダクション4：セクションごとにレジスト作成し、演奏する
- ⑨ リダクション5：セクションごとにレジスト作成し、演奏する
- ⑩ リダクション6：セクションごとにレジスト作成し、演奏する
- ⑪ リダクション8：セクションごとにレジスト作成し、演奏する
- ⑫ 打楽器譜面の作成、ルールの確認
- ⑬ 演奏確認
- ⑭ 演奏確認
- ⑮ 期末試験：取り組んだ曲の演奏

期末試験評価方法・評価基準

作品の譜面確認・演奏。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
出席：20% 平常点：60% 試験：20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	作品分析Ⅱ
担当講師名	齋藤 良
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は電子オルガンを使用するオペラ・ミュージカル公演に携わり、指揮者と同じオーケストラスコアを用いて（スコアリーダー演奏法）全幕の演奏（3～4時間）の経験を有します。

授業内容

クラシックコンサートに向けて、春学期から取り組んできた楽曲の最終調整をしていきます。コンサート終了後は、初心にかえりスコアリーダー演奏法の復習をします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

これまでスコアからそのまま演奏していたものを3段譜にきちんと形にすると同時に、スコアには書かれていない部分を読み取る力をつけていきます

授業計画（1回目から7回目）

- ① 打楽器譜面の確認
- ② リダクション9：セクションごとにレジストも作成し、演奏する
- ③ 演奏確認
- ④ 打楽器合わせをします
- ⑤ 打楽器合わせをします
- ⑥ 最終確認
- ⑦ 中間試験：作品の確認

中間試験評価方法・評価基準

作品の譜面の確認、演奏。
 普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
 出席：20% 平常点：60% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 管弦楽曲Ⅳ①：リダクションのパターンを挙げ、実際に演奏しながらどの方法が一番良いか研究します
- ⑨ 管弦楽曲Ⅳ②：毎授業、曲を変え、時には何曲も取り組みます。初見力、リダクションのスピードをあげていきます
- ⑩ 管弦楽曲Ⅳ③
- ⑪ 管弦楽曲Ⅳ④
- ⑫ 管弦楽曲Ⅳ⑤
- ⑬ 管弦楽曲Ⅳ⑥
- ⑭ 管弦楽曲Ⅳ⑦
- ⑮ 管弦楽曲の演奏

期末試験評価方法・評価基準

スコアリーディング奏法にて管弦楽曲の演奏。
普段の授業への取り組む姿勢等を中心に評価します。
出席：20% 平常点：60% 試験：20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析Ⅲ
担当講師名	大木裕一郎
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

長い時間をかけ、秋のクラシックコンサートに向けて数曲をじっくり作り上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クラシック楽曲のアレンジから演奏まで。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 本科目1年間の概説 クラシックコンサートについてデータ作成手順を確認。
- ② バロック・古典派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
- ③ ロマン派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
- ④ 近現代楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
- ⑤ オーケストラスコアを3段譜にまとめる際のポイントを説明します。
- ⑥ パート分けのポイントについて説明します。
- ⑦ 1クォーターのまとめとして、譜面の提出と添削をします。

中間試験評価方法・評価基準

譜面の提出と添削をします。
楽譜の完成度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 書いた譜面を音出ししながらチェックしていきます。（レジストのチェック）
- ⑨ 書いた譜面を音出ししながらチェックしていきます。（レジストのチェック）
- ⑩ 書いた譜面を音出ししながらチェックしていきます。（レジストのチェック）

- ⑪ エレクトーンでオーケストラサウンドを表現する際に必要な事を研究します。
- ⑫ 音色の組み合わせを復習します。
- ⑬ 演奏に効果的に使用したい機能、EFFECT を復習します。
- ⑭ バランスを取っていきながら、完成に向けていきます。
- ⑮ 期末試験：Ⅱクォーターで仕上がった所までを音出し確認します。

期末試験評価方法・評価基準

データ作成と楽曲演奏をします。
作品の完成度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作品分析Ⅳ
担当講師名	大木裕一郎
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師はエレクトーン曲集、テキストなどのアレンジ及び、指導者の経験を持ちます。

授業内容

長い時間をかけ、秋のクラシックコンサートに向けて数曲をじっくり作り上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クラシック楽曲のアレンジから演奏まで。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リバース、バランスなどを細かく見ていき、データを詰めていきます。
- ② リバース、バランスなどを細かく見ていき、データを詰めていきます。
- ③ リスニング～弦楽セレナーデ・・・他 ソロのアレンジをします。
- ④ リスニング～大編成～交響曲・組曲・・・他 ソロのアレンジをします。
- ⑤ ソロ用アレンジをする際に無理なく弾きやすい形にアレンジする方法を学びます。
- ⑥ ソロ用アレンジをする際に無理なく弾きやすい形にアレンジする方法を学びます。
- ⑦ 提出楽譜をチェックします。

中間試験評価方法・評価基準

譜面の提出と添削をします。
楽譜の完成度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 演奏をしながら進捗を確認していきます。
- ⑨ 演奏をしながら進捗を確認していきます。
- ⑩ レジストデータの確認とアドバイスをしていきます。

- ⑪ アレンジを進めながら演奏表現について触れます。
- ⑫ アレンジを進めながら演奏表現について触れます。
- ⑬ アレンジを進めながら演奏表現について触れます。
- ⑭ バランスを取っていきながら、完成に向けていきます。
- ⑮ 期末試験：仕上がった曲を発表します。

期末試験評価方法・評価基準

データ作成と楽曲演奏をします。
作品の完成度を評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン編曲法 I
担当講師名	中村美奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、エレクトーンアレンジャー、エレクトーンデモンストレーターとしての経験を持ちます。

授業内容

電子オルガンアレンジに必要な理論と楽器の研究に取り組みます。春学期ではポピュラー音楽でのヴォイシングを研究していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヴォイシングの研究で、音楽の骨組みを把握し曲を多角度から捉えることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年間の内容と授業説明
- ② 3,7度のコードを習得。
- ③ 3,7度のコードを復習、さまざまな曲に対応させる。
- ④ テンションコード（ナチュラルテンション）①
- ⑤ テンションコード（ナチュラルテンション）②曲の演奏。
- ⑥ ナチュラルテンションを含むツー・ファイブ（メジャーキー）
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

授業内でおこなったメジャーキーのツー・ファイブ課題の演奏。
課題 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ① ナチュラルテンションの復習、テンションコード（オルタードテンション）①
- ② テンションコード（オルタードテンション）②曲の演奏。
- ③ オルタードテンションを含むツー・ファイブ（マイナーキー）
- ④ テンション4声、3声、まとめ。
- ⑤ テンションリゾルブ。
- ⑥ 代理コード。
- ⑦ 試験。

期末試験評価方法・評価基準

2クォーター授業内でおこなった内容を含む課題の演奏。
課題の完成度 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン編曲法Ⅱ
担当講師名	中村美奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、エレクトーンアレンジャー、エレクトーンデモンストレーターとしての経験を持ちます。

授業内容

電子オルガンアレンジに必要な理論と楽器の研究に取り組みます。秋学期ではポピュラー音楽での楽器の研究、また楽器に合ったヴォイスングの研究もしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各楽器の特徴、ヴォイスングの研究で、音楽の骨組みを把握し曲を多角度から捉えることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1,2クォーターを振り返って。ヴォイスングの復習。
- ② 楽器研究（オルガン）、知識、奏法。
- ③ 楽器研究（ピアノ・エレクトリックピアノ）知識、奏法。
- ④ 楽器研究（ドラム）知識、奏法、電子オルガンでの打ち込み。
- ⑤ 楽器研究（ベース）知識、奏法、電子オルガンでの考え方、取り入れ方。
- ⑥ 楽器研究（ギター）知識、奏法、電子オルガンでのヴォイスング、取り入れ方。
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

3クォーター授業内でおこなった内容を含む課題の演奏。
課題 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ① 3クォーターを振り返って。楽器についてディスカッション。
- ② 楽器研究（ブラスセクション①）知識、奏法、電子オルガンでの考え方、ヴォイスिंग。
- ③ 楽器研究（ブラスセクション②）知識、奏法、電子オルガンでの考え方、ヴォイスिंग。
- ④ 楽器研究（ストリングスセクション①）知識、奏法、電子オルガンでの考え方、ヴォイスिंग。
- ⑤ 楽器研究（ストリングスセクション②）知識、奏法、電子オルガンでの考え方、ヴォイスिंग。
- ⑥ 様々な楽曲で楽器の研究①
- ⑦ 様々な楽曲で楽器の研究②
- ⑧ 試験。

期末試験評価方法・評価基準

4クォーター授業内でおこなった内容を含む課題の演奏。
課題の完成度 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン編曲法Ⅲ
担当講師名	中村美奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、エレクトーンアレンジャー、エレクトーンデモンストレーターとしての経験を持ちます。

授業内容

電子オルガン教育法ⅠⅡの内容を復習しながら、電子オルガンアレンジに必要な理論と楽器の研究に取り組みます。春学期ではポピュラー曲のピアノ&電子オルガンアレンジを制作。アレンジの考え方、ポイント、コツなどを実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アレンジの作業におけるポイントを把握し、曲を多角度から捉えることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 電子オルガン教育法ⅠⅡの復習。
- ② ピアノ・電子オルガンアレンジの選曲、アナライズ（研究）
- ③ ピアノ・電子オルガンアレンジ制作①スタイルのチェック。
- ④ ピアノ・電子オルガンアレンジ制作②楽器・コード（ヴォイシング）の確認。
- ⑤ 仮レジストの音出しでアレンジ譜全体のバランス確認①曲前半。
- ⑥ 仮レジストの音出しでアレンジ譜全体のバランス確認②曲後半。
- ⑦ 試験 譜面の提出。

中間試験評価方法・評価基準

アレンジ譜の提出。

アレンジ譜の完成度 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1クォーターで制作したピアノ・電子オルガン譜のレジスト制作へむけて。データ制作でのポイント。
- ⑨ レジスト制作①曲のスタイル・各楽器奏法のポイントを確認しながら制作。
- ⑩ レジスト制作②ドラム・パーカッション打ち込み。スタイルとグルーブについて。
- ⑪ レジスト制作③データバランスのチェック。再度譜面のバランスも確認。
- ⑫ レジスト制作③演奏で確認。アレンジの微調整。
- ⑬ 曲の奏法、使用楽器レジストの特徴、バランスなどに関してディスカッション。
- ⑭ 演奏仕上げ。
- ⑮ 試験 アレンジ曲演奏。

期末試験評価方法・評価基準

アレンジ・レジスト制作した曲の演奏。

アレンジ・レジストの完成度 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン編曲法Ⅳ
担当講師名	中村美奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、エレクトーンアレンジャー、エレクトーンデモンストレーターとしての経験を持ちます。

授業内容

電子オルガンアレンジに必要な理論と楽器の研究に取り組みます。秋学期ではポピュラー曲の電子オルガン 2 台のアンサンブルアレンジを制作。アレンジの考え方、ポイント、コツなどを実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アレンジの作業におけるポイントを把握し、曲を多角度から捉えることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1,2クォーターを振り返り、各アレンジ内容のディスカッション。
- ② 電子オルガン 2 台のアンサンブルアレンジ曲を選曲、アナライズ（研究）
- ③ 電子オルガンアンサンブルアレンジ制作①スタイルのチェック。
- ④ 電子オルガンアンサンブルアレンジ制作②楽器・コード（ヴォイシング）の確認。
- ⑤ 仮レジストの音出しでアレンジ譜全体のバランス確認。
- ⑥ 仮データを録音し譜面・演奏を客観的にチェックする。
- ⑦ 試験 譜面の提出。

中間試験評価方法・評価基準

アレンジ譜の作品提出。

アレンジ譜の完成度 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3クォーターで制作した電子オルガンアンサンブル譜のレジスト制作へむけて。アンサンブルアレンジにおけるデータ制作でのポイント。ソロとの違い。
- ⑨ レジスト制作①曲のスタイル・各楽器奏法のポイントを確認しながら制作。
- ⑩ レジスト制作②2台でのバランスを想定しながら制作。
- ⑪ レジスト制作③ドラム・パーカッションの打ち込み。スタイルとグルーブについて。
- ⑫ レジスト制作④2台のデータバランスのチェック。再度譜面のバランスも確認。
- ⑬ 演奏で確認、更に録音で客観的に確認。アレンジの微調整。
- ⑭ 演奏仕上げ。
- ⑮ 試験 アレンジ曲演奏。

期末試験評価方法・評価基準

アレンジ・レジスト制作した曲の演奏。

アレンジ・レジストの完成度 50%、授業平常点 25%、出席率 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン楽曲制作 I
担当講師名	樺山潤一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、TV、映画、CM の音楽制作の経験

授業内容

現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガン専攻生の得意性持つ視点で実際の制作業務をシュミレーションする。
アニメ・CM・ジングル・キャンペーンテーマソング等あらゆるクライアントからのオーダーに応える実習形式で行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

本人所有の PC (Mac) を用意し制作環境の構築も授業内で指導する。
使用 DAW は本人の意思に従う。
作業期間を設定し納品形式で提出する。
狙いはより現実的な制作経験との実際に手に職をつける事。
ここでは音楽の仕事が出来るようになる！がスローガンである。

授業計画（1回目から7回目）

- ① DAW の導入 現状の機材環境を把握し今後必要とされる機材の導入計画と検討を行う。
- ② DAW の基礎知識 現在のクリエイター事情。なぜ DTM では無く DAW と呼ぶのか。
- ③ MIDI の基礎知識 1 物理シンセサイザーの紹介と ELS における MIDI の対応性。
- ④ MIDI の基礎知識 2 SMF について解析する。何種類のデータが存在するのか。
- ⑤ DAW で制作してみる 1 提示の CM ジングル (3 秒) の制作 A。
- ⑥ DAW で制作してみる 2 提示の CM ジングル (3 秒) の制作 B
- ⑦ クォーター末試験 納品 (ファイル提出)

中間試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか
提出物は納品レベルに到達しているのか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 制作の仕事とは クライアントからの依頼はどのような流れであるのか
- ⑨ DAW 制作実習 A キャンペーンソング 1 テーマ：恵方巻きソング
- ⑩ DAW 制作実習 B 恵方巻きソング：メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑪ DAW 制作実習 C 恵方巻きソング：コード&リズムアレンジ
- ⑫ DAW 制作実習 D 花粉症対策ソング：メロディーライティング
- ⑬ DAW 制作実習 E 花粉症対策ソング：全体的なアレンジ作業
- ⑭ DAW 制作実習 F ミックス
- ⑮ クォーター末試験 納品

期末試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか。

提出物の納品レベルはどうか。

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン楽曲制作Ⅱ
担当講師名	権山潤一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、TV、映画、CM の音楽制作の経験

授業内容

現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガン専攻生の得意性持つ視点で実際の制作業務をシュミレーションする。
アニメ・CM・ジングル・キャンペーンテーマソング等あらゆるクライアントからのオーダーに応える実習形式で行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

本人所有の PC (Mac) を用意し制作環境の構築も授業内で指導する。
使用 DAW は本人の意思に従う。
作業期間を設定し納品形式で提出する。
狙いはより現実的な制作経験との実際に手に職をつける事。
ここでは音楽の仕事が出来るようになる！がスローガンである。

授業計画（1回目から7回目）

- ① DAW 制作実習 1 映画劇伴、アニメ劇伴の研究 作品から読み取る
- ② DAW 制作実習 2 絵コンテについて
- ③ DAW 制作実習 3 アニメ音楽の業界で使われる言葉と意味
- ④ DAW 制作実習 4 映像との同期とプレビュー
- ⑤ DAW 制作実習 5 アレンジのコンセプト、方向性を決める
- ⑥ DAW 制作実習 6 メロディーのライティングと編成楽器の設定
- ⑦ クォーター末試験 ラフの提出（ファイル提出）

中間試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか
提出物は納品レベルに到達しているのか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自由作品の制作1 テーマ・キャラクター・作品概要等を決める
- ⑨ 自由作品の制作2 作品がどの様に使われるかを考える
- ⑩ 自由作品の制作3 メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑪ 自由作品の制作4 メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑫ 自由作品の制作5 ミックス
- ⑬ 自由作品の制作6 ミックス
- ⑭ 自由作品の制作7 マスタリング
- ⑮ クォーター末試験 納品と発表

期末試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか。

提出物の納品レベルはどうなのか。

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン楽曲制作Ⅲ
担当講師名	樺山潤一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、TV、映画、CM の音楽制作の経験

授業内容

現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガン専攻生の得意性持つ視点で実際の制作業務をシュミレーションする。
アニメ・CM・ジングル・キャンペーンテーマソング等あらゆるクライアントからのオーダーに応える実習形式で行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

本人所有の PC (Mac) を用意し制作環境の構築も授業内で指導する。
使用 DAW は本人の意思に従う。
作業期間を設定し納品形式で提出する。
狙いはより現実的な制作経験との実際に手に職をつける事。
ここでは音楽の仕事が出来るようになる！がスローガンである。

授業計画（1回目から7回目）

- ① DAW の導入 現状の機材環境を把握し今後必要とされる機材の導入計画と検討を行う。
- ② DAW の基礎知識 現在のクリエイター事情。なぜ DTM では無く DAW と呼ぶのか。
- ③ MIDI の基礎知識 1 物理シンセサイザーの紹介と ELS における MIDI の対応性。
- ④ MIDI の基礎知識 2 SMF について解析する。何種類のデータが存在するのか。
- ⑤ DAW で制作してみる 1 提示の CM ジングル (3 秒) の制作 A。
- ⑥ DAW で制作してみる 2 提示の CM ジングル (3 秒) の制作 B
- ⑦ クォーター末試験 納品 (ファイル提出)

中間試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか
提出物は納品レベルに到達しているのか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 制作の仕事とは クライアントからの依頼はどのような流れであるのか
- ⑨ DAW 制作実習 A キャンペーンソング 1 テーマ：恵方巻きソング
- ⑩ DAW 制作実習 B 恵方巻きソング：メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑪ DAW 制作実習 C 恵方巻きソング：コード&リズムアレンジ
- ⑫ DAW 制作実習 D 花粉症対策ソング：メロディーライティング
- ⑬ DAW 制作実習 E 花粉症対策ソング：全体的なアレンジ作業
- ⑭ DAW 制作実習 F ミックス
- ⑮ クォーター末試験 納品

期末試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか。

提出物の納品レベルはどうか。

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	電子オルガン楽曲制作IV
担当講師名	樺山潤一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

電子オルガン演奏、TV、映画、CM の音楽制作の経験

授業内容

現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガン専攻生の得意性持つ視点で実際の制作業務をシュミレーションする。
アニメ・CM・ジングル・キャンペーンテーマソング等あらゆるクライアントからのオーダーに応える実習形式で行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

本人所有の PC (Mac) を用意し制作環境の構築も授業内で指導する。
使用 DAW は本人の意思に従う。
作業期間を設定し納品形式で提出する。
狙いはより現実的な制作経験との実際に手に職をつける事。
ここでは音楽の仕事が出来るようになる！がスローガンである。

授業計画（1回目から7回目）

- ① DAW 制作実習 1 映画劇伴、アニメ劇伴の研究 作品から読み取る
- ② DAW 制作実習 2 絵コンテについて
- ③ DAW 制作実習 3 アニメ音楽の業界で使われる言葉と意味
- ④ DAW 制作実習 4 映像との同期とプレビュー
- ⑤ DAW 制作実習 5 アレンジのコンセプト、方向性を決める
- ⑥ DAW 制作実習 6 メロディーのライティングと編成楽器の設定
- ⑦ クォーター末試験 ラフの提出（ファイル提出）

中間試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか
提出物は納品レベルに到達しているのか。
評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自由作品の制作1 テーマ・キャラクター・作品概要等を決める
- ⑨ 自由作品の制作2 作品がどの様に使われるかを考える
- ⑩ 自由作品の制作3 メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑪ 自由作品の制作4 メロディー・ライティングまたはコードアレンジ
- ⑫ 自由作品の制作5 ミックス
- ⑬ 自由作品の制作6 ミックス
- ⑭ 自由作品の制作7 マスタリング
- ⑮ クォーター末試験 納品と発表

期末試験評価方法・評価基準

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか。

提出物の納品レベルはどうなのか。

評価基準：出席 50%、平常点 25%、試験 25%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミ I
担当講師名	江尻 弘子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウエディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

オルガンの歴史、構造については、音や写真を参考に講義中心に進めます。実技では、テキストを使い、基礎的なオルガン奏法から学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

四声体の演奏の確立、ペダリングの習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽器の概要について、演奏を取り入れながら、オルガンの世界の話しをします。
- ② オルガンの起源から、現代使用されている実際の楽器の種類など、資料を見ながら説明していきます。
- ③ 鍵盤の名称（国による違い）パイプの材質、種類など解説していきます。
- ④ パイプの形状と音との関係を理解します。テキストを元に、打鍵、離鍵、指のトレーニングをします。
- ⑤ ペダル記号、姿勢、奏法を説明し体験します。手鍵盤では、ドリルプリントを使用し四声体の習得をします。
- ⑥ 第3回に配布する試験曲、ラインハルトの中から、課題曲の仕上げを目指します。
- ⑦ 中間試験 手鍵盤の課題曲2曲をバリオホールにて演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

授業で学んだコーラル的要素、対位法要素を含んだ演奏法が習得されているか、完成度を評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オルガンの時代背景① ゴシック、ルネッサンスまで、音を聞きながら考察していきます。
- ⑨ オルガンの時代背景② バロックから、ロマンティックを考察し、テキストよりアンサンブル体験します。
- ⑩ パイプの種類について① フルー管のプリンツィパルグループ、フルートグループの説明をします。
- ⑪ パイプの種類について② 弦楽器グループ、リード管について楽器で音を出しながら、説明していきます。
- ⑫ パイプの復習をしながら、ペダルのドリルを使ってトレーニングしていきます。
- ⑬ 第10回に配布し、パート別奏法を習得したものを、ソロ演奏して仕上がるよう確認していきます。
- ⑭ 春学期を通して学習したものを、試験に向けまとめていきます。
- ⑮ 期末試験 教室内にて筆記試験、バリオホールにて、J. シュナイダーオルガン曲より第2番を演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、授業で説明したことの理解度をみます。

実技試験では、正しいペダリングの確認をします。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミⅡ
担当講師名	江尻 弘子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウエディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

春学期で、学習した演奏法のレベルアップを目指し、レパートリーとなる作品をマスターしていきます。讃美歌となっているアメージンググレイスを題材に編曲体験、J.S バッハの「8つの小プレリュードとフーガ」から第1番を演奏します。併せて、音色の組み合わせも学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オルガン音楽を意識した編曲の実践、音色（ストップ）の組み合わせの自立を目指します。演奏面では、バッハの作品に触れ、バロックの奏法を習得します。また、教会のクリスマスで演奏される讃美歌の演奏もマスターします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 讃美歌の成り立ちの説明、いろいろなパターンの編曲がされているアメージンググレイスを分担奏し、内容を考察していきます。
- ② 対位法的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
- ③ 和声的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
- ④ 各自、編曲楽譜を作成していき、個人確認を行っていきます。讃美歌 2 曲、配布します。
- ⑤ 個別に確認しながら、編曲の完成を目指します。音色のイメージを作りながら進めます。
- ⑥ 編曲の完成と共に、クリスマス讃美歌の奏法を確認していきます。
- ⑦ 中間試験 自編曲のアメージンググレイスとクリスマス讃美歌 2 曲をバリオホールにて演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

自身の編曲楽譜も提出します。讃美歌の演奏とも合わせ、完成度を評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作曲技法の基本ともいわれるカノンを説明し、パツフェルベルのカノンをスコア見ながらアンサンブル体験します。
- ⑨ バリエーション、プレリュード、フーガ、パッサカリア等、実際の曲に触れながら、学習します。
- ⑩ ドイツのオルガン音楽を、北部、中部、南部に分け、オルガニストが多数生まれた経緯など、歴史を紐解き進めます。
- ⑪ ドイツとは対照的なフランスのオルガン、音源を聞き、テキストと照らし合わせ考察します。
- ⑫ 第10回に配布のバッハのプレリュードについて、細かく奏法を説明し、分担奏していきます。
- ⑬ ストップリストを見ながら、バッハの作品に特徴的な音色作りを学習していきます。
- ⑭ 秋学期で学んだ授業内容の確認をしながら、実技では、演奏の個別確認をしていきます。
- ⑮ 期末試験 教室内にて筆記試験、バリオホールにて、バッハの作品「8つの小プレリュードとフーガ」より第1番を演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、秋学期で学んだことの理解度をみます。

実技試験では、演奏の完成度を評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミⅢ
担当講師名	江尻 弘子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウェディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

2 年目に入りましたので、よりオルガン奏法、演奏テクニックの向上を目指します。チャペルウェディングでの演奏の体験として、実際に使用される曲を取り上げ、進行に従っての演奏体験をします。また、コラール作品も演奏、ストップの考察も深めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実践で使える演奏力、音色作りの自立も目指します。チャペルウェディングでの演奏では、応用力も身に付け、デビュー出来るようもっていきたいと考えています。いずれも、毎回の授業に変化があり、出席が重要になります。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 日本のブライダル事情について、現状のお話しをします。キリスト教式、人前式等。
- ② 講師の演奏によるキリスト教式の DVD を鑑賞し、式次第による選曲についての説明をします。
- ③ 迎賓から入場、アヴェ・ヴェルム・コルプス、ワーグナーの婚礼の合唱、奏法を分析、解説します。
- ④ 讃美歌より合唱、アヴェマリアより、ソリスト、それぞれの伴奏法について学びます。
- ⑤ メンデルスゾーンの結婚行進曲を題材に、退場時の歩幅に合わせた、演奏のタイミング、エンディングの合わせ方、即興力をつける学習をします。
- ⑥ 全 5 曲を流れに沿って演奏していきます。実際に必要な応用力など身に付けていきます。
- ⑦ 中間試験 バリオホールにて、他の学生に新郎新婦を想定し、実際に歩いてもらい、本番さながらの演奏をします。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

挙式の流れに沿って 5 曲を演奏しますが、併せて終止の奏法、歌伴奏のタイミングなども見ていきます。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オルガン奏法で使われるアーティキュレーションの研究、テキストより選曲して学習します。
- ⑨ 歌うコラールとオルガンコラールとの違い、バッハ、ブラームスを取り上げ、比較、考察していきます。
- ⑩ 単旋律から、四声体、そしてオルガンコラールに変化していく経緯を紐解いていきます。
- ⑪ テキストからの奏法実践① オルガン独特のテクニックが必要な曲を、ピックアップし奏法実践していきます。
- ⑫ テキストからの奏法実践② ペダルのレガート奏法、ロマンティックなオルガンで使われるトゥヒールの実践をします。
- ⑬ 試験課題曲、テキストのブラームスコラール「一輪のバラに咲きて」完成を目指します。
- ⑭ テキストより選曲した、各時代、国の作品に、指示された音色を作っていきます。ストップの組み合わせの自立を目指します。
- ⑮ 期末試験 課題曲ブラームスコラール「一輪のバラに咲きて」をバリオホールにて、演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

演奏の完成度を評価していきます。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	パイプオルガンゼミⅣ
担当講師名	江尻 弘子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、パイプオルガンでのソロ演奏及び吹奏楽との共演経験、また、自身の編曲、演奏による CD、楽譜出版をしています。チャペルウエディングでの演奏経験も豊富です。

授業内容

春学期で学んだ実践の演奏法をよりステップアップし、完成度の高い演奏を目指します。バロック時代の通奏低音の知識、そして知名度、作品完成度の高い、小フーガト短調の演奏及び 2 年間使用したオルガンテキストから、任意の曲をレパートリーとなるような演奏を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オルガン曲の中でも、難易度が高いといわれるフーガ演奏の習得を目指します。また、数曲のオルガンレパートリーをもてることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フーガの説明後、テキストの楽譜を見ながら、各声部を織りなす主題の印を付けながらアナリーゼしていきます。
- ② 主題の奏法を意識し、アーテクチュレーションの分析をしていきます。
- ③ 各パートを分担奏しながら、指使い、手鍵盤の声部を意識して演奏。ペダリングの確認をします。
- ④ 装飾の学習として、トリル、モルデント、シュライファーの奏法について、テキストの楽曲を取り出し考察します。
- ⑤ パート別に確認しながら、声部を増やし、分担奏から全体を作っていきます。
- ⑥ 小節を区切りながら、ソロ演奏を仕上げていきます。
- ⑦ 中間試験 J.Sバッハの小フーガト短調 BWV578をバリオホールにて、演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

難易度の高い楽曲の挑戦ですが、演奏レベルが上がっていることを目指します。
楽曲への理解度、ステージマナーも含め評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 通奏低音の説明をし、ヴィバルディ四季より冬を、スコアを見ながら、通奏低音の即興的要素を聞き比べします。
- ⑨ 数字付き低音に和音を付けていきます。モーツァルトのレクイエムを題材に通奏低音の体験をします。
- ⑩ テキストの曲を題材に和音付けをし、即興的要素を織り交ぜながら、仕上げていきます。
- ⑪ 2年間学んだテキストから6曲選曲し、アンサンブル演奏をし、その中から各自選曲していきます。
- ⑫ 讃美歌の出来るまでの歴史、時代背景を考察していきます。各国の特徴など讃美歌集から見ていきます
- ⑬ 各声部の捉え方、前奏、後奏の奏法をテキストから取り出し、演奏体験します。
- ⑭ 筆記試験に向け、学習内容の確認、個々の演奏曲の確認をしていきます。
- ⑮ 期末試験 教室内にて筆記試験、バリオホールにて、実技試験をします。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験では、学習してきた内容、理解度を確認します。

実技試験では、各自選曲した楽曲がレパートリーとなり得る演奏レベルに到達出来ているか確認し、評価します。

出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ I
担当講師名	大木 和音
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

「バロック」といわれる時代の音楽や文化的背景について、学んでいきます。また各回の授業内で、チェンバロ・レッスン時間を設け、バッハをはじめとする作品を弾いてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バロック時代の文化を理解し、チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを目指します。そして各自の専攻楽器でバロック作品を弾く時のイメージの糧にもなることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① バロックとは
- ② チェンバロについて
- ③ J. S. バッハとその息子たち
- ④ 当時の様々な鍵盤楽器について
- ⑤ 組曲について その1
- ⑥ 組曲について その2
- ⑦ 中間試験：J. S. バッハまたはC. Ph. E. バッハの短い作品を演奏してもらいます。受講生同士発表してもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

リズム良く良い流れで演奏できているか、自分の音を良く聴きながら演奏できているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ イタリアのバロック（今クオーターは、イタリアの作品について学びます）
- ⑨ バッハとイタリア趣味（「イタリア協奏曲」が生まれるまで）
- ⑩ ヴィヴァルディ「四季」（スコアを見ながら鑑賞します）
- ⑪ ラ・フォリア（様々な作曲家のフォリアを聴き比べます）
- ⑫ 即興演奏、装飾音について
- ⑬ トリオ・ソナタについて
- ⑭ スカルラッティのチェンバロ・ソナタについて
- ⑮ 期末試験：D. スカルラッティのソナタから、与えた課題の中から 1 曲選択して、演奏してもらいます。受講生同士、互いに聴き合います。

期末試験評価方法・評価基準

スカルラッティ独特の和声を味わいながら弾いているか、リズムをしっかり感じて弾いているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ II
担当講師名	大木 和音
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿で栄えたフランスの作品を学びます。第4クォーターでは声楽曲や管弦楽作品へも広げ、バロック作品を総合的に学びます。チェンバロ・レッスンも引き続き、授業の中で行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを目指します。そして各自の専攻楽器でバロック作品を弾く際、イメージの糧となることを目標とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① クラヴサン(仏：チェンバロ)について
- ② 華やかなフランス宮廷文化
- ③ ヴェルサイユ
- ④ プレリュード・ノン・ムジュレ
- ⑤ F. クープラン：クラヴサン奏法
- ⑥ J-Ph. ラモー：クラヴサン曲集
- ⑦ 中間試験：ラモー「クラヴサン曲集」よりこちらが指定した曲の中から一曲選んで、演奏してもらいます。受講生同士、聴き合います。

中間試験評価方法・評価基準

流れ良く演奏できているか、ラモー独特の装飾音も音楽に溶け込ませながら演奏できているか、楽器を鳴り響かせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ バロックの歌唱作品
- ⑨ バッハ/カンタータ
- ⑩ バッハ/ブランデンブルク協奏曲 第1番～第3番
- ⑪ バッハ/ブランデンブルク協奏曲 第4番～第6番
- ⑫ バッハ/管弦楽組曲
- ⑬ バッハの管弦楽作品とチェンバロ舞曲との関連
- ⑭ 試験に向けて（期末試験を目前にレッスンに集中し、最後の仕上げに入ります）
- ⑮ 期末試験：G.F. ヘンデルの組曲より、こちらが指定した曲の中から一曲を選んで演奏してもらいます。受講生同士、聴き合います。

期末試験評価方法・評価基準

各舞曲の特性をつかんで演奏できているか、楽器をしっかりと鳴り響かせているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ III
担当講師名	大木 和音
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず、近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

バロック音楽ゼミ III・IV では、一年を通じてチェンバロ実技に集中し、この楽器をより美しく楽しく弾けることを目指していきます。課題曲はこちらで指定した中から一曲選んでもらい、レッスンは互いに聴き合い、共に学びます。演奏曲は「バロック音楽ゼミ I・II」よりも、さらにチェンバロを深く楽しんでもらえる作品にしています。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…などを目標とします。そして専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏するときの糧になること、さらには楽器を深く鳴らすことも目指します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① チェンバロについて (前年度にゼミ I&II を受講していなかった学生、また二年目の学生には復習も兼ねて、楽器を囲んでもらい、仕組み等お話をします)
- ② 試験曲について (B. ガルツピ：ソナタ数曲より)
- ③ 試験曲決定とレッスン (各自チェンバロ練習時間を順に与え、その後レッスンを開始します。)
- ④ 試験曲レッスン
- ⑤ 試験曲レッスン
- ⑥ 試験曲レッスン
- ⑦ 中間試験：B. ガルツピ ソナタ (指定した楽章より一曲選んで演奏、互いに聴き合います)

中間試験評価方法・評価基準

音楽を理解して楽しみながら演奏できているか、音楽は自然に流れているか、チェンバロの音は深く鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 試験曲「J. S. バッハ：フランス組曲」について（J. S. バッハについて、フランス組曲について考察します。試験課題曲数曲を配布、取り組みたい曲を考えます）
- ⑨ 試験曲決定とレッスン（各自チェンバロ練習時間を設けた後、レッスンに入ります）
- ⑩ 試験曲レッスン
- ⑪ 試験曲レッスン
- ⑫ 試験曲レッスン
- ⑬ 試験曲レッスン
- ⑭ 試験曲レッスン
- ⑮ 中間試験：選んだ舞曲を、ひとりひとり順番に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

期末試験評価方法・評価基準

舞曲のキャラクターをつかんで演奏しているか、バッハの装飾音が音楽的に奏でられているか、チェンバロの音をしっかり響かせられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	バロック音楽ゼミ IV
担当講師名	大木 和音
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	PF・E0

担当科目に関連する実務経歴

講師(チェンバロ奏者)は、バロックのみならず、近現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、数々のライブを行うとともに、計5作のアルバムもリリースしています。

授業内容

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿時代の華やかなフランス作品を演奏していきます。第4クォーターでは、各自が希望した曲を演奏してもらい、一年を締めくくります(希望曲が見つからない場合は、こちらで与えた数曲の中から一曲選んでもらいます)。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…等を目指します。そして専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏する際の糧に、さらには楽器で深い音を鳴らせることも目指します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 試験曲について(J-Ph. ラモー、F. クープラン：クラヴサン曲集よりこちらが指定・配布した中から一曲選択してもらいます)
- ② 試験曲決定とレッスン(それぞれの作曲家の装飾音表や序文を読み、準備をします)
- ③ 試験曲レッスン
- ④ 試験曲レッスン
- ⑤ 試験曲レッスン
- ⑥ 試験曲レッスン
- ⑦ 中間試験：選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

中間試験評価方法・評価基準

音楽を理解し楽しみながら演奏できているか、装飾音は自然と音楽に溶け込ませられているか、チェンバロは豊かに鳴り響かせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮し

ながら採点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 試験曲について（各自演奏してみたい曲：2 ページ程度 を持参・提示してもらい、確認させてもらいます。課題が思いつかない学生には、こちらで楽譜を配布します）
- ⑨ 試験曲決定とレッスン
- ⑩ 試験曲レッスン
- ⑪ 試験曲レッスン
- ⑫ 試験曲レッスン
- ⑬ 試験曲レッスン
- ⑭ 試験曲レッスン
- ⑮ 期末試験：選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

期末試験評価方法・評価基準

音楽を理解し楽しみながら演奏できているか、装飾音は音楽的に奏でられているか、チェンバロは美しく鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	外部グレード講座（演奏）Ⅰ
担当講師名	古賀かおり
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン業務、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

春学期では、ヤマハ演奏グレードの即興演奏力を身につけることを目標に、さまざまな角度から音楽を捉え、即興演奏のコツをつかめるように指導していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アレンジの発想を膨らませ、一段楽譜からジャンルを読み取る力、フレーズを意識して演奏する力、初見力などの総合的な音楽力をつけていきます。グレード受験準備を進めながら、様々な音楽スタイルへの理解、レジストとの関連性も合わせて学んでいきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① グレード概要について・アレンジ要素の導入～即興に必要な基礎的要素の確認をしながら、トレーニング素材に取り組みます。
- ② 編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ①～即興演奏に必要な楽曲アナリーゼ方法を提示し、構成や楽器編成などへの理解を深めます。
- ③ 編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ②～エレクトーン編曲素材をベースに、多方面から即興演奏にオリジナリティを加える手法を学びます。
- ④ コード付き一段譜のアレンジ①～世界民謡などの一段譜で既知曲の数を増やししながら、コードや様々なジャンルに親しみ、アレンジ要素を膨らませていきます。
- ⑤ コード付き一段譜のアレンジ②～一段譜アレンジの内容を精査しながら、即興演奏に活かす手立てを探っていきます。
- ⑥ 2ビート/4ビートの即興演奏～2ビート/4ビートでの即興演奏の具体的な手法を提示し、即興(a)課題に取り組みます。
- ⑦ 課題実習①～2ビート/4ビートによる即興演奏発表をします。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。
出席 30%、平常点 30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 三拍子系の即興演奏～三拍子の楽曲を取り上げて、アナリーゼ、演奏をしながら編曲要素を広げていきます。
- ⑨ コード付き一段譜のアレンジ③～一段譜アレンジを通して、三拍子における具体的な即興手法を習得していきます。
- ⑩ コード付き一段譜のアレンジ④～8ビートのオリジナルアレンジ曲を共有し、8ビートでの即興手法へと繋げていきます。
- ⑪ ラテン系のジャンルにおける即興演奏～ラテン系の楽曲に触れ、ジャンルへの理解と、即興手法を学びます。
- ⑫ 8ビートとラテンのまとめ①～ポピュラーにおける様々なリズム、バックギング・パターンを実践しながら、即興の手法を広げていきます。
- ⑬ 課題実習②～今まで学習してきたジャンルの復習をし、即興演奏に取り組みます。
- ⑭ 課題実習③～自分なりのパターンを作り、演奏面も磨いていきます。
- ⑮ 期末試験～即興(a)の演奏に必要な要素（初見力/コード理解力/アレンジ力など）の確認をします。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。ここまでの実力に応じて、具体的な受験予定計画を各自作成していきます。
出席 30%、平常点 30%、試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	外部グレード講座（演奏）Ⅱ
担当講師名	古賀かおり
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン業務、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

春学期に続き、ヤマハ演奏グレードの即興/初見能力を身につけるべく様々な音楽に触れながら、指導グレードの学習にも取り掛かります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個々のペースにあわせ、具体的な受験準備に入ります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 弾きうたい・伴奏づけ①～ソルフェージュ的要素に取り組みつつ、ベーシックなコードトレーニングをしていきます。
- ② 弾きうたい・伴奏づけ②～カデンツ移調や様々なコードワークのトレーニングをします。
- ③ 移調奏・筆記問題について～移調課題、筆記課題に取り組みます。
- ④ 指導グレード項目のまとめ～指導グレード試験課題を用いて、それぞれの項目に必要な力の確認をします。
- ⑤ モチーフ即興について～モチーフ即興 [即興(b)]の概要に触れ、メロディー創りのポイントに繋がるトレーニングをします。
- ⑥ モチーフ即興演習①～形式、スタイルを明確にした演奏、レジストの考察をします。
- ⑦ モチーフ即興演習②～モチーフ演奏課題に取り組みます。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。
出席 30%、平常点 30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲クリニック①～演奏、公開クリニック/グレード試験合格ラインの提示をします。
- ⑨ 課題曲クリニック②～演奏、公開クリニック/レジストや演奏を磨いていきます。
- ⑩ 初見演奏①～制限時間内で全体を見るコツ・止まらないための習慣トレーニングを身につけます。
- ⑪ 初見演奏②～試験課題演習
- ⑫ 即興演奏の復習・演奏曲内容確認①～受験に向けての個々の状況を確認します。
- ⑬ 即興演奏の復習・演奏曲内容確認②～受験に向けての個々の状況を確認します。
- ⑭ 模擬試験課題提示～即興(b)の問題選択におけるコツや、それぞれの項目におけるレジストの調整を行います。
- ⑮ 期末試験～即興(a)・即興(b)、初見演奏

期末試験評価方法・評価基準

1年のまとめとして、期末試験でどれだけ自分の力を出せたか、努力を評価します。
出席 30%、平常点 30%、試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	外部グレード講座（演奏）Ⅲ
担当講師名	古賀かおり
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン業務、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、ヤマハ演奏グレード 5～3 級取得を目標に、個々のペースに合わせて具体的に受験準備を進めていきます。グレード受験準備を通して、幅広い音楽性を身につける学習をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1 年次において演奏・指導グレード 5 級未取得の場合、追試対策の指導も行います。演奏・指導グレード 5 級既取得の場合、4・3 級、またはピアノグレード 5 級取得に向けてのレッスン、個別クリニックも行います。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 即興演奏、初見演奏のポイント確認～即興(a)・即興(b)における演奏スタイル、初見力の確認をし、演奏グレード受験に向けて、個別の状況に沿った課題点の提示をします。
- ② 編曲的即興 [即興(a)]①～既成曲のアナリゼを通して、オリジナリティある編曲要素とは何かを学習し、即興(a)における編曲内容に繋げていきます。
- ③ 編曲的即興 [即興(a)]②～即興(a)のレベル向上を目指し、一段譜によるアレンジ指導を行います。
- ④ モチーフ即興 [即興(b)]①～既知曲のアナリゼを通して、モチーフ即興のパターンを広げていきます。
- ⑤ モチーフ即興 [即興(b)]②～コード進行のトレーニング。モチーフに相応しいメロディー創作を目指します。
- ⑥ 課題演習～演奏グレード試験問題例をその場で演奏。予見を含めた演習を行います。
- ⑦ 試験～模擬試験形式にて実施 [即興(a)・即興(b)]

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業時に課題復習演奏をし、その努力度と演奏力向上の様子と完成度を見ます。模擬試験で各自の状況を把握・確認し、具体的な受験時期を決める指針にします。
出席 30%、平常点 30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 即興(a)と即興(b)のバランスについて～幅広いジャンルへの意識を持ち、即興(a)と即興(b)における各自の音楽表現について考察します。
- ⑨ 課題曲クリニック①～JOC/クラシック課題曲の演奏、公開クリニックを実施し、現段階での課題点を提示します。
- ⑩ 課題曲クリニック②～JOC/クラシック課題曲の演奏、公開クリニックを実施し、レジストや演奏面を磨いていきます。
- ⑪ 初見演奏～ピアノ曲など既知曲の初見をし、楽曲分析面から初見演奏のコツを探ります。試験問題例で個々の課題点を提示します。
- ⑫ 指導グレード内容の復習～個々の状況を把握し、実技試験におけるポイントを再確認します。
- ⑬ 課題演習①～指導グレード実技試験問題例に取り組みます。
- ⑭ 課題演習②～演奏グレード試験問題例をその場で予見、演奏します。
- ⑮ 期末試験～模擬試験形式にて実施 [即興(a)・即興(b)・初見演奏]

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業時に課題復習演奏をし、その努力度と期末試験の完成度を見ます。模擬試験で個々の状況を把握・確認します。
出席 30%、平常点 30%、試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース
科目名	外部グレード講座（演奏）IV
担当講師名	古賀かおり
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	電子オルガン

担当科目に関連する実務経歴

講師は、一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン業務、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

演奏/指導グレード 4・3 級の受験準備に入ります。演奏/指導グレード 5 級準備に時間が必要な場合は、引き続き、弱点を克服しながら力を付けるように指導していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

グレード 4・3 級相当の音楽力が得られるよう、コードの仕組みや響きを理解しながら、自然なメロディーとハーモニー創りに取り組みます。基礎的な音楽諸要素を身に付けた上で、与えられた課題に相応しい音楽を表現豊かに演奏することを目指します。個々の進度に合わせての受験準備を行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 演奏グレード 4・3 級受験に向けてのポイント～各自のグレード受験準備を通して、より表現豊かで音楽的な演奏をする為に必要な事柄を探っていきます。
- ② 即興(a)におけるコード付け①～既知曲をアナリーゼし、コードの流れを読み取り、演奏します。移調奏などのトレーニングも行います。
- ③ 即興(a)におけるコード付け②～循環コードや、順次進行、部分転調などを理解し、コード進行のトレーニングをしていきます。
- ④ 即興(a)におけるコード付け③～試験問題例でコード付けをしていきます。
- ⑤ 即興(a)のまとめ①～試験問題例に相応しい演奏スタイル（ジャンル）を見極め、コード付け、構成、曲想、レジストなどに留意しながら取り組みます。
- ⑥ 即興(a)のまとめ②～演奏スタイルの幅を広げていきます。
- ⑦ 試験～演奏グレード試験問題例をその場で予見、演奏します。[即興(a)・初見]

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業時に課題復習演奏発表をし、その努力度と試験での演奏力向上の様子と完成度を見ます。

出席 30%、平常点 30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モチーフ即興 [即興(b)]を深める①～4・3級グレードに望ましいレベルでのモチーフ即興とは、どういったものかを探っていきます。
- ⑨ モチーフ即興 [即興(b)]を深める②～コード進行のブラッシュアップ、モチーフの特徴を活かしたメロディー創りと曲想豊かな演奏を目指します。
- ⑩ モチーフ即興 [即興(b)]を深める③～モチーフ課題を数多く演習し、各自得意なパターンを作っていきます。
- ⑪ 課題曲クリニック③～各自で選曲した曲のポイントを理解し、それらを共有することで音楽性の幅を広げます。演奏面に磨きをかけます。
- ⑫ 演習①～試験問題例 [即興(a)]をその場で予見、即興演奏します。さらに、体験課題の移調奏等のトレーニングを重ね、即興的応用力を培っていきます。
- ⑬ 演習②～試験問題例 [即興(b)]をその場で予見、即興演奏します。さらに、体験課題の移調奏等のトレーニングを重ね、即興的応用力を培っていきます。
- ⑭ 演習③～演奏曲（課題曲・自由曲）の確認をします。初見演奏の試験問題例に取り組みます。
- ⑮ 期末試験～演奏グレード試験形式にて実施/採点 [即興(a)・即興(b)・初見・課題曲・自由曲（・自作曲）]

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業時に課題復習演奏発表をし、その努力度と演奏力向上の様子と完成度を見ます。期末試験では、一年間の音楽的成長と、各自の目標設定への到達度も見ます。

出席 30%、平常点 30%、試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	外部グレード講座（指導）Ⅰ
担当講師名	古賀かおり
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

ヤマハ指導グレードの即興演奏力を身につけることを目標に、さまざまな角度から音楽を捉え、即興演奏のコツをつかめるように指導していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アレンジの発想を膨らませ、一段楽譜からジャンルを読み取る力、フレーズを意識して演奏する力、初見力などの総合的な音楽力をつけていきます。グレード受験準備を進めながら、様々な音楽スタイルへの理解、レジストとの関連性も合わせて学んでいきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① グレード入門・アレンジ要素の導入
- ② 編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ①
- ③ 編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ②
- ④ コード付き一段譜のアレンジ ①
- ⑤ コード付き一段譜のアレンジ ②
- ⑥ 2ビートの即興演奏
- ⑦ 課題実習 ①

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 三拍子（六拍子）における即興演奏

- ⑨ コード付き一段譜のアレンジ ③
- ⑩ コード付き一段譜のアレンジ ④
- ⑪ ラテン系のジャンルにおける即興演奏
- ⑫ 8ビートとラテンのまとめ ①
- ⑬ 課題実習 ②
- ⑭ 課題実習 ③
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。ここまでの実力に応じて、具体的な受験予定計画を各自作成していきます。
平常点50% 試験50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	外部グレード講座（指導）Ⅱ
担当講師名	古賀かおり
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

ヤマハ指導グレードの即興/初見能力を身につけるべく様々な音楽に触れながら、指導グレードの学習にも取り掛かります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個々のペースにあわせ、具体的な受験準備に入ります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 弾き歌い・伴奏付け ①
- ② 弾き歌い・伴奏付け ②
- ③ 移調奏・筆記問題について
- ④ 指導グレード項目のまとめ
- ⑤ モチーフについて
- ⑥ モチーフのまとめ ①
- ⑦ モチーフのまとめ ②

中間試験評価方法・評価基準

指導グレード集中講座を踏まえ、指導グレード受験準備を行う。毎回の授業課題内容を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲クリニック ①
- ⑨ 課題曲クリニック ②

- ⑩ 初見課題 ①
- ⑪ 初見課題 ②
- ⑫ 即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ①
- ⑬ 即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ②
- ⑭ 模擬試験課題提示
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

1年のまとめとして、期末試験でどれだけ自分の力を出せたか、努力を評価します。
平常点30%試験点70%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	外部グレード講座（指導）Ⅲ
担当講師名	古賀かおり
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

ヤマハ指導グレードの即興演奏力を身につけることを目標に、さまざまな角度から音楽を捉え、即興演奏のコツをつかめるように指導していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アレンジの発想を膨らませ、一段楽譜からジャンルを読み取る力、フレーズを意識して演奏する力、初見力などの総合的な音楽力をつけていきます。グレード受験準備を進めながら、様々な音楽スタイルへの理解、レジストとの関連性も合わせて学んでいきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① グレード入門・アレンジ要素の導入
- ② 編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ①
- ③ 編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ②
- ④ コード付き一段譜のアレンジ ①
- ⑤ コード付き一段譜のアレンジ ②
- ⑥ 2ビートの即興演奏
- ⑦ 課題実習 ①

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 三拍子（六拍子）における即興演奏

- ⑨ コード付き一段譜のアレンジ ③
- ⑩ コード付き一段譜のアレンジ ④
- ⑪ ラテン系のジャンルにおける即興演奏
- ⑫ 8ビートとラテンのまとめ ①
- ⑬ 課題実習 ②
- ⑭ 課題実習 ③
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。ここまでの実力に応じて、具体的な受験予定計画を各自作成していきます。
平常点50% 試験50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	外部グレード講座（指導）Ⅳ
担当講師名	古賀かおり
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード（エレクトーン演奏・指導）試験官の実務経験を持ちます。

授業内容

ヤマハ指導グレードの即興/初見能力を身につけるべく様々な音楽に触れながら、指導グレードの学習にも取り掛かります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個々のペースにあわせ、具体的な受験準備に入ります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 弾き歌い・伴奏付け ①
- ② 弾き歌い・伴奏付け ②
- ③ 移調奏・筆記問題について
- ④ 指導グレード項目のまとめ
- ⑤ モチーフについて
- ⑥ モチーフのまとめ ①
- ⑦ モチーフのまとめ ②

中間試験評価方法・評価基準

指導グレード集中講座を踏まえ、指導グレード受験準備を行う。毎回の授業課題内容を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲クリニック ①
- ⑨ 課題曲クリニック ②

- ⑩ 初見課題 ①
- ⑪ 初見課題 ②
- ⑫ 即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ①
- ⑬ 即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ②
- ⑭ 模擬試験課題提示
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

1年のまとめとして、期末試験でどれだけ自分の力を出せたか、努力を評価します。
平常点30%試験点70%

特記事項

ジャズ・ポピュラーコース

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。

クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音⑫：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音⑬：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音⑭：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音⑮：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑰：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑱：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑲：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑳：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音㉑：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音㉒：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともあります。その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅢ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅣ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュ I
担当講師名	宮崎 隆睦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はライブ、スタジオ録音等、様々な演奏実務経験を持つ。

授業内容

即興演奏の基本となるスケールについて知識を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各スケールに対してどれだけ理解があり、応用する力がついているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ドリアンスケールについて①
- ②ドリアンスケールについて②
- ③ミクソリディアンスケールについて①
- ④ミクソリディアンスケールについて②
- ⑤メジャースケールについて①
- ⑥メジャースケールについて②
- ⑦試験 / スケール演奏

中間試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ドリアン、ミクソリディアン、メジャースケールを使ったダイアトニックフレーズについて①
- ⑨ドリアン、ミクソリディアン、メジャースケールを使ったダイアトニックフレーズにつ

いて②

⑩リディアンスケールについて①

⑪リディアンスケールについて②

⑫リディアンフラットセブンスケールについて①

⑬リディアンフラットセブンスケールについて②

⑭リディアン、リディアンフラットセブンスケールを使ったダイアトニックフレーズについて

⑮試験 / スケール演奏

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュ I
担当講師名	坂本 浩志
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はトロンボーン演奏、編曲、プロデューサーとしての実務経験を持つ。

授業内容

様々なスケール・アルペジオをトロンボーンで演奏するための音感を身につけ、またそれに必要な演奏技術としての様々なタンギングを学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

表現したい音列が、楽器の操作と連動するようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Doodle Studies and Etudes chapter 1 / Major Scale
- ② Doodle Studies and Etudes chapter 1 / Major Scale
- ③ Doodle Studies and Etudes chapter 2 / Major Scale
- ④ Doodle Studies and Etudes chapter 2 / Arpeggio
- ⑤ Doodle Studies and Etudes chapter 3 / Arpeggio
- ⑥ Doodle Studies and Etudes chapter 3 / Arpeggio
- ⑦ 試験 / スケール演奏

中間試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Doodle Studies and Etudes chapter 4 / Minor Scale
- ⑨ Doodle Studies and Etudes chapter 4 / Minor Scale
- ⑩ Doodle Studies and Etudes chapter 5 / Minor Scale

- ⑪ Doodle Studies and Etudes chapter 5 / Diatonic Arpeggios
- ⑫ Doodle Studies and Etudes chapter 6 / Diatonic Arpeggios
- ⑬ Doodle Studies and Etudes chapter 6 / Diatonic Arpeggios
- ⑭ 試験 / スケール演奏

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらおう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュⅡ
担当講師名	宮崎 隆睦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サクソフォーン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はライブ、スタジオ録音等、様々な演奏実務経験を持つ。

授業内容

即興演奏の基本となるスケールについて知識を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各スケールに対してどれだけ理解があり、応用する力がついているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①メロディックマイナースケールについて①
- ②メロディックマイナースケールについて②
- ③ハーモニックマイナースケールについて①
- ④ハーモニックマイナースケールについて②
- ⑤メロディックマイナー、ハーモニックマイナースケールを使ったダイアトニックフレーズについて①
- ⑥メロディックマイナー、ハーモニックマイナースケールを使ったダイアトニックフレーズについて②
- ⑦試験 / スケール演奏

中間試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ディミニッシュスケールについて①
- ⑨ディミニッシュスケールについて②
- ⑩オルタードスケールについて①

- ⑪オルタードスケールについて②
- ⑫ディミニッシュ、オルタードスケールを使ったダイアトニックフレーズについて①
- ⑬ディミニッシュ、オルタードスケールを使ったダイアトニックフレーズについて②
- ⑭ビバップスケールについて
- ⑮試験 / スケール演奏

期末試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	専攻ソルフェージュⅡ
担当講師名	坂本 浩志
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はトロンボーン演奏、編曲、プロデューサーとしての実務経験を持つ。

授業内容

様々なスケール・アルペジオをトロンボーンで演奏するための音感を身につけ、またそれに必要な演奏技術としての様々なタンギングを学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

表現したい音列が、楽器の操作と連動するようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Doodle Studies and Etudes chapter 7 / Major Scale
- ② Doodle Studies and Etudes chapter 7 / Major Scale
- ③ Doodle Studies and Etudes Etude 1 / Major Scale
- ④ Doodle Studies and Etudes Etude 2 / Arpeggio
- ⑤ Doodle Studies and Etudes Etude 3 / Arpeggio
- ⑥ Doodle Studies and Etudes Etude 4 / Arpeggio
- ⑦ 試験 / スケール演奏

中間試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Doodle Studies and Etudes Etude 5 / Minor Scale
- ⑨ Doodle Studies and Etudes Etude 6 / Minor Scale
- ⑩ Doodle Studies and Etudes Etude 7 / Minor Scale

- ⑪ Doodle Studies and Etudes Etude 8 / Diatonic Arpeggios
- ⑫ Doodle Studies and Etudes Etude 9 / Diatonic Arpeggios
- ⑬ Doodle Studies and Etudes Etude 10 / Diatonic Arpeggios
- ⑭ 総復習
- ⑮ 試験 / スケール演奏

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、習熟度チェック これまでの音楽経験などを伺います。
- ②譜表・音名/音符・休符 楽譜の基礎となる項目を学びます。
- ③拍子/リズムの記譜法/変化記号 リズム周りの項目を学びます。
- ④前回までの復習、5度圏表と調 記譜のための基礎を固め、調について学びます。
- ⑤音階① 長音階を学びます。
- ⑥音階② 短音階を学びます。
- ⑦1Q末ペーパー試験 1Qで学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音程① 音程の基礎を学びます。
- ⑨音程② 臨時記号のついた音程、転回音程などを学びます。

- ⑩和音・コード① 基本的な和音とコードの型を学びます。
- ⑪和音・コード② ダイアトニックコードを学びます。
- ⑫夏休み前のまとめ これまでの学習を振り返り、夏休み中の課題を提示します。
- ⑬総合復習① 調、音階について復習します。
- ⑭総合復習② 音程、コード、その他必要と思われる項目について復習します。
- ⑮2Q 末ペーパー試験

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①1Q2Qの復習① 主に音階、調の復習をします。
- ②1Q2Qの復習② 主に音程の復習をします。
- ③移調と転調① 移調と転調について、基礎を学びます。
- ④移調と転調② 移調楽器の記譜音、実音の違いを演習します。楽曲の転調箇所を分析を行います。
- ⑤楽語・記号 教科書巻末に記載された、楽語・記号を総合的に学びます。
- ⑥音楽理論のまとめ これまでに学んだ音楽理論を振り返ります。
- ⑦3Q末ペーパー試験 1Q～3Qまでに学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コード① 基本の型について復習します。
- ⑨コード② ダイアトニックコードを復習します。

- ⑩コード③ ドミナントモーション、ツーファイヴワンについて学びます。
- ⑪コード④ セカンダリードミナント、コードプログレッションについて学びます。
- ⑫コード⑤ カデンツ、代理コードについて学びます。
- ⑬コード⑥ テンションコードについて学びます。
- ⑭これまでの総復習、まとめ
- ⑮4Q 末ペーパー試験 1年間で学んだ全項目の試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ペンタトニック・スケール
- ② セカンダリー・ドミナント
- ③ パッシング・ディミニッシュ
- ④ 循環コード(1)
- ⑤ 循環コード(2)
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 1Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ サブドミナント・マイナー
- ⑨ バッキング
- ⑩ カノン
- ⑪ リズム

- ⑫ カウンターライン、カウンターメロディ
- ⑬ リフ
- ⑭ KBD ハーモニー
- ⑮ 2Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 裏コード
- ② コード付け
- ③ ホルンの5度(1)
- ④ ホルンの5度(2)
- ⑤ ナポリの和音
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ドリアン
- ⑨ ミクソリディアン
- ⑩ フリジアン
- ⑪ ジプシー

- ⑫ ブルー・ノート
- ⑬ 試演 (1)
- ⑭ 試演 (2)
- ⑮ 4Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い、音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れることで、作編曲の手法を学んでいきます。1Q では様々なコード進行の例を知り、2Q では様々な楽器編成を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 皆さんの好きな曲などを伺い、聴いてみます。
- ②長調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ③短調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ④循環コードの楽曲について、いくつかのコード例を演奏し、分析をします。
- ⑤カノン進行の楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑥王道コードの楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑦1Q 末試験提示された構造の例を用い、短い作品の編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。
提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧『オーケストラストーリーズとなりのトトロ』より『さんぽ』オーケストラの楽器、編

成を学びます。

- ⑨『花束を君に』 混成四部合唱の編成を学びます。
- ⑩『Purple Haze』 (Kronos Quartet) 弦楽四重奏の編成を学びます。
- ⑪『ラブソディ・イン・ブルー』 サクソフォーン四重奏の編成を学びます。
- ⑫『リベルタンゴ』 木管五重奏を学びます。
- ⑬『ルパン三世のテーマ』 ジャズオーケストラの編成を学びます。
- ⑭『東風』 ピアノ連弾の編成を学びます。
- ⑮2Q 末試験 自身の専攻楽器を用いた楽曲を作曲します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れ、作編曲の手法を学んでいきます。

3Qでは、これまでに音楽理論で学んできたコードに慣れるために、有名なミュージカル楽曲を歌い、分析しながら、コード伴奏を付けていきます。

4Qでは作曲に挑戦し、作品を完成させます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 『Let It Go』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ② 『In to the unknown』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ③ 『A Whole New World』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ④ 『Chim Chim Cher-ee』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑤ 『A Dream Is a Wish Your Heart Makes』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑥ 『Winter Wonderland』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑦ 3Q末試験 課題のメロディをもとに、コードを用いて編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲作品への取り組み① これまで学んだことを活かし、作曲作品を作り始めます。
- ⑨作曲作品への取り組み② 作曲を続けていきます。
- ⑩作曲作品への取り組み③ 作曲を続けていきます。
- ⑪作曲作品への取り組み④ 作曲を続けていきます。
- ⑫作曲作品への取り組み⑤ 作曲を続けていきます。
- ⑬作曲作品への取り組み⑥ 作曲を続けていきます。
- ⑭作曲作品への取り組み⑦ 作曲を続けていきます。
- ⑮作曲作品完成へ 作品を完成させ、楽譜で提出します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲作品を提出してもらいます。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際にアンサンブルで演奏する自作曲を編曲し、スコア・パート譜を作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Aメロの制作
- ② Bメロの制作
- ③ AとBのバックキング
- ④ Dr. と Bass
- ⑤ 試演
- ⑥ イントロとコーダ
- ⑦ 1Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 演奏時間 / テンポ / 小節数について
- ⑨ 楽曲構成 / テーマ作り
- ⑩ 各パーツの作成
- ⑪ 試演

- ⑫ カウンターライン、カウンターメロディ
- ⑬ リフ
- ⑭ スコアチェック
- ⑮ 2Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際にアンサンブルで演奏する自作曲を編曲し、スコア・パート譜を作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リファレンス(1)
- ② リファレンス(2)
- ③ テーマ制作
- ④ ハモリ
- ⑤ 試演
- ⑥ スコアチェック
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 30分プログラム
- ⑨ グループ作曲
- ⑩ グループ作曲(1)
- ⑪ グループ作曲(2)

- ⑫ クラス作曲
- ⑬ 30分プログラム(リハ)
- ⑭ 30分プログラム(本番)
- ⑮ 4Q試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	D T M基礎 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

パソコンの基本的な使い方、MIDI シーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、および MIDI の基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生での DAW への学習の基礎の習得とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase の基本操作を習得し、MIDI ファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① PC の基本操作を学びます。
 - ② Cubase を起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
 - ③ Cubase にデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
 - ④ 与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。
 - ⑤ ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
 - ⑥ パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑦ プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
- ⑧ MIDI について学習します。MIDI チャンネルについて。
- ⑨ アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
- ⑩ ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
- ⑪ 拍子、テンポを設定します
- ⑫ 課題作成作業
- ⑬ 課題作成作業
- ⑭ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	D T M基礎 II
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

MIDI 規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase で音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ベロシティーを設定してドラムのアクセントをつけます。
 - ② プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します。
 - ③ クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リムパターン作成。
 - ④ ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
 - ⑤ パーカッションパートを追加します。
 - ⑥ 課題作成作業
 - ⑦ 課題提出
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑨ ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
- ⑩ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑪ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
- ⑫ トラックをコピーして、パートを増やします。
- ⑬ トラックをコピーして、パートを増やします。データを確認します。
- ⑭ 全体のバランスを取り完成させます
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDI だけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

MIDI データをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubase でオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 基礎内容を復習し保存方法、データのバージョン管理、操作方法等を確認します。
- ② CD からオーディオファイルを読み込みます。
- ③ オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作った MIDI パートを重ねます。
- ④ オーケストラのスコアを入力します。
- ⑤ 強弱、テンポ変化等の表現をつけます。
- ⑥ 各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
- ⑦ 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
- ⑨ エフェクト処理について学習します。
- ⑩ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑪ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑫ 1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
- ⑬ アレンジ作業。MIDI エフェクトを追加します。
- ⑭ トラックダウン作業
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5点、遅刻 3点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から30点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書Ⅱ
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得した DTM の知識を応用し、DTM ソフトと譜面浄書の連携をマスターします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Finale を使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フィナーレの起動から初期設定ステップ入力について。
- ② 音符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。簡単なメロディーの入力。
- ③ 各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。
- ④ 歌詞入力。ページレイアウト設定。
- ⑤ コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させます。
- ⑥ ページレイアウトの基本設定を学習します。
- ⑦ 課題曲の楽譜を完成させ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
- ⑨ ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
- ⑩ 2クォータに提出したオリジナル曲の MIDI データを読み込んでスコアを作成します。
- ⑪ 読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。
- ⑫ セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。
- ⑬ 各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
- ⑭ ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
- ⑮ スコアを完成させ提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法 I
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

作編曲を専攻としない学生のためのポピュラーミュージックの作編曲講座。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディ、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなおわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 転調
- ⑤ モチーフ・フレーズ
- ⑥ セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括 1年の授業予定とガイダンス

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）
- ⑨ アレンジ 2（リズムセクション 2）

- ⑩ アレンジ3 (他、うわものアレンジ)
- ⑪ アレンジ4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作1
- ⑬ 楽曲制作2
- ⑭ 楽曲制作3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅱ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 様々なスタイルのポップス 1
- ② 様々なスタイルのポップス 2
- ③ 様々なスタイルのポップス 3
- ④ 様々なスタイルのポップス 4
- ⑤ 楽曲制作 1
- ⑥ 楽曲制作 2
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法 1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法 2
- ⑩ 楽曲制作 1

- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験をもちます。

授業内容

作編曲を専攻としない学生を対象に、ポピュラーミュージックの編曲を学びます。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディー、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。3年次に学習した内容をより深く掘り下げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 転調
- ⑤ モチーフ・フレーズ
- ⑥ セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）

- ⑨ アレンジ 2 (リズムセクション 2)
- ⑩ アレンジ 3 (他、うわものアレンジ)
- ⑪ アレンジ 4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作 1
- ⑬ 楽曲制作 2
- ⑭ 楽曲制作 3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

作編曲を専攻としない学生を対象に、過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げていきます。3年次に学習した内容をより深く掘り下げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 様々なスタイルのポップス 1
- ② 様々なスタイルのポップス 2
- ③ 様々なスタイルのポップス 3
- ④ 様々なスタイルのポップス 4
- ⑤ 楽曲制作 1
- ⑥ 楽曲制作 2
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法 1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法 2

- ⑩ 楽曲制作 1
- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 I
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 楽曲制作・モチーフ・フレーズ
- ⑤ 楽曲制作・転調
- ⑥ 楽曲制作・セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）
- ⑨ アレンジ 2（リズムセクション 2）
- ⑩ アレンジ 3（ほかうわものアレンジ）

- ⑪ アレンジ4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作1
- ⑬ 楽曲制作2
- ⑭ 楽曲制作3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習Ⅱ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽曲分析プレゼンテーション
- ② 学生プレゼンテーション1・作曲実習
- ③ 学生プレゼンテーション2・作曲実習
- ④ 学生プレゼンテーション3・作曲実習
- ⑤ 学生プレゼンテーション4・作曲実習
- ⑥ 作曲実習
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法2
- ⑩ 楽曲制作1

- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ダイアトニックハーモニーの基礎 1
- ② ダイアトニックハーモニーの基礎 2
- ③ ダイアトニックハーモニーの基礎 3
- ④ 楽曲制作・モチーフ・フレーズ
- ⑤ 楽曲制作・転調
- ⑥ 楽曲制作・セクションと曲のフォーム
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アレンジ 1（リズムセクション 1）
- ⑨ アレンジ 2（リズムセクション 2）
- ⑩ アレンジ 3（ほかうわものアレンジ）

- ⑪ アレンジ4 (イントロ・アウトロ)
- ⑫ 楽曲制作1
- ⑬ 楽曲制作2
- ⑭ 楽曲制作3～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲実習Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を持ちます。

授業内容

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽曲分析プレゼンテーション
- ② 学生プレゼンテーション1・作曲実習
- ③ 学生プレゼンテーション2・作曲実習
- ④ 学生プレゼンテーション3・作曲実習
- ⑤ 学生プレゼンテーション4・作曲実習
- ⑥ 作曲実習
- ⑦ 作品の総括

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 旋法音楽の表現方法 1
- ⑨ 旋法音楽の表現方法 2
- ⑩ 楽曲制作 1

- ⑪ 楽曲制作 2
- ⑫ 楽曲制作 3
- ⑬ 楽曲制作 4
- ⑭ 楽曲制作 5～完成
- ⑮ 作品の総括

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ベーシックトレーニング I (Sax)
担当講師名	佐々木亜紀子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は TV、ドキュメンタリー映画、CM などの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、バンド活動等の経験を持ちます。

授業内容

コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ブルース曲、ジャズスタンダード曲でアドリブソロを演奏出来るようになることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① メジャースケールとマイナースケールを学びます。
- ② マイナーペンタトニックスケールを学びます。
- ③ マイナーペンタトニックスケールのフレーズを学びます。
- ④ メジャーペンタトニックスケールとフレーズを学びます。
- ⑤ ブルーススケールを学びます。
- ⑥ ブルーススケールのフレーズを学びます。
- ⑦ 中間試験：ブルース曲のテーマとアドリブソロを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。
スケールを確実に演奏出来るか、またそれをソロにきちんと生かせるかで評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ダイアトニックコードを理解し、アルペジオで演奏します。

- ⑨ ダイアトニックコードとモードの関係を学びます。
- ⑩ イオニアンとドリアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑪ フリジアンとリディアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑫ ミクソリディアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑬ エオリアンとロクリアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑭ 実際に曲を分析して、アドリブソロを演奏します。
- ⑮ ジャズスタンダード曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

楽曲分析及び使用するスケールを理解しているかで評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ベーシックトレーニングⅡ (Sax)
担当講師名	佐々木亜紀子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は TV、ドキュメンタリー映画、CM などの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、バンド活動等の経験を持ちます。

授業内容

コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コード進行に対するスケールの正確さ及び、様々なフレーズを演奏出来るようになることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ハーモニックマイナースケールを学びます。
- ② ハーモニックマイナー・パーフェクト 5 t h ビロウを学びます。
- ③ メジャーⅡVフレーズを学びます。
- ④ マイナーⅡVフレーズを学びます。
- ⑤ ショートⅡVフレーズを学びます。
- ⑥ ⅡVフレーズを曲で実践してみます。
- ⑦ 中間試験：メジャーⅡVフレーズとマイナーⅡVフレーズを 12key で演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。
フレーズを確実に演奏出来るか、またそれを様々な key で応用出来るかで評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズマイナースケールを学びます。

- ⑨ リディアン b7th スケールを学びます。
- ⑩ ノンダイアトニックコードとスケールの関係性を学びます。
- ⑪ オルタードスケールを学びます。
- ⑫ オルタードスケールのフレーズを学びます。
- ⑬ ディミニッシュコードとオーギュメントコードを学びます。
- ⑭ 実際に曲を分析して、アドリブソロを演奏します。
- ⑮ 期末試験：ジャズスタンダード曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

楽曲分析及び使用するスケールを理解・実践しているかで評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ベーシックトレーニングⅢ (Sax)
担当講師名	佐々木亜紀子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サククス

担当科目に関連する実務経歴

講師は TV、ドキュメンタリー映画、CM などの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、バンド活動等の経験を持ちます。

授業内容

コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャズスケールの正確さ及び、ソロフレーズを数多く習得することを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ビバップスケールを学びます。
- ② ビバップスケールをアドリブで実践します。
- ③ コンビネーションオブディミニッシュスケールを学びます。
- ④ コンビネーションオブディミニッシュスケールをアドリブで実践します。
- ⑤ ホールトーンスケールを学びます。
- ⑥ ホールトーンスケールをアドリブで実践します。
- ⑦ 中間試験：フレーズ例を様々な Key で演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

フレーズを確実に演奏出来るか、またそれをアドリブに生かせるか評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 4度フレーズを学びます。
- ⑨ クロマチックスケールのフレーズを学びます。

- ⑩ 7thコードでの様々なコードトーンアプローチを学びます。
- ⑪ III VI II Vフレーズを学びます。
- ⑫ III VI II Vフレーズを12keyで演奏します。
- ⑬ 実際に曲を分析してジャズスケールを取り入れながらアドリブソロを演奏します①
- ⑭ 実際に曲を分析してジャズスケールを取り入れながらアドリブソロを演奏します②
- ⑮ 期末試験：ジャズスタンダード曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

楽曲分析及び使用するスケールを理解・実践しているかで評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ベーシックトレーニング (Key) III
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ&キーボード

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ピアニスト、キーボーディスト、コンポーザー、アレンジャー、の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

アンサンブルや、ジャズセッションに必要なキーボードのテクニック（主にコードに関して）を学習していきます。両授業で取り上げている曲を中心にフォローアップの形で進めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

この授業で学習したことが、アンサンブルやセッション、といった授業に活用できたり、学科内の自主ライブや自己のライブ活動に活用できているかどうか。そして、その技法を一つ一つ理解し、応用できているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①テンションコード①：テンションの入れ方と綺麗に響く配置を学習
- ②テンションコード②：テンションの入れ方と綺麗に響く配置を学習
- ③テンションコード③：テンションの入れ方と綺麗に響く配置を学習
- ④テンションコード④：テンションの入れ方と綺麗に響く配置を学習
- ⑤テンションコード⑤：テンションの入れ方と綺麗に響く配置を学習
- ⑥試験：課題曲を演奏する。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業への取り組み方で評価します。欠席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フォローアップ①：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑨フォローアップ②：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑩フォローアップ③：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑪フォローアップ④：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑫フォローアップ⑤：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑬フォローアップ⑥：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑭試験：課題曲を演奏する。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業への取り組み方で評価します。欠席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ベーシックトレーニングⅣ (Sax)
担当講師名	佐々木亜紀子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サククス

担当科目に関連する実務経歴

講師は TV、ドキュメンタリー映画、CM などの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、バンド活動等の経験を持ちます。

授業内容

コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

初見の曲でもアドリブソロが出来ることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リディアン b7th スケールのパターンとドミナントモーションを学びます。
- ② 裏コードとスケールの関係性を学びます。
- ③ リズムチェンジ曲をアドリブしてみます。
- ④ リズムチェンジ曲のアドリブ例と自分自身のアドリブソロを演奏します。
- ⑤ 7th コード一発の様々なアドリブフレーズを学びます。
- ⑥ 7th コード一発のアドリブ例と自分自身のアドリブソロを演奏します。
- ⑦ 中間試験：3クォーターで取り上げたアドリブ例と自分自身のアドリブソロを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。
フレーズを確実に演奏出来るか、またそれをアドリブに生かせるか評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ドミナント7thコードアルペジオを学びます。
- ⑨ ファンキーフレーズを学びます。
- ⑩ ビバップフレーズを学びます。
- ⑪ コルトレーンチェンジを学びます①
- ⑫ コルトレーンチェンジを学びます②
- ⑬ スムースジャズスタイルを学びます。
- ⑭ 各自、影響を受けたプレイヤーのフレーズを発表・演奏してもらいます。
- ⑮ 期末試験：4クォーターで取り上げた曲から任意で選び、アドリブ例と自分自身のアドリブソロを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

楽曲分析及び使用するスケールを理解・実践しつつ、オリジナリティもあるかで評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ベーシックトレーニング (Key) IV
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ&キーボード

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ピアニスト、キーボーディスト、コンポーザー、アレンジャー、の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

アンサンブルや、ジャズセッションに必要なキーボードのテクニック（主にコードに関して）を学習していきます。両授業で取り上げている曲を中心にフォローアップの形で進めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

この授業で学習したことが、アンサンブルやセッション、といった授業に活用できたり、学科内の自主ライブや自己のライブ活動に活用できているかどうか。そして、その技法を一つ一つ理解し、応用できているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オープンコード①：オープンコードについて学習。どの場所で使うのが効果的なのかを学習。
- ②オープンコード②：オープンコードについて学習。どの場所で使うのが効果的なのかを学習。
- ③オープンコード③：オープンコードについて学習。どの場所で使うのが効果的なのかを学習。
- ④オープンコード④：オープンコードについて学習。どの場所で使うのが効果的なのかを学習。
- ⑤オープンコード⑤：オープンコードについて学習。どの場所で使うのが効果的なのかを学習。
- ⑥試験：課題曲を演奏する。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、4Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業への取り組み方で評価します。欠席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

⑧フォローアップ①：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。

⑨フォローアップ②：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。

⑩フォローアップ③：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。

⑪フォローアップ④：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。

⑫フォローアップ⑤：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。

⑬フォローアップ⑥：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。

⑭試験：課題曲を演奏する。（録画します。）

⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2年間学習したことを振り返る。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業への取り組み方で評価します。欠席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニックI
担当講師名	宮本裕史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。

授業内容

ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①講義概要説明など/アドリブ方法論の解説と今期の講義予定・目標の説明。また、各生徒一人一人の技術や知識の確認もします。
- ②分散和音を使った和声解決表現 1/V7での3、5、b7、b9アルペジオとImアルペジオの反復を即興で演奏し、最も原始的なアドリブを経験します。
- ③分散和音を使った和声解決表現 2/上記練習とダイアトニックでのアドリブとの合流や、テンポアップ、転調を経験します。
- ④分散和音を使った和声解決表現 3/前週と同内容の練習をし、さらなる上達を目指します。
- ⑤アプローチ・ノートの技法 1/様々なアプローチ・ノートとディレイド・リゾルブについて説明。その利点と使用法、練習法を解説します。説明後、クロマチック・アプローチとスケール・ワイズ・アプローチの技法を実際に練習していきます。
- ⑥アプローチ・ノートの技法 2/2音で挟み込むディレイド・リゾルブを、マイナー・コード上でのダイアトニック・スケールの練習に織り交ぜる訓練をします。
- ⑦1クォーターのまとめ/1~6回の授業の理解度を、質問・筆記(ホワイト・ボードへ

の板書)・実演にて確認し、追加解説にて不足を補います。

中間試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧アプローチ・ノートの技法 3 / 3～4音を使ったディレイド・リゾルブをマイナー・コード上でのダイアトニックスケールの練習に織り交ぜる訓練をします。
- ⑨アプローチ・ノートの技法 4 / アプローチ・ノート各種の練習を様々なコード、もしくはコード進行上で練習し、コードトーンとその周辺の音の位置認識を深めたり想起の速度を早めたりする、より実践的な技能となるような訓練をします。
- ⑩これまでの手法の統合 1 / これまで身につけた各技法を統合したアドリブ・ラインを、譜面上で作成し、それを評価と解説し理解を深める。
- ⑪旋律的短音階 Melodic Minor 1 / マイナー・コードの上でメロディック・マイナー中心のメロディづくりを練習します。
- ⑫これまでの手法の統合 2 / これまで身につけた各技法を統合したアドリブラインを、譜面上で作成し、それを評価と解説し理解を深めます。
- ⑬夏休み明けの進歩確認 / これまでの練習を長期休暇中にどれだけ素早くできるようになったかを確認します。
- ⑭模擬試験と採点 / 次週行う上記技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。
- ⑮譜面提出と実演(試験) / 技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

期末試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニック I
担当講師名	寺屋ナオ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター&ベース

担当科目に関連する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、より発展的なアドリブやハーモニーのアイデアを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1Q はアドリブソロにおいてコードトーンの活用して、コードルな演奏をすることが目標です。2Q はそのアプローチをコード進行上で表現していくことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業ガイダンスを実施します。
- ② コードトーン 3rd を活用したソロを練習します。
- ③ コードトーン 3rd 及び 7th を活用したソロを練習します。
- ④ コードトーン全てを活用したソロを練習します。
- ⑤ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑥ 引き続きスタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑦ 実技試験を実施します。指定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

中間試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
実技試験は、指定したコード進行上でアドリブソロを演奏してもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席：60% 筆記試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ テトラトニックの活用を練習します。
- ⑨ Tonic chordでのテンションノート(代理コード)の活用を練習します。
- ⑩ Sub dominant chordでのテンションノート(代理コード)の活用を練習します。
- ⑪ Dominant 7th chordでのテンションノート(代理コード)の活用を練習します。
- ⑫ Dominant 7th chordでのオーギュメントトラアイドの活用を練習します。
- ⑬ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑭ 引き続きスタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑮ 実技試験を実施します。特定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

期末試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
実技試験は、ランダムに選んだキィのブルースでソロをとってもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席：60% 筆記試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニックⅡ
担当講師名	宮本裕史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。

授業内容

ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①これまでの手法の統合 3 / これまで行ってきた技法の統合を、スロー・テンポながらもリアルタイムで演奏し訓練。情報処理速度の向上を目指します。
- ②これまでの手法の統合 4 / これまでの練習をただひたすら繰り返し、今後の技能習得の土台となりうるレベルを目指します。
- ③旋律的短音階 Melodic Minor 2 / II7やVII \flat 7(#11)などのシチュエーションでメロディック・マイナー・スケールを使用する練習をします。
- ④Donna Leeを使つての練習 1 / スタンダード・チューンに多く共有される基本的な進行の「ドミナント・モーション、サブドミナントへの移動、II7、サブドミナント・マイナー、トニックディミ・ニッシュ、平行調(VIm)への移動」がすべて含まれている曲、チャーリーパーカー作曲のドナ・リーの和声進行上で今まで身に付けた技能のみでソロを書いてみたり、ゆっくりなテンポからアドリブを練習してみます。
- ⑤Donna Leeを使つての練習 2 / 上記練習をさらにくりかえます。
- ⑥模擬試験と採点 / 次週行う上記技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。

⑦譜面提出と実演(試験)／技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

中間試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画 (8回目から15回目)

⑧combination of diminished scale 1 / combination of diminished scaleの特性の把握と演奏訓練です。ドミナントモーション表現の練習もしていきます。

⑨combination of diminished scale 2 / 前週と同様な練習をし、さらなる上達を目指します。

⑩旋律的短音階 Melodic Minor 3 / V7altの練習の初歩として今までのメロディック・マイナー・スケール練習を当てはめて使用する実験・練習をします。

⑪Caravanを使った練習 1 / デューク・エリントン楽団の代表曲キャラバンの和声進行を使ってドナリーで出てきた和声進行パターン以外のもの「長く続くセブンスコード上でcombination of diminished scale、alterd scale、HPM5↓ scale、lydian b7th scaleなどを使う」などを練習し、一般的なジャズ曲でアドリブをする際に必要な項目の技能を補完します。

⑫Caravanを使った練習 2 / 上記曲をさらに練習し、実践的な技能に仕上げていきます。

⑬1年間のまとめのアドリブ合戦 / 伴奏音源に合わせ、一人一人アドリブを披露してもらい、その内容からきちんと身についたこと、もう少し練習が必要な事を論評していきます。

⑭模擬試験と採点 / 次週行う上記技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。

⑮譜面提出と実演(試験)／技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

期末試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンステクニックⅡ
担当講師名	寺屋ナオ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター&ベース

担当科目に関連する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、より発展的なアドリブやハーモニーのアイデアを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3Qはクロマチックアプローチを駆使し、より複雑なコードルな演奏をすることが目標です。2Qはそのアプローチをコード進行上で表現していくことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① シングルクロマチックアプローチについて練習します。
- ② 三和音(triad)に対する、シングルクロマチックアプローチの使い方を練習します。
- ③ ダブルクロマチックアプローチについて練習します。
- ④ 三和音及び四和音に対する、シングルクロマチックアプローチの使い方を練習します。
- ⑤ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑥ 引き続きスタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑦ 実技試験を実施します。特定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

中間試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
実技試験は、指定したコード進行上でアドリブソロを演奏してもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席：60% 筆記試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Maj7 コードでのアップーストラクチャートライアドを使ったソロについて練習します。
- ⑨ Min7 コードでのアップーストラクチャートライアドを使ったソロについて練習します。
- ⑩ 7th7 コードでのアップーストラクチャートライアドを使ったソロについて練習します。
- ⑪ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑫ 弦楽器奏者の為の Drop2 voicing の活用を練習します。
- ⑬ 弦楽器奏者の為の Drop3 voicing の活用を練習します。
- ⑭ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑮ 実技試験を実施します。特定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

期末試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
実技試験は、指定したコード進行上でアドリブソロを演奏してもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席：60% 筆記試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンステクニックⅢ
担当講師名	宮本裕史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。

授業内容

ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①前年度(アドバンスⅠ・Ⅱ)の復習/簡単な理解確認と技術確認をし必要があれば復習や補足を行います。
- ②diminished scale/トニックディミニッシュなど、ディミニッシュスケールを利用すべき場面での演奏方法の理解と練習をします。
- ③It Could Happen To Youを使った練習/スタンダード曲の定番を使って様々なディミニッシュの用途を研究していきます。
- ④ダブルタイムとアップテンポ 1/現在得ている技術を総合し、自分の能力、自分の楽器の特性の中で無理のない範囲の高速フレーズを制作します。
- ⑤ダブルタイムとアップテンポ 2/制作した高速フレーズの拍ずらし、連結、即興微調整を訓練します。
- ⑥ダブルタイムとアップテンポ 3/ミディアム・テンポでのダブルタイムソロ、またはアップテンポでのソロを練習し、運指、またはスライドコントロールのスピードアップを試みたり、早い音移動に対応できない場合の音の間引き方やリズム・フィギュアの変更の仕方を学んでゆきます。

⑦譜面提出と実演(試験)／技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

中間試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧バラード 1／前々週までの応用で、バラードでの2倍、4倍テンポでのアドリブを。伴奏と違うビート階層で演奏する手法を学びます。
- ⑨バラード 2／バラードにおける様々な音価を使うメロディアスなアドリブ。多様なインターバルの魅力を応用した旋律作りをします。
- ⑩ディレクションとサジェスチョン／アドリブ中の合図の発信と受信、そしてその項目について研究します。
- ⑪無伴奏1／無伴奏でも成立するソロや管楽器同士のデュオでのアドリブの実現を目指します。
- ⑫無伴奏2／音楽の成立に必要な事をよく考え実践する訓練。伴奏の助けを借りてきたことで身につけていなかった項目を発見し、その項目の重要性を理解したり、その為の練習法を考えて今後の課題にしていきます。
- ⑬カラオケ音源を使ったセッション1(模擬試験)／オーソドックスな曲を8曲ほど事前に決めておき、それをジャムセッション的にアドリブ合戦してみます。
- ⑭カラオケ音源を使ったセッション2(模擬試験)／前週と同じ8曲を、ジャムセッション的にアドリブ合戦してみます。
- ⑮カラオケ音源を使ったセッション2(期末試験)／期末試験として、前週・前々週と同じ8曲を、ジャムセッション的にアドリブ合戦してみます。

期末試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニックⅢ
担当講師名	寺屋ナオ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター&ベース

担当科目に関連する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、より発展的なアドリブやハーモニーのアイデアを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1Qはアドリブソロにおいてコードトーンの活用して、コードルな演奏をすることが目標です。2Qはそのアプローチをコード進行上で表現していくことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業ガイダンスを実施します。
- ② コードトーン 3rd を活用したソロを練習します。
- ③ コードトーン 3rd 及び 7th を活用したソロを練習します。
- ④ コードトーン全てを活用したソロを練習します。
- ⑤ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑥ 引き続きスタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑦ 実技試験を実施します。指定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

中間試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
 実技試験は、指定したコード進行上でアドリブソロを演奏してもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席：60% 筆記試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ テトラトニックの活用を練習します。
- ⑨ Tonic chordでのテンションノート(代理コード)の活用を練習します。
- ⑩ Sub dominant chordでのテンションノート(代理コード)の活用を練習します。
- ⑪ Dominant 7th chordでのテンションノート(代理コード)の活用を練習します。
- ⑫ Dominant 7th chordでのオーギュメントトラアイドの活用を練習します。
- ⑬ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑭ 引き続きスタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑮ 実技試験を実施します。特定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

期末試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
実技試験は、指定したコード進行上でアドリブソロを演奏してもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。
出席：60% 筆記試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニックⅢ
担当講師名	吉川 弾
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

国内外でのドラム、パーカッションの演奏活動、メジャーアーティストのサポート、CM楽曲提供等

メジャーアーティストサポートでの TV 出演、コンサートツアー、アメリカでの音楽フェス'ProgDay'出演、などの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、ドラムセットを使っての四肢独立を確立し、様々なドラムパターンを演奏出来るように指導していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

四肢独立を確立し、音楽的にドラムを演奏できるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Exercises in Eighth Notes
- ② Eighth Note Solos in Melodic Coordination
- ③ Exercises in Triplets
- ④ Triplets Solos in Melodic Coordination
- ⑤ Combining Eighth Notes and Triplets in Solo
- ⑥ Two-part Harmonic Coordination - Exercises in Eighth Notes
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験・宿題・授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Eighth Note Solos in two-part Harmonic Coordination

- ⑨ Exercises in Triplets
- ⑩ Triplets Solos in Two-part Harmonic Coordination
- ⑪ Combining Eighth Notes and Triplets in Solos
- ⑫ FOUR-WAY COORDINATION1
- ⑬ FOUR-WAY COORDINATION2
- ⑭ FOUR-WAY COORDINATION3
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験・宿題・授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニックⅢ
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

いろいろなスタンダードナンバーを分析して、演奏時の理解を深めていきます。特にピアノトリオのスタイルで演奏するための演奏を中心に、テーマをしっかりと弾くことを学習しましょう。春学期は4ビートやスウィング、ボサノバの曲をピックアップして学習しましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャズ演奏はアドリブも大事ですが、まずテーマをしっかりと演奏することがとても大切です。ピアノトリオで演奏するために、イントロやエンディングのパターンもたくさん弾けるようになりたいですね。

授業計画（1回目から7回目）

- ①4ビートのジャズスタンダードナンバーを一曲選び、一週目は詳しくアナライズしていきます。
- ②2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します。
- ③4ビートのジャズスタンダードナンバーを1曲選び、詳しくアナライズ。
- ④2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します
- ⑤4ビートのジャズスタンダードナンバーを1曲選び、詳しくアナライズ。
- ⑥2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します
- ⑦このクォーターで選曲し勉強した曲を選んで演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

しっかりテーマを演奏出来ているかどうか、そして授業中にアナライズしたことが活かされているかどうかをチェックポイントとします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ボサノバのスタンダードナンバーを一曲選び、一週目は詳しくアナライズしていきます。
- ⑨2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します。
- ⑩第Iクォーターで学習したジャズスタンダードナンバーをボサノバのリズムで演奏してみましよう。
- ⑪ボサノバのスタンダードナンバーを一曲選び、詳しくアナライズ。
- ⑫2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します。
- ⑬第Iクォーターで学習したジャズスタンダードナンバーをボサノバのリズムで演奏してみましよう。
- ⑭試験の曲を練習しましよう。
- ⑮今クォーターで選んだ曲を演奏してみましよう。

期末試験評価方法・評価基準

しっかりテーマを演奏出来ているかどうか、そして授業中にアナライズしたことが活かされているかどうかをチェックポイントとします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

4ビートにしたりボサノバにしたり、いろいろなビートで演奏出来ると楽しいですね。

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンステクニックⅣ
担当講師名	宮本裕史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。

授業内容

ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画 (1回目から7回目)

- ①難曲への挑戦1 / 難しい調、複雑な和声進行、変拍子などに挑戦。講師が実際の演奏現場で体験した曲の中から、高い応用力が要求されるであろう曲を抜粋し、攻略を目指します。
- ②難曲への挑戦2 / 前週同様、卒業後に対峙するであろう難しい局面を疑似体験し、攻略までの道筋を生徒同士で体験します。
- ③無伴奏とインタープレイ1 / モチーフの模倣や定石的掛け合いなどを多用したリレーを、数小節単位でソロ交代をし続けます。
- ④無伴奏とインタープレイ2 / 無伴奏アドリブを、様々なテンポなどで数小節単位でソロ交代し続けます。
- ⑤ビッグバンドなどでのアドリブ / ホーンセクションによるバックイングや、リズムセクションによるリズム的なアレンジが施されている伴奏との共演場面で必要な「引き算」や効果的な手法を研究します。
- ⑥カラオケ音源を使ったセッション1 (模擬試験) / オーソドックスな曲を8曲ほど事前に決めておき、それをジャムセッション的にアドリブ合戦してみます。

⑦カラオケ音源を使ったセッション2(期末試験)／期末試験として、前週と同じ8曲を、ジャムセッション的にアドリブ合戦してみます。

中間試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画(8回目から15回目)

⑧アウトサイド1／リズムセクションのハーモニーからの乖離度合いの調整を楽しむため様々な手法を学びます。

⑨アウトサイド2／前週の学習の延長。それぞれの手法の応用を実験します。

⑩収録とプレイバックと改善1／学校内外での自身の演奏を録画させたり、授業の序盤に合奏しそれを録画し、それを授業にて鑑賞、改善すべきところを探したり、音楽的に伸ばしていくべきところを探したりします。エンターテイメントとして、芸術として、伝統音楽のひとつとして、それぞれの良い所や好きなところを互いに発言させてみて、他者の意見の多様さから音楽の楽しみ方の多様性を学ばせます。

⑪収録とプレイバックと改善2／同様な内容です。

⑫収録とプレイバックと改善3／同様な内容です。

⑬収録とプレイバックと改善4／同様な内容です。

⑭模擬試験と採点／次週行うジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。曲は選択自由。

⑮譜面提出と実演(試験)／ジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

期末試験評価方法・評価基準

理解度と技術の習得度で判断します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンステクニックⅣ
担当講師名	寺屋ナオ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター&ベース

担当科目に関連する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、より発展的なアドリブやハーモニーのアイデアを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3Qはクロマチックアプローチを駆使し、より複雑なコードルな演奏をすることが目標です。2Qはそのアプローチをコード進行上で表現していくことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① シングルクロマチックアプローチについて練習します。
- ② 三和音(triad)に対する、シングルクロマチックアプローチの使い方を練習します。
- ③ ダブルクロマチックアプローチについて練習します。
- ④ 三和音及び四和音に対する、シングルクロマチックアプローチの使い方を練習します。
- ⑤ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑥ 引き続きスタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑦ 実技試験を実施します。特定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

中間試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
実技試験は、指定したコード進行上でアドリブソロを演奏してもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席：60% 筆記試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Maj7 コードでのアップーストラクチャートライアドを使ったソロについて練習します。
- ⑨ Min7 コードでのアップーストラクチャートライアドを使ったソロについて練習します。
- ⑩ 7th7 コードでのアップーストラクチャートライアドを使ったソロについて練習します。
- ⑪ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑫ 弦楽器奏者の為の Drop2 voicing の活用を練習します。
- ⑬ 弦楽器奏者の為の Drop3 voicing の活用を練習します。
- ⑭ スタンダードナンバーのコード進行で、より実用的に練習します。
- ⑮ 実技試験を実施します。特定のコード進行でアドリブ演奏をしてもらい、その内容で評価します。

期末試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。
実技試験は、指定したコード進行上でアドリブソロを演奏してもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席：60% 筆記試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニックⅣ
担当講師名	吉川 弾
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

国内外でのドラム、パーカッションの演奏活動、メジャーアーティストのサポート、CM楽曲提供等

メジャーアーティストサポートでの TV 出演、コンサートツアー、アメリカでの音楽フェス'ProgDay'出演、などの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、ドラムセットを使っての四肢独立を確立し、様々なドラムパターンを演奏出来るように指導していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

四肢独立を確立し、音楽的にドラムを演奏できるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Four-way Coordination on the Drum Set Studies to develop the left foot
- ② Adding the left hand-1
- ③ Adding the left hand-2
- ④ Adding the left hand-3
- ⑤ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-1
- ⑥ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-2
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験・宿題・授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-3

- ⑨ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-4
- ⑩ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-5
- ⑪ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-6
- ⑫ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-7
- ⑬ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-8
- ⑭ COMPLETE INDEPENDENCE in 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, and 6/4 time-9
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験・宿題・授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

特記事項

特になし

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	アドバンスドテクニックⅣ
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

いろいろなスタンダードナンバーを分析して、演奏時の理解を深めていきます。秋学期はピアノトリオ演奏以外にも、管楽器が入った場合、ギターが入った場合、あるいはボーカルといっしょの場合など、様々なシチュエーションでの演奏を中心に、学習しましょう。曲中でビートが変わる曲をピックアップして学習しましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャズ演奏はアドリブも大事ですが、まずテーマをしっかり演奏することがとても大切です。ピアノがイントロやエンディングをリードしていく場面がたくさんあります。イントロ、エンディングのパターンが豊富だと楽しいですね。

授業計画（1回目から7回目）

- ①今回は特に曲中でビートが変わる選曲をします。いつものように一週目はアナライズです。
- ②2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します。
- ③ビートの変化を楽しみましょう。自分でスタンダードナンバーにビートの変化を付けてもいいですね。
- ④2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します
- ⑤いろいろなスタンダードナンバーで、ビートの変化、あるいは後半の転調など、工夫してみましょう。
- ⑥2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します
- ⑦このクォーターで選曲し勉強した曲を選んで演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

しっかりテーマを演奏出来ているかどうか、そして授業中にアナライズしたことが活かされているかどうかをチェックポイントとします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧毎回、演奏しながらその場でアナライズしていく訓練をしていきましょう。知らない曲を突然演奏しなくてはならないことはよくあります。

⑨指示された曲を演奏します。一度弾いたらコード進行もメロディーも覚えるつもりで演奏してみましょう。

⑩好きなスタンダードナンバーを選んで演奏しましょう。バースがある曲も楽しいですよ。

⑪好きなスタンダードナンバーを選んで演奏します。ビートを作る前に、ピアノだけで自由に演奏するパターンにもチャレンジしてみましょう。

⑫2週目は前回選んだ曲を実際に演奏します。

⑬どんな曲をどんなスタイルで演奏するか考えて選曲しましょう。

⑭前回選んだ曲を練習します。

⑮今クォーターで選んだ曲を演奏してみましょう。

期末試験評価方法・評価基準

しっかりテーマを演奏出来ているかどうか、そして授業中にアナライズしたことが活かされているかどうかをチェックポイントとします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

いろいろな人といろいろな場面で楽しく演奏出来るようになってほしいと思います。

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズセッションI
担当講師名	宮本裕史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セッションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおけるアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業内容

ジャムセッションに必要な知識と技術を短期間で吸収し、並行して即興主体のジャズアンサンブルに於いて必要とされる様々な技法や常識を学んでいきます。また、専攻実技や各授業で得た知識や技術を試す一番身近な実験の場としての役割も大切にしながら進行していきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

春学期はクラス内での音楽的基礎知識を共有することに重点を置きます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ジャズアンサンブルの基礎知識 1 / 各楽器の役割や一般的なジャズアンサンブルでの曲の構成について解説。共通の認識を増やします。
- ②鑑賞と模倣 1 / 前回の解説と照らし合わせながら過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ③アドリブ中の各楽器の練習 1 / 簡単な和音進行の曲でソロ、ベースのウォーキング、ピアノのコンピング、ドラムのレガートなどを反復練習をします。
- ④定番曲テーマアンサンブル練習 1 / 全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習をします。
- ⑤アドリブ中の各楽器の練習 2 / 第3回の延長。また、第7回の日に行う試験曲を決め、その際の方針を相談し合います。
- ⑥試験曲準備 / 試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑦試験・ジャズ合奏。 / 今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

下級生は基礎理解度合、上級生は上達度合を重視します。出席：40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ⑨鑑賞と模倣2／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ⑩アドリブ中の各楽器の練習3／各楽器の役割、ソロ、ベースのウォーキング、ピアノのコンピング、ドラムのレガートなどを反復練習をします。
- ⑪定番曲テーマアンサンブル練習2／全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習を中心に授業します。
- ⑫様々なテンポの練習／バラード以外の全テンポを経験。また夏休み前に各生徒の課題（宿題ではない）を告げそれぞれの攻略方法を考えます。
- ⑬夏休み明けの進歩確認／長期休暇中にどれだけ復習できたかを確認します。
- ⑭試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑮試験・ジャズ合奏／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

下級生は基礎理解度合、上級生は上達度合を重視します。出席：40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズセッションⅡ
担当講師名	宮本裕史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおけるアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業内容

ジャムセッションに必要な知識と技術を短期間で吸収し、並行して即興主体のジャズアンサンブルに於いて必要とされる様々な技法や常識を学んでいきます。また、専攻実技や各授業で得た知識や技術を試す一番身近な実験の場としての役割も大切にしながら進行していきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

秋学期はジャズ&ポピュラーにおける総合的なアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ②鑑賞と模倣3／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ③アドリブ中の各楽器の練習4／各楽器個別の課題を決めアンサンブルを通してそれを解決する反復練習をします。
- ④定番曲テーマアンサンブル練習3／全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習を中心に進行します。
- ⑤ダイナミクス／抑制が利き、十分に間(ま)を取った静かな演奏と、爆発的な激しい演奏の双方の研究をします。
- ⑥試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑦試験・ジャズ合奏。／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

下級生・上級生ともに上達度合を重視します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ⑨鑑賞と模倣4／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ⑩違うリズム／ラテンやブラジル音楽、ファンクなどのリズム、または3拍子などを演奏し、今までの学習からの応用を試します。
- ⑪冬休み明けの進歩確認／アンサンブルにおける情報処理速度を長期休暇中にどれだけアップできたかを確認します。
- ⑫情報交換会／学外のジャムセッションや音楽活動経験など、各生徒が体験した情報を共有。講師が経験したエピソードも披露します。
- ⑬アドリブ中の各楽器の練習5／各楽器個別の課題を決め、様々な曲の合奏を通してそれを解決する反復練習をします。
- ⑭試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑮試験・ジャズ合奏。／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

下級生・上級生ともにアンサンブルに対する意識の深さ、そして以前からの上達度合を重視します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズセッションⅢ
担当講師名	宮本裕史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経歴(ジャズオーケストラのソリスト、セッションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおけるアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業内容

ジャムセッションに必要な知識と技術を短期間で吸収し、並行して即興主体のジャズアンサンブルに於いて必要とされる様々な技法や常識を学んでいきます。また、専攻実技や各授業で得た知識や技術を試す一番身近な実験の場としての役割も大切にしながら進行していきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

春学期はクラス内での音楽的基礎知識を共有することに重点を置きます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ジャズアンサンブルの基礎知識 1 / 各楽器の役割や一般的なジャズアンサンブルでの曲の構成について解説。共通の認識を増やします。
- ②鑑賞と模倣 1 / 前回の解説と照らし合わせながら過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ③アドリブ中の各楽器の練習 1 / 簡単な和音進行の曲でソロ、ベースのウォーキング、ピアノのコンピング、ドラムのレガートなどを反復練習をします。
- ④定番曲テーマアンサンブル練習 1 / 全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習をします。
- ⑤アドリブ中の各楽器の練習 2 / 第3回の延長。また、第7回の日に行う試験曲を決め、その際の方針を相談し合います。
- ⑥試験曲準備 / 試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑦試験・ジャズ合奏。 / 今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

下級生は基礎理解度合、上級生は上達度合を重視します。出席：40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ⑨鑑賞と模倣2／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ⑩アドリブ中の各楽器の練習3／各楽器の役割、ソロ、ベースのウォーキング、ピアノのコンピング、ドラムのレガートなどを反復練習をします。
- ⑪定番曲テーマアンサンブル練習2／全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習を中心に授業します。
- ⑫様々なテンポの練習／バラード以外の全テンポを経験。また夏休み前に各生徒の課題（宿題ではない）を告げそれぞれの攻略方法を考えます。
- ⑬夏休み明けの進歩確認／長期休暇中にどれだけ復習できたかを確認します。
- ⑭試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑮試験・ジャズ合奏／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

下級生は基礎理解度合、上級生は上達度合を重視します。出席：40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズセッションⅣ
担当講師名	宮本裕史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セッションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおけるアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業内容

ジャムセッションに必要な知識と技術を短期間で吸収し、並行して即興主体のジャズアンサンブルに於いて必要とされる様々な技法や常識を学んでいきます。また、専攻実技や各授業で得た知識や技術を試す一番身近な実験の場としての役割も大切にしながら進行していきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

秋学期はジャズ&ポピュラーにおける総合的なアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ②鑑賞と模倣3／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ③アドリブ中の各楽器の練習4／各楽器個別の課題を決めアンサンブルを通してそれを解決する反復練習をします。
- ④定番曲テーマアンサンブル練習3／全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習を中心に進行します。
- ⑤ダイナミクス／抑制が利き、十分に間(ま)を取った静かな演奏と、爆発的な激しい演奏の双方の研究をします。
- ⑥試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑦試験・ジャズ合奏。／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

下級生・上級生ともに上達度合を重視します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ⑨鑑賞と模倣4／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ⑩違うリズム／ラテンやブラジル音楽、ファンクなどのリズム、または3拍子などを演奏し、今までの学習からの応用を試します。
- ⑪冬休み明けの進歩確認／アンサンブルにおける情報処理速度を長期休暇中にどれだけアップできたかを確認します。
- ⑫情報交換会／学外のジャムセッションや音楽活動経験など、各生徒が体験した情報を共有。講師が経験したエピソードも披露します。
- ⑬アドリブ中の各楽器の練習5／各楽器個別の課題を決め、様々な曲の合奏を通してそれを解決する反復練習をします。
- ⑭試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑮試験・ジャズ合奏。／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

下級生・上級生ともにアンサンブルに対する意識の深さ、そして以前からの上達度合を重視します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	レコーディング I
担当講師名	関谷友貴
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

TRI4TH や黒船など自己のバンドでの CD 制作、他アーティストや CM 楽曲、ゲーム音楽などのレコーディング参加、バンドディレクション、サウンドプロデュース等

授業内容

アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用方法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンブル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スタジオ機材（キューボックス等）の使用方法や各種マイクの基本的な特性、DAW の基礎知識を学習します。様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、課題曲 1 プリプロ 1
- ②課題曲 1 プリプロ 2
- ③課題曲 1 プリプロ 3
- ④課題曲 1 レコーディング（小テスト）
- ⑤課題曲 2 プリプロ 1
- ⑥課題曲 2 プリプロ 2
- ⑦課題曲 2 レコーディング（試験）

中間試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティ 30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度 20%、演奏力・コミュニケーションスキル 20%、出席・受講態度 30% で算出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題曲3 プリプロ1
- ⑨課題曲3 プリプロ2
- ⑩課題曲3 プリプロ3
- ⑪課題曲3 レコーディング（小テスト）
- ⑫課題曲4 プリプロ1
- ⑬課題曲4 プリプロ2
- ⑭課題曲4 プリプロ3
- ⑮課題曲4 レコーディング（試験）

期末試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	レコーディングⅡ
担当講師名	関谷友貴
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

TRI4TH や黒船など自己のバンドでの CD 制作、他アーティストや CM 楽曲、ゲーム音楽などのレコーディング参加、バンドディレクション、サウンドプロデュース等

授業内容

アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンブル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スタジオ機材（キューボックス等）の使用法や各種マイクの基本的な特性、DAW の基礎知識を学習します。様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①課題曲 5 プリプロ 1
- ②課題曲 5 プリプロ 2
- ③課題曲 5 プリプロ 3
- ④課題曲 5 レコーディング（小テスト）
- ⑤課題曲 6 プリプロ 1
- ⑥課題曲 6 プリプロ 2
- ⑦課題曲 6 レコーディング（試験）

中間試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティ 30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度 20%、演奏力・コミュニケーションスキル 20%、出席・受講態度 30% で算出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題曲7プリプロ1
- ⑨課題曲7プリプロ2
- ⑩課題曲7プリプロ3
- ⑪課題曲7レコーディング（小テスト）
- ⑫課題曲8プリプロ1
- ⑬課題曲8プリプロ2
- ⑭課題曲8プリプロ3
- ⑮課題曲8レコーディング（試験）

期末試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	レコーディングⅢ
担当講師名	関谷友貴
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

TRI4TH や黒船など自己のバンドでの CD 制作、他アーティストや CM 楽曲、ゲーム音楽などのレコーディング参加、バンドディレクション、サウンドプロデュース等

授業内容

アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用方法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンブル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スタジオ機材（キューボックス等）の使用方法や各種マイクの基本的な特性、DAW の基礎知識を学習します。様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、課題曲1プリプロ1
- ②課題曲1プリプロ2
- ③課題曲1プリプロ3
- ④課題曲1レコーディング（小テスト）
- ⑤課題曲2プリプロ1
- ⑥課題曲2プリプロ2
- ⑦課題曲2レコーディング（試験）

中間試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題曲3 プリプロ1
- ⑨課題曲3 プリプロ2
- ⑩課題曲3 プリプロ3
- ⑪課題曲3 レコーディング（小テスト）
- ⑫課題曲4 プリプロ1
- ⑬課題曲4 プリプロ2
- ⑭課題曲4 プリプロ3
- ⑮課題曲4 レコーディング（試験）

期末試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	レコーディングⅣ
担当講師名	関谷友貴
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

TRI4TH や黒船など自己のバンドでの CD 制作、他アーティストや CM 楽曲、ゲーム音楽などのレコーディング参加、バンドディレクション、サウンドプロデュース等

授業内容

アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用方法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンブル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スタジオ機材（キューボックス等）の使用方法や各種マイクの基本的な特性、DAW の基礎知識を学習します。様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①課題曲 5 プリプロ 1
- ②課題曲 5 プリプロ 2
- ③課題曲 5 プリプロ 3
- ④課題曲 5 レコーディング（小テスト）
- ⑤課題曲 6 プリプロ 1
- ⑥課題曲 6 プリプロ 2
- ⑦課題曲 6 レコーディング（試験）

中間試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティー 30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度 20%、演奏力・コミュニケーションスキル 20%、出席・受講態度 30%で算出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題曲7プリプロ1
- ⑨課題曲7プリプロ2
- ⑩課題曲7プリプロ3
- ⑪課題曲7レコーディング（小テスト）
- ⑫課題曲8プリプロ1
- ⑬課題曲8プリプロ2
- ⑭課題曲8プリプロ3
- ⑮課題曲8レコーディング（試験）

期末試験評価方法・評価基準

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識（各種機材の取り扱い等）の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブル I
担当講師名	遠山拓志
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプロデュースの実務経験があります。

授業内容

主にパート譜面を使用した、ラージアンサンブル形式の授業です。スタンダード曲をはじめ、様々なジャンルの楽曲にチャレンジします。クォーター毎に行われるライブ形式の試験に向けて、アレンジを加えながら完成させていきます。エンターテインメント性やパフォーマンス等も重要になります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏可能曲を増やせるよう個人技術の向上、アンサンブル力の向上を目指します。MCを含め、総合的に楽しいステージングが出来るように頑張りましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：顔合わせ、授業内容の説明、まずはセッションしてみよう。
- ②Now's the Time:セッションに慣れる
- ③1クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ④Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑤Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑥Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑦中間試験：Live形式で発表

中間試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30%平常点：30%試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス：1クォーター試験の復讐、反省点の確認
- ⑨2クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ⑩Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑪Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑫Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑬Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑭Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑮期末試験：Live形式で発表

期末試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と
実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30%平常点：30%試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブルⅡ
担当講師名	遠山拓志
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプロデュースの実務経験があります。

授業内容

主にパート譜面を使用した、ラージアンサンブル形式の授業です。スタンダード曲をはじめ、様々なジャンルの楽曲にチャレンジします。クォーター毎に行われるライブ形式の試験に向けて、アレンジを加えながら完成させていきます。エンターテインメント性やパフォーマンス等も重要になります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏可能曲を増やせるよう個人技術の向上、アンサンブル力の向上を目指します。MCを含め、総合的に楽しいステージングが出来るように頑張りましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：2クォーター試験の復讐、反省点の確認
- ②3クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。前期より曲の難易度が上がります。
- ③Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ④Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑤Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑥Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑦中間試験：Live形式で発表

中間試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30% 平常点：30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス：3クォーター試験の復讐、反省点の確認
- ⑨4クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ⑩Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑪Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑫Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑬Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑭Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑮期末試験：Live形式で発表

期末試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と
実技試験の内容で総合的に判断します。
出席：30%平常点：30%試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブルⅢ
担当講師名	遠山拓志
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプロダクションの実務経験があります。

授業内容

主にパート譜面を使用した、ラージアンサンブル形式の授業です。スタンダード曲をはじめ、様々なジャンルの楽曲にチャレンジします。クォーター毎に行われるライブ形式の試験に向けて、アレンジを加えながら完成させていきます。エンターテインメント性やパフォーマンス等も重要になります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏可能曲を増やせるよう個人技術の向上、アンサンブル力の向上を目指します。MCを含め、総合的に楽しいステージングが出来るように頑張りましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：顔合わせ、授業内容の説明、まずはセッションしてみよう。
- ②Now's the Time:セッションに慣れる
- ③1クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ④Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑤Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑥Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑦中間試験：Live形式で発表

中間試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30%平常点：30%試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス：1クォーター試験の復讐、反省点の確認
- ⑨2クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ⑩Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑪Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑫Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑬Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑭Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑮期末試験：Live形式で発表

期末試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と
実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30%平常点：30%試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブルⅣ
担当講師名	遠山拓志
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプロデュースの実務経験があります。

授業内容

主にパート譜面を使用した、ラージアンサンブル形式の授業です。スタンダード曲をはじめ、様々なジャンルの楽曲にチャレンジします。クォーター毎に行われるライブ形式の試験に向けて、アレンジを加えながら完成させていきます。エンターテインメント性やパフォーマンス等も重要になります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏可能曲を増やせるよう個人技術の向上、アンサンブル力の向上を目指します。MCを含め、総合的に楽しいステージングが出来るように頑張りましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：2クォーター試験の復讐、反省点の確認
- ②3クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。前期より曲の難易度が上がります。
- ③Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ④Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑤Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑥Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑦中間試験：Live形式で発表

中間試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30% 平常点：30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス：3クォーター試験の復讐、反省点の確認
- ⑨4クォーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ⑩Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑪Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑫Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑬Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑭Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑮期末試験：Live形式で発表

期末試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と
実技試験の内容で総合的に判断します。
出席：30%平常点：30%試験40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブルV
担当講師名	宮崎 明生
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末のアンサンブル試験に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画（1回目から7回目）

- ① 全体オリエンテーション1
- ② 全体オリエンテーション2
- ③ 自己紹介。一年間一緒に音楽を作り上げる仲間達へ自分を知って貰い、興味を抱いて貰えるようセルフプロデュース兼ねて自己紹介する。
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Drive Time）
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Captain Caribe）
- ⑥ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Chameleom）
- ⑦ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Seventh High）

中間試験評価方法・評価基準

1Q で取り扱った楽曲を演奏し、各自確実に楽曲に対するアプローチ法、アナライズが出来ているか確認します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：On Fire）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Tell me a bedtime story）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：My little brother）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Target）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Lingus）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Why not）
- ⑭ 春学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

学期末試験ライブに向けて、チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブルVI
担当講師名	宮崎 明生
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期末のアンサンブル試験に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画（1回目から7回目）

- ① ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Take Five）
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Rattletrap）
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Del Sasser）
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Cabo Frio）
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Bolivia）
- ⑥ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Country）
- ⑦ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Early am atitud）

中間試験評価方法・評価基準

3Q で取り扱った楽曲を演奏し、各自確実に楽曲に対するアプローチ法、アナライズが出来ているか確認します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Fiesta）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Gonna do it right）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Sierra）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：History lesson）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Always There）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Never gonna let you go）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

学期末試験ライブに向けて、チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブルⅦ
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ピアニストとしてサルサバンド、ラテンジャズバンドに所属し、多くのラテンミュージシャンと共演し、演奏活動を行なっております。

授業内容

ブラジル音楽を学習していきます。それぞれの音楽の仕組みを理解した上で、クラス全員が一丸となって楽しく、かつクオリティの高いパフォーマンスを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

25 分のライブパフォーマンスを行います。その際、ライブの進行も含め、技術もパフォーマンスもクラスが一つになって、音楽を創り上げることができているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①全体オリエンテーション①：クラスの紹介/試験についての説明
- ②全体オリエンテーション②：編成調整
- ③クラスオリエンテーション：メンバー紹介。1年間の流れの説明。ブラジル音楽の特徴について学習します。
- ④試験にむけての選曲①：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。
- ⑤試験にむけての選曲②：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。
- ⑥試験にむけての選曲③：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。
- ⑦試験にむけての選曲④：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。

中間試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も

おおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧各曲のブラッシュアップ①：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。
- ⑨各曲のブラッシュアップ②：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。
- ⑩各曲のブラッシュアップ③：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。
- ⑪各曲のブラッシュアップ④：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。
- ⑫各曲のブラッシュアップ⑤：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。
- ⑬各曲のブラッシュアップ⑥：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。
- ⑭通し①：MC も含め、時間配分にも気を配り、本番を想定した流れのリハーサルを行います。
- ⑮通し②：MC も含め、時間配分にも気を配り、本番を想定した流れのリハーサルを行います。

期末試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科ジャズ・ポピュラーコース
科目名	ジャズ・ポップスアンサンブルⅧ
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ピアニストとしてサルサバンド、ラテンジャズバンドに所属し、多くのラテンミュージシャンと共演し、演奏活動を行なっております。

授業内容

サルサ音楽を学習していきます。(クラスによっては春学期と秋学期がの内容が入れ替わります)。それぞれの音楽の仕組みを理解した上で、クラス全員が一丸となって楽しく、かつクオリティの高いパフォーマンスを目指します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

30 分のライブパフォーマンスを行います。その際、ライブの進行も含め、技術もパフォーマンスもクラスが一つになって、音楽を創り上げることができているかどうか。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ①春学期試験本番の検証：試験本番の映像を鑑賞して、ディスカッションします。そして、秋学期に学習するサルサ音楽の特徴について学習します。
- ②サルサ音楽について学習：サルサ音楽の特徴を学びます。イ S テップの練習もします。
- ③試験にむけての選曲①：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。
- ④試験にむけての選曲②：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。
- ⑤試験にむけての選曲③：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。
- ⑥試験にむけての選曲④：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。
- ⑦試験にむけての選曲⑤：学生からの提案を交えて、試験のための選曲をし、どんどん音を出していきます。

中間試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

⑧各曲のブラッシュアップ①：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。

⑨各曲のブラッシュアップ②：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。

⑩各曲のブラッシュアップ③：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。

⑪各曲のブラッシュアップ④：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。

⑫各曲のブラッシュアップ⑤：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。

⑬各曲のブラッシュアップ⑥：試験曲において、毎時間課題を見つけ、それを修正していきます。ラテンの授業なので、パフォーマンスにもこだわります。

⑭通し①：MC も含め、時間配分にも気を配り、本番を想定した流れのリハーサルを行います。

⑮通し②：MC も含め、時間配分にも気を配り、本番を想定した流れのリハーサルを行います。

期末試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

管弦打楽器コース

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。

クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音⑫：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音⑬：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音⑭：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音⑮：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑰：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑱：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑲：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑳：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音㉑：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音㉒：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともあります。その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅢ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ソルフェージュⅣ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、習熟度チェック これまでの音楽経験などを伺います。
- ②譜表・音名/音符・休符 楽譜の基礎となる項目を学びます。
- ③拍子/リズムの記譜法/変化記号 リズム周りの項目を学びます。
- ④前回までの復習、5度圏表と調 記譜のための基礎を固め、調について学びます。
- ⑤音階① 長音階を学びます。
- ⑥音階② 短音階を学びます。
- ⑦1Q末ペーパー試験 1Qで学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音程① 音程の基礎を学びます。
- ⑨音程② 臨時記号のついた音程、転回音程などを学びます。

- ⑩和音・コード① 基本的な和音とコードの型を学びます。
- ⑪和音・コード② ダイアトニックコードを学びます。
- ⑫夏休み前のまとめ これまでの学習を振り返り、夏休み中の課題を提示します。
- ⑬総合復習① 調、音階について復習します。
- ⑭総合復習② 音程、コード、その他必要と思われる項目について復習します。
- ⑮2Q 末ペーパー試験

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

テキストを用い、音楽理論の全範囲を学び、問題演習を通して知識を定着させていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後音楽を学んでいく上で必要となる音楽理論の、盤石な基礎を築いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①1Q2Qの復習① 主に音階、調の復習をします。
- ②1Q2Qの復習② 主に音程の復習をします。
- ③移調と転調① 移調と転調について、基礎を学びます。
- ④移調と転調② 移調楽器の記譜音、実音の違いを演習します。楽曲の転調箇所を分析を行います。
- ⑤楽語・記号 教科書巻末に記載された、楽語・記号を総合的に学びます。
- ⑥音楽理論のまとめ これまでに学んだ音楽理論を振り返ります。
- ⑦3Q末ペーパー試験 1Q～3Qまでに学んだ項目の試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。
筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コード① 基本の型について復習します。
- ⑨コード② ダイアトニックコードを復習します。

- ⑩コード③ ドミナントモーション、ツーファイヴワンについて学びます。
- ⑪コード④ セカンダリードミナント、コードプログレッションについて学びます。
- ⑫コード⑤ カデンツ、代理コードについて学びます。
- ⑬コード⑥ テンションコードについて学びます。
- ⑭これまでの総復習、まとめ
- ⑮4Q 末ペーパー試験 1年間で学んだ全項目の試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

ペーパーテストを行います。

筆記試験の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ペンタトニック・スケール
- ② セカンダリー・ドミナント
- ③ パッシング・ディミニッシュ
- ④ 循環コード(1)
- ⑤ 循環コード(2)
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 1Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ サブドミナント・マイナー
- ⑨ バッキング
- ⑩ カノン
- ⑪ リズム

- ⑫ カウンターライン、カウンターメロディ
- ⑬ リフ
- ⑭ KBD ハーモニー
- ⑮ 2Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	音楽理論Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 裏コード
- ② コード付け
- ③ ホルンの5度(1)
- ④ ホルンの5度(2)
- ⑤ ナポリの和音
- ⑥ KBD ハーモニー
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ドリアン
- ⑨ ミクソリディアン
- ⑩ フリジアン
- ⑪ ジプシー

- ⑫ ブルー・ノート
- ⑬ 試演 (1)
- ⑭ 試演 (2)
- ⑮ 4Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 I
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い、音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れることで、作編曲の手法を学んでいきます。1Q では様々なコード進行の例を知り、2Q では様々な楽器編成を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 皆さんの好きな曲などを伺い、聴いてみます。
- ②長調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ③短調の曲について、響きやコードなど、分析をします。
- ④循環コードの楽曲について、いくつかのコード例を演奏し、分析をします。
- ⑤カノン進行の楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑥王道コードの楽曲について、いくつかの例を演奏し、分析をします。
- ⑦1Q 末試験提示された構造の例を用い、短い作品の編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。
提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧『オーケストラストーリーズとなりのトトロ』より『さんぽ』オーケストラの楽器、編

成を学びます。

- ⑨『花束を君に』 混成四部合唱の編成を学びます。
- ⑩『Purple Haze』 (Kronos Quartet) 弦楽四重奏の編成を学びます。
- ⑪『ラブソディ・イン・ブルー』 サクソフォーン四重奏の編成を学びます。
- ⑫『リベルタンゴ』 木管五重奏を学びます。
- ⑬『ルパン三世のテーマ』 ジャズオーケストラの編成を学びます。
- ⑭『東風』 ピアノ連弾の編成を学びます。
- ⑮2Q 末試験 自身の専攻楽器を用いた楽曲を作曲します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲演習 II
担当講師名	ジェニングス貴子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、作曲家として楽曲提供、劇伴業界での作編曲、オーケストレーション、コンサートアレンジの経験を持ちます。

授業内容

既存曲の分析を行い音楽の構造を知り、演奏を通して様々な楽曲に触れ、作編曲の手法を学んでいきます。

3Qでは、これまでに音楽理論で学んできたコードに慣れるために、有名なミュージカル楽曲を歌い、分析しながら、コード伴奏を付けていきます。

4Qでは作曲に挑戦し、作品を完成させます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な曲を分析・理解し、自分自身でも作曲し、その作品を楽譜で書き残すことを目標としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 『Let It Go』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ② 『In to the unknown』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ③ 『A Whole New World』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ④ 『Chim Chim Cher-ee』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑤ 『A Dream Is a Wish Your Heart Makes』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑥ 『Winter Wonderland』 楽曲分析、歌いながらコード伴奏、リハーモニゼーションなど行います。
- ⑦ 3Q末試験 課題のメロディをもとに、コードを用いて編曲をします。

中間試験評価方法・評価基準

編曲課題を提出します。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲作品への取り組み① これまで学んだことを活かし、作曲作品を作り始めます。
- ⑨作曲作品への取り組み② 作曲を続けていきます。
- ⑩作曲作品への取り組み③ 作曲を続けていきます。
- ⑪作曲作品への取り組み④ 作曲を続けていきます。
- ⑫作曲作品への取り組み⑤ 作曲を続けていきます。
- ⑬作曲作品への取り組み⑥ 作曲を続けていきます。
- ⑭作曲作品への取り組み⑦ 作曲を続けていきます。
- ⑮作曲作品完成へ 作品を完成させ、楽譜で提出します。

期末試験評価方法・評価基準

作曲作品を提出してもらいます。

提出課題の結果 50%、出席・平常授業の取り組み 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲Ⅲ
担当講師名	小松真理
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際にアンサンブルで演奏する自作曲を編曲し、スコア・パート譜を作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Aメロの制作
- ② Bメロの制作
- ③ AとBのバックキング
- ④ Dr. と Bass
- ⑤ 試演
- ⑥ イントロとコーダ
- ⑦ 1Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 演奏時間 / テンポ / 小節数について
- ⑨ 楽曲構成 / テーマ作り
- ⑩ 各パーツの作成
- ⑪ 試演

- ⑫ カウンターライン、カウンターメロディ
- ⑬ リフ
- ⑭ スコアチェック
- ⑮ 2Q 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲Ⅳ
担当講師名	小松真理
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作編曲家としての実務経験を多数持ちます。

授業内容

アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際にアンサンブルで演奏する自作曲を編曲し、スコア・パート譜を作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リファレンス(1)
- ② リファレンス(2)
- ③ テーマ制作
- ④ ハモリ
- ⑤ 試演
- ⑥ スコアチェック
- ⑦ 3Q 試験

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 30分プログラム
- ⑨ グループ作曲
- ⑩ グループ作曲(1)
- ⑪ グループ作曲(2)

- ⑫ クラス作曲
- ⑬ 30分プログラム(リハ)
- ⑭ 30分プログラム(本番)
- ⑮ 4Q試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20% 試験 30% 出席点 50%
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	D T M基礎 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

パソコンの基本的な使い方、MIDI シーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、および MIDI の基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生での DAW への学習の基礎の習得とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase の基本操作を習得し、MIDI ファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① PC の基本操作を学びます。
 - ② Cubase を起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
 - ③ Cubase にデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
 - ④ 与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。
 - ⑤ ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
 - ⑥ パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑦ プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
- ⑧ MIDI について学習します。MIDI チャンネルについて。
- ⑨ アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
- ⑩ ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
- ⑪ 拍子、テンポを設定します
- ⑫ 課題作成作業
- ⑬ 課題作成作業
- ⑭ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	D T M基礎 II
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

MIDI 規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Cubase で音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ベロシティーを設定してドラムのアクセントをつけます。
 - ② プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します。
 - ③ クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リムパターン作成。
 - ④ ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
 - ⑤ パーカッションパートを追加します。
 - ⑥ 課題作成作業
 - ⑦ 課題提出
- 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑨ ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
- ⑩ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
- ⑪ 課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
- ⑫ トラックをコピーして、パートを増やします。
- ⑬ トラックをコピーして、パートを増やします。データを確認します。
- ⑭ 全体のバランスを取り完成させます
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5点、遅刻 3点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から30点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書 I
担当講師名	有馬知章
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDI だけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

MIDI データをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubase でオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 基礎内容を復習し保存方法、データのバージョン管理、操作方法等を確認します。
- ② CD からオーディオファイルを読み込みます。
- ③ オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作った MIDI パートを重ねます。
- ④ オーケストラのスコアを入力します。
- ⑤ 強弱、テンポ変化等の表現をつけます。
- ⑥ 各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
- ⑦ 完成したデータを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
- ⑨ エフェクト処理について学習します。
- ⑩ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑪ 作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
- ⑫ 1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
- ⑬ アレンジ作業。MIDI エフェクトを追加します。
- ⑭ トラックダウン作業
- ⑮ 課題提出

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	譜面浄書Ⅱ
担当講師名	有馬知章
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

大学での研究（音響工学）、シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサーとしての音楽制作業務、マルチメディアコンテンツ制作業務、Web デザイナーの経験があります。

授業内容

譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得した DTM の知識を応用し、DTM ソフトと譜面浄書の連携をマスターします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Finale を使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フィナーレの起動から初期設定ステップ入力について。
- ② 音符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。簡単なメロディーの入力。
- ③ 各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。
- ④ 歌詞入力。ページレイアウト設定。
- ⑤ コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させます。
- ⑥ ページレイアウトの基本設定を学習します。
- ⑦ 課題曲の楽譜を完成させ提出します。

中間試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。
 欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。
 出席 25% 平常点 25% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
- ⑨ ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
- ⑩ 2クオータに提出したオリジナル曲の MIDI データを読み込んでスコアを作成します。
- ⑪ 読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。
- ⑫ セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。
- ⑬ 各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
- ⑭ ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
- ⑮ スコアを完成させ提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題提出。授業内容を理解しているか確認します。

欠席 5 点、遅刻 3 点を減点します。

出席 25% 平常点 25% 試験 50%

特記事項

授業中の他科目の課題作成等を禁止します。守られない場合には総合得点から 30 点減点します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法 I
担当講師名	広瀬勇人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲をヤン・ヴァンデルロースト、ピート・スウェルツ、松平頼暁、他各氏に師事。東京ミュージック&メディアアーツ尚美、ボストン音楽院（アメリカ）作曲科を経て、レメンズ音楽院（ベルギー）大学院・作曲科にて修士号を取得。これまで国内外の出版社から吹奏楽作品・アンサンブル作品が数多く出版・録音され、全国各地の吹奏楽コンクール、アンサンブル・コンテストでその作品が演奏される。

授業内容

この科目では、管弦打楽器の編曲法を学びます。編曲したい作品を選び、自分の楽器を含むアンサンブル（木管・金管アンサンブル、サクソフォン四重奏、打楽器アンサンブル等の同族アンサンブル）の作品に編曲します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

管弦打楽器の編曲に必要な技術（オーケストレーション、移調等）を習得し、学期末に編曲作品を履修生同士で（楽器が足りない場合は履修生以外の学生にもお願いして）試奏・収録します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス／譜例を用いた編曲作業
- ②編曲①：選曲・編曲開始
- ③編曲②：選曲・編成確認
- ④編曲③：選曲・編成決定
- ⑤編曲④：楽譜の体裁、進捗度のチェック
- ⑥編曲⑤：全体の長さ、構成のチェック
- ⑦編曲⑥：期末作品提出（スコアのみ、出来た所まで）

中間試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧編曲⑦：1Q終了時までの作業総括
- ⑨編曲⑧：収録の演奏者リスト提出
- ⑩編曲⑨：収録の演奏者、収録スケジュール確定
- ⑪パート譜の作成①：見やすいパート譜の工夫
- ⑫パート譜の作成②：作品提出（スコア、パート譜）
- ⑬収録①：編曲作品音出し
- ⑭収録②：編曲作品音出し
- ⑮収録③：編曲作品音出し

期末試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

特記事項

学期末に編曲作品の音出し・収録を行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法 II
担当講師名	広瀬勇人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲をヤン・ヴァンデルロースト、ピート・スウェルツ、松平頼暁、他各氏に師事。東京ミュージック&メディアアーツ尚美、ボストン音楽院（アメリカ）作曲科を経て、レメンズ音楽院（ベルギー）大学院・作曲科にて修士号を取得。これまで国内外の出版社から吹奏楽作品・アンサンブル作品が数多く出版・録音され、全国各地の吹奏楽コンクール、アンサンブル・コンテストでその作品が演奏される。

授業内容

この科目では、管弦打楽器の編曲法を学びます。編曲したい作品を選び、自分の楽器を含むアンサンブル（木管・金管アンサンブル、サクソフォン四重奏、打楽器アンサンブル等の同族アンサンブル）の作品に編曲します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

管弦打楽器の編曲に必要な技術（オーケストレーション、移調等）を習得し、学期末に編曲作品を履修生同士で（楽器が足りない場合は履修生以外の学生にもお願いして）試奏・収録します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期のおさらい／
- ②編曲①：選曲・編曲開始
- ③編曲②：選曲・編成確認
- ④編曲③：選曲・編成決定
- ⑤編曲④：楽譜の体裁、進捗度のチェック
- ⑥編曲⑤：全体の長さ、構成のチェック
- ⑦編曲⑥：期末作品提出（スコアのみ、出来た所まで）

中間試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧編曲⑦：3Q 終了時までの作業総括
- ⑨編曲⑧：収録の演奏者リスト提出
- ⑩編曲⑨：収録の演奏者、収録スケジュール確定
- ⑪パート譜の作成①：見やすいパート譜の工夫
- ⑫パート譜の作成②：作品提出（スコア、パート譜）
- ⑬収録①：編曲作品音出し
- ⑭収録②：編曲作品音出し
- ⑮収録③：編曲作品音出し

期末試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

特記事項

学期末に編曲作品の音出し・収録を行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅲ
担当講師名	高橋伸哉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

小編成吹奏楽の編曲法を学びます。編曲の技術を習得することはもちろん、演奏者の立場から吹奏楽のオーケストレーションや各パートの構成、働きなどを十分に理解し、自身の演奏に生かしましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

任意の楽曲（各自、自由に選曲）をマーチ風に編曲し、そのコンデンススコアを作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①編曲用の楽曲を選ぶにあたり、編曲に適した楽曲の特徴について学びます。
- ②編曲用の楽曲を決定し、キー設定やメロディーのパート配分などを考えます。
- ③吹奏楽小編成用のコンデンススコアの書式について学びます。
- ④編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑤マーチで使われるベースラインについて学びます。
- ⑥編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑦中間試験：7回目授業終了時点でのコンデンススコアを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。

作品完成までのプロセス（取り組み、計画性等）を、平常点として重視します。

出席：20% 平常点：40% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧中間試験として提出したコンデンススコアを返却し、個別に講評します。

- ⑨ハーモニーパートの連結法や音域、担当パートなどを学びます。
- ⑩編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑪副旋律（合いの手、カウンターラインなど）について学びます。
- ⑫編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑬マーチのイントロとエンディングについて学びます。
- ⑭編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑮期末試験：完成したコンデンススコアを提出します。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。

作品完成までのプロセス（取り組み、計画性等）を、平常点として重視します。

出席：20% 平常点：40% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲技法Ⅳ
担当講師名	高橋伸哉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

小編成吹奏楽によるポップス曲の編曲法を学びます。マーチ編曲との違いを知るだけでなく、ポップス曲の編曲では必要不可欠なドラムセットの書式についても学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

任意のポップス曲（各自、自由に選曲）を吹奏楽小編成に編曲し、そのコンデンススコアを作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ポップス曲の編曲で使用する、ドラムセットの記譜法を学びます。
- ② 編曲用の楽曲を決定し、キー設定やメロディーのパート配分などを考えます。
- ③ ドラムセットを含む、吹奏楽小編成用のコンデンススコアの書式について学びます。
- ④ 編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑤ ポップス曲のベースラインについて学びます。
- ⑥ 編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑦ 中間試験：7回目授業終了時点でコンデンススコアを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。

作品完成までのプロセス（取り組み、計画性等）を、平常点として重視します。

出席：20% 平常点：40% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 中間試験として提出したコンデンススコアを返却し、個別に講評します。
- ⑨ ポップス曲のハーモニーパートの連結法や音域、担当パートなどを学びます。

- ⑩編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑪ポップス曲の副旋律について学びます。
- ⑫編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑬ポップス曲のイントロとエンディングについて学びます。
- ⑭編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑮期末試験：完成したコンデンススコアを提出します。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。

作品完成までのプロセス（取り組み、計画性等）を、平常点として重視します。

出席：20% 平常点：40% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習Ⅰ
担当講師名	広瀬勇人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲をヤン・ヴァンデルロースト、ピート・スウェルツ、松平頼暁、他各氏に師事。東京ミュージック&メディアアーツ尚美、ボストン音楽院（アメリカ）作曲科を経て、レメンズ音楽院（ベルギー）大学院・作曲科にて修士号を取得。これまで国内外の出版社から吹奏楽作品・アンサンブル作品が数多く出版・録音され、全国各地の吹奏楽コンクール、アンサンブル・コンテストでその作品が演奏される。

授業内容

この科目では、管弦打楽器の作曲法を学びます。春学期は自分の専攻楽器のソロ+ピアノ伴奏の作品を作曲します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の専攻楽器の作曲法の理解を深め、同時に管弦打楽器のピアノ伴奏の作り方を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス／編曲と作曲の違い
- ②作曲①：作曲をする時（メロディから、和音から）
- ③作曲②：和音進行の基礎
- ④作曲③：二部形式、a'とbの作り方
- ⑤作曲④：三部形式、cの作り方
- ⑥作曲⑤：自由な部分の作り方
- ⑦作曲⑥：期末作品提出（スコアのみ、出来た所まで）

中間試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲⑦：伴奏形の作り方
- ⑨作曲⑧：伴奏形右手の作り方
- ⑩作曲⑨：伴奏形左手の作り方
- ⑪作曲⑩：コーダの作り方
- ⑫パート譜の作成：作品提出（スコア、パート譜）
- ⑬収録①：作曲作品音出し
- ⑭収録②：作曲作品音出し
- ⑮収録③：作曲作品音出し

期末試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

特記事項

学期末に作曲作品を自分で試奏し（ピアノ伴奏付き）、収録します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習 II
担当講師名	広瀬勇人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲をヤン・ヴァンデルロースト、ピート・スウェルツ、松平頼暁、他各氏に師事。東京ミュージック&メディアアーツ尚美、ボストン音楽院（アメリカ）作曲科を経て、レメンズ音楽院（ベルギー）大学院・作曲科にて修士号を取得。これまで国内外の出版社から吹奏楽作品・アンサンブル作品が数多く出版・録音され、全国各地の吹奏楽コンクール、アンサンブル・コンテストでその作品が演奏される。

授業内容

この科目では、管弦打楽器の作曲法を学びます。秋学期は引き続き自分の専攻楽器のソロ+ピアノ伴奏の作品、或いは自分の専攻楽器の含まれたアンサンブル作品を作曲します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の専攻楽器の作曲法の理解を深め、同時に管弦打楽器のピアノ伴奏の作り方を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期作品の返却と復習
- ②作曲①：作曲をする時（メロディから、和音から）
- ③作曲②：和音進行の基礎
- ④作曲③：二部形式、a'とbの作り方
- ⑤作曲④：三部形式、cの作り方
- ⑥作曲⑤：自由な部分の作り方
- ⑦作曲⑥：期末作品提出（スコアのみ、出来た所まで）

中間試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲⑦：伴奏形の応用、オーケストレーション①
- ⑨作曲⑧：伴奏形右手の応用、オーケストレーション②
- ⑩作曲⑨：伴奏形左手の応用、オーケストレーション③
- ⑪作曲⑩：コーダの作り方、オーケストレーション④
- ⑫パート譜の作成：作品提出（スコア、パート譜）
- ⑬収録①：作曲作品音出し
- ⑭収録②：作曲作品音出し
- ⑮収録③：作曲作品音出し

期末試験評価方法・評価基準

提出作品の内容、進み具合、出席状況を採点基準とします。

出席：10% 作品の進捗度：10% 提出作品の内容：80%

特記事項

学期末に作曲作品を自分で試奏し（ピアノ伴奏付き、またはアンサンブルの編成で）、収録します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習Ⅲ
担当講師名	高橋伸哉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

学生自身の専攻楽器を含む3～5重奏の室内楽曲を作曲し、春学期末には音出しも実施します。オリジナル作品の作曲を通して作曲の能力を高めるだけでなく、演奏者の立場から楽曲構成についての理解も深めましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自身の専攻楽器を含む、4～5分程度の室内楽曲（3～5重奏）を作曲（＝スコア作成）の上、全パート譜を作成して音出しをします。
さらに、自身の作品について400字程度の楽曲解説文も作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①作編曲で使用する楽器の音域表を作成し、各楽器への理解を深めます。
- ②各自、春学期に創作する楽曲の編成や曲数、曲調などを考えます。
- ③室内楽曲のスコアの書式について学びます。
- ④作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑤ソロや二重奏など、曲中でパート数を変化させるアイデアや効果について考えます。
- ⑥作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑦中間試験：7回目授業終了時点でのスコアを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。
作品完成までのプロセス（取り組み、計画性など）を、平常点として重視します。
出席：20% 平常点：40% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧中間試験として提出したスコアを返却し、個別に講評します。
- ⑨音出し時に必要なパート譜の書式や作成上の注意点を学びます。
- ⑩作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑪作品解説文の書式や作成上の注意点を学びます。
- ⑫作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑬次週のパート譜作成に向けて、スコアの最終チェックを行います。
- ⑭前週で完成したスコアをもとに、音出し用のパート譜を作成します。
- ⑮期末試験：スコアと作品解説文を提出し、音出しを実施します。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出（スコア、作品解説文）と音出しをおこないます。
作品完成までのプロセス（取り組み、計画性など）を、平常点として重視します。
出席：20% 平常点：40% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	作編曲試演実習Ⅳ
担当講師名	高橋伸哉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

学生自身の専攻楽器以外による3～5重奏の室内楽曲（※）を作曲し、秋学期末には音出しも実施します。

※木管専攻生：金管アンサンブル曲

金管専攻生：木管アンサンブル曲

弦・打楽器専攻生：木管または金管アンサンブル曲

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自身の専攻楽器を含まない、4～5分程度の室内楽曲（3～5重奏）を作曲（＝スコア作成）の上、全パート譜を作成して音出しをします。

さらに、自身の作品について400字程度の楽曲解説文も作成します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期末試験として提出したフルスコアを返却し、個別に講評します。
- ②各自、春学期に創作する楽曲の編成や曲数、曲調などを考えます。
- ③秋学期用のスコアの書式について学びます。
- ④作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑤秋学期用のパート数変化のアイデアや効果について考えます。
- ⑥作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑦中間試験：7回目授業終了時点でのスコアを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。

作品完成までのプロセス（取り組み、計画性など）を、平常点として重視します。

出席：20% 平常点：40% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧中間試験として提出したスコアを返却し、個別に講評します。
- ⑨秋学期用のパート譜の書式や作成上の注意点を学びます。
- ⑩作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑪秋学期用の作品解説文の書式や作成上の注意点を学びます。
- ⑫作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
- ⑬次週のパート譜作成に向けて、スコアの最終チェックを行います。
- ⑭前週で完成したスコアをもとに、音出し用のパート譜を作成します。
- ⑮期末試験：スコアと作品解説文を提出し、音出しを実施します。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出（スコア、作品解説文）と音出しをおこないます。
作品完成までのプロセス（取り組み、計画性など）を、平常点として重視します。
出席：20% 平常点：40% 試験 40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽指導実習 I
担当講師名	広瀬勇人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲活動と並行して、全国各地の吹奏楽連盟主催、吹奏楽指導講習会の講師を多数務める。吹奏楽指導・アンサンブル指導の教則本および DVD を、ヤマハ、ブレイン、ジャパンライム各社より多数出版。

授業内容

この科目では、履修生で構成されたウインド・オーケストラを学生指揮者が指揮・指導し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの仕切りまで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉や伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス／指揮者・曲目・パートリーダーの決定
- ②指揮者レッスン：学生指揮者 1（指揮者以外の聴講可能）
- ③指揮者レッスン：学生指揮者 2（指揮者以外の聴講可能）
- ④指揮者レッスン：学生指揮者 3（指揮者以外の聴講可能）
- ⑤指揮者レッスン：学生指揮者 4（指揮者以外の聴講可能）
- ⑥合奏①-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑦合奏①-2（指揮：学生、仕切り：講師）

中間試験評価方法・評価基準

出席状況を中心に、授業への取り組み方、学生指揮者・パートリーダーの担当有無などを総合的に評価します。

出席：80% 平常点：10% 指揮者／パートリーダー：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧合奏①-3（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑨合奏②-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑩合奏②-2（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑪合奏③-1（指揮／仕切り：学生）
- ⑫合奏③-2（指揮／仕切り：学生）
- ⑬合奏④-1：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑭合奏④-2：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑮合奏④-3：本番（指揮：学生）

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

本番は演奏会形式の発表会を行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽指導実習Ⅱ
担当講師名	広瀬勇人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲活動と並行して、全国各地の吹奏楽連盟主催、吹奏楽指導講習会の講師を多数務める。吹奏楽指導・アンサンブル指導の教則本および DVD を、ヤマハ、ブレーン、ジャパンプライム各社より多数出版。

授業内容

この科目では、履修生で構成されたウインド・オーケストラを学生指揮者が指揮・指導し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの仕切りまで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉や伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①指揮者ミーティング／指揮者・曲目の決定
- ②指揮者レッスン：学生指揮者 1（指揮者以外の聴講可能）
- ③指揮者レッスン：学生指揮者 2（指揮者以外の聴講可能）
- ④指揮者レッスン：学生指揮者 3（指揮者以外の聴講可能）
- ⑤指揮者レッスン：学生指揮者 4（指揮者以外の聴講可能）
- ⑥合奏①-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑦合奏①-2（指揮：学生、仕切り：講師）

中間試験評価方法・評価基準

出席状況を中心に、授業への取り組み方、学生指揮者・パートリーダーの担当有無などを総合的に評価します。

出席：80% 平常点：10% 指揮者／パートリーダー：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧合奏①-3（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑨合奏②-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑩合奏②-2（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑪合奏③-1（指揮／仕切り：学生）
- ⑫合奏③-2（指揮／仕切り：学生）
- ⑬合奏④-1：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑭合奏④-2：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑮合奏④-3：本番（指揮：学生）

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

本番は演奏会形式の発表会を行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽指導実習Ⅲ
担当講師名	広瀬勇人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲活動と並行して、全国各地の吹奏楽連盟主催、吹奏楽指導講習会の講師を多数務める。吹奏楽指導・アンサンブル指導の教則本および DVD を、ヤマハ、ブレーン、ジャパンプライム各社より多数出版。

授業内容

この科目では、履修生で構成されたウインド・オーケストラを学生指揮者が指揮・指導し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの手配まで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉や伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス／指揮者・曲目・パートリーダーの決定
- ②指揮者レッスン：学生指揮者 1（指揮者以外の聴講可能）
- ③指揮者レッスン：学生指揮者 2（指揮者以外の聴講可能）
- ④指揮者レッスン：学生指揮者 3（指揮者以外の聴講可能）
- ⑤指揮者レッスン：学生指揮者 4（指揮者以外の聴講可能）
- ⑥合奏①-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑦合奏①-2（指揮：学生、仕切り：講師）

中間試験評価方法・評価基準

出席状況を中心に、授業への取り組み方、学生指揮者・パートリーダーの担当有無などを総合的に評価します。

出席：80% 平常点：10% 指揮者／パートリーダー：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧合奏①-3（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑨合奏②-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑩合奏②-2（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑪合奏③-1（指揮／仕切り：学生）
- ⑫合奏③-2（指揮／仕切り：学生）
- ⑬合奏④-1：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑭合奏④-2：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑮合奏④-3：本番（指揮：学生）

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

本番は演奏会形式の発表会を行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽指導実習Ⅳ
担当講師名	広瀬勇人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲活動と並行して、全国各地の吹奏楽連盟主催、吹奏楽指導講習会の講師を多数務める。吹奏楽指導・アンサンブル指導の教則本および DVD を、ヤマハ、ブレーン、ジャパンプライム各社より多数出版。

授業内容

この科目では、履修生で構成されたウインド・オーケストラを学生指揮者が指揮・指導し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの仕切りまで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉や伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①指揮者ミーティング／指揮者・曲目の決定
- ②指揮者レッスン：学生指揮者 1（指揮者以外の聴講可能）
- ③指揮者レッスン：学生指揮者 2（指揮者以外の聴講可能）
- ④指揮者レッスン：学生指揮者 3（指揮者以外の聴講可能）
- ⑤指揮者レッスン：学生指揮者 4（指揮者以外の聴講可能）
- ⑥合奏①-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑦合奏①-2（指揮：学生、仕切り：講師）

中間試験評価方法・評価基準

出席状況を中心に、授業への取り組み方、学生指揮者・パートリーダーの担当有無などを総合的に評価します。

出席：80% 平常点：10% 指揮者／パートリーダー：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧合奏①-3（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑨合奏②-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑩合奏②-2（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑪合奏③-1（指揮／仕切り：学生）
- ⑫合奏③-2（指揮／仕切り：学生）
- ⑬合奏④-1：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑭合奏④-2：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑮合奏④-3：本番（指揮：学生）

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

本番は演奏会形式の発表会を行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I
担当講師名	中村均一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サクソフォン アカデミー1年生

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフォン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡って培ったアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

サクソフォン四重奏を基本にレパートリーの拡充、練習法、アンサンブル技術、等を取得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏家としてコンサートを開く能力を身に付けると共に指導者としてアンサンブルを指導できる様にする。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 練習の進め方をレクチャーします。
- ② 基礎的なアンサンブル力1 ハーモニー。「カンツォーナ・ヴァリエ」（グラズノフ）テーマを使用してハーモニーのトレーニング法を取得する
- ③ 基礎的なアンサンブル力2 対位法。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var. 1を使用して対位法を理解する
- ④ 基礎的なアンサンブル力3 声部の役割。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var. 2を使用して声部毎の役割を理解する
- ⑤ 基礎的なアンサンブル力4 装飾的な表現。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var. 4を使用して装飾的な表現の仕組みをスコアから読み取って研究をする
- ⑥ 基礎的なアンサンブル力5 テクニック。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var. 5を使用してテクニカルなアンサンブル力を鍛える
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。「グlazノフ作曲四重奏曲よりカンツォーナ・ヴァリエ」を演奏する。基礎的なアンサンブルの能力と課題を確認する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑨ オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑩ バロック曲（小品リストより）
- ⑪ ピアノ曲（小品リストより）
- ⑫ 「小四重奏曲」（フランセ）（他選択可）
- ⑬ 「ルーマニア民族の主題による組曲」（J. アブシル）
- ⑭ 「四重奏曲」（ラクール）（他選択可）
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20% リサイタルピースとして楽曲を取り上げ、選曲を含めて様々なジャンルの音楽に向き合い、表現と技術を鍛錬する。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (クラリネット)
担当講師名	中村めぐみ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広いの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊管特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッションしながらレッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン、
- ⑩ レッスン。 ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑧ レッスン。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン、録音、ディスカッション。
- ⑪ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑫ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%、

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (トランペット)
担当講師名	班目 加奈
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

音程と和音の理論を学習し、二重奏と四重奏の演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリー研究を行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

音程と和音を理解し、二重奏と四重奏のコラールでそれらを認識しながら演奏できるようになります。アンサンブルの基礎を学び、基本的な技術を習得できます。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ガイダンス
- ②音程の理論を学習します。ユニゾンを合わせる練習をします。
- ③和音の理論を学習します。完全音程と3度を合わせる練習をします。二重奏のグループ分けをします。
- ④完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑤完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑥完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑦二重奏の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。
出席：50%、平常点：50%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧完全音程、3度、三和音を合わせる練習をします。四重奏のグループ分けを行います。
- ⑨三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑩三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑪三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑫四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑬四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑭四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑮四重奏の発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。
出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (トロンボーン)
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック 1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック 2 音色・バランス・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表 授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (フルート)
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

管楽器奏者にとって必要不可欠なアンサンブル能力を養うため、本授業は先ず同族楽器同士での音程、テンポ、リズム、音量バランスを合わせる基本訓練に取り組みます。また、特殊楽器（ピッコロ、アルト、バス、コントラバス）の取り扱いを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルの最も基本的な問題と、特殊楽器基礎知識を身に付ける事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 履修学生顔合わせ。インスペクター他の必要係選出。特殊楽器（ピッコロ、アルト、バス、コントラバス FL.）の取り扱い。
- ② 基本演習(1)：Fl. の音程の特徴と修正方法、ユニゾン、オクターブ音程、チューニングの訓練。
- ③ 基本演習(2)：コード進行の基礎課題 / J. S. Bach コラール等
- ④ 基本演習(3)：アインザッツ、テンポ、リズム基礎課題 / M. Schmitz
- ⑤ 模倣課題(1)：古典、カノン、フーガの二重奏曲(Telemann 他)。バロック音楽の様式
- ⑥ 模倣課題(2)：Kanon-Karussell
- ⑦ I クォーター末試験（授業内発表）

中間試験評価方法・評価基準

アンサンブル基本課題、カノン二重奏曲の授業内発表の演奏によって、基本的な音程、テンポ感、リズム等のアンサンブル対応力を評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(1)二重奏曲

- ⑨ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(2)二重奏曲
- ⑩ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(3)三重奏曲
- ⑪ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(4)三重奏曲
- ⑫ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(5)四重奏曲
- ⑬ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(6)四重奏曲
- ⑭ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(7)四重奏曲
- ⑮ IIクォーター末試験（授業内発表）

期末試験評価方法・評価基準

IIクォーター演習の2～4重奏曲の授業内発表によって、基本的なアンサンブル技術の到達度、授業出席率、積極的な授業参加態度などを総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (ホルン)
担当講師名	下田太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も 2 人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーにしていく事を目標・目的としています。

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ① ガイダンス
- ② 平易な二重奏と四重奏のアプローチ
- ③ 平易な二重奏と四重奏の演奏に取り組む
- ④ 狩りの楽器としてのホルンについて
- ⑤ 狩りの楽器としてのホルン音楽の発展 (その 2)
- ⑥ 室内楽作品として地位を得たホルンの作品
- ⑦ ホルントリオに触れる

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、受講態度、出席状況、作品の読譜力、作品の分析力、リハーサルをまとめて行く力などにより評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ ウィーンの近代作品
- ⑨ ドイツの近代作品
- ⑩ ホミリウスの作品
- ⑪ ホミリウス全曲まとめ
- ⑫ ウィーンバルトホルン合奏団の歴史と作品
- ⑬ 1800年代の二重奏の作品
- ⑭ 1800年代の二重奏の作品
- ⑮ 春学期のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業の態度、作品の分析力、室内楽の演奏の完成に向けてのまとめかた、演奏力などから評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (ユーフォニアム・テューバ)
担当講師名	齋藤充
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・テューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・テューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・テューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② デュエットを学ぶ
- ③ デュエットの理解を深める
- ④ デュエットのまとめ
- ⑤ トリオの導入
- ⑥ トリオの理解を深める
- ⑦ トリオのまとめ

中間試験評価方法・評価基準

デュエットとトリオの演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ カルテットの導入、合唱曲を用いて

- ⑩ 合唱曲の理解を深める
- ⑪ 合唱曲のまとめ
- ⑫ カルテットの応用、バロック作品を用いて
- ⑬ バロック作品の理解を深める
- ⑭ バロック作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

デュエット、トリオ、カルテット、そして初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

⑩ 楽曲演習・構成 2

⑪ 楽曲演習・構成 3

⑫ 楽曲演習・構成 4

⑬ 楽曲演習・構成 5

⑭ 楽曲演習・構成 6

⑮ 授業内発表

学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (弦楽器)
担当講師名	舘市正克 他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

多様な運弓奏法で多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を習得します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

実習にて多くの奏法を習得する。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲を選定し、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式と意図を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではの純正調に挑む
- ⑭ 楽曲の全体像を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

アンサンブルの基本を学ぶので、個人演奏の向上に役立つ。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (打楽器)
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（アインザッツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
 - ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
 - ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
 - ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
 - ⑭ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑥
- 試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑮ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クォーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 I (木管五重奏)
担当講師名	多田 逸左久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。I・IIクォーターでは、主として19世紀終わり頃までの作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス／一年間の授業指針を説明→ハイドン (1) / 嬉遊曲 第1・2楽章
- ② ハイドン (2) / 嬉遊曲 第3・4楽章
- ③ ダンツィ (1) / 木管五重奏曲 変ロ長調 第1楽章
- ④ ダンツィ (2) / 木管五重奏曲 変ロ長調 第2楽章
- ⑤ ダンツィ (3) / 木管五重奏曲 変ロ長調 第3楽章
- ⑥ ダンツィ (4) / 木管五重奏曲 変ロ長調 第4楽章
- ⑦ Iクォーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率 (50%)・平常点 (10%)・実技試験 (40%) を目安に、総合的に評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ライヒャ（１）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第１楽章
- ⑨ライヒャ（２）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第２楽章
- ⑩ライヒャ（３）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第３楽章
- ⑪ライヒャ（４）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第４楽章
- ⑫タファネル（１）／タファネル： 木管五重奏曲 I
- ⑬タファネル（２）／タファネル： 木管五重奏曲 II
- ⑭タファネル（３）／タファネル： 木管五重奏曲 III
- ⑮IIクォーターの総括／授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ
担当講師名	中村均一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サクソフーン アカデミー1年生

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフーン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡って培ったアルモサクソフーンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

更なるレパートリーの拡大を目指す。それと平行してリサイタルを仮定したプログラムをグループ毎に作成。コンサートのコンセプトも考えて演奏スタイルを研究する。バロックから現代まで幅広く選ぶこと。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バロックから現代まで幅広く時代毎の音楽スタイルを理解し、またオリジナル曲だけでなくピアノ曲、弦楽、などアレンジ曲により音楽と向き合う姿勢を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リサイタルピース、バロック曲。「サバの女王の入場」（ヘンデル）（他選択可）
- ② 同、ピアノ曲。「楽興の時」（シューベルト）（他選択可）
- ③ 同、弦楽器曲1。「弦楽四重奏曲アメリカ」（ドヴォルザーク）（他選択可）
Ⅰ、Ⅱ
- ④ 同、弦楽器曲2。「弦楽四重奏曲アメリカ」（ドヴォルザーク）（他選択可）
Ⅲ、Ⅳ
- ⑤ 同、現代1。「グラーヴェとプレスト」（リヴィエ）（他選択可）
グラーヴェ
- ⑥ 同、現代2。「グラーヴェとプレスト」（リヴィエ）（他選択可）
プレスト
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

グループ毎にリサイタル1回分の演奏について評価。 選曲やステージマナー、テーマの持ち方や曲目解説も含めて評価する。
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ オーディションピース1。「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可)
1楽章、テーマを捉える、曲の仕組みを理解する。
- ⑨ オーディションピース2。「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可)
1楽章、テンポとダイナミクスの効果を理解する。
- ⑩ オーディションピース3。「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可)
2楽章、響きのブレンドとレガート
- ⑪ ピアノ曲(小品リストより)
- ⑫ オーディションピース4。「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可)
2楽章、緩徐楽章の演奏スタイルを捉える。
- ⑬ オーディションピース5。「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可)
3楽章、フィナーレにふさわしいテクニックを鍛える。
- ⑭ オーディションピース6。「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可)
3楽章、更にテンポを上げ、完成度を上げる。
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

オーディションを想定して実技試験。
コンクールで演奏されるような難易度の高い曲の完成度をあげ、優れた演奏とは何かを探る。 演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（クラリネット）
担当講師名	中村めぐみ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広いの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊管特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッション。レッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン、
- ⑩ レッスン。 ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑧ レッスン。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン、録音、ディスカッション。
- ⑪ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑫ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%、

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

二重奏から大編成のトランペットアンサンブルの演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリーを学習します。

※シンプソン：ソナチネ、ブランド：カントリーピクチャーズ等

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を分析できます。アンサンブルの基本的な技術を習得し、自分たちで練習方法を考え上達できます。客観的に演奏を聞くことが出来るようになります。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス及びチーム編成を行います。
- ②三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ③三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ④三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑤三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑥三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑦三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑨二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑩二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑪二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑫二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑬二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑭二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑮発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を理解し、十分表現をできるようにされるか

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック2 音色・バランス・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表 授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 発表20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

春学期で学んだアンサンブルの基礎訓練を基に主に小編成楽曲の演習を通じて、オリジナル必修レパートリーに取り組みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

小、中編成レパートリーを拡げ、特殊楽器の熟達、指揮付の大編成の演奏も体験します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 小編成アンサンブルレパートリー1 / 3～5 重奏曲
- ② 小編成アンサンブルレパートリー2 / 3～5 重奏曲
- ③ 小編成アンサンブルレパートリー3 / 3～5 重奏曲
- ④ 中編成アンサンブルレパートリー1 / 5～7 重奏曲
- ⑤ 中編成アンサンブルレパートリー2 / 3～5 重奏曲
- ⑥ 中編成アンサンブルレパートリー3 / 3～5 重奏曲
- ⑦ IIIクォーター末試験 / 授業内発表形式

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、アンサンブル演奏技術の到達度、授業態度、積極性などを総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 指揮付の演奏
- ⑨ 大編成楽曲 1
- ⑩ 大編成楽曲 2
- ⑪ 大編成楽曲 3

- ⑫ 大編成楽曲 4
- ⑬ 大編成楽曲 5
- ⑭ 大編成楽曲 6
- ⑮ 学年末試験

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、特殊楽器の演奏能力、アンサンブル技術、授業出席率を総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（ホルン）
担当講師名	下田太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も2人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーにして行く事を目標・目的としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フランス近代の代表的な作品（その1）
- ② フランス近代の代表的な作品（その1）
- ③ フランス近代の代表的な作品（その1）
- ④ フランス近代の代表的な作品（その1）
- ⑤ フランス近代の代表的な作品（その1）
- ⑥ E. ボザの演奏のまとめ
- ⑦ E. ボザのカルテットの試演

中間試験評価方法・評価基準

作品に対する個人としての楽曲に対するパートに対しての理解力、フレージングの理解、和声的な動きに対する理解度、音量バランスの理解、アンサンブル力、読譜力の出席率、授業の受講態度などを加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ H. ユーリセンの作品（その1）
- ⑨ H. ユーリセンの作品（その2）
- ⑩ T. ディッカウの作品（その1）
- ⑪ T. ディッカウの作品（その2）
- ⑫ T. ディッカウの作品（その3）
- ⑬ E. ザイフリートの作品（その1）
- ⑭ E. ザイフリートの作品（その2）
- ⑮ 新曲をその場でリハーサルして組み立て

期末試験評価方法・評価基準

個々のパートに対する譜読力、曲全体における役割の把握、和声的合わせる力、バランスの力、アンサンブルをリードする力などと共に日頃の受講態度、出席状況を加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽 II (ユーフォニアム・チューバ)
担当講師名	齋藤充
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・チューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・チューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・チューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② オリジナルのカルテット作品を学ぶ
- ③ オリジナルのカルテット作品の理解を深める
- ④ オリジナルのカルテット作品のまとめ
- ⑤ 現代の作品に触れる
- ⑥ 現代の作品の理解を深める
- ⑦ 現代の作品のまとめ

中間試験評価方法・評価基準

オリジナル曲と現代作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ 編曲作品に触れる

- ⑩ 編曲作品の理解を深める
- ⑪ 編曲作品のまとめ
- ⑫ 自分で編曲を試みる
- ⑬ 自編作品の演奏
- ⑭ 自編作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

編曲作品と自編作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（金管五重奏）
担当講師名	若林 毅
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

プロのオーケストラの室内楽に多数参加。

授業内容

本室内楽クラスでは、金管五重奏の形式でアンサンブルの重要性を学びます。主にベーシックな楽曲を取り上げハーモニー、フレーズ、音色感の扱い方を理解し、独奏曲やオーケストラ、吹奏楽を含む様々な形態の室内楽に対応できる知識、感覚を身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

室内楽でそれぞれが担う役割をよく理解し有機的に楽曲を構成する様々なスキルを習得。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス
- ② 楽曲演習・表現1 金管五重奏の重要なレパートリーを通して5人で一つの音楽を表現する方法を考え、実践する。
- ③ 楽曲演習・表現2
- ④ 楽曲演習・表現3
- ⑤ 楽曲演習・表現4
- ⑥ 楽曲演習・表現5
- ⑦ 授業内発表 クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス
- ⑨ 楽曲演習・発展1 楽曲のレベルを上げて、音楽表現と演奏技術の両立を図る。

- ⑩ 楽曲演習・発展 2
- ⑪ 楽曲演習・発展 3
- ⑫ 楽曲演習・発展 4
- ⑬ 楽曲演習・発展 5
- ⑭ 楽曲演習・発展 6
- ⑮ 授業内発表

学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（弦楽器）
担当講師名	舘市正克 他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

多様な運弓奏法とフィンガリングで多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を深く広く習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習にて様々な奏法を習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲選定を行い、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：50% 実演：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式や時代背景を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたテンポ感覚とアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではのフラジオレットと純正調を理解する
- ⑭ 楽曲の全体像と意図を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。

出席：50% 試験：50%

特記事項

弦楽合奏ならではの幅広く奥深い響きを体験し、心豊かな人間を育成する。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（アインザッツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、春学期よりも完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
 - ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
 - ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
 - ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
 - ⑭ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑥
- 試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑮ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クォーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅱ（木管五重奏）
担当講師名	多田 逸左久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、主として近代以降の作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ミヨー（1）／ルネ王の暖炉 I・II
- ②ミヨー（2）／ルネ王の暖炉 III・IV・V
- ③ミヨー（3）／ルネ王の暖炉 VI・VII
- ④イベール（1）／三つの小品 I
- ⑤イベール（2）／三つの小品 II
- ⑥イベール（3）／三つの小品 III
- ⑦Iクォーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50％）・平常点（10％）・実技試験（40％）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧セルヴァンスキー（１）／木管五重奏曲　Ⅰ
- ⑨セルヴァンスキー（２）／木管五重奏曲　Ⅱ
- ⑩セルヴァンスキー（３）／木管五重奏曲　Ⅲ
- ⑪ヒンデミット（１）／ヒンデミット：　小室内楽曲　Ⅰ
- ⑫ヒンデミット（１）／ヒンデミット：　小室内楽曲　Ⅱ・Ⅲ
- ⑬ヒンデミット（１）／ヒンデミット：　小室内楽曲　Ⅳ
- ⑭ヒンデミット（１）／ヒンデミット：　小室内楽曲　Ⅴ
- ⑮一年間の総括／室内楽発表会（バリオホール）

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

バリオホールでの室内楽発表会では、原則として受講者全員で演奏します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（木管五重奏）
担当講師名	多田 逸左久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅰ・Ⅱクォーターでは、主として19世紀終わり頃までの作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス／一年間の授業指針を説明→ハイドン（1）／嬉遊曲 第1・2楽章
- ② ハイドン（2）／嬉遊曲 第3・4楽章
- ③ ダンツィ（1）／木管五重奏曲 変ロ長調 第1楽章
- ④ ダンツィ（2）／木管五重奏曲 変ロ長調 第2楽章
- ⑤ ダンツィ（3）／木管五重奏曲 変ロ長調 第3楽章
- ⑥ ダンツィ（4）／木管五重奏曲 変ロ長調 第4楽章
- ⑦ Ⅰクォーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50％）・平常点（10％）・実技試験（40％）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ライヒャ（１）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第１楽章
- ⑨ライヒャ（２）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第２楽章
- ⑩ライヒャ（３）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第３楽章
- ⑪ライヒャ（４）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第４楽章
- ⑫タファネル（１）／タファネル： 木管五重奏曲 I
- ⑬タファネル（２）／タファネル： 木管五重奏曲 II
- ⑭タファネル（３）／タファネル： 木管五重奏曲 III
- ⑮IIクォーターの総括／授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（サクソフーン）
担当講師名	波多江史朗
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サクソフーン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

サクソフーン四重奏の基礎的な楽曲に取り組み、譜面を正しく読み取る技術を身につけ表現に結びつける。アンサンブルの技術を学ぶ。アルト以外のサクソフーンの演奏技術を身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル技法が身につく。プロとして必要な読譜能力が得られる。アルト以外の様々なサクソフーンに触れ吹きこなす技術を体得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①【ガイダンス】
楽器の振り分け、グループ分け、曲の配布。取り組む曲の鑑賞。
- ②【楽曲研究A①】
JB. サンジュレ／第一四重奏曲1楽章
- ③【楽曲研究A②】
JB. サンジュレ／第一四重奏曲1楽章2楽章
- ④【楽曲研究A③】
JB. サンジュレ／第一四重奏曲2楽章3楽章
- ⑤【楽曲研究A④】
JB. サンジュレ／第一四重奏曲3楽章4楽章
- ⑥【楽曲研究A⑤】
JB. サンジュレ／第一四重奏曲4楽章
- ⑦【楽曲研究A⑥】
JB. サンジュレ／第一四重奏曲4楽章
全曲クラス発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、発表会10%

授業計画（8回目から15回目）

⑧【楽曲研究B①】

クレリス/序奏とスケルツォ

⑨【楽曲研究B②】

クレリス/序奏とスケルツォ

⑧【楽曲研究C①】

ランティエ/アンダンテとスケルツェット

⑨【楽曲研究C②】

ランティエ/アンダンテとスケルツェット

⑩【楽曲研究D①】

Jフランス/小四重奏曲1楽章

⑪【楽曲研究D②】

Jフランス/小四重奏曲1. 2楽章

⑫【楽曲研究D③】

Jフランス/小四重奏曲2. 3楽章

⑬【楽曲研究D④】

Jフランス/小四重奏曲3楽章

⑭【楽曲研究D⑤】

Jフランス/小四重奏曲全曲

⑮【発表会】

今学期の任意の曲を振り分けた発表会をクラス内で行う。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、発表会10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（クラリネット）
担当講師名	中村めぐみ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広いの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊管特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッションレッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン、
- ⑩ レッスン。 ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑧ レッスン。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン、録音、ディスカッション。
- ⑪ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑫ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%、

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

音程と和音の理論を学習し、二重奏と四重奏の演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリー研究を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音程と和音を理解し、二重奏と四重奏のコラールでそれらを認識しながら演奏できるようになります。アンサンブルの基礎を学び、基本的な技術を習得できます。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス
- ②音程の理論を学習します。ユニゾンを合わせる練習をします。
- ③和音の理論を学習します。完全音程と3度を合わせる練習をします。二重奏のグループ分けをします。
- ④完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑤完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑥完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑦二重奏の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。
出席：50%、平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧完全音程、3度、三和音を合わせる練習をします。四重奏のグループ分けを行います。
- ⑨三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑩三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑪三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑫四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑬四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑭四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑮四重奏の発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。
出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック2 音色・バランス・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表 授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 発表20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

1年次に学んだアンサンブルの基本的な技術を更に深く推し進めると共に、更に難度の高いオリジナルレパートリーの演習。アンサンブルの多様性、初見力などを身に付ける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル能力の追求とバロック、古典派の様式感を体得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 履修学生顔合わせ。インスペクター他係選出。
- ② 小編成2～5重奏曲1 / バロック音楽の様式（ボワモルティエ、W.F. バッハ等）
- ③ 小編成2～5重奏曲2 / バロック音楽の様式（ボワモルティエ、W.F. バッハ等）
- ④ 小編成2～5重奏曲3 / バロック音楽の様式（ボワモルティエ、W.F. バッハ等）
- ⑤ 小編成2～4重奏曲4 / 古典派音楽の様式（ベートーヴェン、クーラウ、ライヒャ等）
- ⑥ 小編成2～4重奏曲4 / 古典派音楽の様式（ベートーヴェン、クーラウ、ライヒャ等）
- ⑦ Iクォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

Iクォーター授業内容の理解、アンサンブル能力、出席率、授業態度などを総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 初見訓練1 小編成ゴールデン・エイジの作品（テュルー、ブリチアルディ等のDuo）
- ⑨ 初見訓練2 小編成ゴールデン・エイジの作品（テュルー、ブリチアルディ等のDuo）
- ⑩ 初見訓練3 クーラウ Duo
- ⑪ 初見訓練4 クーラウ Duo

- ⑫ 近代小、中編成楽曲（ボzza、カステレード、ベルトミュー他）演習 1
- ⑬ 近代小、中編成楽曲（ボzza、カステレード、ベルトミュー他）演習 2
- ⑭ 近代小、中編成楽曲（ボzza、カステレード、ベルトミュー他）演習 3
- ⑮ IIクォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力と各エポックの様式の理解度に、出席率授業態度などの平常点を加えて評価する。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（ホルン）
担当講師名	下田太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も2人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーにしていく事を目標・目的としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス
- ②平易な二重奏と四重奏のアプローチ
- ③平易な二重奏と四重奏の演奏に取り組む
- ④狩りの楽器としてのホルンについて
- ⑤狩りの楽器としてのホルン音楽の発展（その2）
- ⑥室内楽作品として地位を得たホルンの作品
- ⑦ホルントリオに触れる

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、受講態度、出席状況、作品の読譜力、作品の分析力、リハーサルをまとめて行く力などにより評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ウイーンの近代作品
- ⑨ドイツの近代作品
- ⑩ホミリウスの作品
- ⑪ホミリウス全曲まとめ
- ⑫ウイーンバルトホルン合奏団の歴史と作品
- ⑬1800年代の二重奏の作品
- ⑭1800年代の二重奏の作品
- ⑮春学期のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業の態度、作品の分析力、室内楽の演奏の完成に向けてのまとめかた、演奏力などから評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（ユーフォニアム・チューバ）
担当講師名	齋藤充
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・チューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・チューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・チューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② デュエットを学ぶ
- ③ デュエットの理解を深める
- ④ デュエットのまとめ
- ⑤ トリオの導入
- ⑥ トリオの理解を深める
- ⑦ トリオのまとめ

中間試験評価方法・評価基準

デュエットとトリオの演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ カルテットの導入、合唱曲を用いて

- ⑩ 合唱曲の理解を深める
- ⑪ 合唱曲のまとめ
- ⑫ カルテットの応用、バロック作品を用いて
- ⑬ バロック作品の理解を深める
- ⑭ バロック作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

デュエット、トリオ、カルテット、そして初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

⑩ 楽曲演習・構成 2

⑪ 楽曲演習・構成 3

⑫ 楽曲演習・構成 4

⑬ 楽曲演習・構成 5

⑭ 楽曲演習・構成 6

⑮ 授業内発表

学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（弦楽器）
担当講師名	舘市正克 他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

多様な運弓奏法で多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習にて多くの奏法を習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲の選定を行い、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式と意図を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではの純正調に挑む
- ⑭ 楽曲の全体像を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

アンサンブルの基本を学ぶので、個人演奏の向上に役立つ。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅲ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（アインザッツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
 - ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
 - ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
 - ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
 - ⑭ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑥
- 試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑮ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クォーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（サクソフーン）
担当講師名	波多江史朗
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サクソフーン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

本格的サクソフーン四重奏の高度な楽曲に取り組む。アンサンブルの技術を学ぶ。アルト以外のサクソフーンの演奏技術を身につける。レパートリーの拡充。ラージアンサンブルに取り組む。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル技法が身につく。プロとして必要な読譜能力が得られる。アルト以外の様々なサクソフーンに触れ吹きこなす技術を体得する。レパートリーが拡充される。ラージアンサンブルでオーケストラの語法を学ぶ。

授業計画（1回目から7回目）

- ①【楽曲研究A①】
ピエルネ/民謡ロンドによる序奏と変奏
- ②【楽曲研究A②】
ピエルネ/民謡ロンドによる序奏と変奏
- ③【楽曲研究B①】
デザンクロ/四重奏曲1楽章
- ④【楽曲研究B②】
デザンクロ/四重奏曲1楽章2楽章
- ⑤【楽曲研究B③】
デザンクロ/四重奏曲2楽章
- ⑥【楽曲研究B④】
デザンクロ/四重奏曲2楽章3楽章
- ⑦【楽曲研究B⑤】
デザンクロ/四重奏曲3楽章

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点60%

授業計画（8回目から15回目）

- ①【楽曲研究C①】
パスカル/四重奏曲1楽章
- ②【楽曲研究C②】
パスカル/四重奏曲1楽章2楽章
- ③【楽曲研究C③】
パスカル/第一四重奏曲2楽章3楽章
- ④【楽曲研究C④】
パスカル/四重奏曲3楽章4楽章
- ⑤【楽曲研究C⑤】
パスカル/四重奏曲4楽章
- ⑥【楽曲研究C⑥】
ピエルネ、デザンクロ、パスカルの発表会選択曲
- ⑦【楽曲研究C⑦】
ピエルネ、デザンクロ、パスカルの発表会選択曲
- ⑧【発表会】
ピエルネ、デザンクロ、パスカルのいずれかの作品を発表する。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、発表会10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（クラリネット）
担当講師名	中村めぐみ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広いの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊管特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッションをしながらレッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン。ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑪ レッスン。
- ⑫ レッスン。
- ⑬ レッスン、録音。ディスカッション。
- ⑭ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑮ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%、

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

二重奏から大編成のトランペットアンサンブルの演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリーを学習します。

※シンプソン：ソナチネ、ブランド：カントリーピクチャーズ等

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を分析できます。アンサンブルの基本的な技術を習得し、自分たちで練習方法を考え上達できます。客観的に演奏を聞くことが出来るようになります。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス及びチーム編成を行います。
- ②三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ③三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ④三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑤三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑥三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑦三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑨二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑩二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑪二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑫二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑬二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑭二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑮発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック2 音色・バランス・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表会・授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 発表20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

様々なアンサンブル技術全般の総まとめ。及び編曲作品、法人作品の演習。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル技術の修得、本番へ向けたリハーサルの心得の理解。
編曲作品の演奏への対応力。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 編曲作品1 / 弦楽合奏曲
- ② 編曲作品2 / 弦楽合奏曲
- ③ 編曲作品3 / 弦楽合奏曲
- ④ 編曲作品4 / 管弦楽曲
- ⑤ 編曲作品5 / 管弦楽曲
- ⑥ 編曲作品6 / 管弦楽曲
- ⑦ IIIクォーター末試験：授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

編曲作品演奏の注意点の理解度と、フルートアンサンブル演奏として仕上げる能力を総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 法人作品1 / 小編成楽曲演習
- ⑨ 法人作品2 / 小編成楽曲演習
- ⑩ 法人作品3 / 中編成楽曲演習
- ⑪ 法人作品4 / 中編成楽曲演習

- ⑫ フルート・オーケストラ作品 1
- ⑬ フルート・オーケストラ作品 2
- ⑭ フルート・オーケストラ作品 3
- ⑮ 学年末試験：授業内発表

期末試験評価方法・評価基準

近、現代作品の演奏能力と総合的なアンサンブル技術の到達度を評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（ホルン）
担当講師名	下田太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も2人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーにして行く事を目標・目的としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フランス近代の代表的な作品（その1）
- ② フランス近代の代表的な作品（その2）
- ③ フランス近代の代表的な作品（その3）
- ④ フランス近代の代表的な作品（その4）
- ⑤ フランス近代の代表的な作品（その5）
- ⑥ E. ボザの演奏のまとめ
- ⑦ E. ボザのカルテットの試演

中間試験評価方法・評価基準

作品に対する個人としての楽曲に対するパートに対しての理解力、フレージングの理解、和声的な動きに対する理解度、音量バランスの理解、アンサンブル力、読譜力の出席率、授業の受講態度などを加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ H. ユーリセンの作品（その1）
- ⑨ H. ユーリセンの作品（その2）
- ⑩ T. ディッカウの作品（その1）
- ⑪ T. ディッカウの作品（その2）
- ⑫ T. ディッカウの作品（その3）
- ⑬ E. ザイフリートの作品（その1）
- ⑭ E. ザイフリートの作品（その2）
- ⑮ 新曲をその場でリハーサルして組み立て

期末試験評価方法・評価基準

個々のパートに対する譜読力、曲全体における役割の把握、和声的合わせる力、バランスの力、アンサンブルをリードする力などと共に日頃の受講態度、出席状況を加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（ユーフォニアム・チューバ）
担当講師名	齋藤充
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・チューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・チューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・チューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② オリジナルのカルテット作品を学ぶ
- ③ オリジナルのカルテット作品の理解を深める
- ④ オリジナルのカルテット作品のまとめ
- ⑤ 現代の作品に触れる
- ⑥ 現代の作品の理解を深める
- ⑦ 現代の作品のまとめ

中間試験評価方法・評価基準

オリジナル曲と現代作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ 編曲作品に触れる

- ⑩ 編曲作品の理解を深める
- ⑪ 編曲作品のまとめ
- ⑫ 自分で編曲を試みる
- ⑬ 自編作品の演奏
- ⑭ 自編作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

編曲作品と自編作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（金管五重奏）
担当講師名	若林 毅
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

プロのオーケストラの室内楽に多数参加。

授業内容

本室内楽クラスでは、金管五重奏の形式でアンサンブルの重要性を学びます。主にベーシックな楽曲を取り上げハーモニー、フレーズ、音色感の扱い方を理解し、独奏曲やオーケストラ、吹奏楽を含む様々な形態の室内楽に対応できる知識、感覚を身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

室内楽でそれぞれが担う役割をよく理解し有機的に楽曲を構成する様々なスキルを習得。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス
- ② 楽曲演習・表現1 金管五重奏の重要なレパートリーを通して5人で一つの音楽を表現する方法を考え、実践する。
- ③ 楽曲演習・表現2
- ④ 楽曲演習・表現3
- ⑤ 楽曲演習・表現4
- ⑥ 楽曲演習・表現5
- ⑦ 授業内発表 クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス
- ⑨ 楽曲演習・発展1 楽曲のレベルを上げて、音楽表現と演奏技術の両立を図る。

- ⑩ 楽曲演習・発展 2
- ⑪ 楽曲演習・発展 3
- ⑫ 楽曲演習・発展 4
- ⑬ 楽曲演習・発展 5
- ⑭ 楽曲演習・発展 6
- ⑮ 授業内発表

学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（弦楽器）
担当講師名	舘市正克 他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

多様な運弓奏法とフィンガリングで多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を深く広く習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習にて様々な奏法を習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲の選定を行い、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：50% 実演：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式や時代背景を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたテンポ感覚とアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではのフラジオレットと純正調を理解する
- ⑭ 楽曲の全体像と意図を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。

出席：50% 試験：50%

特記事項

弦楽合奏ならではの幅広く奥深い響きを体験し、心豊かな人間を育成する。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（アインザッツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、春学期よりも完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑭ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クォーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅳ（木管五重奏）
担当講師名	多田 逸左久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、主として近代以降の作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ミヨー（1）／ルネ王の暖炉 I・II
- ②ミヨー（2）／ルネ王の暖炉 III・IV・V
- ③ミヨー（3）／ルネ王の暖炉 VI・VII
- ④イベール（1）／三つの小品 I
- ⑤イベール（2）／三つの小品 II
- ⑥イベール（3）／三つの小品 III
- ⑦Ⅰクォーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50％）・平常点（10％）・実技試験（40％）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧セルヴァンスキー（１）／木管五重奏曲 I
- ⑨セルヴァンスキー（２）／木管五重奏曲 II
- ⑩セルヴァンスキー（３）／木管五重奏曲 III
- ⑪ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 I
- ⑫ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 II・III
- ⑬ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 IV
- ⑭ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 V
- ⑮一年間の総括／室内楽発表会（バリオホール）

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

バリオホールでの室内楽発表会では、原則として受講者全員で演奏します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅴ（木管五重奏）
担当講師名	齋藤雄介
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロオーケストラに所属し、オーケストラや室内楽の演奏実務経験がある。

授業内容

個々の演奏技術を結集し、アンサンブルの基礎と楽譜の読解力、音楽的な表現力を培う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

周りをよく聴くアンテナを張りながら音楽的に表現し、他の楽器との新たな響きを体感する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、選曲
- ②楽曲分析等
- ③アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ④アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑤音楽的表現の拡大
- ⑥仕上げ、ランスルー
- ⑦小演奏会

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧選曲
- ⑨楽曲分析等
- ⑩アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ⑪アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑫音楽的表現の拡大1

- ⑬音楽的表現の拡大2
- ⑭仕上げ、ランスルー
- ⑮演奏会

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅴ（サクソフォン）
担当講師名	中村均一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフォン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡ってアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

主に楽曲を①教則的な曲、②リサイタルピース、③アレンジ曲、④コンクールピースの4つのジャンルに振り分けてそれを万遍なく取り上げて、実際の練習の進め方やコミュニケーションの取り方、楽曲をレパートリーにする技術を研究する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルの基本的なテクニックをグループ毎に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法をみにつける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 練習の進め方
- ② 基礎的なアンサンブル力1。「カンツォーナ・ヴァリエ」（グラズノフ）
- ③ 基礎的なアンサンブル力2。「カンツォーナ・ヴァリエ」（グラズノフ）
- ④ 基礎的なアンサンブル力3。「四重奏曲」（リュエフ）1、2
- ⑤ 基礎的なアンサンブル力4。「四重奏曲」（リュエフ）3、4
- ⑥ 基礎的なアンサンブル力5。「四重奏曲」（リュエフ）5、6
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。「グラズノフ」もしくは「リュエフ」のどちらかを演奏する。基礎的なアンサンブルの能力と課題を確認する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ レパートリーの拡大1。オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑨ レパートリーの拡大2。オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑩ レパートリーの拡大3。バロック曲（小品リストより）
- ⑪ レパートリーの拡大4。ピアノ曲（小品リストより）
- ⑫ レパートリーの拡大5。「小四重奏曲」（フランゼ）（他選択可）
- ⑬ レパートリーの拡大6。「ルーマニア民族の主題による組曲」（J. アブシル）（他選択可）
- ⑭ レパートリーの拡大7。「四重奏曲」（ラクール）（他選択可）
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20% リサイタルピースとして楽曲を取り上げ選曲を含めて様々なジャンルの音楽に向き合い、表現と技術を鍛錬する。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅴ
担当講師名	池田英三子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は複数の国際室内楽コンクールでの入選・入賞経験があり、数多くの演奏会、CD録音などに参加し、毎年アンサンブルコンテストの審査員も務めるなど室内楽分野での経験が豊富です。

授業内容

金管アンサンブルの授業です。春学期は主にバロック・ルネサンス時代の曲を用いてアンサンブル力を高める練習をします。3、4年生合同のクラスです。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の音、他人の音をよく聴き音程やスタイルを合わせることができ、そして全体の中での自分の役割を理解し、表現ができるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス:授業の説明、注意事項などを説明し、その後インスペクターを選出しグループや曲の選考をします。
- ②コラール集を使ってハーモニーやバランスの取り方を研究します。
- ③既に決めたグループでバロック・ルネサンス時代の曲に取り組みます。
- ④グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑤グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑥各グループ1クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑦試験:グループ毎に発表をします。(授業内発表会形式)

中間試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。
試験:50% 出席:30% 平常点:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1 クォーターとグループ、曲を変えてバロック・ルネサンス時代の曲に取り組みます。
- ⑨グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑩グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑪グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑫グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑬グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑭各グループ2クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑮試験:グループ毎に発表をします。(室内楽演奏会出演グループのオーディション形式)

期末試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。

試験:50% 出席:30% 平常点:20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅴ（打楽器）
担当講師名	日比一宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

アンサンブルの基本的なテクニック、効率的なリハーサルを進め方や方法について考え、話し合い、実践して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

短い時間、限られた時間の中で、より高度な音楽表現によるアンサンブルを完成させる能力取得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ② オリジナル作品Aの練習、スコアの確認①
- ③ オリジナル作品Bの練習、スコアの確認②
- ④ オリジナル作品Cの練習、スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品Dの練習、スコアの確認④
- ⑥ オリジナル作品Eの練習、スコアの確認⑤
- ⑦ コンサート形式での公開試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ⑨ オリジナル作品Aの練習、スコアの確認①
- ⑩ オリジナル作品Bの練習、スコアの確認②
- ⑪ オリジナル作品Cの練習、スコアの確認③

- ⑫ オリジナル作品 D の練習、スコアの確認④
- ⑬ オリジナル作品 E の練習、スコアの確認⑤
- ⑭ オリジナル作品 F の練習、スコアの確認⑥
- ⑮ コンサート形式での公開試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽VI（木管五重奏）
担当講師名	齋藤雄介
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロオーケストラに所属し、オーケストラや室内楽の演奏実務経験がある。

授業内容

個々の演奏技術を結集し、アンサンブルの基礎と楽譜の読解力、音楽的な表現力を培う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

周りをよく聴くアンテナを張りながら音楽的に表現し、他の楽器との新たな響きを体感する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、選曲
- ②楽曲分析等
- ③アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ④アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑤音楽的表現の拡大
- ⑥仕上げ、ランスルー
- ⑦小演奏会

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧選曲
- ⑨楽曲分析等
- ⑩アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ⑪アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑫音楽的表現の拡大1

- ⑬音楽的表現の拡大2
- ⑭仕上げ、ランスルー
- ⑮演奏会

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習VI (サクソフォン)
担当講師名	中村均一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフォン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡ってアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

レパートリーの拡大を目指す。それと平行してリサイタルを仮定したプログラムをグループ毎に作成。コンサートのコンセプトも考えて演奏スタイルを研究する。バロックから現代まで幅広く選ぶこと。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

バロックから現代まで幅広く時代毎の音楽スタイルを理解し、またオリジナル曲だけでなくピアノ曲、弦楽、などアレンジ曲により音楽と向き合う姿勢を身につける。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① リサイタルピース、バロック曲。「3つの小品」(スカルラッチェ) (他選択可)
- ② 同、ピアノ曲。「クーブランの墓」より (M. ラヴェル) (他選択可)
- ③ 同、弦楽器曲。「弦楽四重奏曲」(C. A. ドビュッシー) (他選択可)
- ④ 同、変奏曲。「序奏と変奏」(ピエルネ) (他選択可)
- ⑤ 同、現代1。「四重奏曲」(A. デザンクロ) (他選択可)
- ⑥ 同、現代2。「アリアージュ」(ティスネ) (他選択可)
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

グループ毎にリサイタル1回分の演奏について評価。
選曲やステージマナー、テーマの持ち方や曲目解説も含めて評価する。
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ オーディションピース1。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑨ オーディションピース2。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑩ オーディションピース3。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑪ オーディションピース4。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑫ オーディションピース5。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑬ オーディションピース6。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑭ 本番前に確認すべき事。リハーサル
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

オーディションを想定して実技試験。

コンクールで演奏されるような難易度の高い曲の完成度をあげ、優れた演奏とは何かを探る。

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽VI
担当講師名	池田英三子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は複数の国際室内楽コンクールでの入選・入賞経験があり、数多くの演奏会、CD録音などに参加し、毎年アンサンブルコンテストの審査員も務めるなど室内楽分野での経験が豊富です。

授業内容

金管アンサンブルの授業です。秋学期は編成、ジャンルを問わず様々なスタイルのアンサンブル曲に取り組みます。3、4年生合同のクラスです。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

技術的、音楽的向上は勿論、「人に聴いてもらう」という自覚を持ち、きちんと音楽的な自己アピールができるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①新しいグループで様々な編成、スタイルの曲を研究します。
- ②グループ毎のレッスンを行います。
- ③グループ毎のレッスンを行います。
- ④グループ毎のレッスンを行います。
- ⑤グループ毎のレッスンを行います。
- ⑥各グループ3クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑦試験：グループ毎に発表をします。（授業内発表会形式）

中間試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。
試験:50% 出席:30% 平常点:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧3 クォーターよりも更に難易度の高い曲に取り組みます。新しいグループでのレッスンを開始します。
- ⑨グループ毎のレッスンを行います。
- ⑩グループ毎のレッスンを行います。
- ⑪グループ毎のレッスンを行います。
- ⑫グループ毎のレッスンを行います。
- ⑬各グループ4クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑭授業内試験：各グループの発表をします。（室内楽演奏会出演グループのオーディション形式）
- ⑮室内楽演奏会。（出演しないグループのメンバーは聴講します。）

期末試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。
試験:50% 出席:30% 平常点:20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅵ（打楽器）
担当講師名	日比一宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

アンサンブルの基本的なテクニック、効率的なリハーサルを進め方や方法について考え、話し合い、実践して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

短い時間、限られた時間の中で、より高度な音楽表現によるアンサンブルを完成させる能力取得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ② オリジナル作品Aの練習、スコアの確認①
- ③ オリジナル作品Bの練習、スコアの確認②
- ④ オリジナル作品Cの練習、スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品Dの練習、スコアの確認④
- ⑥ オリジナル作品Eの練習、スコアの確認⑤
- ⑦ コンサート形式での公開試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ⑨ オリジナル作品Aの練習、スコアの確認①
- ⑩ オリジナル作品Bの練習、スコアの確認②
- ⑪ オリジナル作品Cの練習、スコアの確認③

- ⑫ ⑫オリジナル作品 D の練習、スコアの確認④
- ⑬ オリジナル作品 E の練習、スコアの確認⑤
- ⑭ オリジナル作品 F の練習、スコアの確認⑥
- ⑮ コンサート形式での公開試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅶ（木管五重奏）
担当講師名	齋藤雄介
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロオーケストラに所属し、オーケストラや室内楽の演奏実務経験がある。

授業内容

個々の演奏技術を結集し、アンサンブルの基礎と楽譜の読解力、音楽的な表現力を培う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

周りをよく聴くアンテナを張りながら音楽的に表現し、他の楽器との新たな響きを体感する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、選曲
- ②楽曲分析等
- ③アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ④アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑤音楽的表現の拡大
- ⑥仕上げ、ランスルー
- ⑦小演奏会

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧選曲
- ⑨楽曲分析等
- ⑩アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ⑪アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑫音楽的表現の拡大1

- ⑬音楽的表現の拡大2
- ⑭仕上げ、ランスルー
- ⑮演奏会

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅶ（サクソフォーン）
担当講師名	中村均一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフォーン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡ってアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

主に楽曲を①教則的な曲、②リサイタルピース、③アレンジ曲、④コンクールピースの4つのジャンルに振り分けてそれを万遍なく取り上げて、実際の練習の進め方やコミュニケーションの取り方、楽曲をレパートリーにする技術を研究する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルの基本的なテクニックをグループ毎に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法をみにつける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 練習の進め方
- ② 基礎的なアンサンブル力1。「カンツォーナ・ヴァリエ」（グラズノフ）
- ③ 基礎的なアンサンブル力2。「カンツォーナ・ヴァリエ」（グラズノフ）
- ④ 基礎的なアンサンブル力3。「四重奏曲」（リュエフ）1、2
- ⑤ 基礎的なアンサンブル力4。「四重奏曲」（リュエフ）3、4
- ⑥ 基礎的なアンサンブル力5。「四重奏曲」（リュエフ）5、6
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。「グラズノフ」もしくは「リュエフ」のどちらかを演奏する。基礎的なアンサンブルの能力と課題を確認する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ レパートリーの拡大1。オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑨ レパートリーの拡大2。オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑩ レパートリーの拡大3。バロック曲（小品リストより）
- ⑪ レパートリーの拡大4。ピアノ曲（小品リストより）
- ⑫ レパートリーの拡大5。「小四重奏曲」（フランゼ）（他選択可）
- ⑬ レパートリーの拡大6。「ルーマニア民族の主題による組曲」（J. アブシル）（他選択可）
- ⑭ レパートリーの拡大7。「四重奏曲」（ラクール）（他選択可）
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20% リサイタルピースとして楽曲を取り上げ選曲を含めて様々なジャンルの音楽に向き合い、表現と技術を鍛錬する。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅶ
担当講師名	池田英三子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は複数の国際室内楽コンクールでの入選・入賞経験があり、数多くの演奏会、CD録音などに参加し、毎年アンサンブルコンテストの審査員も務めるなど室内楽分野での経験が豊富です。

授業内容

金管アンサンブルの授業です。春学期は主にバロック・ルネサンス時代の曲を用いてアンサンブル力を高める練習をします。3、4年生合同のクラスです。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の音、他人の音をよく聴き音程やスタイルを合わせることができ、そして全体の中での自分の役割を理解し、表現ができるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス:授業の説明、注意事項などを説明し、その後インスペクターを選出しグループや曲の選考をします。
- ②コラール集を使ってハーモニーやバランスの取り方を研究します。
- ③既に決めたグループでバロック・ルネサンス時代の曲に取り組みます。
- ④グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑤グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑥各グループ1クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑦試験:グループ毎に発表をします。(授業内発表会形式)

中間試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。
試験:50% 出席:30% 平常点:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1 クォーターとグループ、曲を変えてバロック・ルネサンス時代の曲に取り組みます。
- ⑨グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑩グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑪グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑫グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑬グループ毎にバロック・ルネサンス時代の曲のレッスンを行います。
- ⑭各グループ2クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑮試験:グループ毎に発表をします。(室内楽演奏会出演グループのオーディション形式)

期末試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。

試験:50% 出席:30% 平常点:20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅶ（打楽器）
担当講師名	日比一宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

アンサンブルの基本的なテクニック、効率的なリハーサルを進め方や方法について考え、話し合い、実践して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

短い時間、限られた時間の中で、より高度な音楽表現によるアンサンブルを完成させる能力取得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ② オリジナル作品Aの練習、スコアの確認①
- ③ オリジナル作品Bの練習、スコアの確認②
- ④ オリジナル作品Cの練習、スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品Dの練習、スコアの確認④
- ⑥ オリジナル作品Eの練習、スコアの確認⑤
- ⑦ コンサート形式での公開試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ⑨ オリジナル作品Aの練習、スコアの確認①
- ⑩ オリジナル作品Bの練習、スコアの確認②
- ⑪ オリジナル作品Cの練習、スコアの確認③

- ⑫ オリジナル作品 D の練習、スコアの確認④
- ⑬ オリジナル作品 E の練習、スコアの確認⑤
- ⑭ オリジナル作品 F の練習、スコアの確認⑥
- ⑮ コンサート形式での公開試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅷ（木管五重奏）
担当講師名	齋藤雄介
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロオーケストラに所属し、オーケストラや室内楽の演奏実務経験がある。

授業内容

個々の演奏技術を結集し、アンサンブルの基礎と楽譜の読解力、音楽的な表現力を培う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

周りをよく聴くアンテナを張りながら音楽的に表現し、他の楽器との新たな響きを体感する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス、選曲
- ②楽曲分析等
- ③アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ④アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑤音楽的表現の拡大
- ⑥仕上げ、ランスルー
- ⑦小演奏会

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧選曲
- ⑨楽曲分析等
- ⑩アンサンブルの基礎1（音程、アインザッツ、アンテナの張り方等）
- ⑪アンサンブルの基礎2（音色、バランス、テンポやリズム感の共有等）
- ⑫音楽的表現の拡大1

- ⑬音楽的表現の拡大2
- ⑭仕上げ、ランスルー
- ⑮演奏会

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅷ（サクソフォン）
担当講師名	中村均一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフォン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡ってアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

レパートリーの拡大を目指す。それと平行してリサイタルを仮定したプログラムをグループ毎に作成。コンサートのコンセプトも考えて演奏スタイルを研究する。バロックから現代まで幅広く選ぶこと。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バロックから現代まで幅広く時代毎の音楽スタイルを理解し、またオリジナル曲だけでなくピアノ曲、弦楽、などアレンジ曲により音楽と向き合う姿勢を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リサイタルピース、バロック曲。「3つの小品」（スカルラッチェ）（他選択可）
- ② 同、ピアノ曲。「クーブランの墓」より（M. ラヴェル）（他選択可）
- ③ 同、弦楽器曲。「弦楽四重奏曲」（C. A. ドビュッシー）（他選択可）
- ④ 同、変奏曲。「序奏と変奏」（ピエルネ）（他選択可）
- ⑤ 同、現代1。「四重奏曲」（A. デザンクロ）（他選択可）
- ⑥ 同、現代2。「アリアージュ」（ティスネ）（他選択可）
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

グループ毎にリサイタル1回分の演奏について評価。
選曲やステージマナー、テーマの持ち方や曲目解説も含めて評価する。
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オーディションピース1。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑨ オーディションピース2。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑩ オーディションピース3。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑪ オーディションピース4。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑫ オーディションピース5。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑬ オーディションピース6。「四重奏曲」(F. シュミット)(他選択可、オーディションピースより)
- ⑭ 本番前に確認すべき事。リハーサル
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

オーディションを想定して実技試験。

コンクールで演奏されるような難易度の高い曲の完成度をあげ、優れた演奏とは何かを探る。

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽Ⅷ
担当講師名	池田英三子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は複数の国際室内楽コンクールでの入選・入賞経験があり、数多くの演奏会、CD 録音などに参加し、毎年アンサンブルコンテストの審査員も務めるなど室内楽分野での経験が豊富です。

授業内容

金管アンサンブルの授業です。秋学期は編成、ジャンルを問わず様々なスタイルのアンサンブル曲に取り組みます。3、4年生合同のクラスです。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

技術的、音楽的向上は勿論、「人に聴いてもらう」という自覚を持ち、きちんと音楽的な自己アピールができるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①新しいグループで様々な編成、スタイルの曲を研究します。
- ②グループ毎のレッスンを行います。
- ③グループ毎のレッスンを行います。
- ④グループ毎のレッスンを行います。
- ⑤グループ毎のレッスンを行います。
- ⑥各グループ3クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑦試験：グループ毎に発表をします。（授業内発表会形式）

中間試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。
試験:50% 出席:30% 平常点:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧3 クォーターよりも更に難易度の高い曲に取り組みます。新しいグループでのレッスンを開始します。
- ⑨グループ毎のレッスンを行います。
- ⑩グループ毎のレッスンを行います。
- ⑪グループ毎のレッスンを行います。
- ⑫グループ毎のレッスンを行います。
- ⑬各グループ4クォーターで取り組んだ曲の仕上げをします。
- ⑭授業内試験：各グループの発表をします。（室内楽演奏会出演グループのオーディション形式）
- ⑮室内楽演奏会。（出演しないグループのメンバーは聴講します。）

期末試験評価方法・評価基準

成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価とします。
試験:50% 出席:30% 平常点:20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	室内楽演習Ⅷ（打楽器）
担当講師名	日比一宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

アンサンブルの基本的なテクニック、効率的なリハーサルを進め方や方法について考え、話し合い、実践して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

短い時間、限られた時間の中で、より高度な音楽表現によるアンサンブルを完成させる能力取得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ② オリジナル作品 A の練習、スコアの確認①
- ③ オリジナル作品 B の練習、スコアの確認②
- ④ オリジナル作品 C の練習、スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品 D の練習、スコアの確認④
- ⑥ オリジナル作品 E の練習、スコアの確認⑤
- ⑦ コンサート形式での公開試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認、楽譜準備
- ⑨ オリジナル作品 A の練習、スコアの確認①
- ⑩ オリジナル作品 B の練習、スコアの確認②
- ⑪ オリジナル作品 C の練習、スコアの確認③

- ⑫ ⑫オリジナル作品 D の練習、スコアの確認④
- ⑬ オリジナル作品 E の練習、スコアの確認⑤
- ⑭ オリジナル作品 F の練習、スコアの確認⑥
- ⑮ コンサート形式での公開試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験・演奏の完成度 80%,セッティングの効率 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の歴史的な作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいく上での課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 3 : フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 4 : まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 5 : 前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー 1 : 曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー 2 : バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー 3 : フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	大井剛史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6 : 少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1 : 伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2 : 独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1 : 曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2 : コンサート全体のまとめ
- ⑮ 総合的なレパートリー 3 : ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を旨とするものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の歴史的な作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいく上での課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 3 : フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 4 : まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 5 : 前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー 1 : 曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー 2 : バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー 3 : フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	大井剛史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況の評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6 : 少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1 : 伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2 : 独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1 : 曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2 : コンサート全体のまとめ
- ⑮ 総合的なレパートリー 3 : ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅴ
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅴ
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の歴史的な作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいく上での課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 3 : フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 4 : まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 5 : 前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー 1 : 曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー 2 : バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー 3 : フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽VI
担当講師名	大井剛史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽VI
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレーズングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレーズングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6：少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1：伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2：独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1：曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2：コンサート全体のまとめ
- ⑮ 総合的なレパートリー 3：ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅶ
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況の評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅶ
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の歴史的な作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいく上での課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 3 : フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 4 : まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 5 : 前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー 1 : 曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー 2 : バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー 3 : フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅷ
担当講師名	大井剛史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	吹奏楽Ⅷ
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6 : 少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1 : 伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2 : 独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1 : 曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2 : コンサート全体のまとめ
- ⑮ 総合的なレパートリー 3 : ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラ I
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行いAプロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行いBプロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生とAプロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生とBプロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生とABプロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べAプロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べBプロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラⅡ
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、より広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラⅢ
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行いAプロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行いBプロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生とAプロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生とBプロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生とABプロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べAプロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べBプロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラⅣ
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、より広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラⅤ
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行いAプロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行いBプロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生とAプロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生とBプロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生とABプロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べAプロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べBプロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラⅥ
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、より広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラⅦ
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行いAプロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行いBプロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生とAプロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生とBプロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生とABプロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べAプロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べBプロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	オーケストラⅧ
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有紀子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、より広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（オーボエ・ファゴット）
担当講師名	市原 満
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

木管五重奏団「アマデウス・クインテット」主宰、オーボエ奏者。オーケストラ、吹奏楽での演奏実務経験、また吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストの審査員を各地で務めている。

授業内容

楽譜に書かれていることから作曲家がどのように表現してほしいかを読み取り、個々の解釈と共にそれを伝えるために必要な読譜力と演奏技術の基礎を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽表現の基礎である音階の仕組みを理解して、全調（長調、短調）を習得、演奏できるようにする。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス：年間授業計画の説明。楽器の構造、リードと発音の原理の解説。
- ② 基礎奏法(1)：呼吸法、アンブシュア（リードを加えるときの口の形）、姿勢等合理的な奏法について説明します。
- ③ 基礎奏法(2)：フィンガリングに合理的な指の形について説明します。
- ④ 基礎奏法(3)：ロングトーンの練習。音色作りと明瞭な発音の方法について説明します。
- ⑤ 音階の仕組み(1)：長音階の構造を解説。＃♭2つまでの長音階練習、音程の取り方のポイントも習得します。
- ⑥ 音階の仕組み(2)：旋律的短音階と和声的短音階の構造を解説。＃♭2つまでの短音階を練習、短音階の音程の取り方のポイントも習得します。
- ⑦ 確認試験：＃♭2つまでの長調と短調（旋律的、和声的）を個別に演奏する。基礎奏法と音階の習得度を確認します。

中間試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。

出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 平行調と同主調：平行調と同主調の仕組みについて説明します。＃♭2つまでの音階で実践します。
- ⑨ 音階(1)：＃♭3つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングを説明します。
- ⑩ 音階(2)：＃♭4つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングの説明をします。
- ⑪ 音階(3)：＃♭5つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングの説明をします。
- ⑫ 音階(4)：＃♭6つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングの説明をします。
- ⑬ 音階練習法(1)：音階を速く演奏するための練習方法を説明します。色々なリズムで音階を演奏してフィンガリング、指の動きの訓練をします。
- ⑭ 音階練習法(2)：音階を色々なアーティキュレーション使って練習、様々な表現に対応できるようにします。
- ⑮ 期末試験：全ての調の音階が習得できているかを個別に確認します。全調から指定された音階を平行調で演奏します（テンポ指定なし）。

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。
出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

特記事項

音楽表現の基礎である音階は春学期中に全調習得するようにしましょう。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（クラリネット）
担当講師名	円田剛明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

春・秋学期を通して、クラリネットの演奏を続けて行く為、また教える立場になった時為、クラリネットのしくみや奏法等の基礎知識の確認と習得をします。
日々のトレーニングの為にロングトーンや音階練習、アンブシュアや息の使い方の理解と習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・クラリネットの構造と音の出るしくみの理解と確認。
- ・全長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7を理解し、暗譜で演奏出来るようになる事。

授業計画（1回目から7回目）

- ① I・IIクォーターの指針の説明。
- ② クラリネットの歴史・構造・仕組み知り、実際に音を出す、ロングトーン。
- ③ リードとマウスピースについての座学、及び半音また全音移動するロングトーン演習。
- ④ 譜表と各国語による音名の座学、及び長音階演習。
- ⑤ 長音階における音階と主和音の座学と長音階のスケール・アルペジオの実習。
- ⑥ 長音階における音階・主和音と属7の和音の座学、及び長音階のスケール・アルペジオ・属7アルペジオの実習。
- ⑦ 中間試験。全長調の音階の中からいくつかの調を演奏。

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点（20%）・中間試験（20%）の配分で総合的に評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 高音域の運指・アンブシュアを確認し、長音階の音域を広げる。
- ⑨ 前回の高音域を含めた広い音域を使った長音階のスケールとアルペジオの実習。
- ⑩ 高音域を含んだ広い音域を使った長音階のスケールとアルペジオ、及び属7の実習。
- ⑪ 長音階においてのアルペジオ・属7・減7の和音の理解と実習。
- ⑫ 手や体で拍子を取りながら初見の楽譜を読む練習。音程は取れなくても良い。
- ⑬ 初めて見る楽譜をクラリネットを使って演奏する練習。
- ⑭ 春学期のまとめ。長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7の実習、及び初見実習。
- ⑮ 期末試験。長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7の演奏、及び初見演奏。

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点（20%）・期末試験（20%）の配分で総合的に評価する。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（サクソフォン）
担当講師名	中村均一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフォン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡って培ったアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

音楽を正確に表現するための基礎的な演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を簡単な曲を通して養う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本的なテクニックを理論的に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス。授業内容の説明
- ② 「息」のトレーニング。ロングトーンの精度をあげる方法と意味をとらえる
- ③ 「口」のトレーニング。音程のコントロール法を取得する
- ④ 「舌」のトレーニング。タンギングのコントロールを取得する
- ⑤ 「指」のトレーニング。スケールベースの練習および音磨きの練習法
- ⑥ 「顎」のトレーニング。ヴィブラートのコントロールを取得する
- ⑦ 基礎練習の実技試験

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ マルセル・ミュールによる（スケール）
- ⑨ オリジナルのCDを使った音感トレーニング

- ⑩ トレバーワイによる (テクニック初級)
- ⑪ タファネル・ゴーパールによるスケール
- ⑫ ライフェルトによるスケール
- ⑬ オリジナルテキストによるインターバルトレーニング
- ⑭ ロンデックスによる (技術練習)
- ⑮ 実技試験。1,2 クォーターの内容から実技試験

期末試験評価方法・評価基準

授業で取り上げたテキストの中から課題を出し正しくトレーニング出来るかを実技試験とする。

内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, 呼吸法の確認と習得
- 2, 楽典的知識の習得と演奏への応用
- 3, 基礎技術の確認、トレーニング方法の研究

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 顔合わせ、授業内容の説明
- ② 基礎技術1 C-dur、スラー
- ③ 基礎技術2 a-moll
- ④ 基礎技術3 F-dur、強弱
- ⑤ 基礎技術4 d-moll
- ⑥ 基礎技術5 G-dur、アルペジオ
- ⑦ まとめ 演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、②～⑥のスケール確認。
出席50% 平常点30% 試験20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 前回までの確認、授業内容の説明
- ⑨ 基礎技術6 e-moll
- ⑩ 基礎技術7 B-dur、シンコペーション

- ⑪ 基礎技術 8 g-moll
- ⑫ 基礎技術 9 D-dur 、リップスラー
- ⑬ 基礎技術 10 h-moll
- ⑭ 基礎技術 11 Es-dur、半音階
- ⑮ まとめ 演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、⑨～⑭のスケール確認。
出席 50% 平常点 30% 試験 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニング I (フルート)
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

姿勢、呼吸法などの基本奏法、特に全音域の音質を見直し、デイリートレーニングの方法を学びながら基礎力の向上を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

2年間でフルート奏法の基礎練習法を学ぶこの授業の最初の学期は、楽器の発音原理と正しい呼吸法を理解して、姿勢、アンブシュア、等を修正、全音域の音質を改善します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス：2年間の授業の流れを説明。音（音質、音量、音程）の概念
- ② 呼吸法、アンブシュア、楽器の構え、姿勢、発音（シングル・タンギング）の見直し
- ③ 音作り(1)低音域
- ④ 音作り(2)ハーモニックス
- ⑤ 音作り(3)中、高音域
- ⑥ スケールとアルペッジョ(1)：8グレード課題アルテスⅡ巻頭
- ⑦ Iクォーター末試験（実技）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験によってIクォーター授業内容の理解度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音作り(4)柔軟性：強弱、音色
- ⑨ なめらかな運指、半音階
- ⑩ 全音音階

- ⑪ 跳躍音形 Moyse : De la Sonorité No.1~12
- ⑫ スケール(2) : 7 グレード課題/Taffanel et Gaubert : E. J. 1, 2
- ⑬ アルペッジョ : 三和音 Taffanel et Gaubert : E. J. 10
- ⑭ レガートと各種のアーティキュレーション
- ⑮ IIクォーター末試験 (実技)

期末試験評価方法・評価基準

実技試験によってIIクォーター授業内容の理解度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニング I (ホルン)
担当講師名	伊勢久視
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 春期の説明。身体の仕組み、マウスピース、アンブシュア、ブレスコントロール、シラブルを理解。個々のレベル確認。
- ② ホルンという楽器の仕組みを学ぶ。自然倍音列を理解。
- ③ ノンタンギングロングトーン、クレッシェンド、デクレッシェンドを理解。
- ④ スラー、タンギングを理解。
- ⑤ 音域を広げる (中低音域) 1。
- ⑥ 音域を広げる (中低音域) 2。
- ⑦ ①～⑥の復習。

中間試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディ（授業でも使用予定）を実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ①～⑥までを復習します。オーケストラスタディ、エチュードを使用し応用1。
- ⑨ オーケストラスタディ、エチュードを使用し応用2。
- ⑩ 音域を広げる（中高音域）1。
- ⑪ 音域を広げる（中高音域）2。
- ⑫ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～⑪までの復習・応用1。
- ⑬ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～⑪までの復習・応用2。
- ⑭ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～⑪までの復習・応用3。
- ⑮ オーケストラスタディやエチュードを発表します。

期末試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディやエチュードを実演します。その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、低難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニング I (ユーフォニアム・テューバ)
担当講師名	齋藤充
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・テューバの基本奏法を学び、それをどのように音楽につなげるのかを習得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本テクニックであるロングトーン、タンギング、リップスラーを習得した上、スケールやアルペジオを通して正しい調性感を身につけ、それをエチュードやソロ曲にどのように応用をするのかを学んでゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、基本奏法の確認
- ② スケールの導入
- ③ エチュードを学ぶ
- ④ スケールの応用、長音階を中心に
- ⑤ エチュードのアナリゼ
- ⑥ 長音階スケールのまとめ
- ⑦ エチュードの発表、まとめ

中間試験評価方法・評価基準

長音階（暗譜）とエチュードの演奏により評価する。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、基本奏法の確認

- ⑨ 短音階の導入
- ⑩ ソロ曲を学ぶ
- ⑪ 短音階の応用
- ⑫ ソロ曲のアナリゼ
- ⑬ 短音階のまとめ
- ⑭ ソロ曲の発表
- ⑮ 春楽器のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

短音階（暗譜）とソロ曲の演奏により評価する。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニング I(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります

授業内容

この授業では色々な作品に使われている弦楽器ならではの表現を基本的なものを大切に勉強していきます

春学期ではクラシック音楽の親しみやすい曲を使って表現を追求していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

沢山の楽譜を見て素早く演奏でき さらに生き生きとしたアンサンブルが出来ることが到達目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① パッヘルベル カノンの演奏 まずは二長調の音階から始めます ゆっくり音を出していきます
- ② パッヘルベル カノンの演奏 カノンの持っている曲の作りを奏法の変化をもとに作りあげます
- ③ パッヘルベル カノンの演奏 色々なテンポで演奏していきます
- ④ バッハ G線上のアリア 譜面が細かいので低音の8分音符の動きを基準に演奏します
- ⑤ バッハ G線上のアリア フィンガリングとスラーの付け方を大切にしてフレーズを演奏します
- ⑥ バッハ G線上のアリア 通奏低音の音をしっかりと聞けるバランスで演奏します
- ⑦ カノンとG線上のアリア 1人ずつ演奏でテストをします

中間試験評価方法・評価基準

パッヘルベルとバッハの大切なところをピックアップして1人1人の演奏を評価します
また平常確認も大切にします

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク まずはト長調の音階から始めます
- ⑨ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に演奏します
- ⑩ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に後半から第二楽章へ
- ⑪ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 ハ長調の音階とメロディを中心に
- ⑫ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 中間部 短調の部分をゆっくり練習します
- ⑬ アイネクライネ 第三楽章 メヌエットの基本的な弾き方から始めます
- ⑭ アイネクライネ 第三楽章のトリオの部分を練習します
- ⑮ アイネクライネ 1～3 楽章までをアンサンブルとしてまとめます

期末試験評価方法・評価基準

春学期後半からは ソロのみならず アンサンブル 普段の平常確認も大切に評価

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニング I (打楽器)
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器の基本として、スネアドラムとマリンバの奏法を習得します。
スネアドラム：1つ打ち、2つ打ち、ロール、アクセントの技術の他に、基礎リズムを演奏してリズムの取り方や感じ方を学びます。
マリンバ：正しい奏法を習得し、音階とアルペジオ、メロディー視奏を通じて読譜力を養います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

授業の目的を理解し、正しい奏法で演奏できる。
スネアドラム：1つ打ち、基礎リズムを正確に演奏できる。
マリンバ：音階とアルペジオを覚えて弾く。いろいろなメロディーを、楽譜を見ながら演奏できる。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① オリエンテーション
- ② 基礎リズム①、半音階
- ③ 1つ打ち、C-durの音階、アルペジオ
- ④ 基礎リズム②、C-durのメロディー視奏
- ⑤ アクセント、a-mollの音階、アルペジオ
- ⑥ 音名、a-mollのメロディー視奏
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験
バチやマレットの正しい持ち方、構え方、奏法を習得しているか。

左右の音量や音色のバランス、正確なリズム、ミスなくメロディーが演奏できる。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 2つ打ち、G-dur の音階、アルペジオ
- ⑨ 2つ打ちの加速と減速、G-dur のメロディー視奏
- ⑩ アクセントと組み合わせ、e - moll の音階、アルペジオ
- ⑪ アクセントと組み合わせ、e - moll のメロディー視奏
- ⑫ クローズド・ロール、F-dur の音階、アルペジオ
- ⑬ クローズド・ロール、F-dur のメロディー視奏
- ⑭ 練習曲、d-moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験

習得度（正しい奏法、音色やバランス、正確さ、テンポアップ）で評価します。

特記事項

試験は各クォーターで学習した内容より行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドでの演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験があります。

授業内容

音階の理論と実践トレーニング。ワークショップ方式で奏法の研究と確認を行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

長音階、和声短音階、旋律短音階を理解し演奏することが出来る。
※2オクターブまたは1オクターブ及びアルペジオ。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス（現状把握と目標：グレード8のスケール課題の確認）を行います。
- ②長音階理論を学びます。
- ③二分音符1オクターブでの長音階演習を行います。
- ④二分音符1オクターブでの長音階演習を行い、和声短音階理論を学びます。
- ⑤二分音符1オクターブでの長音階及び和声短音階演習を行います。
- ⑥二分音符1オクターブでの長音階及び和声短音階演習を行います。ロングトーンについて研究します。
- ⑦グレード8のスケール課題の確認とエチュード試験ガイダンスを行います。

中間試験評価方法・評価基準

1人ずつグレード8のスケール課題が出来ているかチェックします。
出席：80%、平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧目標（旋律短音階とミドルグレードスケール課題）確認とⅠクォーターの復習を行います。

⑨旋律短音階理論を学び、二分音符1オクターブでの長音階及び和声短音階演習を行います。

⑩二分音符1オクターブでの長音階、和声及び旋律短音階演習を行います。

⑪2オクターブで長音階、1オクターブで和声及び旋律短音階演習を行います。

⑫2オクターブで長音階及び和声短音階、1オクターブで旋律短音階演習を行います。

⑬2オクターブで長音階及び和声短音階、1オクターブで旋律短音階演習を行います。タンギング、フィンガリングについて研究します。

⑭2オクターブで長音階及び和声短音階、1オクターブで旋律短音階演習を行います。タンギング、フィンガリングについて研究します。

⑮スケールテスト。

期末試験評価方法・評価基準

ミドルグレードスケール課題及び1オクターブの旋律短音階が習得出来ているか。

出席：50%、平常点：30%、スケールテスト：20%

特記事項

音階を書く作業も行いますので、五線紙を各自用意してください。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（オーボエ・ファゴット）
担当講師名	市原 満
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

木管五重奏団「アマデウス・クインテット」主宰、オーボエ奏者。オーケストラ、吹奏楽での演奏を経験、また吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストの審査員を各地で務めている。

授業内容

楽譜に書かれていることから作曲家がどのように演奏してほしいかを読み取り、個々の解釈と共にそれを伝えるために必要な毒浮力と演奏技術の基礎を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音階全調をある程度の速いテンポでスムーズに演奏できるようにする。
時代様式に則ったアーティキュレーション、ダイナミクス、フレージング、装飾音の各表現方法を理解、実践できるようにする。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽典(1)：譜表と音名、音符と休符、拍子とリズムについて説明します。変拍子や色々な国の民族音楽のリズムについても解説します。
- ② 楽典(2)：テンポの表記、ダイナミクスの表記、表情の表記、奏法の表記について説明します。イタリア語を基本に、ドイツ語とフランス語の表記についても解説します。
- ③ 楽典(3)：装飾音とアーティキュレーションについて時代様式をふまえて説明します。時代別による表現の違いを解説します。
- ④ 楽典(4)：属調と下屬調、転調の仕組みについて説明します。
- ⑤ 楽典(5)：和音の仕組みについて説明します。主和音（I）、IV、V、V7の各和音の性質を解説します。
- ⑥ 楽典(1)～(5)の実践：簡単な楽曲で学んだ楽典の知識を駆使して楽譜を読み、演奏してみます。
- ⑦ 確認試験：楽典の理解度を簡単な課題曲で確認します。楽譜上の表記や装飾音、またフレージングやアーティキュレーションについての質問をします。

中間試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。
出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 高音域の運指：高音域のフィンガリング、アンブシュア、息の使い方について説明します。（オーボエは第3オクターブキー、ファゴットはト音記号の音域）
- ⑨ 高音域の音階(1)：長音階で音域を広げる練習をします。フィンガリングと息の使い方のポイントを解説します。
- ⑩ 高音域の音階(2)：短音階で高音域につながる音階練習をします。フィンガリングのポイントを解説します。
- ⑪ 音階とアルペジオ(1)：音階とアルペジオを組み合わせる練習、I、IV、Vのアルペジオを習得します。
- ⑫ 属7と減7和音：属7和音、減7和音の説明をします。音階と属7、減7のアルペジオを組み合わせる実践をします。
- ⑬ ソルフェージュ：拍子を取りながら楽譜を読む練習をします。また楽譜上に記された色々な情報を正確に読み取り表現する方法を習得します。初見演奏のコツとポイントも解説します。
- ⑭ アンサンブルの基本：アインザッツ、タイミングの取り方、音程の合わせ方、音量バランスの取り方等、他の音を聴きながら演奏するアンサンブルの基本的な技術を説明、実践します。
- ⑮ 期末試験：簡単なアンサンブル曲（2～3重奏）を課題として演奏、1年間で学んだことの理解度を確認します。また楽曲の分析について質問します。

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。
出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

特記事項

音楽の基礎である最も重要な音階は必ず毎日練習しましょう！

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（クラリネット）
担当講師名	円田剛明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

春・秋学期を通して、クラリネットの演奏を続けて行く為、また教える立場になった時為、クラリネットのしくみや奏法等の基礎知識の確認と習得をします。
日々のトレーニングの為にロングトーンや音階練習、アンブシュアや息の使い方の理解と習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・全長短調のスケール・アルペジオ・属7・減7を、楽譜を見ずに演奏する。
- ・自分に合った日々のトレーニングを確立する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ⅲ・Ⅳクォーターの指針の説明。
- ② 和声短音階と旋律的短音階の成り立ちを確認・理解し、全短調の実習。
- ③ 短音階のスケール・アルペジオの理解と実習。
- ④ 短音階におけるスケール・アルペジオ、さらに属7・減7のアルペジオの理解と実習。
- ⑤ 平行調と同主調についての確認と理解。様々な順番でスケールを練習する。
- ⑥ 2クォーターで行ったソルフエージュ・初見演奏の復習とさらに高度な課題に取り組む。
- ⑦ 中間試験。全短調の音階の中からいくつかの調を演奏。

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点点（20%）・中間試験（20%）の配分で総合的に評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 発音や様々な音の長さを吹き分けるために必要なアンブシュアや舌について考え理解を深める。
- ⑨ スケールやアルペジオに様々なアーティキュレーションを使って実習。
- ⑩ 3度・二重3度の実習とそれらを使って楽器を持つ手の形や動かす範囲・速さの理解と確認。
- ⑪ 3度以上離れた音を繋げて吹く時のアンブシュアや息の使い方の確認と実習。
- ⑫ クラリネット1本、またはクラリネットとピアノで演奏する時の基本的な考え方と実習。
- ⑬ 他の音を聞きながら演奏するアンサンブルの基本。タイミングや音量・音程の取り方などの実習。
- ⑭ 3人以上のクラリネット属によるアンサンブルの基本と考え方、及び実習。
- ⑮ 期末試験。3人以上のクラリネット属によるアンサンブルの発表。

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点（20%）・期末試験（20%）の配分で総合的に評価する。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（サクソフォン）
担当講師名	中村均一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサクソフォン奏者として全国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた23年間に渡って培ったアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

音楽を専門的に学ぶ者として、あくまでもフィーリングだけでなく論理的に自分や他の演奏を分析し、評論や指導が出来るように実際の管楽器講習会の指導を行うシミュレーションをしながらトレーニングをする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本的なテクニックを理論的に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期を振り返って、今後の課題の説明。それぞれの技術的な問題点を話し合う
- ② 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ③ 「一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ④ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ⑤ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ⑥ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ⑦ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で行われたシミュレーションの内容や、評論内容を総合的に評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンサンブル楽曲を用いての演習（ユニゾン中心）
- ⑨ アンサンブル楽曲を用いての演習（音程中心）
- ⑩ アンサンブル楽曲を用いての演習（和音中心）
- ⑪ アンサンブル楽曲を用いての演習（リズム中心）
- ⑫ アンサンブル楽曲を用いての演習（ダイナミクス中心）
- ⑬ アンサンブル楽曲を用いての演習（アナリーゼ中心）
- ⑭ 1年を振り返って、基礎トレーニングの確認
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。
自分の演奏を客観的に分析して理論に照らし合わせてより良い音楽にするための方法を解説出来る様にしたい。
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニングⅡ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, 基礎技術の充実
- 2, 楽典的知識の演奏への応用
- 3, 音楽基礎能力の向上

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 授業内容の説明
- ② 基礎技術⑫ c-moll
- ③ 基礎技術⑬ A-dur、府点
- ④ 基礎技術⑭ fis-moll
- ⑤ 基礎技術⑮ As-dur、ダブルタンギング
- ⑥ 基礎技術⑯ f-moll
- ⑦ まとめ 演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、②～⑥のスケール確認。
出席50% 平常点30% 試験20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 前回までの確認、授業内容の説明
- ⑨ 基礎技術⑰ E-dur、トリプルタンギング
- ⑩ 基礎技術⑱ cis-moll

- ⑪ 基礎技術① es-dur、b-moll
- ⑫ 基礎技術② H-dur、gis-moll
- ⑬ 基礎技術③ Ges-dur、es-moll
- ⑭ 基礎技術④ Fis-dur、dis-moll
- ⑮ まとめ 演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、⑬～⑭のスケール確認。
出席50% 平常点30% 試験20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

春学期に続き、次の段階のデイリートレーニングの方法を項目ごとに留意点を明らかにしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ベーシックトレーニング全般、その基本形の理解。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期内容の見直し、補充演習
- ② スケール(3)：7グレード課題 / Taffanel et Gaubert : E. J. 3
- ③ アルペッジョ (3) : Taffanel et Gaubert : E. J. 12
- ④ 跳躍音形(2) Moyse : De la Sonorité No. 13~24
- ⑤ 各種タンギング (ダブル、トリプル)
- ⑥ 各種タンギング (複合)
- ⑦ IIIクォーター末試験 (実技)

中間試験評価方法・評価基準

実技試験によってIIIクォーター授業内容の理解度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ スケール(4)：6グレード課題 / Reichert op. 5
- ⑨ アルペッジョ(4) Taffanel et Gaubert : E. J. 14
- ⑩ 跳躍音形(3) Moyse : De la Sonorité No. 25~36

- ⑪ トリル / 第1オクターブ
- ⑫ トリル / 第2オクターブ
- ⑬ トリル / 第3オクターブ
- ⑭ トレモロ
- ⑮ 学年末試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験によってIVクォーター授業内容の理解度 1年間の授業内容の到達度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニングⅡ（ホルン）
担当講師名	伊勢久視
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①秋期の説明。春期の復習1。
- ②春期の復習2。
- ③スケールを学ぶ1。
- ④スケールを学ぶ2。
- ⑤コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う1。
- ⑥コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う2。
- ⑦グループに分け、コラールを発表します。

中間試験評価方法・評価基準

コラールを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧ ①～⑥の復習。オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を使用し応用1。

⑨オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を使用し応用2。

⑩オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、苦手な奏法を確認1。

⑪オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、苦手な奏法を確認2。

⑫オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、アンサンブル能力をアップ1。

⑬オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、アンサンブル能力をアップ2。

⑭オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、アンサンブル能力をアップ3。

⑮グループに分け、オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲を発表。

期末試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディやアンサンブル楽曲を実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、低難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニング II (ユーフォニアム・テューバ)
担当講師名	齋藤充
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・テューバの基本奏法を学び、それをどのように音楽につなげるのかを習得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本テクニックであるロングトーン、タンギング、リップスラーを習得した上、スケールやアルペジオを通して正しい調性感を身につけ、それをエチュードやソロ曲にどのように応用をするのかを学んでゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、基本奏法の確認
- ② 2オクターブのスケールを学ぶ
- ③ エチュードを学ぶ
- ④ 2オクターブのスケールの応用テクニック
- ⑤ エチュードのアナリゼ
- ⑥ 2オクターブのスケールのまとめ
- ⑦ エチュードの発表、まとめ

中間試験評価方法・評価基準

2オクターブのスケール（暗譜）とエチュードの演奏により評価する。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、基本奏法の確認

- ⑨ 様々なスケールパターンを学ぶ
- ⑩ ソロ曲を学ぶ
- ⑪ スケールとアルペジオの理解を深める
- ⑫ ソロ曲のアナリゼ
- ⑬ 応用スケールパターンのまとめ
- ⑭ ソロ曲の発表
- ⑮ 秋学期のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

アーバンやレミントンなどのスケールパターン（暗譜）とソロ曲の発表により評価する。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります

授業内容

秋学期の授業も個人の演奏はもとより他のパートの動きをより理解した上での演奏が出来るようにアンサンブルを高めていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期からさらに 楽曲の楽譜に対応した演奏が目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① バッハ 主よ、人の望みの喜びよ の演奏 ト長調の音階練習から始めます
- ② バッハ 主よ、人の望みの喜びよ 三連符の弾き方に注意して演奏します
- ③ バッハ 主よ、人の望みの喜びよ ベースの動きをとらえながら アンサンブルしていきます
- ④ ボッケリーニ メヌエット イ長調の音階から始めます
- ⑤ ボッケリーニ メヌエット 装飾音の練習を中心に
- ⑥ ボッケリーニ メヌエット 内声パートを使った ピッチカーットの練習をします
- ⑦ バッハ and ボッケリーニそれぞれのパートのテスト

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽曲の大切なところをピックアップして
ソロ演奏と平常確認も大切に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンダーソン プリンク プランク プランク 多彩なピッチカート奏法の研究
- ⑨ アンダーソン プリンク プランク バルトークピッチカートや 楽器を叩く奏法も取り上げます

- ⑩ アンダーソン 舞踏会の美女 華やかなワルツの曲をよく響かせる練習をします
- ⑪ アンダーソン 舞踏会の美女 ベースの頭打ち 内声のあとうちの噛み合わせを練習します
- ⑫ アンダーソン 舞踏会の美女 メロディを美しく歌う練習をします
- ⑬ アンダーソン 舞踏会の美女 バスパートを生かした アンサンブルで演奏します
- ⑭ アンダーソン 二曲を続けて演奏して曲のキャラクターを弾きわけます
- ⑮ プリンク プランク 舞踏会の美女 それぞれの大事なところを取り上げテストします

期末試験評価方法・評価基準

冬学期は アンサンブルに重点をおきます
普段からの平常確認で良い演奏を心がけてよいチームワークにしたいです

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器の基本として、スネアドラムとマリンバの奏法を習得します。
スネアドラム：5～15 打ち、ルーディメントを正確に学びます。
マリンバ：正しい奏法を習得し、音階とアルペジオ、メロディー視奏を通じて読譜力や楽典的な知識を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業の目的を理解し、正しい奏法で演奏できる。
スネアドラム：5～15 打ち、ルーディメントを正確に演奏できる。
マリンバ：音階とアルペジオを覚えて弾く。いろいろなメロディーを楽譜を見ながら演奏できる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 5つ打ち、D - dur の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ② 7・9つ打ち、h - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ③ 13・15 打ち、B-dur の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ④ 10・11 打ち、g - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑤ フラム、A - dur、fis - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑥ パラディドル、Es - dur、c - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験
左右の音量、音色、バランス、正確なリズム、強弱への対応。ミスなく演奏ができる。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ルーディメント
- ⑨ E - dur、cis - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑩ ラフ、As - dur、f - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑪ 練習曲、H - dur、gis - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑫ 練習曲、Des - dur、b - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑬ 練習曲、Ges - dur、es - moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑭ 秋学期のまとめ、復習
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験

左右の音色・音量・バランス、リズムの正確さ、強弱への対応、ミスのない演奏等を評価します。

特記事項

試験は各クォーターで学習した内容より行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニング II (トランペット)
担当講師名	班目 加奈
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

音階練習を徹底します。初見演奏を通じて読譜と表現の基礎を学びます。メジャーな教本を理解し、基礎練習の様々なスタイルを経験しながら、全員で上達を目指します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

音階を習得します。初見演奏を含む、読譜力の向上をはかります。奏法を理解し、デイリートレーニングの確認を行い自分自身で向上できる力を養います。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ガイダンスと春学期授業内容 (ミドルグレードスケール課題及び1オクターブの旋律短音階) の復習をします。
- ②2オクターブの長音階、和声及び旋律短音階の演習を行います。
- ③アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。拍子、リズムについて学びます。
- ④アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。拍子、リズムについて学びます。
- ⑤アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、長三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。アーティキュレーションについて学びます。
- ⑥アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、長三和音と短三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。アーティキュレーションについて学びます。
- ⑦アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階のテストを行います。

中間試験評価方法・評価基準

2オクターブの長音階、和声及び旋律短音階を習得しているか。
出席：50%、平常点：30%、スケールテスト：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Ⅲクォーターの授業内容の復習を行います。
- ⑨アーバン金管教本短音階、長三和音と短三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、スラーについて学びます。
- ⑩アーバン金管教本短音階、長三和音と短三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、リップスラーについて学びます。
- ⑪バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。
- ⑫バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。
- ⑬バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。
- ⑭バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。
- ⑮1年のまとめ。

期末試験評価方法・評価基準

授業内でそれぞれの学習、習得度をチェックします。
出席：50%、平常点：50%

特記事項

教材はこちらから提供しますので、特に用意する必要はありません。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニング III (オーボエ・ファゴット)
担当講師名	多田 逸左久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。本学においても、十数年来本講座或いは関連する講座を担当しています。

授業内容

楽器を演奏するために必要不可欠な、ロングトーン・音階・分散和音を、習熟を目指して演習します。I・IIクォーターでは、ロングトーンと \sharp \flat 3つまでの調性の音階と主和音分散和音を、2回繰り返して演習します。

加えて、それぞれの楽器のベーシックなエチュードの中から、相対する調性の曲を適宜演習します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

音階・分散和音については、テンポ \downarrow = 60 (1回目) 及び \downarrow = 80 (2回目) を目標とします。エチュードについては、相応なテンポで、表情豊かな演奏を目指します。

一年間の演習を通して、自信の不得意領域を発見或いは再認識し、それを大幅に是正することが期待できます。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画 (1回目から7回目)

① ガイダンス / I・IIクォーターの授業の指針を説明

→ハ長調・イ短調 (1回目) / ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

②ヘ長調・ニ短調 (1回目) / ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

③ト長調・ホ短調 (1回目) / ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

④変ロ長調・ト短調 (1回目) / ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

⑤ニ長調・ロ短調 (1回目) / ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

⑥変ホ長調・ハ短調 (1回目) / ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

⑦イ長調・嬰ヘ短調 (1回目) / ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

→ Iクォーターの総括 / 到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率 (50%)・平常点 (10%)・実技試験 (40%) を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ハ長調・イ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑨ヘ長調・ニ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑩ト長調・ホ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑪変ロ長調・ト短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑫ニ長調・ロ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑬変ホ長調・ハ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑭イ長調・嬰へ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑮春学期の総括／Ⅱクォーター末実技試験予行演習
新曲初見視奏・音階・主和音分散和音・エチュード

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（クラリネット）
担当講師名	齋藤雄介
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

プロオーケストラに所属し、普段よりオーケストラや室内楽の実務を行なっています。

授業内容

楽器の演奏の基礎であるロングトーンやスケールを、都度講師が準備するテキストを使ってトレーニングします。

また、それを発展させた初見課題や、簡単なアンサンブルも取り入れながら、多角的にクラリネットのスキルアップを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

全ての調の音階を習得し、それを生かした楽曲の理解や読譜能力の向上に繋げて、楽しくクラリネットを吹くのが目的です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス
- ② スケール(1)
- ③ スケール(2)
- ④ スケール(3)
- ⑤ 主和音アルペジオ(1)
- ⑥ 主和音アルペジオ(2)
- ⑦ 到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 主和音アルペジオ(3)
- ⑨ 属7アルペジオ(1)

- ⑩ 属7アルペジオ(2)
- ⑪ 属7アルペジオ(3)
- ⑫ 減7アルペジオ(1)
- ⑬ 減7アルペジオ(2)
- ⑭ 減7アルペジオ(3)
- ⑮ 春楽器のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ (サクソフォーン)
担当講師名	波多江史朗
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

基本技術の定着と基礎技術の実践への応用を学ぶ。
初歩的なアナリーゼ、音楽の様式を学び、より音楽への理解を深めることで表現力につなげていく。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基礎の更なる向上を目指し難易度の高い曲にも対応できる技術が得られる。表現力が身につく。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①【ガイダンス】
基礎とは何かを知る(技術的、音楽的)
- ②【腹式呼吸とアンブチャーについて考察する】
ネックを使ってのロングトーン。リードの硬さとアンブチャーの関係を知る。正しい姿勢と構え方を学ぶ。
- ③【指のポジションについて考察する①】
左手の理想的なポジションを知る。
- ④【指のポジションについて考察する②】
右手の理想的なポジションを知る。
サムフックの正しい使い方。小指の使い方。
- ⑤【音階を使った理想的呼吸と構えの実現①】
腹式呼吸、姿勢と手のポジションを崩さずに。
調号2つまでの長調。スラー。
- ⑥【音階を使った理想的呼吸と構えの実現②】
短調の特徴的分析。調号2つまでの短調。スラー。
- ⑦【タンギングとアーティキュレーション①】

舌の付け方動かし方についての考察。2つの異なる技術を知る(主に息を使用したアーティキュレーションと、舌で止めるアーティキュレーション)。ハーフタンギングを用いたスタッカート。【初見】簡単なソロ曲の初見課題。

【発表】スケールの発表会(スラー、タンギング)

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、スケール発表会10%

授業計画 (8回目から15回目)

⑧【タンギングとアーティキュレーション②】

様々なアーティキュレーションに対応する。スタッカート、アクセント、テヌートなど技術的に分析し学ぶ。【初見】簡単な二重奏の初見課題。

⑨【スケールを使用したアーティキュレーション】

スケールブック1~4のアーティキュレーションを用いて調号3つまでのスケールを完成させる。【初見】中難度の初見課題。

⑩【調号3つ以上のスケールの攻略】

小指の使用による難度の上昇を理解する。fis-mollでのTfキイの使用。PキイとTaキイの使い分けを学ぶ。【初見】簡単な二重奏の初見課題。

⑪【アルペジオの攻略】

ドミナントとトニックについて。減7の和音の分析。

小指の使い方、PキイとTaキイの使い分けを学ぶ。【初見】簡単なソロの初見課題。

⑫【3度進行スケールの攻略】

PキイとTaキイの使い分けを学ぶ。サイドキイの押さえ方を復習する。【初見】簡単なソロの初見課題。

⑬【ピアノとのチューニングをマスターする】

サクソフォーンの音程の特性を知り、ピアノとの演奏時に、より正確な音程で演奏するためのチューニングをマスターする。【初見】中難度ソロの初見課題。

⑭【アルティシモの奏法】

完全なる腹式呼吸の体得とアンブシャーについて考察する。特殊な指遣いについて運指表を使用し学ぶ。【初見】中難度のソロの初見課題。(現代的作品)

⑮【特殊奏法を知る～まとめ】

現代作品で用いられる技術の習得。スラップ、フラッター、重音、微分音、ポルタメントなど。【発表】スケール、アルペジオ、3度を様々なアーティキュレーションで。アルティシモコンクールを行い高め合う。

今後ここまでの基礎をどのように活かすかディスカッションする。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、スケール発表会10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニングⅢ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, デイリートレーニングの確立と奏法の研究
- 2, 基礎技術の確認（音階・長調・短調の徹底）
- 3, アンサンブルの導入（作品を演奏しながらアンサンブルの基礎を学ぶ）
- 4, 作品研究・音楽スタイル、音楽史の知識など

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各自、デイリートレーニングの確立とスケールの理解
初見力とアンサンブルテクニックの向上

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 自己紹介、授業内容の説明
- ② ウォームアップ1 & スケール 呼吸法、マウスピースの練習
- ③ ウォームアップ2 & スケール ロングトーン、ダイナミクスの練習
- ④ ウォームアップ3 & スケール 倍音、リップスラー、フレキシビリティの練習
- ⑤ ウォームアップ4 & スケール タンギングの練習
- ⑥ まとめ 各自の練習メニューと課題
- ⑦ 試験 演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 試験20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 授業内容の説明

- ⑨ アンサンブルの基礎 1 デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニク
- ⑩ アンサンブルの基礎 2 デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニク
- ⑪ アンサンブルの実習 1 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニク
- ⑫ アンサンブルの実習 2 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニク
- ⑬ アンサンブルの実習 3 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニク
- ⑭ アンサンブルの実習 4 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニク
- ⑮ まとめ 演奏発表

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 試験 20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

1年次同授業Ⅰ、Ⅱを継続して基礎練習全般を補充し、応用練習の方法を修得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後もフルート奏法の全ての技術を高めていくための基本練習の方法の理解。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス一年次授業の補足と今年度授業内容の説明。
- ② スケール / 5グレード課題 Taffanel et Gaubert : E. J. 4
- ③ アルペッジョ / 転回形 (1) Taffanel et Gaubert : E. J. 8, 9, 11
- ④ 音の発展(1) 音量の変化
- ⑤ 音の発展(2) 音程の調整
- ⑥ 音の発展(3) 音色の変化
- ⑦ Iクォーター末試験（実技）

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解と到達度出席率、授業態度を加えて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音の発展(4) ヴィブラートの訓練
- ⑨ 音の発展(5) 音楽的なヴィブラートについて
- ⑩ スケール / 4グレード課題 Moyse : Ex. Journiers より
- ⑪ アルペッジョ / 転回形(2) Taffanel et Gaubert : E. J. 13
- ⑫ フラッター・タンギング
- ⑬ 替え指（音程修正のための）

⑭ 替え指（難しい音形、パッセージを容易にするための）

⑮ II クォーター末試験（実技）

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解と到達度出席率、授業態度を加えて評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニングⅢ（ホルン）
担当講師名	伊勢久視
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春期の説明。身体の仕組み、マウスピース、アンブシュア、ブレスコントロール、自然倍音、シラブルの理解を確認。個々のレベル確認。
- ② ノンタンギングロングトーン、クレッシェンド、デクレッシェンド、スラー、タンギングを理解。
- ③ 音域を広げる1
- ④ 音域を広げる2
- ⑤ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～④までの復習・応用1
- ⑥ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～④までの復習・応用2
- ⑦ ①～⑥の復習。

中間試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ スケールを学ぶ1
- ⑨ スケールを学ぶ2
- ⑩ オーケストラスタディを用いて、移調読みを学ぶ1
- ⑪ オーケストラスタディを用いて、移調読みを学ぶ2
- ⑫ コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う1
- ⑬ コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う2
- ⑭ コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う3
- ⑮ グループに分け、コラールを発表します。

期末試験評価方法・評価基準

コラールを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、中難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ (ユーフォニアム・テューバ)
担当講師名	大山智
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロ吹奏楽団、オーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

基本奏法を学び様々な演奏に対応できるスキルを身につける

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基本のスケールと応用ができるようになる

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス (授業内容の説明)、C-dur a-moll
- ② F-dur d-moll
- ③ B-dur g-moll
- ④ Es-dur c-moll
- ⑤ As-dur f-moll
- ⑥ Des-dur b-moll
- ⑦ Ges-dur es-moll、まとめ

中間試験評価方法・評価基準

スケールをどの程度習得できたか確認をする。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 前回までの確認
- ⑨ G-dur e-moll
- ⑩ D-dur h-moll
- ⑪ A-dur fis-moll
- ⑫ E-dur cis-moll

- ⑬ H-dur gis-moll
- ⑭ アルペジオ
- ⑮ まとめ

期末試験評価方法・評価基準

スケールをどの程度習得できたか確認をする。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

この授業では色々な作品に使われている弦楽器ならではの表現を基本的なものを大切に勉強していきます
春学期ではクラシック音楽の親しみやすい曲を使って表現を追求していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

沢山の楽譜を見て素早く演奏でき さらに生き生きとしたアンサンブルが出来ることが到達目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① パッヘルベル カノンの演奏 まずは二長調の音階から始めます ゆっくり音を出していきます
- ② パッヘルベル カノンの演奏 カノンの持っている曲の作りを奏法の変化をもとに作りあげます
- ③ パッヘルベル カノンの演奏 色々なテンポで演奏していきます
- ④ バッハ G線上のアリア 譜面が細かいので低音の8分音符の動きを基準に演奏します
- ⑤ バッハ G線上のアリア フィンガリングとスラーの付け方を大切にしてフレーズを演奏します
- ⑥ バッハ G線上のアリア 通奏低音の音をしっかりと聞けるバランスで演奏します
- ⑦ カノンとG線上のアリア 1人ずつ演奏でテストをします

中間試験評価方法・評価基準

パッヘルベルとバッハの大切なところをピックアップして1人1人の演奏を評価します
また平常確認も大切にします

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク まずはト長調の音階から始めます
- ⑨ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に演奏します
- ⑩ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に後半から第二楽章へ
- ⑪ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 ハ長調の音階とメロディを中心に
- ⑫ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 中間部 短調の部分をゆっくり練習します
- ⑬ アイネクライネ 第三楽章 メヌエットの基本的な弾き方から始めます
- ⑭ アイネクライネ 第三楽章のトリオの部分を練習します
- ⑮ アイネクライネ 1～3 楽章までをアンサンブルとしてまとめます

期末試験評価方法・評価基準

春学期後半からは ソロのみならず アンサンブル 普段の平常確認も大切に評価

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（打楽器）
担当講師名	荻原松美
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

シエナ・ウインド・オーケストラ、そして他のオーケストラや室内楽において、クラッシック・パーカッションからドラムセット・ラテンパーカッション等、幅広いジャンルにて打楽器の演奏を経験してきました。

授業内容

ラテンパーカッション全般とドラムセットの基本奏法について講義、そして実際に生徒に実践してもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各楽器の奏法と同時に、各ジャンルの歴史やノリについても考察を深めます。

授業計画（1回目から7回目）

<キューバのリズム>

- ① 授業の説明
- ② チャチャチャ 1
- ③ チャチャチャ 2
- ④ マンボ 1
- ⑤ マンボ 2
- ⑥ リズムアンサンブル
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

各楽器の基本奏法の習得度。
アンサンブル内でのバランスとノリ。

授業計画（8回目から15回目）

<ブラジル系・その他のリズム>

- ⑧ アドリブ奏法
- ⑨ サンバ 1
- ⑩ サンバ 2・ボサノバ
- ⑪ ドラムセットの説明
- ⑫ ドラムセットのリズムパターン 1
- ⑬ ドラムセットのリズムパターン 2
- ⑭ リズムアンサンブル
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

各楽器の基本奏法の習得度。
アンサンブル内でのバランスとノリ。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（トランペット）
担当講師名	杉木淳一朗
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、海外での演奏経験も豊富で様々な教育手法の実務経験を持ちます。

授業内容

基礎を重視し、発音、音色や奏法を再確認しつつ、アーバンなど良く知られた教則本や、配布するプリントに基づき演奏技術を高める。また試験に関連付け、スケールや初見、表現力にも重点を置く。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ①デイリートレーニングの確立と奏法の研究
- ②演奏スタイルの研究および表現力の向上
- ③初見力とアンサンブルテクニックの向上

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 自己紹介、授業の説明
- ②ウォームアップ1&スケール 呼吸法、マウスピースの練習
- ③ウォームアップ2&スケール ロングトーン、ダイナミクスの練習
- ④ウォームアップ3&スケール 倍音、リップスラー、フレキシビリティの練習
- ⑤ウォームアップ4&スケール タンギングの練習
- ⑥まとめ 各自の練習メニューと課題
- ⑦試験形態は実技演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス 授業内容の説明
- ⑨アンサンブルの基礎1 デュエットの初見演奏、アンサンブルテクニック

- ⑩アンサンブルの基礎2 デュエットの初見演奏、アンサンブルテクニック
- ⑪アンサンブルの実習1 4重奏以上の編成、アンサンブルテクニック
- ⑫アンサンブルの実習2 4重奏以上の編成、アンサンブルテクニック
- ⑬アンサンブルの実習3 4重奏以上の編成、アンサンブルテクニック
- ⑭まとめ 演奏発表
- ⑮試験 レポート提出、演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（オーボエ・ファゴット）
担当講師名	多田 逸左久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。本学においても、十数年来本講座或いは関連する講座を担当しています。

授業内容

楽器を演奏するために必要不可欠な、ロングトーン・音階・分散和音を、習熟を目指して演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、ロングトーンと $\sharp\flat$ 3つまでの調性の属七和音分散和音と三度音階及び $\sharp\flat$ 4～5の調性（含平行調）の音階と主和音分散和音を演習します。

加えて、それぞれの楽器のベーシックなエチュードの中から、相対する調性の曲を適宜演習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音階・分散和音については、テンポ $J = 60$ を目標とします。エチュードについては、相応なテンポで、表情豊かな演奏を目指します。

一年間の演習を通して、自信の不得意領域を発見或いは再認識し、それを大幅に是正することが期待できます。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

① ガイダンス／Ⅲ・Ⅳクォーターの授業の指針を説明

→ハ長調・イ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

②ヘ長調・ニ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

③ト長調・ホ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

④変ロ長調・ト短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

⑤ニ長調・ロ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

⑥変ホ長調・ハ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

⑦イ長調・嬰ヘ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

→Ⅲクォーターの総括／到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50％）・平常点（10％）・実技試験（40％）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧変イ長調・ヘ短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑨ホ長調・嬰ハ短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑩変ニ長調・変ロ短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑪ロ長調・嬰ト短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑫分散和音の応用形（1）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑬分散和音の応用形（2）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑭分散和音の応用形（3）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑮一年間の総括／到達度確認テスト
新曲初見視奏・音階・主和音分散和音・エチュード

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（クラリネット）
担当講師名	齋藤雄介
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

プロオーケストラに所属し、普段よりオーケストラや室内楽の実務を行なっています。

授業内容

楽器の演奏の基礎であるロングトーンやスケールを、都度講師が準備するテキストを使ってトレーニングします。

また、それを発展させた初見課題や、簡単なアンサンブルも取り入れながら、多角的にクラリネットのスキルアップを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

全ての調の音階を習得し、それを生かした楽曲の理解や読譜能力の向上に繋げて、楽しくクラリネットを吹くのが目的です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 3度進行のスケール(1)
- ② 3度進行のスケール(2)
- ③ 3度進行のスケール(3)
- ④ さらに跳躍するスケール(1)
- ⑤ さらに跳躍するスケール(2)
- ⑥ さらに跳躍するスケール(3)
- ⑦ 到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音階を発展させた初見課題(1)
- ⑨ 音階を発展させた初見課題(2)

- ⑩ 音階を発展させた初見課題(3)
- ⑪ 初見アンサンブル課題(1)
- ⑫ 初見アンサンブル課題(2)
- ⑬ 初見アンサンブル課題(3)
- ⑭ 秋学期のまとめ
- ⑮ 小発表会 (テスト)

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ(サクソフォーン)
担当講師名	波多江史朗
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

基本技術の定着と基礎技術の実践への応用を学ぶ。
初歩的なアナリゼ、音楽の様式を学び、より音楽への理解を深めることで表現力につなげていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本技術の定着と基礎技術の実践への応用を学ぶ。
初歩的なアナリゼ、音楽の様式を学び、より音楽への理解を深めることで表現力につなげていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ①【基礎技術の応用と実現～初級①】
エチュードを使用した基礎技術の応用。ラクール・50のエチュード上巻を使用する
【初見】中難度の初見課題。
- ②【基礎技術の応用と実現～初級②】
ラクール50のエチュード上巻を使用する。
【初見】中難度の初見課題。
- ③【基礎技術の応用と実現～初級③】
ラクール50のエチュード下巻を使用する。
【初見】中難度の初見課題。
- ④【基礎技術の応用と実現～初級④】
ラクール50のエチュード下巻を使用する。
【初見】中難度の初見課題。
- ⑤【基礎技術の応用と実現～中級①】
クローゼ日々の日課練習を使用する。
【初見】中難度の初見課題。

⑥【基礎技術の応用と実現～中級②】
クローゼ日々の日課練習を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑦【基礎技術の応用と実現～中級③】
クローゼ日々の日課練習を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点60%

授業計画（8回目から15回目）

⑧【基礎技術の応用と実現～上級①】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑨【基礎技術の応用と実現～上級②】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題

⑩【基礎技術の応用と実現～上級③】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑪【基礎技術の応用と実現～上級④】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑫【基礎技術の応用と実現～特級①】
フェルリング48のエチュードを使用する。

【初見】高度な初見課。

⑬【基礎技術の応用と実現～特級②】
フェルリング48のエチュードを使用する。

【初見】高度な初見課題(アルティシモを使用)

⑭【基礎技術の応用と実現～特級③】
ラクール20のメシアンのモードによるエチュードを使用する。

【初見】高度な初見課題(現代的作品)

⑮【一年のまとめ】

【発表】スケール課題、任意のエチュードの演奏、アルティシモコンクール、特殊奏法コンクールを行う。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点60%、発表10%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, オーケストラスタディーを学ぶ
- 2, 作品研究、歴史的意義、金管楽器の特徴について学ぶ
- 3, トランスポーズ（読み替え）
- 4, セクションでのアンサンブル

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

トランスポーズ・音程・ダイナミクス・様式感の理解

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 授業内容の説明
- ② トランスポーズ1 読み替えの方法
- ③ トランスポーズ2 各種Clefの読み方
- ④ オーケストラスタディー1 オーケストラの旋律を体験
- ⑤ オーケストラスタディー2 オーケストラの旋律を体験
- ⑥ オーケストラスタディー3 オーケストラの旋律を体験
- ⑦ まとめ 模擬オーディションによる演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 試験20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 授業内容の説明
- ⑨ オーケストラスタディー4（セクション） セクションとしての演奏

- ⑩ オーケストラスタディー5 (セクション) サウンドの統一
- ⑪ オーケストラスタディー6 (セクション) スタイルの統一
- ⑫ 移調アンサンブル1 バロック以前の作品で合奏
- ⑬ 移調アンサンブル2 バッハのオルガン曲を合奏
- ⑭ 移調アンサンブル3 古典派以降の作品を合奏
- ⑮ まとめ 演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 試験20%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

基礎練習のまとめと応用。状態に応じた訓練のヴァリエーション。
基礎練習を実際のソロ、合奏パートの演奏に活かすための楽曲分析の方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際の楽曲演奏をより良いものにするために基礎練習を活用する方法を理解する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① スケール / 3 グレード課題 Gilbert:Technical Flexibility
- ② アルペッジョ / 転回形 Taffanel et Gaubert : E. J. 15, 16
- ③ アナリーゼ（楽曲分析）1
- ④ アナリーゼ（楽曲分析）2
- ⑤ アナリーゼ（楽曲分析）3
- ⑥ アナリーゼ（楽曲分析）4
- ⑦ IIIクォーター末試験（実技）

中間試験評価方法・評価基準

課題楽曲の分析能力と、それを基にして基礎練習がどのように反映されているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モイーズの練習法 (Tschnical Mastery for the Virtuoso Flutist 他)
- ⑨ デボストの練習法 (Simple Flute)
- ⑩ グラーフの練習法 (Check-Up)
- ⑪ 替え指 (音程のための)

- ⑫ 替え指（パッセージの難所を容易にするための）
- ⑬ 音質、音色の変化
- ⑭ ベーシックトレーニングのまとめ
- ⑮ 学年末試験（実技）

期末試験評価方法・評価基準

課題楽曲の演奏で基礎練習の反映度を評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニングⅣ（ホルン）
担当講師名	伊勢久視
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 秋期の説明。ゲシュトップ、リップトリル、グリッサンドを理解1
- ② ゲシュトップ、リップトリル、グリッサンドを理解2
- ③ リップスラー、アルペジオ1
- ④ リップスラー、アルペジオ2
- ⑤ モーツァルトホルン協奏曲を学ぶ1
- ⑥ モーツァルトホルン協奏曲を学ぶ2
- ⑦ 楽曲を発表

中間試験評価方法・評価基準

楽曲を実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用1
- ⑨ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用2
- ⑩ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用3
- ⑪ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用4
- ⑫ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用5
- ⑬ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用6
- ⑭ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用7
- ⑮ ソロ、グループでオーケストラスタディ、エチュードを発表

期末試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、中～高難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ (ユーフォニアム・テューバ)
担当講師名	大山智
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロ吹奏楽団、オーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

エチュードやアンサンブルを通して必要な技術を習得する

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

エチュードとアンサンブルの基礎が身につく

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス (授業内容の説明)
- ② 様々なアーティキュレーション①、アンサンブル
- ③ 様々なアーティキュレーション②、アンサンブル
- ④ 半音階①、アンサンブル
- ⑤ 半音階②、アンサンブル
- ⑥ 跳躍①、アンサンブル
- ⑦ 跳躍②、アンサンブル まとめ

中間試験評価方法・評価基準

エチュードの理解とアンサンブルの質を確認する。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 前回までの確認
- ⑨ 様々なアルペジオ①、アンサンブル
- ⑩ 様々なアルペジオ②、アンサンブル
- ⑪ 高度なエチュード①、アンサンブル
- ⑫ 高度なエチュード②、アンサンブル

- ⑬ 高度なエチュード③、アンサンブル
- ⑭ まとめ
- ⑮ 発表

期末試験評価方法・評価基準

エチュードの理解とアンサンブルの質を確認する。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

秋学期の授業も個人の演奏はもとより他のパートの動きをより理解した上での演奏が出来るようにアンサンブルを高めていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期からさらに 楽曲の楽譜に対応した演奏が目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① バッハ 主よ、人の望みの喜びよ の演奏 ト長調の音階練習から始めます
- ② バッハ 主よ、人の望みの喜びよ 三連符の弾き方に注意して演奏します
- ③ バッハ 主よ、人の望みの喜びよ ベースの動きをとらえながら アンサンブルしていきます
- ④ ボッケリーニ メヌエット イ長調の音階から始めます
- ⑤ ボッケリーニ メヌエット 装飾音の練習を中心に
- ⑥ ボッケリーニ メヌエット 内声パートを使った ピッチカーットの練習をします
- ⑦ バッハ and ボッケリーニそれぞれのパートのテスト

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽曲の大切なところをピックアップしてソロ演奏と平常確認も大切に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンダーソン プリンク プランク プランク 多彩なピッチカート奏法の研究
- ⑨ アンダーソン プリンク プランク バルトークピッチカートや 楽器を叩く奏法も取り上げます

- ⑩ アンダーソン 舞踏会の美女 華やかなワルツの曲をよく響かせる練習をします
- ⑪ アンダーソン 舞踏会の美女 ベースの頭打ち 内声のあとうちの噛み合わせを練習します
- ⑫ アンダーソン 舞踏会の美女 メロディを美しく歌う練習をします
- ⑬ アンダーソン 舞踏会の美女 バスパートを生かした アンサンブルで演奏します
- ⑭ アンダーソン 二曲を続けて演奏して曲のキャラクターを弾きわけます
- ⑮ プリンク プランク 舞踏会の美女 それぞれの大事なところを取り上げテストします

期末試験評価方法・評価基準

冬学期は アンサンブルに重点をおきます
普段からの平常確認で良い演奏を心がけてよいチームワークにしたいです

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（打楽器）
担当講師名	荻原松美
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

シエナ・ウインド・オーケストラ、そして他のオーケストラや室内楽において、クラシック・パーカッションからドラムセット・ラテンパーカッション等、幅広いジャンルにて打楽器の演奏を経験してきました。

授業内容

ティンパニ及びクラシック・パーカッション全般の基本奏法について講義。生徒に実践してもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各楽器の奏法と同時に、各ジャンル特有のニュアンスや表現の仕方についても考察を深めます。

授業計画（1回目から7回目）

<ティンパニ>

- ① 音程
- ② サイズと音域、音出し
- ③ ロール、バランス、セッティング
- ④ 交差、音止め
- ⑤ アンサンブル
- ⑥ 練習曲
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

ティンパニの基本奏法の習得度。
楽曲内におけるティンパニの役割、主音・属音を中心とした低音楽器としての表現の理解度。

授業計画（8回目から15回目）

<クラシック・パーカッション>

- ⑧ 大太鼓
- ⑨ 合わせシンバル
- ⑩ サスペンデッド・シンバル、タムタム
- ⑪ トライアングル
- ⑫ タンバリン
- ⑬ カスタネット
- ⑭ リズムアンサンブル
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

各楽器の基本奏法の習得度。
各楽器が各ジャンルに於いてどのように表現されてきたか、それぞれのニュアンスの理解度。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	ベーシクトレーニングⅣ（トランペット）
担当講師名	杉木淳一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、海外での演奏経験も豊富で様々な教育手法の実務経験を持ちます。

授業内容

- ①オーケストラスタディを学ぶ
- ②作品研究、歴史的意義、金管楽器の特徴について学ぶ
- ③トランスポーズ（読み替え）
- ④セクションでのアンサンブル

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

トランスポーズ、音程、ダイナミクス、様式感の理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 授業内容の説明
- ②トランスポーズ1 読み替えの方法
- ③トランスポーズ2 各種Clefの読み方
- ④オーケストラスタディ1 オーケストラの旋律を体験
- ⑤オーケストラスタディ2 オーケストラの旋律を体験
- ⑥まとめ mock auditionの体験
- ⑦試験 レポートもしくは実技試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス 授業内容の説明
- ⑨オケスタ（セクション1） セクションとしての演奏

- ⑩オケスタ（セクション2） サウンドの統一
- ⑪オケスタ（セクション3） スタイルの統一
- ⑫移調アンサンブル1 バロック以前の作品を用いて合奏
- ⑬移調アンサンブル2 バッハのオルガン曲を合奏
- ⑭移調アンサンブル3 古典派移行の作品を合奏
- ⑮試験 レポートもしくは実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー
科目名	アナリーゼ I (クラシック楽典)
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管楽器

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

専攻楽器演奏試験で、自身が演奏する楽曲の分析レポートを作成するための授業です。小曲の分析をし、レポートを想定したフォーマットに記入してもらうことで、今後提出する楽曲分析のイメージをつかみます。並行して基礎的な楽典をしっかりと学び、『和声と楽式のアナリーゼ』のテキストを用い、和声学、形式を学んでいきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

多様な視点を持ち、適切な用語を用い、自分の力で分析して文章化できるようになることを目標としています。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス。アナリーゼとは何かについて説明します。
- ② 音楽のなりたち。メロディーとコードの関係について。非和声音について学ぶ。与えられたコード進行にメロディーを作成してみよう。
- ③ 音楽のなりたち。非和声音を取り入れてメロディー制作に反映させる。モチーフの研究。
- ④ 音楽のなりたち。長音階、短音階についてしっかり理解し、演奏する。調性について学ぶ。調判定の課題を実施。
- ⑤ 音楽のなりたち。形式について。二部形式、三部形式について。モチーフの展開について考えてみよう
- ⑥ 期末に提出するレポートのアウトラインを立て始めます。
楽曲分析：ソナチネ。ソナチネ作品を分析する。形式、調判定や転調など、メロディーと和声の関係について。
- ⑦ 1クォーター試験

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験の結果 50%、出席 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽曲分析：各自の楽曲。自身の演奏している曲のアナリゼをしていきましょう。
レポートフォーマットについて
- ⑨ 楽曲分析：時代、形式について
- ⑩ 楽曲分析：調や転調について
- ⑪ 楽曲分析：モチーフの展開について。
- ⑫ 期末に提出するレポートのアウトラインを立て始めます。
- ⑬ 期末に提出するレポートの内容を詰め、文章化していきます。
- ⑭ 期末に提出するレポートの内容を詰め、仕上げていきます。
- ⑮ 2クオータ試験、レポート提出。発表会

期末試験評価方法・評価基準

レポート内容 50%、出席 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	アナリーゼ II (クラシック楽典・分析基礎)
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管楽器

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

専攻楽器演奏試験で、自身が演奏する楽曲の分析レポートを作成するための授業です。小曲の分析をし、レポートを想定したフォーマットに記入してもらうことで、今後提出する楽曲分析のイメージをつかみます。並行して『和声と楽式のアナリーゼ』のテキストを用い、基本的な形式や和声学を学んでいきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

多様な視点を持ち、適切な用語を用い、自分の力で分析して文章化できるようになることを目標としています。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ロンド形式分析 (古典)
- ② ソナタ形式分析 (古典)
- ③ ロンド形式分析 (ロマン)
- ④ ソナタ形式分析 (ロマン)
- ⑤ ロンド形式分析 (近代)
- ⑥ ソナタ形式分析 (近代)
- ⑦ 3Qのまとめテスト 小品の分析をし、レポートにまとめます。

中間試験評価方法・評価基準

筆記レポート試験の結果 50%、出席 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ ベートーヴェン悲愴ソナタ分析①

- ⑨ ベートーヴェン悲愴ソナタ分析②
- ⑩ ベートーヴェン悲愴ソナタ分析③
- ⑪ 楽曲分析：各自の楽曲。自身の演奏している曲のアナリゼをしていきましょう。レポートフォーマットについて
- ⑫ 期末に提出するレポートのアウトラインを立て始めます。
- ⑬ 期末に提出するレポートの内容を詰め、文章化していきます。
- ⑭ 期末に提出するレポートの内容を詰め、仕上げていきます。
- ⑮ 4クオータ試験、レポート提出。発表会

期末試験評価方法・評価基準

レポート内容 50%、出席 50%をそれぞれ点数化し、評価します。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	アナリーゼⅢ
担当講師名	西上和子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管楽器

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

音楽の成り立ち（形式、メロディー分析、コード分析やモチーフのさまざまな使い方など）を分析していく。和声の知識を深める。アナリーゼのレポートを作成する

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

和声の課題実施を通して正しく理解する。バロック、古典派、ロマン派などの作品をアナリーゼし、どのように演奏表現に反映させていけるか、を自身の力で考えていけるように学習する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 和声の課題実施についての説明
- ② 四声体の和声課題の実施。第一章、予備知識、第二章基本位置3和音の配置について学ぶ。
- ③ 四声体の和声課題の実施。第二章基本位置3和音の配置について学ぶ。
- ④ 対位法的楽曲について。Bach インベンションのアナリーゼをしよう。
- ⑤ 対位法的楽曲について。Bach 平均律プレリュードとフーガのアナリーゼをしよう。
- ⑥ 四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結<共通音のある和声連結>。対位法楽曲分析の続き
- ⑦ 1クオーター試験実施

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験（40%）、課題提出（30%）、出席（20%）、平常点（10%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置 3 和音の連結の続き。＜共通音のない和声連結＞
- ⑨ 四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置 3 和音の連結の続き。＜Ⅱ→Ⅴの連結について＞
- ⑩ 四声体の和声課題の実施。第三章、の続き。＜Ⅴ→Ⅵの連結について＞自身の実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
- ⑪ 四声体の和声課題の実施。第四章、和音設定の原理。自身の実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
- ⑫ 四声体の和声課題の実施。第五章、8 小節課題の実施。自身の実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
- ⑬ 四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。自身の実技試験で演奏する曲のアナリーゼをレポートにまとめる。
- ⑭ 四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。自身の実技試験で演奏する曲のアナリーゼをレポートにまとめる。
- ⑮ 2クォーター試験実施。レポート提出。発表会

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験（40％）、課題提出（30％）、出席（20％）、平常点（10％）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	アナリーゼⅣ
担当講師名	西上和子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管楽器

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

授業内容

これまでに培った分析に必要な知識をもとに、実際の楽曲分析などのアナリーゼを意見を出し合いながら学習していく。和声の知識を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

和声の課題を積み重ねることによって、盤石な和声感覚を身につけ、演奏表現に反映させていく。アナリーゼのレポートを作成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置について
- ② 四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置の続き。8小節課題
- ③ 四声体の和声課題実施。第七章、3和音の第二転回位置。室内楽曲のアナリーゼ
- ④ 四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について。室内楽曲のアナリーゼ
- ⑤ 四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について2。室内楽曲アナリーゼ
- ⑥ 四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音、転回型の配置。VIIクォータのまとめ
- ⑦ VIIクォーター試験実施。和声課題の試験。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験（40%）、課題提出（30%）、出席（20%）、平常点（10%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 四声体の和声課題実施。第九章、V9の和音について
- ⑨ 四声体の和声課題実施。第十章、D諸和音の総括について。大編成の楽曲分析

- ⑩ 四声体の和声課題実施。カデンツの総括について。大編成の楽曲分析
- ⑪ 四声体の和声課題実施。補充課題。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリゼ
- ⑫ 四声体の和声課題実施。S 諸和音について。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリゼ
- ⑬ 四声体の和声課題実施。借用和音について。自身の実技試験で演奏する曲のアナリゼ
- ⑭ 四声体の和声課題実施。ソプラノ課題について。自身の実技試験で演奏する曲のアナリゼをレポートにまとめる。
- ⑮ VIクォーター試験実施。和声課題の試験。アナリゼレポートの提出

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験（40％）、課題提出（30％）、出席（20％）、平常点（10％）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イプロヴィゼーション I
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	フルート、オーボエ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております

授業内容

ポピュラー音楽で使う、コードやアドリブについて学習していきます。
 1 クォーターは”コードについて学習し、ソロをとる練習をしていきます。
 2 クォーターはブルース”と”リズムチェンジ”について学習します。同時にテンションコードについても学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はフルート（オーボエ）、ピアノ、ベース、ドラムのカルテットの形で行います。授業で得た知識を生かし、フロントとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① コードの仕組み ① : Major Chord, Minor Chord & 7th Chord
コードトーンを使ってソロをとる ① : アルペジオを使う ①
- ② コードの仕組み ② : Augument Chord
コードトーンを使ってソロをとる ② : アルペジオを使う ②
- ③ コードの仕組み ③ : m7(b5) Chord & Diminish Chord
コードトーンを使ってソロをとる ③ : ターゲット音を使ってメロディーを修飾する ①
- ④ コードの仕組み ④ : sus4 7th Chord & Minor Major 7th Chord
コードトーンを使ってソロをとる ④ : ターゲット音を使ってメロディーを修飾する ②
- ⑤ このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥ 試験：課題曲を、このクォーターで学習したことを用いて書き、それを演奏する。（録画します。）
- ⑦ 総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。
出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧JazzBlues ①：key of C
- ⑨JazzBlues ②：key of C
- ⑩JazzBlues ③：key of F
- ⑪Rhythm Change ①：key of Bb
- ⑫Rhythm Change ②：key of Bb
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭期末試験：このクォーターで学習した曲をパフォーマンスする。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。
出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イプロヴィゼーション I
担当講師名	宮崎 隆睦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はライブ、スタジオ録音等、様々な演奏実務経験を持つ。

授業内容

即興演奏の基本となるスケールについて知識を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各スケールに対してどれだけ理解があり、応用する力がついているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ドリアンスケールについて①
- ②ドリアンスケールについて②
- ③ミクソリディアンスケールについて①
- ④ミクソリディアンスケールについて②
- ⑤メジャースケールについて①
- ⑥メジャースケールについて②
- ⑦試験 / スケール演奏

中間試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ドリアン、ミクソリディアン、メジャースケールを使ったダイアトニックフレーズについて①
- ⑨ドリアン、ミクソリディアン、メジャースケールを使ったダイアトニックフレーズにつ

いて②

⑩リディアンスケールについて①

⑪リディアンスケールについて②

⑫リディアンフラットセブンスケールについて①

⑬リディアンフラットセブンスケールについて②

⑭リディアン、リディアンフラットセブンスケールを使ったダイアトニックフレーズについて

⑮試験 / スケール演奏

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イプロヴィゼーション I
担当講師名	山岡潤
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関連する実務経歴

講師はジャズバンド及び吹奏楽団等での演奏経験、指導経験を持ちます。

授業内容

スタンダード曲を題材にして、コード進行中のトナリティの移り変わりを知り、即興で演奏することに慣れます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コードチェンジを読み取り、即興で演奏ができる、もしくは時間をかけて考えればアドリブを作ることができるようになることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業内容の説明、簡単な曲で即興演奏とは何かを考える
- ②題材曲のメロディーをフェイクする1（録音リズムセクション等に合わせて）
- ③題材曲のメロディーをフェイクする2（録音リズムセクション等に合わせて）
- ④コードチェンジの分析と練習1（録音リズムセクション等に合わせて）
- ⑤コードチェンジの分析と練習2（録音リズムセクション等に合わせて）
- ⑥曲全体の練習（録音リズムセクション等に合わせて）
- ⑦中間試験：題材曲の即興演奏（録音リズムセクション等に合わせて）

中間試験評価方法・評価基準

題材曲のコードチェンジを理解しているか、即興演奏に慣れた度合いを評価します。
出席点：40% 平常点：30% 中間試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧アヴォイドノートについて1
- ⑨アヴォイドノートについて2 II-Vの練習
- ⑩アヴォイドノートについて3 セカンダリードミナントについて

- ⑪リズムチェンジの題材曲の分析と練習 1
- ⑫リズムチェンジの題材曲の分析と練習 2
- ⑬リズムチェンジの題材曲の分析と練習 3
- ⑭曲全体の練習
- ⑮期末試験：題材曲の即興演奏（録音リズムセクション等に合わせる）

期末試験評価方法・評価基準

題材曲のコードチェンジを理解しているか、アヴォイドノートについて理解しているか、即興演奏に慣れた度合いを評価します。

出席点：40% 平常点：30% 中間試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	インプロヴィゼーション I
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	打楽器専攻生

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はライブ、スタジオ録音、ミュージカル等での演奏実務経験を持つ。

授業内容

ドラムセット、コンガ、ティンバレスを使用し、ポップス、ラテン、ジャズなどの演奏スタイルと、フィルイン、アドリブソロのアプローチについて勉強します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

吹奏楽、ビッグバンド、パーカッションアンサンブル等の現場で専門性の高い演奏が出来るようになる。

ジャンルに合わせたソロ、アドリブの演奏が出来るようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション（授業内容の説明）
- ② コンガ、ティンバレス（1）・代表的なリズムパターンの説明と練習。
- ③ コンガ、ティンバレス（2）・細かな奏法、手順の説明。
- ④ ドラムセット（1）・セッティング、チューニング。
- ⑤ ドラムセット（2）・代表的なリズムパターンの説明と練習。
- ⑥ ドラムセット（3）・コンガ、ティンバレスとのリズムアンサンブル。
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

各楽器の基本的なセッティング、チューニング、奏法を理解しているか。
アンサンブルでの力はどうか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アドリブ奏法（1）・アンサンブルの中でフィルインを入れる。
- ⑨ アドリブ奏法（2）・フレーズをつないで4小節のソロに。

- ⑩ アドリブ奏法 (3) ・各楽器でのソロ回しに挑戦。
- ⑪ ラテンリズムの中でのソロ (1) ・コンガ、ティンバレスでのフィルイン。
- ⑫ ラテンリズムの中でのソロ (2) ・フィルインのフレーズを伸ばしてソロへ。
- ⑬ ドラムセットのフィルイン ・リズムパターンに合ったフィルイン
- ⑭ ドラムセットでのソロ ・フレーズを伸ばしてソロへ。
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

ソロのフレーズを作れているか。
リズムパターン (ジャンル) に合っているか。
音色はどうか。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	フルート、オーボエ

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております

授業内容

Ⅱm7 V7 I、フレーズを練習していきます。
基本的なⅡm7 V7 I、フレーズをたくさん覚えて自分のソロの引き出しを増やしていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

試験はフルート（オーボエ）、ピアノ、ベース、ドラムのカルテットの形で行います。
授業で得た知識を生かし、フロントとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① モードスケール：モードスケールを覚える
- ② ツーフাইブ進行におけるⅡm7 とV7 で使えるスケール ①：Major key
- ③ ツーフাইブ進行におけるⅡm7 とV7 で使えるスケール ②：Minor key
- ④ ツーフাইブ進行におけるⅡm7 とV7 で使えるスケール ③：曲を使って実習
- ⑤ このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑥ 試験：課題曲を、このクォーターで学習したことを用いて書き、それを演奏する。（録画します。）
- ⑦ 総括：試験の映像を見て、反省すると共に、4Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。
出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ①：クロマティックアプローチ
- ⑨アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ②：インダイレクト・リゾリユーション
- ⑩Solo の組み立て方 ①：Play / Rest の練習
- ⑪Solo の組み立て方 ②：モチーフを繰り返す
- ⑫すべてのキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン
- ⑬このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
- ⑭期末試験：このクォーターで学習した曲をパフォーマンスする。(録画します。)
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、1年間の授業を振り返る。

期末試験評価方法・評価基準

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。
出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	イプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	宮崎 隆睦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サクソフォーン

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はライブ、スタジオ録音等、様々な演奏実務経験を持つ。

授業内容

即興演奏の基本となるスケールについて知識を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各スケールに対してどれだけ理解があり、応用する力がついているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①メロディックマイナースケールについて①
- ②メロディックマイナースケールについて②
- ③ハーモニックマイナースケールについて①
- ④ハーモニックマイナースケールについて②
- ⑤メロディックマイナー、ハーモニックマイナースケールを使ったダイアトニックフレーズについて①
- ⑥メロディックマイナー、ハーモニックマイナースケールを使ったダイアトニックフレーズについて②
- ⑦試験 / スケール演奏

中間試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ディミニッシュスケールについて①
- ⑨ディミニッシュスケールについて②
- ⑩オルタードスケールについて①

- ⑪オルタードスケールについて②
- ⑫ディミニッシュ、オルタードスケールを使ったダイアトニックフレーズについて①
- ⑬ディミニッシュ、オルタードスケールを使ったダイアトニックフレーズについて②
- ⑭ビバップスケールについて
- ⑮試験 / スケール演奏

期末試験評価方法・評価基準

任意のスケールの中から口頭で指定した内容について演奏してもらう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	山岡潤
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関連する実務経歴

講師はジャズバンド及び吹奏楽団等での演奏経験、指導経験を持ちます。

授業内容

スタンダード曲を題材にして、コード進行中のトナリティーの移り変わりを知り、即興で演奏することに慣れます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コードチェンジを読み取り、即興で演奏ができる、もしくは時間をかけて考えればアドリブを作ることができるようになることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ブルースとブルーノートスケールについて 1
- ②ブルースとブルーノートスケールについて 2
- ③自分で II-V のフレーズをつくる
- ④バラードの題材曲の分析と練習 1
- ⑤バラードの題材曲の分析と練習 2
- ⑥曲全体の練習
- ⑦中間試験：題材曲の即興演奏（録音リズムセクション等に合わせて）

中間試験評価方法・評価基準

題材曲のコードチェンジを理解しているか、即興演奏に慣れた度合いを評価します。
出席点：40% 平常点：30% 中間試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧マイナーの II-V、アヴォイドノートについて
- ⑨サブドミナントマイナーの借用和音について
- ⑩自分でコードチェンジを分析する 1 アップテンポの題材曲の練習

- ⑪自分でコードチェンジを分析する 2 アップテンポの題材曲の練習
- ⑫自分でコードチェンジを分析する 3 アップテンポの題材曲の練習
- ⑬自分でコードチェンジを分析する 4 アップテンポの題材曲の練習
- ⑭曲全体の練習 (録音リズムセクション等に合わせて)
- ⑮期末試験：題材曲の即興演奏 (録音リズムセクション等に合わせて)

期末試験評価方法・評価基準

題材曲のコードチェンジを理解しているか、即興演奏に慣れた度合いを評価します。
出席点：40% 平常点：30% 中間試験：30%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	打楽器専攻生

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はライブ、スタジオ録音、ミュージカル等での演奏実務経験を持つ。

授業内容

ドラムセット、コンガ、ティンバレスを使用し、ポップス、ラテン、ジャズなどの演奏スタイルと、フィルイン、アドリブソロのアプローチについて勉強します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル（楽曲）の中でのドラムセットの演奏が出来るようになる。
 手足の音色、音量をコントロール出来るようになる。
 楽譜を読みながら、ドラムセットを演奏できるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ドラムセット（1）・マイナスイオン CD を使って8ビートの演奏。
- ② ドラムセット（2）・マイナスイオン CD を使って16ビートの演奏。
- ③ ドラムセット（3）・マイナスイオン CD を使って4ビート（スウィング）の演奏。
- ④ ドラムセット（4）・マイナスイオン CD を使ってボサノバの演奏。
- ⑤ ドラムセット（5）・マイナスイオン CD を使ってチャチャチャ、マンボの演奏。
- ⑥ 復習と確認 ・このクォーターで勉強したリズムパターンの練習。
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

各ジャンルの演奏スタイルを理解しているか。
 フィルインが自由に入れられ、曲調に合っているか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンサンブル（1）・マリンバ、ビブラフォンを伴奏に使うボサノバの演奏。
- ⑨ アンサンブル（2）・ブラシを使ってバラード曲の演奏。（伴奏付き）

- ⑩ アンサンブル (3) ・伴奏付きで 16 ビートの演奏。
- ⑪ 伴奏付きで 4 ビート (スウィング) の演奏。
- ⑫ 伴奏付きでサンバの演奏。
- ⑬ アンサンブル内でのアドリブ演奏。サイズが決まったソロへの挑戦。
- ⑭ 復習と確認 ・試験へ向けての練習。
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブルとして良い音が出ているか。
テンポキープが出来た上でフィルイン、アドリブソロの完成度はどうか。
ボサノバ、ジャズを演奏する時に、バスドラムの音量をコントロール出来ているか。

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	管打楽器研究 I
担当講師名	福島弘和
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、指揮者、指導者としての実務経歴

授業内容

中学生、高校生に教える事を想定して、楽器の理論や構造、特性を理解し、これから、求められる指導力を身につけていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際に、中学生、高校生を指導した時に、各楽器の技術的な向上に役に立つ知識や、人に情報を伝えていく事の大切さ、難しさを、体験を通して身につけていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ①導入 授業のねらい、進行内容、次回の準備
- ②トランペット① トランペットの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）
- ③トランペット② トランペットの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ④トランペット③ トランペットの奏法（運指、音階）
- ⑤トランペット④ トランペットの奏法（簡単なメロディーの演奏）
- ⑥トランペット⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑦フルート・オーボエ① フルート、オーボエの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フルート・オーボエ② フルート・オーボエの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ⑨フルート・オーボエ③ フルート・オーボエの奏法（運指、音階）

- ⑩フルート・オーボエ④ フルード・オーボエの奏法（簡単なメロディー）
- ⑪フルート・オーボエ⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑫クラリネット・ファゴット① クラリネット・ファゴットの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）
- ⑬クラリネット・ファゴット② クラリネット・ファゴットの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ⑭クラリネット・ファゴット③ クラリネット・ファゴットの奏法（運指、音階）
- ⑮クラリネット・ファゴット④ クラリネット・ファゴットの奏法（簡単なメロディー）

期末試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	管打楽器研究Ⅱ
担当講師名	福島弘和
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、指揮者、指導者としての実務経歴

授業内容

中学生、高校生に教える事を想定して、楽器の理論や構造、特性を理解し、これから、求められる指導力を身につけていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際に、中学生、高校生を指導した時に、各楽器の技術的な向上に役に立つ知識や、人に情報を伝えていく事の大切さ、難しさを、体験を通して身につけていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ①クラリネット・ファゴット⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ②サクソフォン① サクソフォンの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）
- ③サクソフォン② サクソフォンの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ④サクソフォン③ サクソフォンの奏法（運指、音階）
- ⑤サクソフォン④ サクソフォンの奏法（簡単なメロディーの演奏）
- ⑥サクソフォン⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑦ホルン・ユーホニアム・コントラバス① ホルン・ユーホニアム・コントラバスの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ホルン・ユーホニアム・コントラバス② ホルン・ユーホニアム・コントラバスの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）

- ⑨ホルン・ユーホニアム・コントラバス③ ホルン・ユーホニアム・コントラバスの奏法（運指、音階）
- ⑩ホルン・ユーホニアム・コントラバス④ ホルン・ユーホニアム・コントラバスの奏法（簡単なメロディーの演奏）
- ⑪ホルン・ユーホニアム・コントラバス⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑫パーカッション① 奏法（基礎奏法、譜面の読み方）小物楽器の紹介
- ⑬パーカッション② 鍵盤楽器、ラテン楽器の概論、種類、奏法
- ⑭パーカッション③ S.Dr.の簡単な譜例演奏
- ⑮パーカッション④ 試験（S.Dr.の簡単な譜例演奏）

期末試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	合奏指揮法（指揮法）Ⅰ
担当講師名	広瀬勇人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

指揮法をピーター・コッキニアス、エドモンド・サビニアス各氏に師事。レメンス音楽院（ベルギー）大学院・指揮科にて修士号（管弦楽指揮）を取得。吹奏楽・アンサンブルの作曲活動と並行して、各地の吹奏楽団体の指導・指揮を行う。

授業内容

この科目では、音楽家に必要な指揮法の技術習得を目指します。スコアリーディング、バトンテクニックの基礎から応用まで、指揮・指導に必要な知識と能力を高めると同時に、多くの楽曲を経験して様々な曲に対応できる実践力を養います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽譜を読む為に必要な移調、楽語の習得を進めつつ、バトンテクニックの基本的な動作に慣れ、拍子、テンポ、スタイルの異なる様々な楽曲に触れます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ウェーバー「魔弾の射手」①／ガイダンス
- ②ウェーバー「魔弾の射手」②／スコアリーディング① in Es／楽語 1
- ③ホルスト「木星」①／スコアリーディング② in Es／楽語 1 小テスト
- ④ホルスト「木星」②／スコアリーディング③ in B／楽語 2
- ⑤ワーグナー「結婚行進曲」①／スコアリーディング④ in B／楽語 2 小テスト
- ⑥ワーグナー「結婚行進曲」②／スコアリーディング⑤ in Es, in B／1Q の復習
- ⑦実技試験・筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧モーツァルト「魔笛」序曲①／1Q 筆記試験答案返却／楽語 3
- ⑨モーツァルト「魔笛」序曲②／スコアリーダーディング⑥ in F／楽語 3 小テスト
- ⑩ビゼー「カルメン」①／スコアリーダーディング⑦ in F／楽語 4
- ⑪ビゼー「カルメン」②／スコアリーダーディング⑧ in F／楽語 4 小テスト
- ⑫学指揮の曲①／スコアリーダーディング⑨ in Es, in B, in F／楽語 5
- ⑬学指揮の曲②／スコアリーダーディング⑩ in Es, in B, in F／楽語 5 小テスト
- ⑭学指揮の曲③／2Q の復習
- ⑮実技試験・筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーダーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

授業では指揮棒を使用します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	合奏指揮法（指揮法）II
担当講師名	広瀬勇人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

指揮法をピーター・コッキニウス、エドモンド・サビニウス各氏に師事。レメンス音楽院（ベルギー）大学院・指揮科にて修士号（管弦楽指揮）を取得。吹奏楽・アンサンブルの作曲活動と並行して、各地の吹奏楽団体の指導・指揮を行う。

授業内容

この科目では、音楽家に必要な指揮法の技術習得を目指します。スコアリーディング、バトンテクニックの基礎から応用まで、指揮・指導に必要な知識と能力を高めると同時に、多くの楽曲を経験して様々な曲に対応できる実践力を養います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽譜を読む為に必要な移調、楽語の習得を進めつつ、バトンテクニックの基本的な動作に慣れ、拍子、テンポ、スタイルの異なる様々な楽曲に触れます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ムソルグスキー「展覧会の絵」①/スコアリーディング⑪ in D, アルト/楽語 6
- ②ムソルグスキー「展覧会の絵」②/スコアリーディング⑫ in D, アルト/楽語 6 小テスト
- ③ボロディン「ダッタン人の踊り」①/スコアリーディング⑬ in D, in A/楽語 7
- ④ボロディン「ダッタン人の踊り」②/スコアリーディング⑭様々な移調/楽語 7 小テスト
- ⑤ホルスト「鍛冶屋の歌」①/スコアリーディング⑮様々な移調/楽語 8
- ⑥ホルスト「鍛冶屋の歌」②/楽語 8 小テスト/3Qの復習
- ⑦実技試験・筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ストラビンスキー「兵士の物語」①／3Q 筆記試験答案返却／楽語 9
- ⑨ストラビンスキー「兵士の物語」②／スコアリーダーディング⑩ 吹奏楽／楽語 9 小テスト
- ⑩学指揮の曲①／スコアリーダーディング⑪ 吹奏楽譜／楽語 10
- ⑪学指揮の曲②／スコアリーダーディング⑫ 吹奏楽譜／楽語 10 小テスト
- ⑫学指揮の曲③／スコアリーダーディング⑬ オーケストラ譜／楽語 11
- ⑬マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」①／楽器音域表／楽語 11 小テスト
- ⑭マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」②／ステージ・マナー／4Q の復習
- ⑮実技試験・筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーダーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

授業では指揮棒を使用します。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	管打楽器研究 I
担当講師名	福島弘和
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、指揮者、指導者としての実務経歴

授業内容

中学生、高校生に教える事を想定して、楽器の理論や構造、特性を理解し、これから、求められる指導力を身につけていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際に、中学生、高校生を指導した時に、各楽器の技術的な向上に役に立つ知識や、人に情報を伝えていく事の大切さ、難しさを、体験を通して身につけていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ①導入 授業のねらい、進行内容、次回の準備
- ②トランペット① トランペットの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）
- ③トランペット② トランペットの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ④トランペット③ トランペットの奏法（運指、音階）
- ⑤トランペット④ トランペットの奏法（簡単なメロディーの演奏）
- ⑥トランペット⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑦フルート・オーボエ① フルート、オーボエの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フルート・オーボエ② フルート・オーボエの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ⑨フルート・オーボエ③ フルート・オーボエの奏法（運指、音階）

- ⑩フルート・オーボエ④ フルート・オーボエの奏法（簡単なメロディー）
- ⑪フルート・オーボエ⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑫クラリネット・ファゴット① クラリネット・ファゴットの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）
- ⑬クラリネット・ファゴット② クラリネット・ファゴットの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ⑭クラリネット・ファゴット③ クラリネット・ファゴットの奏法（運指、音階）
- ⑮クラリネット・ファゴット④ クラリネット・ファゴットの奏法（簡単なメロディー）

期末試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	管打楽器研究Ⅱ
担当講師名	福島弘和
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、指揮者、指導者としての実務経歴

授業内容

中学生、高校生に教える事を想定して、楽器の理論や構造、特性を理解し、これから、求められる指導力を身につけていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際に、中学生、高校生を指導した時に、各楽器の技術的な向上に役に立つ知識や、人に情報を伝えていく事の大切さ、難しさを、体験を通して身につけていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ①クラリネット・ファゴット⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ②サクソフォン① サクソフォンの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）
- ③サクソフォン② サクソフォンの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）
- ④サクソフォン③ サクソフォンの奏法（運指、音階）
- ⑤サクソフォン④ サクソフォンの奏法（簡単なメロディーの演奏）
- ⑥サクソフォン⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑦ホルン・ユーホニアム・コントラバス① ホルン・ユーホニアム・コントラバスの概論（歴史、種類、メカニズム、メンテナンスなど）

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ホルン・ユーホニアム・コントラバス② ホルン・ユーホニアム・コントラバスの奏法（アンブッシュア、基礎奏法）

- ⑨ホルン・ユーホニアム・コントラバス③ ホルン・ユーホニアム・コントラバスの奏法（運指、音階）
- ⑩ホルン・ユーホニアム・コントラバス④ ホルン・ユーホニアム・コントラバスの奏法（簡単なメロディーの演奏）
- ⑪ホルン・ユーホニアム・コントラバス⑤ 試験（簡単なメロディーの演奏）
- ⑫パーカッション① 奏法（基礎奏法、譜面の読み方）小物楽器の紹介
- ⑬パーカッション② 鍵盤楽器、ラテン楽器の概論、種類、奏法
- ⑭パーカッション③ S.Dr.の簡単な譜例演奏
- ⑮パーカッション④ 試験（S.Dr.の簡単な譜例演奏）

期末試験評価方法・評価基準

それぞれの楽器の最後の回に試験をします。それぞれの楽器について十分理解しているか。テーマの専攻生については的確に指導しているか（試験 30%、出席 70%）

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	合奏指導法（学指揮）Ⅰ
担当講師名	広瀬勇人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲活動と並行して、全国各地の吹奏楽連盟主催、吹奏楽指導講習会の講師を多数務める。吹奏楽指導・アンサンブル指導の教則本および DVD を、ヤマハ、ブレイン、ジャパンライム各社より多数出版。

授業内容

この科目では、履修生で構成されたウインド・オーケストラを学生指揮者が指揮・指導し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの仕切りまで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉や伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス／指揮者・曲目・パートリーダーの決定
- ②指揮者レッスン：学生指揮者 1（指揮者以外の聴講可能）
- ③指揮者レッスン：学生指揮者 2（指揮者以外の聴講可能）
- ④指揮者レッスン：学生指揮者 3（指揮者以外の聴講可能）
- ⑤指揮者レッスン：学生指揮者 4（指揮者以外の聴講可能）
- ⑥合奏①-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑦合奏①-2（指揮：学生、仕切り：講師）

中間試験評価方法・評価基準

出席状況を中心に、授業への取り組み方、学生指揮者・パートリーダーの担当有無などを総合的に評価します。

出席：80% 平常点：10% 指揮者／パートリーダー：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧合奏①-3（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑨合奏②-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑩合奏②-2（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑪合奏③-1（指揮／仕切り：学生）
- ⑫合奏③-2（指揮／仕切り：学生）
- ⑬合奏④-1：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑭合奏④-2：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑮合奏④-3：本番（指揮：学生）

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

本番は演奏会形式の発表会を行います。

学科名	音楽総合アカデミー学科
科目名	合奏指導法（学指揮）II
担当講師名	広瀬勇人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作曲活動と並行して、全国各地の吹奏楽連盟主催、吹奏楽指導講習会の講師を多数務める。吹奏楽指導・アンサンブル指導の教則本および DVD を、ヤマハ、ブレイン、ジャパンライム各社より多数出版。

授業内容

この科目では、履修生で構成されたウインド・オーケストラを学生指揮者が指揮・指導し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの仕切りまで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉や伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①指揮者ミーティング／指揮者・曲目の決定
- ②指揮者レッスン：学生指揮者 1（指揮者以外の聴講可能）
- ③指揮者レッスン：学生指揮者 2（指揮者以外の聴講可能）
- ④指揮者レッスン：学生指揮者 3（指揮者以外の聴講可能）
- ⑤指揮者レッスン：学生指揮者 4（指揮者以外の聴講可能）
- ⑥合奏①-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑦合奏①-2（指揮：学生、仕切り：講師）

中間試験評価方法・評価基準

出席状況を中心に、授業への取り組み方、学生指揮者・パートリーダーの担当有無などを総合的に評価します。

出席：80% 平常点：10% 指揮者／パートリーダー：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧合奏①-3（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑨合奏②-1（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑩合奏②-2（指揮：学生、仕切り：講師）
- ⑪合奏③-1（指揮／仕切り：学生）
- ⑫合奏③-2（指揮／仕切り：学生）
- ⑬合奏④-1：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑭合奏④-2：ゲネプロ（指揮／仕切り：学生）
- ⑮合奏④-3：本番（指揮：学生）

期末試験評価方法・評価基準

クォーター末試験（指揮の実技、およびスコアリーディング・楽語の筆記試験）を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します。

出席：10% 平常点：10% 試験：80%

特記事項

本番は演奏会形式の発表会を行います。